前田遺跡(2)
下布施氏館跡
原田遺跡I区(分析編)

—尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5—

2005年3月

国土交通省中国地方整備局
島 根 県 教 育 委 員 会

前田遺跡(2)
下布施氏館跡
原田遺跡Ⅰ区(分析編)

— 尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5 —

2005年3月

国土交通省中国地方整備局
島 根 県 教 育 委 員 会

序

斐伊川・神戸川総合開発工事事務所では、いわゆる斐伊川・神戸川総合治水計画３点セットの一翼を担う事業として、斐伊川上流において尾原ダムの建設事業を進めています。

ダム事業の実施に際しては、埋蔵文化財の保護に充分留意すべく必要な調査の実施、記録の保存につとめるものとし、島根県教育委員会をはじめ関係各位のご協力をいただき、平成11年度から計画的に発掘調査を実施して参りました。

本報告書は平成14～15年度に実施した「前田遺跡」「下布施氏館跡」「原田遺跡」の調査結果をまとめたものです。本報告書が郷土の歴史教育等のため広く活用されることを期待します。

最後に、今回の発掘調査及び報告書のとりまとめにあたり、ご指導ご協力いただきました関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成17年３月

国土交通省　中国地方整備局
斐伊川・神戸川総合開発工事事務所
所　長　　則　松　秀　晴

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局の委託を受けて平成11年度から、尾原ダム建設予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施しておりますが、このたび『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書５』を刊行する運びとなりました。

本報告書は、平成14～15年度に実施した仁多郡仁多町の前田遺跡・原田遺跡及び雲南市木次町の下布施氏館跡での発掘調査を記録したものです。前田遺跡では、縄文時代後期から弥生時代にかけての遺物が多数出土しました。また、下布施氏館跡では、中世の山城跡の全容が確認され、小規模な山城の構成要素を知る上で貴重な資料が得られました。一方、原田遺跡から出土した鍛冶関連遺物の金属学的分析では、古代と中世の２時期の原料および作業工程が判明しました。本書が、この地域の歴史を解明していく糸口になり、郷土の歴史と文化財に対する理解や関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書を刊行するにあたりご協力いただきました地元住民の方々、国土交通省中国地方整備局、雲南市教育委員会、仁多町教育委員会、関係機関をはじめ関係の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成17年３月

島根県教育委員会

教育長　　広　沢　卓　嗣

例　　言

1．本書は、国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所の委託を受けて、島根県教育委員会が平成14年度と平成15年度に実施した尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。なお、平成14年度に行った原田遺跡Ⅰ区出土の鍛冶関連遺物の考古学的観察と分析結果も併せて報告している。

2．本書で扱う遺跡は次の通りである。

島根県仁多郡仁多町……前田遺跡
島根県仁多郡仁多町……原田遺跡
島根県雲南市木次町北原……下布施氏館跡

3．調査組織は次の通りである。

調査主体　島根県教育委員会

（平成14年度）前田遺跡、原田遺跡現地調査

事 務 局　宍道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）
卜部吉博（同副所長）
内田　融（同総務課長）坂本淑子（同総務係長）
川原和人（同調査２課長）

調 査 員　西尾克己（同調査第４係主幹）神柱靖彦（同主事）池田道子（同教諭兼文化財保護主事）越智昌二（同教諭兼文化財保護主事）北島大輔（同調査補助員）上山直志（同調査補助員）

調査指導（50音順、敬称略）
大谷晃二（島根県立松江北高等学校教諭）
田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）
山田康弘（島根大学法文学部助教授）
渡邊貞幸（島根大学法文学部教授）

（平成15年度）下布施氏館跡現地調査および報告書作成、前田遺跡・原田遺跡報告書作成

事 務 局　宍道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）
卜部吉博（同副所長）
永島静司（同総務課長）
川原和人（同調査第２課長）

調 査 員　西尾克己（同調査第１課長）神柱靖彦（同主事）池田道子（同教諭兼文化財保護主事）淺野　哲（同教諭兼文化財保護主事）上山直志（同調査補助員）糸賀伸文（同調査補助員）

調査指導（50音順、敬称略）
穴澤義功（たたら研究会委員）
山根正明（島根県教育庁高校教育課課長補佐）
中村唯史（三瓶自然館指導員）

（平成16年度）下布施氏館跡・前田遺跡・原田遺跡報告書作成

事 務 局　山根正巳（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）

卜部吉博（同副所長）

永島静司（同総務グループ課長）

宮沢明久（同調査第２グループ課長）

調 査 員　西尾克己（島根県教育庁文化財課副主査）神柱靖彦（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター主事）

4．発掘作業（発掘作業員雇用、重機借り上げ、発掘用具調達等）については、国土交通省中国地方整備局、社団法人中国建設弘済会、島根県教育委員会の三者協定に基づき、島根県教育委員会から社団法人中国建設弘済会へ委託して実施した。

社団法人中国建設弘済会

（平成14年度）

［現場担当］倉橋博之、吉岡智哉（技術員）

［事務担当］藤井利恵、山根亜希子（事務員）

（平成15年度）

［現場担当］簾　俊治（技術員）

［事務担当］藤井利恵、山根亜希子（事務員）

5．現地調査及び資料整理に際しては、島根県教育庁文化財課、古代文化センター、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。また、調査指導をお願いした方々のほかに、多くの方から有益なご指導・御助言をいただいた。記して感謝の意を表す。

6．挿図中北は、測量法による第３座標系Ｘ軸方向を指す。また、平面直角座標系ＸＹ座標は、世界測地系による。レベル高は海抜高を示す。

7．第1図は建設省国土地理院発行の１／5,000図を使用した。

8．本書に掲載した実測図は各調査員および伊藤悟郎、福田市子、舟木千晴が作成した。

10．本書の執筆は調査員が分担して行い、その文責を目次に記した。また、第５章第２節については大澤正己・鈴木瑞穂氏（九州テクノリサーチ）にご執筆いただいた。

11．第4章　原田遺跡出土の鍛冶関連遺物の考古学的観察については穴澤義功氏の指導を得た。

12．前田遺跡の土壌分析は、文化財コンサルタント株式会社（渡辺正巳氏）に委託し、第２章第６節に成果を収録した。

13．本書の編集は各調査員の協力を得て西尾、神柱が行った。

14．本書掲載の出土遺物及び実測図、写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）で保管している。

本　文　目　次

第１章　調査経緯 ……（神柱）

第１節　発掘調査の経緯 …… 1
第２節　遺跡周辺の歴史的環境 …… 2

第２章　前田遺跡

第１節　調査の経過と遺跡の概要 …… 11
第２節　Ⅰ区の調査 …… 12
第３節　Ⅱ区の調査 …… 18
第４節　Ⅲ区の調査 …… 19
第５節　まとめ …… 40
第６節　前田遺跡Ⅰ・Ⅱ区出土の陶磁器について ……（西尾）63
第７節　前田遺跡発掘調査に係る自然科学分析 ……（渡辺正巳）67

第３章　下布施氏館跡 ……（神柱）

第１節　調査の経過と遺跡の概要 …… 119
第２節　Ⅰ区の調査 …… 121
第３節　Ⅱ区の調査 …… 124
第４節　まとめ …… 130

第４章　原田遺跡 ……（西尾）

第１節　原田遺跡Ⅰ区の製鉄遺構と出土品 …… 147
第２節　製鉄関連遺物観察表 …… 151
第３節　原田Ⅰ遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査 ……（大澤正己・鈴木瑞穂）185
第４節　まとめ ……（西尾）222

挿　図　目　次

第１図　掲載遺跡と周辺の遺跡 …… 8
第２図　木次町・仁多町の位置 …… 11
第３図　前田遺跡調査区配置図 …… 13
第４図　前田遺跡Ⅰ区流路跡測量図 …… 14
第５図　前田遺跡Ⅰ区出土縄文土器実測図 …… 15
第６図　前田遺跡Ⅰ区出土弥生土器実測図 …… 16
第７図　前田遺跡Ⅰ区出土須恵器実測図 …… 17
第８図　前田遺跡Ⅰ区出土土師器実測図 …… 18

第９図　前田遺跡Ⅰ区出土土製品実測図 …… 18
第10図　前田遺跡土器埋設遺構実測図 …… 19
第11図　前田遺跡埋設土器関連遺物実測図 …… 20
第12図　前田遺跡Ⅱ区流路跡測量図 …… 21
第13図　前田遺跡Ⅲ区青灰色粘土層出土縄文土器実測図 …… 22
第14図　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器実測図（１） …… 23
第15図　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器実測図（２） …… 24
第16図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（１） …… 25
第17図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（２） …… 26
第18図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（３） …… 27
第19図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（４） …… 28
第20図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（５） …… 29
第21図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（６） …… 30
第22図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（１） …… 31
第23図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（２） …… 32
第24図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（３） …… 33
第25図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（４） …… 34
第26図　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土土器実測図（１） …… 35
第27図　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土土器実測図（２） …… 36
第28図　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器実測図（１） …… 37
第29図　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器実測図（２） …… 38
第30図　前田遺跡Ⅲ区表土層出土土器実測図 …… 38
第31図　前田遺跡出土石器実測図 …… 39
第32図　前田遺跡出土銭貨拓本 …… 40
第33図　下布施氏館跡調査区位置図 …… 120
第34図　下布施氏館跡掘削範囲図 …… 122
第35図　下布施氏館跡Ⅰ区測量図 …… 123
第36図　下布施氏館跡堀切測量図 …… 125
第37図　下布施氏館跡通路状遺構実測図 …… 126
第38図　下布施氏館跡出土土器実測図 …… 127
第39図　下布施氏館跡出土鉄器実測図 …… 127
第40図　下布施氏館跡出土銭貨拓本 …… 128
第41図　下布施氏館跡Ⅱ区遺構配置図 …… 128
第42図　下布施氏館跡SK－02実測図 …… 129
第43図　下布施氏館跡SK－03実測図 …… 130
第44図　下布施氏館跡SK－01・04実測図 …… 131
第45図　下布施氏館跡出土石器実測図 …… 131
第46図　原田遺跡Ⅰ区調査区 …… 148
第47図　原田遺跡Ⅰ区H－６炉跡実測図 …… 149
第48図　原田遺跡Ⅰ区西側掘立柱建物跡（SB01）実測図 …… 149

第49図　原田遺跡製鉄関連遺物構成図（古代①）……161
第50図　原田遺跡製鉄関連遺物構成図（古代②）……162
第51図　原田遺跡製鉄関連遺物構成図（中世①）……163
第52図　原田遺跡製鉄関連遺物構成図（中世②）……164

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 9
第２表　前田遺跡Ⅰ区出土縄文土器観察表 …… 42
第３表　前田遺跡Ⅰ区出土弥生土器観察表 …… 42
第４表　前田遺跡Ⅰ区出土須恵器観察表 …… 43
第５表　前田遺跡Ⅰ区出土土師器観察表 …… 45
第６表　前田遺跡Ⅰ区表土層出土土製品観察表 …… 46
第７表　前田遺跡Ⅰ区埋設土器及び周辺出土縄文土器観察表 …… 46
第８表　前田遺跡Ⅰ区埋設土器周辺出土石器観察表 …… 46
第９表　前田遺跡Ⅲ区青灰色粘土層出土縄文土器観察表 …… 46
第10表　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器観察表（１）…… 47
第11表　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器観察表（２）…… 48
第12表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（１）…… 48
第13表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（２）…… 49
第14表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（３）…… 50
第15表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（４）…… 51
第16表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（５）…… 52
第17表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（６）…… 52
第18表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（１）…… 53
第19表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（２）…… 55
第20表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（３）…… 55
第21表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（４）…… 56
第22表　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土縄文土器観察表（１）…… 57
第23表　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土縄文土器観察表（２）…… 58
第24表　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器観察表（１）…… 58
第25表　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器観察表（２）…… 59
第26表　前田遺跡Ⅲ区表土層出土土器観察表 …… 60
第27表　前田遺跡出土石器観察表 …… 61
第28表　前田遺跡出土古銭観察表 …… 62
第29表　下布施氏館跡出土陶器観察表 …… 132
第30表　下布施氏館跡陶器土器観察表 …… 132
第31表　下布施氏館跡出土古銭観察表 …… 132

第32表　下布施氏館跡出土石器観察表 …… 132
第33表　下布施氏館跡出土鉄器観察表 …… 132
第34表　原田遺跡Ⅰ区鉄関連遺物分析資料一覧表 …… 152
第35表　原田遺跡Ⅰ区鉄関連遺物観察表 …… 153

図　版　目　次

図版１　上：前田遺跡（Ⅰ～Ⅲ区）出土貿易陶磁器 …… 65
　　下：前田遺跡（Ⅰ～Ⅲ区）出土国産陶磁器 …… 65
図版２　上：前田遺跡調査前全景（南上空から） …… 90
　　下：Ⅰ区土層断面（西から）① …… 90
図版３　上：Ⅰ区土層断面（西から）② …… 91
　　下：Ⅰ区谷状地形調査中状況 …… 91
図版４　上：Ⅰ区完掘状況（南西から） …… 92
　　下：Ⅱ区トレンチ旧水路検出状況 …… 92
図版５　上：土器埋設遺構土層断面（北から） …… 93
　　下：土器埋設遺構埋土完掘状況（北から） …… 93
図版６　上：第３調査区完掘状況（北から） …… 94
　　下：前田遺跡調査後状況（西から） …… 94
図版７　上：前田遺跡出土縄文土器 …… 95
　　下：前田遺跡出土弥生土器 …… 95
図版８　上：前田遺跡出土須恵器① …… 96
　　下：前田遺跡出土須恵器② …… 96
図版９　上：前田遺跡出土土師器 …… 97
　　下：前田遺跡土器埋設遺構出土遺物① …… 97
図版10　上：前田遺跡土器埋設遺構出土遺物② …… 98
　　中：前田遺跡出土土製品 …… 98
　　下：前田遺跡青灰色粘土層出土縄文土器 …… 98
図版11　上：前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器① …… 99
　　下：前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器② …… 99
図版12　上：前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器③ …… 100
　　下：前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器④ …… 100
図版13　上：前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器⑤ …… 101
　　中：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器① …… 101
　　下：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器② …… 101
図版14　上：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器③ …… 102
　　中：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器④ …… 102
　　下：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑤ …… 102

図版15　上：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑥ …… 103
中：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑦ …… 103
下：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑧ …… 103
図版16　上：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑨ …… 104
下：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑩ …… 104
図版17　上：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑪ …… 105
下：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑫ …… 105
図版18　上：前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑬ …… 106
下：前田遺跡黒色土層出土縄文土器① …… 106
図版19　上：前田遺跡黒色土層出土縄文土器② …… 107
下：前田遺跡黒色土層出土縄文土器③ …… 107
図版20　上：前田遺跡黒色土層出土縄文土器④ …… 108
下：前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑤ …… 108
図版21　上：前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑥ …… 109
下：前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑦ …… 109
図版22　上：前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑧ …… 110
下：前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑨ …… 110
図版23　前田遺跡褐色礫層出土土器① …… 111
図版24　上：前田遺跡褐色礫層出土土器② …… 112
下：前田遺跡褐色礫層出土土器③ …… 112
図版25　上：前田遺跡暗褐色土層出土土器① …… 113
下：前田遺跡暗褐色土層出土土器② …… 113
図版26　上：前田遺跡暗褐色土層出土土器③ …… 114
下：前田遺跡暗褐色土層出土土器④ …… 114
図版27　上：前田遺跡表土層出土土器・陶器 …… 115
下：前田遺跡出土石器① …… 115
図版28　上：前田遺跡出土石器② …… 116
下：前田遺跡出土石器③ …… 116
図版29　上：前田遺跡出土石器④ …… 117
下：前田遺跡出土石器⑤ …… 117
図版30　上：前田遺跡出土石器⑥ …… 118
下：前田遺跡出土銭貨 …… 118
図版31　上：下布施氏館跡調査前状況（東から） …… 135
下：下布施氏館跡調査前状況（南から） …… 135
図版32　上：下布施氏館跡調査前状況（西から） …… 136
下：下布施氏館跡主郭部完掘状況（北から） …… 136
図版33　上：主郭より北原本郷方面（東方向） …… 137
下：主郭より西方向 …… 137
図版34　上：主郭より南方向 …… 138
下：第１郭（南から） …… 138

図版35　上：郭群（西から）…… 139
　　下：Ⅰ区遠景（北から）…… 139
図版36　上：掘切土層断面（東から）…… 140
　　下：掘切完掘状況（東から）…… 140
図版37　上：通路状遺構土層断面 …… 141
　　下：通路状遺構（北より）…… 141
図版38　上：通路状遺構（南から）…… 142
　　下：SK－04断面（北から）…… 142
図版39　上：SK－02完掘状況 …… 143
　　下：SK－03完掘状況 …… 143
図版40　上：調査後遠景（東から）…… 144
　　下：調査後遠景（西側上空から）…… 144
図版41　上：下布施氏館跡出土土器① …… 145
　　中：下布施氏館跡出土土器② …… 145
　　下：下布施氏館跡出土土器③ …… 145
図版42　上：下布施氏館跡出土鉄器 …… 146
　　中：下布施氏館跡出土銭貨 …… 146
　　下：下布施氏館跡出土石器 …… 146
図版43　上：原田遺跡Ⅰ区（河床跡３）羽口（47）出土状況 …… 150
　　下：原田遺跡Ⅰ区（河床跡３）羽口（48）…… 150

第１章　調査経緯

第１節　発掘調査の経緯

斐伊川の治水事業は出雲地域長年の課題である。斐伊川が現在のように宍道湖に流れ込む様になって以来、この典型的な天井川に対して様々な治水対策が講じられてきた。しかし、昭和47年の大洪水では、下流の大橋川流域が甚大な被害を受けるにおよび、抜本的な対策を迫られることとなった。

昭和51年、「斐伊川水系工事実施基本計画改定案」が公示され、いわゆる「治水３点セット」（①斐伊川、神戸川上流におけるダムの建設、②中流の斐伊川放水路建設と斐伊川の改修、③下流の大橋川改修と中海・宍道湖岸の整備）を基本とした治水対策が具体化した。尾原ダムは、この計画に基づき斐伊川上流の大原郡木次町（現雲南市木次町　以下同じ）・仁多郡仁多町に計画された多目的ダムである。尾原ダム建設事業は、平成３年10月の「尾原ダム建設事業に伴う基本協定書」調印を経て着手され、平成５年12月には水源地域対策特別措置法のダム指定を受けた。翌平成６年２月には「尾原ダム建設に関する基本計画」が公示され、現在建設が進められている。

平成３年６月、建設省中国地方建設局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所（現国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所　以下同じ）から島根県教育委員会に対し、埋蔵文化財調査の依頼があった。これを受けて、島根県教育委員会では、平成５年３月と平成６年３月の２回にわたり分布調査を実施した。木次町教育委員会と仁多町教育委員会の協力を得て行われたこの調査で、合計31か所の遺跡及び要確認調査地を設定した。

平成10年12月、遺跡の範囲確認調査を平成11年度から実施することが決定した。また、島根県教育委員会、木次町教育委員会、仁多町教育委員会の三者で協議を行い、①確認のため再度分布調査を行うこと、②当初は基本的にダム本体部分を県が調査し、残土処理場や付け替え道路等の付帯設備部分は両町が対応すること、③今後の調査分担は調査状況や各機関の調査体制に応じて調整すること、の３点を確認した。平成11年３月に行われた２度目の分布調査では、新たに32か所の遺跡及び要確認調査地を設定した。これにより、遺跡および要確認調査地は合計113か所となった。

平成11年度、島根県教育委員会は29か所の範囲確認調査を実施し、本報告書収録の下布施氏館跡を含む11か所について全面発掘調査が必要と判断した。

平成12年度には、垣ノ内遺跡と川平Ⅰ遺跡の２か所で全面発掘調査を行うとともに、原田遺跡、前田遺跡を含む20か所の確認調査を実施した。垣ノ内遺跡では弥生時代中期から後期末の竪穴住居を中心とする遺構、遺物が多数出土した。また、遺跡が調査区の北側にさらに続いていることが明らかとなったため、翌平成13年度に追加調査を行うことが決まった。川平Ⅰ遺跡では、縄文時代から古墳時代にかけての遺構及び遺物が確認された。この年の９月には、仁多町前布施において工事中に遺跡（時仏山横穴墓）が発見され、仁多町教育委員会により急遽発掘調査が行われた。こうした工事中の発見が続けば、建設工事や発掘調査の進行に支障が出るとの観点から、国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所より工事箇所の再踏査が提案された。また一方で、数年間の調査成果からこの地域の遺跡の立地傾向が徐々に明らかになりつつあった。そこで平成13年３月に再々度の分布調査を実施した。この調査で新たに２か所の要確認調査地が登録された。

平成13年度には６遺跡の全面発掘調査と３か所の範囲確認調査が実施された。範囲確認調査で

は１か所が全面発掘調査と決まった。

平成14年度には、前田遺跡、原田遺跡を含む６か所の全面発掘調査を行った。前田遺跡からは、縄文時代後期以降の流路跡や土器埋設遺構などを確認した。原田遺跡においては、斐伊川の川岸や縄文時代の土器埋設遺構を確認し、水田の造成時に破壊されていた横穴式石室からは金銅装双龍環頭大刀や馬具、玉類などが出土した。また、奈良時代の鍛冶遺構が確認され、これに伴う製鉄関連遺物が出土している。家の後Ⅱ遺跡では縄文時代後期および弥生時代中期の竪穴住居跡が２棟確認されている。また、縄文時代の土器埋設遺構が５基、土壙・ピットが300基以上確認されている。中世の遺構としては、掘建柱建物跡が２棟確認されている。家の後遺跡と隣接する北原本郷遺跡からは弥生時代中期から古墳時代初頭のものを含む12棟の竪穴住居跡を確認した。このうちの１棟は弥生時代後期前半の焼失住居であった。

平成15年には、下布施氏館跡を含む４か所の全面発掘調査と、１か所の範囲確認調査と、原田遺跡の部分発掘調査を行った。下布施氏館跡では、主に尾根上の平坦面部分に限り発掘調査を行い、中世の山城関連の遺構を確認し、これに伴う遺物が出土した。家の後Ⅱ遺跡および北原本郷遺跡では縄文時代から江戸時代にかけての集落跡の一部が確認され、北原本郷遺跡からは土偶２点が出土した。

本書は平成14年度調査の前田遺跡、平成15年度調査の下布施氏館跡の発掘調査および、平成14年度調査の原田遺跡の製鉄関連遺物に関する金属学的分析の報告である。

第２節　遺跡周辺の歴史的環境

尾原ダムは、雲南市木次町平田にダムサイトを築いて斐伊川の本流を堰き止めるものであり、貯水池の範囲は町境を越えて仁多郡仁多町三成に及ぶ。尾原ダムの建設事業はしばしば、「平成のオロチ退治」と称せられるが、付近は、『古事記』や『日本書紀』に記述のある、スサノオ（須佐之男尊・素戔嗚尊）による八岐大蛇退治伝説の故地である。

出雲地方南部を雲南と称するが、雲南市木次町及び仁多郡仁多町は、その雲南地方に属する。『出雲国風土記』（以下『風土記』と略す）によれば、大原郡は神原・屋代・屋裏・佐世・阿用・海潮・来次・斐伊の８郷で構成され、『和名抄』はその８郷に大原郷を加える。一方、仁多郡は『風土記』は三処・布勢・横田の４郷を載せ、『和名抄』はその４郷に漆仁・阿位の２郷を加える。漆仁・阿位の２郷は、三沢郷から分立したものと推定されている。なお、ダムサイトの建設予定地である木次町平田は、昭和30年に木次町・日登村と合併する以前は仁多郡温泉村に属しており、旧温泉村の村域は『和名抄』の漆仁郷とほぼ等しい。従って、ダム湖に水没したり、道路などダム関連工事が行われる範囲は、『風土記』でいう仁多郡４郷のうち、横田郷を除いた各郷に及ぶことになり、この事業がこの地域に与える影響は少なからぬものになるであろう。

仁多郡の郡名は、大国主命（大穴持命）が「此の国は大きくも非ず小さくも非ず。…是は尓多志枳小国在り」と述べたことに由来すると、『風土記』は伝えている。小ぢんまりとして水田耕作に適した肥沃な土地、と言った意味である。現況は過疎化の進んだ典型的な中山間地になっているが、以下では、周辺の遺跡を紹介等をしつつ、この地域の歴史的環境を概観してみたい。

旧石器時代

この時代の遺跡は、雲南市内・仁多郡仁多町内およびその周辺地域では、現在のところ、確認されていない。

島根県全体を見ても、旧石器時代の資料は多くはないが、宍道湖・中海の周辺地域では、松江市の下黒田遺跡をはじめ、この時代に遡ることのできる遺跡が見つかりはじめている。雲南地域においても、今後の開発の進行等をきっかけに、旧石器時代の遺跡が発見される可能性もある。

縄文時代

斐伊川中・上流域は、神戸川中・上流域と同様、縄文時代の遺跡の分布が密な地域である。

近年、この地域で縄文時代の遺跡として注目されたのは、木次町の平田遺跡である。平田遺跡は、斐伊川とその支流の阿井川の合流地点に位置する。この遺跡では、縄文後期から晩期初頭の土器が大量に出土したが、岡山県の福田貝塚出土品と酷似した浅鉢や、鐘崎式土器など、山陽地方や北部九州の影響を強く感じさせるものが見られる。また、大量の石鏃や石斧の剥片をともなって出土しており、この遺跡は石器の製作工房跡であったと考えられる。さらに、土器の出土状況等から、土器埋設遺構が存在した可能性が指摘され、土壙も８基検出されるなど、縄文時代の墓制の一端を知る上で貴重な遺跡である。土器埋設遺構が確認された遺跡として、周辺には、県指定史跡である雲南市三刀屋町の宮田遺跡、仁多郡仁多町の暮地遺跡などが知られていた。尾原ダムの建設に伴う調査では、平成15年度までの調査で前田遺跡、原田遺跡、北原本郷遺跡、家の後Ⅱ遺跡４遺跡の合計で13基の土器埋設遺構を確認している。また、暮地遺跡から縄文時代後期の土偶が３体出土した。北原本郷遺跡では、現在までの調査で、縄文時代後期の土偶が２体出土している。仁多町の林原遺跡からは、範囲確認調査の結果、縄文後期を中心とする土器や磨製石器などの石器が出土したほか、縄文後期前葉から中葉のものと思われる土偶が１点確認されており、本調査の成果が期待されるところである。

北原本郷遺跡および家の後Ⅱ遺跡では、上記の遺構のほかに後期から晩期にかけての配石墓、貯蔵穴、竪穴住居跡などの多様な遺構が確認され、前期の押型文土器を含む遺物が確認され集落の様相を知る上で貴重な資料を追加しつつある。家の後Ⅰ遺跡では中期から晩期にかけての多量の土器が、また、垣ノ内遺跡では中期の土器がまとまって出土している。

平田遺跡から阿井川を遡り、町境を越えて仁多町に入ると、やがて下鴨倉遺跡にいたる。阿井川の河岸段丘に存在するこの遺跡は、かつて「縄文のデパート」と評されたように、出土した土器は、縄文前期から晩期にいたる山陰・山陽の諸様式をほぼ網羅するばかりか、北部九州の影響も色濃い、貴重な資料となるものである。

この地域で最も古いものに分類できる遺跡は、斐伊川上流の横田町に所在する、押型文土器が出土した国竹遺跡や下大仙子遺跡であり、これらは縄文時代早期に遡ることができるものである。平成12年度の調査で、木次町の川平Ⅰ遺跡からも縄文早期の押型文土器が出土した。川平Ⅰ遺跡では、早期から晩期に至る主要な土器がほぼ途切れることなく出土している。

弥生時代

以前から、木次町では早稲田遺跡、本郷谷遺跡、仁多町では鹿谷遺跡、横田町では国竹遺跡、山代遺跡、横田高校グラウンド遺跡などが弥生時代の遺跡として知られてきた。しかし、縄文時代の遺跡に比べると数そのものが少なく、遺構が確認されたのも国竹遺跡のみであり、この地域では、わずかに横田町の横田八幡宮に伝えられた銅剣（中細型銅剣C)、木次町日登から出土したと言われる銅鐸（外縁付鈕Ⅰ式）が注目される程度であった。

しかし、近年になってこの地域の弥生時代の様相を知る上で、貴重な資料を提供する遺跡が見つかった。縄文時代の項でもふれた、木次町の平田遺跡である。この遺跡からは、円形に近い多角形

を呈した径8.8m～9.0mの竪穴建物跡１棟が確認された。建物内からは鍛冶炉が４基検出され、鉄鏃やその未製品、板状や棒状の鉄片、鏨、砥石などが出土した。この建物は鉄素材を鍛錬し、鏨を用いて鉄器を製作した工房として使われたものだと考えられる。これとほぼ同様の性格をもった建物群が、八束郡宍道町の上野Ⅱ遺跡から見つかったが、平田遺跡の鉄器工房跡は、上野Ⅱ遺跡のものに比べてやや新しく、弥生時代の末から古墳時代初頭のものと考えられている。

尾原ダムの建設に伴う発掘調査では、木次町の垣ノ内遺跡から、弥生時代中期後半から後期末にかけての竪穴住居が16棟、掘立柱建物が数棟発見された。斐伊川中・上流域では、弥生時代の集落跡の調査例が少なく、住居跡・建物跡がこれだけまとまって検出された例もないことから、注目される遺跡である。平成14・15年度に調査が行われた木次町北原本郷遺跡では、中期前葉から後期末にかけての竪穴住居が18棟、掘立柱建物跡6棟が検出された。遺跡のある広大な河岸段丘は、さらに調査が続けられることになっており、今後の成果が期待される。

古墳時代

斐伊川中流域には、副葬品に景初三年銘の三角縁神獣鏡を持っていたことで著名な雲南市加茂町の神原神社古墳をはじめ、木次町の斐伊中山古墳群、三刀屋町の松本古墳群１号墳・３号墳などの前期古墳が点在する。これらの古墳は、斐伊川の本流に、赤川あるいは三刀屋川といった大きな支流が合流し、平地が遠望できる微高地や山丘上に立地するという特徴がある。

一方、中流から上流域では、従来より前期や中期の古墳はほとんど見当たらないとされてきたが、近年この定説にも変化が生じた。仁多町三成の須坂古墳群は15基から構成される古墳群である。前方後方墳１基、一部に弥生時代の台状墓と思われるものも含み、前期古墳群に類似するものである。近い例として、斐伊中山古墳群を挙げることができる。また、同じく仁多町三成の丸子山古墳群は円墳２基からなるが、副葬品等の状況は中期末頃の様相を呈しており、この地域の首長クラスの墳墓と推定されるものである。

後期になると、斐伊川中・上流域の主要古墳が、仁多町高田・郡村の付近に築かれるようになる。この付近は、後述のように『風土記』の時代に仁多郡の郡家が置かれていたところで、岩屋古墳、常楽寺古墳など、それに相応しい古墳が存在する。岩屋古墳は７世紀前半頃の円墳で、墳丘の規模は径約15mと大きくはないが、全長７mの仁多郡では群を抜いて大きい横穴式石室を持つ。常楽寺古墳は墳丘を欠き、また、羨道部も欠いているものの、整った横穴式石室を持つ円墳である。この古墳の特徴は、円筒埴輪14以上、馬形埴輪１、男子人物埴輪３、女子人物埴輪２と、豊富な埴輪を持つことである。石室内部の調査がなされていないこともあって、被葬者の人物像は詳らかにはできないが、相当な勢力がここに存在していたことは確実であり、その勢力は何に依拠したものなのかを分析していくことが今後の課題となるであろう。

横穴墓は、木次町で10群、仁多町では17群を数えることができる。その形態は、ほとんどが玄室の平面プランが縦長長方形、断面が三角形のテント形で、妻入りである。この形態は斐伊川中・上流域の奥出雲地方に広く分布する。副葬品も須恵器を中心に、僅かな玉類や鉄器を持つなどおおむね等質的だが、木次町の平ヶ廻横穴墓では金銅装の刀子が副葬されていたことが注目される。また、平成12年調査が行われた木次町の下布施横穴墓群では、１号横穴墓から遺存状態の極めて良好な装飾大刀が出土した。その装飾は、柄に葛を密に巻き、柄頭には黒漆を塗った上に金箔・銀箔を貼ったもので、畿内で一括生産される一般の装飾大刀とは技術的系譜が異なるものとして注目される。仁多町の殿ヶ迫横穴墓群では、切創の残る足に添え木がなされている人骨が発見された。同

じく時仏山横穴墓の被葬者は伏臥伸展位という類例のない形で葬られていた。副葬品も供献土器はなく、メノウ製の勾玉、切子玉、小玉などの数は近隣の他例より突出している。

平成14年度の実施の調査では、仁多町の原田古墳から豊富な副葬品が発見された。横穴式石室の大部分は残っていなかったが、ヒスイの勾玉、双龍環刀大刀、金銅製馬具などの遺物は近隣に出土例が無く、注目される。

木次町日登に所在する原口古墳群は、６基のうち調査されたのは１号墳のみであるが、松江市友田遺跡の土壙墓や墳丘墓との共通点が指摘され、古墳群と呼ばれてはいるものの、弥生後期の墳丘墓の可能性が高いと指摘されていることを記しておきたい。

奈良・平安時代

『風土記』によれば、大原郡の役所である郡家は斐伊郷、飯石郡の郡家は多爾郷、仁多郡の郡家は三処にそれぞれ置かれた。

飯石郡家の所在地は現在の雲南市掛合町郡のあたり、大原郡家は現在のJR木次駅の北側の地点と推定され、それ以前には大東町仁和寺のJR幡屋駅付近にあったらしいが、いずれも『風土記』の距離里程や地名からの推測であり、関連する関連する遺跡・遺物は見つかっていない。それに対して、仁多郡家には有力な推定地があり、それは仁多町郡村のカネツキ免遺跡付近と考えられている。カネツキ免遺跡からは須恵器や土師器をはじめ、多くの遺物が出土しているが、土器には墨書土器も含まれ、また円面硯・転用硯も見られる。付近には大領原や内裏原という地名があり、近隣の芝原遺跡からは「厨」と墨書する須恵器が出土している。これらのことから、カネツキ免遺跡は遺構こそ確認できていないものの、仁多郡家と関わりの深い遺跡といえる。

また、木次町家の上遺跡は、配石遺構から土馬・手づくね土器・土玉などが出土した７～８世紀の水辺の祭祀に関連する遺跡と考えられている。

尾原ダム建設に伴う調査では、木次町の槙ヶ峠遺跡で平安時代半ばと推定される製鉄炉壁や鉄滓類が出土した。これらは、類例が少なく不明な点が多い平安時代の鉄生産に付いての貴重な資料として注目される。

中・近世

承久の乱（1221年）の後には、大原郡内にも東国の御家人が進出してきた。中でも日伊郷の伊北氏、大東庄の土屋氏、大西庄の飯沼氏、淀本庄の中沢（牛尾）氏、佐世郷の佐世氏らである。この地域には、牛尾氏の三笠城･高平城（雲南市大東町）･佐世氏の佐世城（同町）、立原氏の近松城（加茂町）など、重要な城が集中していた。

仁多郡では信濃国の御家人の飯島氏が、承久の乱の戦功を賞されて、三沢郷に所領を獲得した。飯島氏が実際に三沢郷に移り住み、三沢氏を称して本格的な所領経営に乗り出したのは、鎌倉時代末期のことである。三沢氏は鴨倉山（要害山）に居城である三沢城を構えると、隣接する阿井郷・布勢郷・三沢郷に支配領域を広げ、室町時代には横田庄にも進出した。三沢城は14世紀初頭の築城とされ、主郭を中心に主として北側と東側の尾根筋に大小14段以上の郭を持つ山城で、西と南は絶壁状をなし、南の麓には阿井川が流れる。鴨倉山の標高は418.5m周囲の山々に比べて低いにも関わらず、四方の要衝をほとんど望める位置にある。三沢氏は、奥出雲の鉄の生産と流通を掌握し、出雲国内で最大の国人へと成長を遂げた。天文12年（1543年）には尼子氏に征服されるが、それでもなお､出雲国最大の国人領主として影響力を保持し続けた。三沢城は､永正６年（1509年）､横田庄内に藤ヶ瀬城が築かれるまで、三沢氏の本拠地であった。

『風土記』の仁多郡や飯石郡の状にも記されるなど、古来より、雲南地域では盛んに製鉄が行われてきた。大原郡の記事にはこのような記述がないが、事情は同様と思われる。近年の調査によれば、下布施川流域の谷筋に12世紀後半と推定される木次町の上垣内鈩跡、13世紀後半の可能性が高い同町の枯木ヶ谷鈩遺跡などの野鈩が転々と分布し、雲南市内では主要な鉄生産地の一つだったようだ。

近年になると、横田町の絲原氏・卜蔵氏、仁多町の櫻井氏、雲南市吉田村の田部氏など著名な鉄師が登場した。松江藩の後ろ盾を得た彼らによって、大規模な高殿たたらが営まれるようになると、雲南地域の産鉄量は飛躍的に増大することとなった。しかし、雲南市においては近世以降も依然として小規模なたたらが散在するにとどまり、高殿たたらは下布施滝の上鈩跡が知られる程度である。

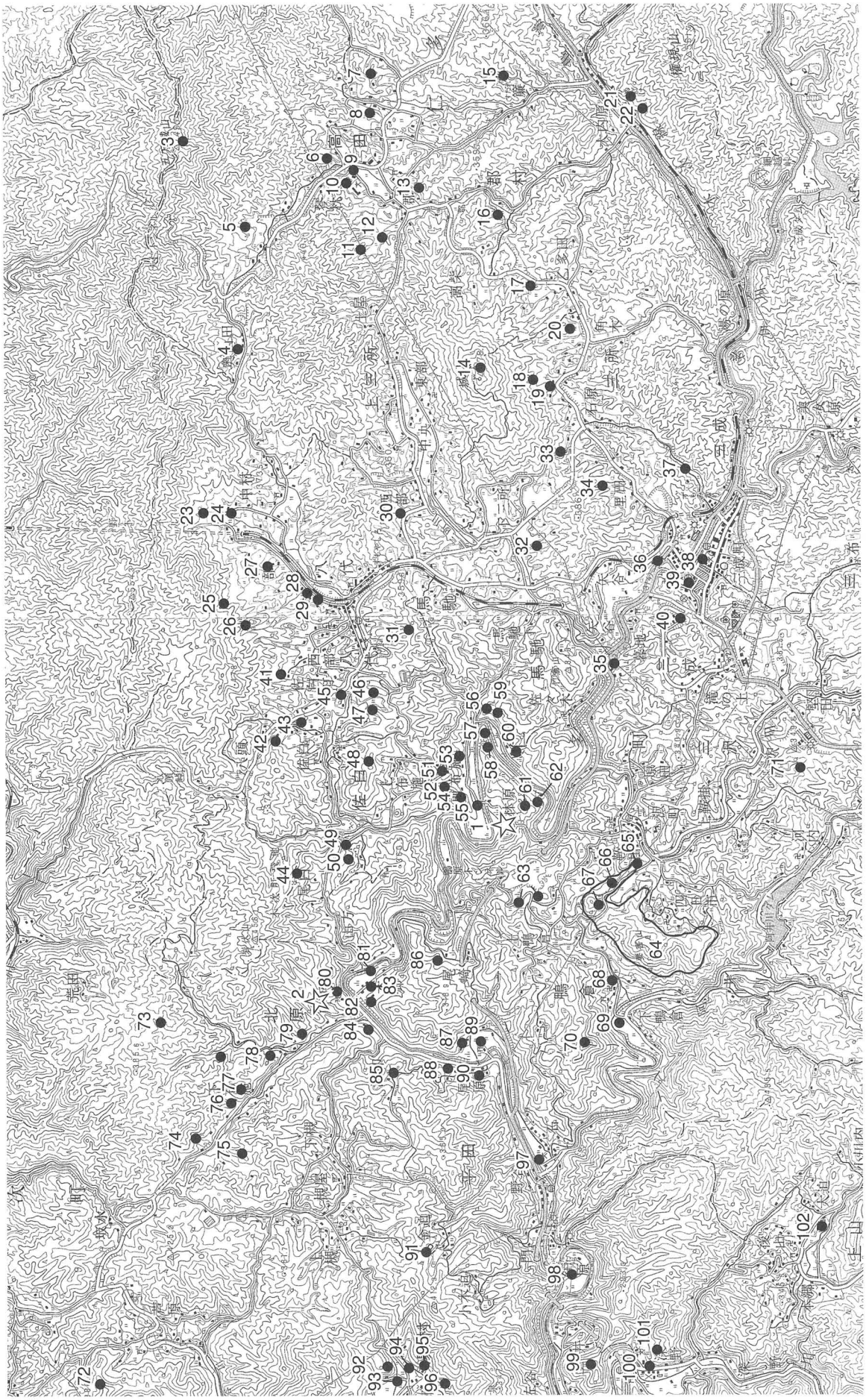
【註】

註1　加藤義成『修訂　出雲国風土記参究』1992　今井書店

【参考文献】

・『斐伊川誌』1995　建設省中国地方建設局出雲工事事務所
・加藤義成『修訂出雲国風土記参究』1992　今井書店
・加藤義成校注『校注出雲国風土記』1965　千鳥書房
・『道路改良計画に伴う　下鴨倉遺跡緊急発掘調査報告』1981　仁多町教育委員会
・『発掘調査報告書　常楽寺古墳』1985　仁多町教育委員会
・『比丘尼原横穴群緊急発掘調査報告』1986　仁多町教育委員会
・『郡屋敷古墳　－調査と石室の移築－』1986　仁多町教育委員会
・『緊急発掘調査報告　上分・原たたら跡』1989　仁多町教育委員会
・『道路改良工事に伴う第２次発掘調査報告　下鴨倉遺跡』1990　仁多町教育委員会
・『古代の出雲を考える７　松本古墳群　－斐伊川流域の前期古墳をめぐって－』1991　出雲考古学研究会
・『発掘調査報告書　野土たたら跡』1992　　仁多町教育委員会
・『発掘調査報告書　斐伊中山古墳群－西支群－　木次町文化財調査報告書第２集』1993　木次町教育委員会
・『高田小学校建設予定地内発掘調査報告書　日ヤケたたら跡　芝原遺跡』1994　仁多町教育委員会
・『尾原ダム建設に関わる発掘調査報告書　武蔵山遺跡　丸子山古墳群』1995　仁多町教育委員会
・『妙見山遺跡発掘調査報告書　木次町文化財調査報告書第３集』 1995　木次町教育委員会
・『主要地方道玉湯吾妻山線改良工事に関わる発掘調査報告書　宇根たたら跡』1996　仁多町教育委員会
・『中国第二中幹線ルート送電鉄塔建設予定地内遺跡調査報告書　須坂遺跡・他』1997　仁多町教育委員会
・『平田遺跡　木次町文化財調査報告書第４集』 1997　　木次町教育委員会
・『家の上遺跡・石壷遺跡　尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書１』1998　木次町教育委員会
・『島根県中近世城館跡分布調査報告書＜第２集＞出雲・隠岐の城館跡』1998　島根県教育委員会
・『上垣内たたら跡　北原Ⅰ遺跡　茶屋の廻遺跡　尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書２』1999　木次町教育委員会

・荻原千鶴『出雲国風土記』1999　講談社学術文庫
・『枯木ヶ谷鈩遺跡　尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書３』2000　木次町教育委員会
・『平田遺跡第Ⅲ調査区　斐伊川広域一般河川改修工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』2000　木次町教育委員会
・『殿ヶ迫横穴墓群　西尾社遺跡　亀ヶ谷遺跡　シベ石遺跡　時仏遺跡　時仏山横穴墓　尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』2001　仁多町教育委員会
・『伊賀武社境内横穴墓』 2001　仁多町教育委員会
・『下布施横穴墓群　案久寺遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』2002　木次町教育委員会
・『尾白Ⅰ遺跡・尾白Ⅱ遺跡・家ノ脇Ⅱ遺跡３区・川平Ⅰ遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１』2003　島根県教育委員会
・『家の後Ⅰ遺跡　垣ノ内遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２』2003　島根県教育委員会
・『槙ヶ垰遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３』2004　島根県教育委員会
・『家ノ脇Ⅱ遺跡　原田遺跡・前田遺跡　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　４』2004　島根県教育委員会
・『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　年報　X　平成13年度』2002　島根県教育委員会
・『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　年報　11　平成14年度』2003　島根県教育委員会
・『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　年報　12　平成15年度』2004　島根県教育委員会



第1図　掲載遺跡と周辺の遺跡

地図番号	遺 跡 名	種　　別
1	前田遺跡	散布地
2	下布施氏館跡	城跡
3	鍋坂山城跡	城跡
4	奥山田遺跡	散布地
5	琴枕岩屋古墳	古墳
6	宮の前遺跡	散布地
7	岩屋古墳	古墳
8	高田廃寺	寺院跡
9	常楽寺古墳	古墳
10	芝原遺跡	製鉄遺跡
11	カネツキ免遺跡	散布地
12	カネツキ免炉跡	製鉄遺跡
13	伝仁多郡衙跡	郡衙跡
14	須我非山城跡	城跡
15	金床横穴墓	横穴墓
16	コフケ横穴墓	横穴墓
17	善勝寺跡	寺院跡
18	石原遺跡	住居跡
19	善勝寺跡	寺院跡
20	聞善寺跡	寺院跡
21	伝和泉式部墓	古墓
22	大内原土居館跡	館跡
23	庄田炉跡	製鉄遺跡
24	堂の前古墳	古墳
25	穴観音古墳	古墳
26	三出平古墳	古墳
27	門屋遺跡	散布地
28	長福寺遺跡	散布地
29	金原炉跡	製鉄遺跡
30	下鴨倉大峠炉跡	製鉄遺跡
31	すげた横穴墓群	横穴墓
32	須坂遺跡	古墳・横穴墓・建物跡
33	村尾政吉宅向横穴墓	横穴墓
34	石原城跡	城跡
35	暮地遺跡	散布地・住居跡
36	矢谷古城山砦跡	城跡
37	里田遺跡	散布地
38	郡屋敷古墳	古墳
39	三成鍛冶屋小路遺跡	製鉄遺跡
40	丸子山古墳群	古墳
41	金子松炉跡	製鉄遺跡
42	伊賀武社境内横穴墓	横穴墓
43	佐白・原炉跡	製鉄遺跡
44	尾白横穴墓群	横穴墓
45	中山遺跡	散布地
46	上布施遺跡	散布地
47	上布施横穴墓群	横穴墓
48	佐白城跡	城跡
49	尾白Ⅰ遺跡	散布地
50	尾白Ⅱ遺跡	炭窯跡
51	水手山城跡	城跡

地図番号	遺 跡 名	種　　別
52	殿ケ迫横穴墓群	横穴墓
53	円満寺遺跡	祭祀跡・寺院跡
54	西尾社遺跡	城砦
55	原田遺跡	集落跡・古墳
56	シベ石遺跡	社跡
57	林原古墳	古墳
58	林原遺跡	集落跡
59	時仏山横穴墓群	横穴墓
60	家ノ脇Ⅱ遺跡	散布地
61	林原山頂遺跡	
62	小廻上遺跡	
63	穴観古墳群	古墳
64	三沢城跡	城跡
65	布広城跡	城跡
66	どけや古墳	古墳
67	比久尼原横穴墓群	横穴墓
68	光善寺古墳	古墳
69	下鴨倉遺跡	散布地
70	松木山城跡	城跡
71	八頭塚横穴墓群	横穴墓群
72	固屋畦城跡	城跡
73	下布施滝の上炉跡	製鉄遺跡
74	枯木ケ谷炉跡	製鉄遺跡
75	下布施横穴墓群	横穴墓
76	ゴマボリ遺跡	製鉄遺跡
77	寺田Ⅰ遺跡	製鉄遺跡
78	案久寺遺跡	城跡
79	垣ノ内遺跡	集落跡
80	宮ノ脇遺跡	散布地
81	北原本郷遺跡	散布地
82	家の後Ⅰ遺跡	散布地
83	家の後Ⅱ遺跡	散布地
84	川平Ⅰ遺跡	散布地・住居跡
85	トヤゲ丸城跡	城跡
86	槙ケ垰遺跡	製鉄遺跡
87	家の上遺跡	祭祀遺跡・製鉄遺跡
88	上垣内たたら跡	製鉄遺跡
89	亀山城跡	城跡
90	石壺遺跡	散布地
91	金廻遺跡	散布地
92	宮原遺跡	散布地
93	本郷谷遺跡	散布地
94	早稲田遺跡	散布地
95	本屋敷遺跡	散布地
96	鳥屋ケ丸城跡	城跡
97	平田遺跡	散布地・製鉄遺跡
98	平田鈩原鈩跡	製鉄遺跡
99	深野城跡	城跡
100	田井中学校附近古墳	古墳
101	薬師さん五輪塔群	古墳
102	上山城跡	城跡

第２章　前田遺跡

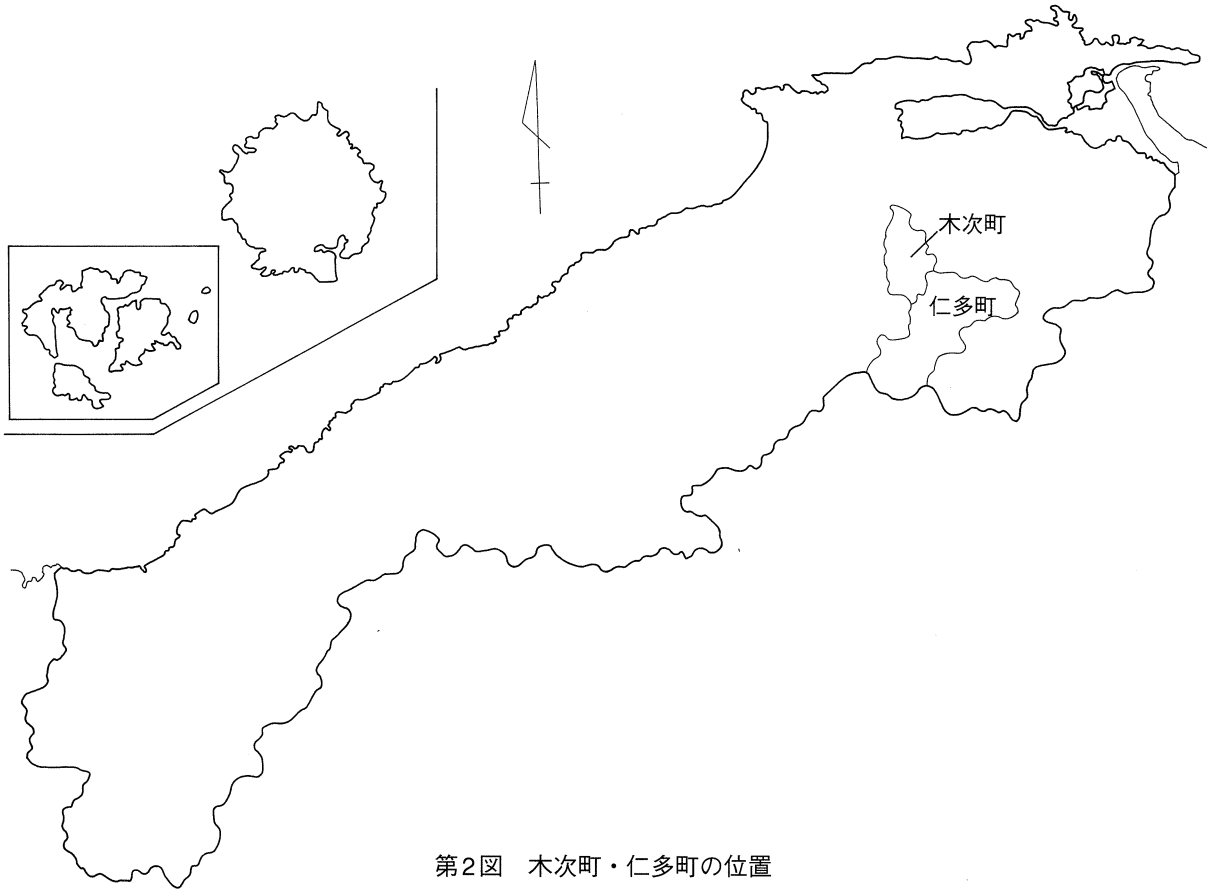
第１節　調査の経過と遺跡の概要

調査経緯

前田遺跡は、大きく蛇行する斐伊川の左岸の小規模な河岸段丘に位置している。かつて遺跡の中心部には民家が存在し、周辺には畑、棚田状の水田が広がっていた。遺跡の中心部分に幅３ｍの水路が走っており、遺跡の南側の畑および水田跡を３つの地点に区切っている。

平成５年に行われた分布調査の結果、当地に集落跡が存在する可能性があると判断された。このため、発掘調査範囲の確定のために平成12年に範囲確認調査が行われた。北側で斐伊川、西側と南側で斜面に接する平坦地22,400㎡全面で試掘が行われ、水路の西側にあたる水田の２箇所のトレンチで多くの須恵器片と土師器片が採取された。この結果を受け国土交通省と協議を行い、本調査は遺物の出土したこの水田跡とその周辺の平坦面7,800㎡の範囲で行うことになった。調査の円滑化を図るため遺跡を４つの調査区に分け、山側の西の水田跡をⅠ区、東西を水路に挟まれた中央部分をⅡ区、東側の畑跡をⅢ区とし、北側の斐伊川沿いの水田跡をⅣ区とした。

調査は平成14年４月２日に水田跡の表土を重機で掘削することから開始された。同15日には作業員の人力によるⅠ区の包含層の掘削が開始された。５月にはⅡ区、６月にはⅢ区、11月にはⅣ区の調査にそれぞれ着手した。12月２日にはⅠ～Ⅲ区の調査を終えた。４区の調査は８月28日に着手し、12月18日に完了した。なお、調査着手前の4月13日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、完了後の12月３日・９日の両日には、空中写真測量を実施した。



第２図　木次町・仁多町の位置

遺跡の概要

Ⅰ区では調査区の南側で東西に伸びる谷状の落ち込み地形を確認した。この落ち込みの埋土からは縄文時代後期から古代にかけての多くの土器片が出土している。Ⅱ区では、調査に先立ち試掘を行ったが、この地点はコンクリート製の水路によって攪乱を受け、遺構、遺物ともに確認できなかったためにトレンチの土層断面を実測し写真撮影を行い調査終了とした。Ⅲ区では調査区南側でⅠ区で確認した落ち込み地形の続きの部分を確認した。ここでも埋土中からⅠ区の落ち込みと同様の土器片が多く出土した。落ち込みの西端付近からは縄文時代後期の土器埋設遺構と弥生時代前期の土坑それぞれ1基が確認されている。また、調査区北端付近では時期不明の掘建柱建物跡1棟が確認された。Ⅳ区では斐伊川に接する部分で河床を発見した。河床の南に位置する後背湿地では室町時代の礎石列と時期不明の柱穴を検出した。遺物としては弥生土器や須恵器・土師器が少量出土している。

第2節　Ⅰ区の調査

調査区南西隅にあたる第1調査区の調査では、谷状の落ち込み地形を確認し、埋土中から遺物が出土している。以下それぞれ詳細を述べる。

（1）谷状の落ち込み地形（第3図）　調査区の南よりの部分で、西から東に向け横断する格好で検出された。平面的に調査区を掘り進める中で、遺物の包含層が帯状の部分に限定されることが判明したために南北方向にベルトを設定し、層位の把握に努めつつ掘削をすすめた。規模は幅は約10m、深さは中央部で1.2m、東端部で0.6m、長さは22.5mを測るが東西は調査区外に伸びており、西端部周辺の両岸は後世の造成により削平されている。遺物は、縄文時代から奈良時代に至る土器、石器、製鉄関連遺物が出土している。遺物については、Ⅰ区出土の包含層の遺物と一括し掲載した。

（2）出土遺物（第5～11・31・32図）

縄文土器（第5図）

1～6は突帯文土器の深鉢である。1・2は突帯に刺突を、3～5は刻み目を有するものである。時期的にはそれぞれ、晩期以前のものと思われる。7は無文の深鉢である。8は口縁部に刻み目を有するものである。9・11は内面に二条の沈線を有するものである。11は口縁部が外反するもので肩部で屈曲しており、外面の口縁部と肩部に2条の沈線を有するものである。12・13は底部の破片で、12は深鉢の底部で、13は浅鉢の底部である。14は突起部の破片で、上部に3条の刺突文帯がめぐり、下方に穿孔されたものである。

弥生土器（第6図）

1～7は口縁部に平行線文を有するものである。このうち4は指頭圧痕文帯がめぐるものである。口縁部は、1・3・4はほぼ直立し、2・7は外反し、6は内傾するものである。8は小型の壷で口縁は外反し肩部に沈線がめぐるものである。9は器形不明の体部の破片で羽状文の上下に平行沈線文が引かれるものである。10は底部の破片である。

11は平行線文の下に斜行線文が施されるものである。12は外面口縁部下に平行線文と刺突文帯がめぐるものである。時期的には1～7は後期に収まると思われるが、8～12は不明である。

須恵器（第7図）

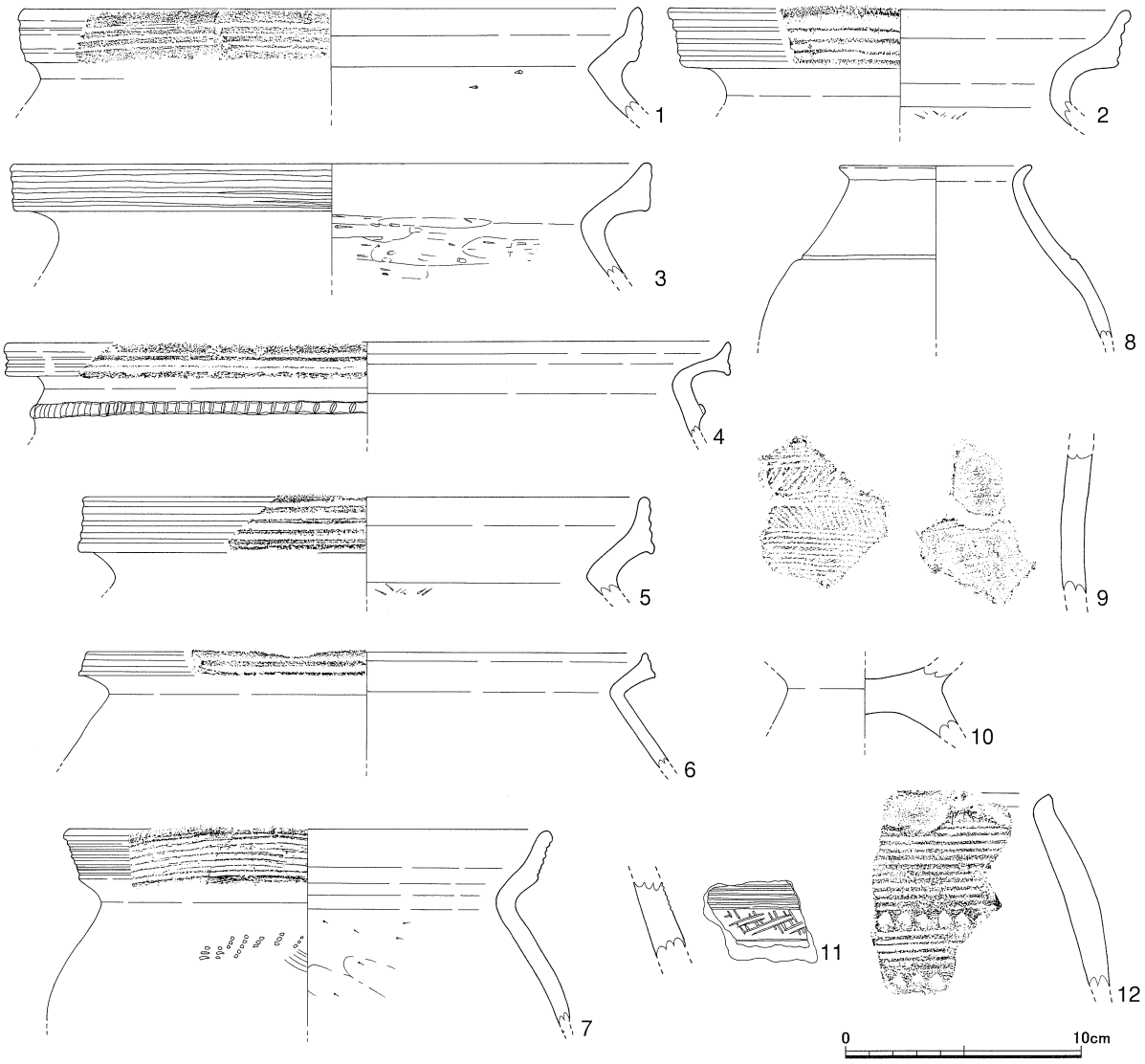
1～7は蓋で、この内3～7は輪状つまみを有しており、5は端部が直立するものである。8・9は坏である。10～15は高台付きの坏で、15・16は底部が回転糸切りでヘラ記号を有している。

第3図　前田遺跡調査区配置図

①表土
②暗褐色土層
③暗褐色土層（若干②よりしまっている）
④暗褐色土層（礫を多く含む）
⑤暗褐色土層
⑥暗黄色砂層
⑦暗褐色土層（砂を多く含む）
⑧黄灰色砂層
⑨暗褐色土層（礫を多く含む）
⑩暗褐色土層（砂を多く含む）
⑪暗褐色土層
⑫黄色砂層
⑬黒色土層
⑭暗褐色土層（礫を多く含む）
⑮黒色土層（礫を多く含む）
⑯緑黄灰色土層

第4図　前田遺跡Ⅰ区流路跡測量図

第5図　前田遺跡Ⅰ区出土縄文土器実測図（S＝1／3）



第6図　前田遺跡Ⅰ区出土弥生土器実測図（S＝1／3）

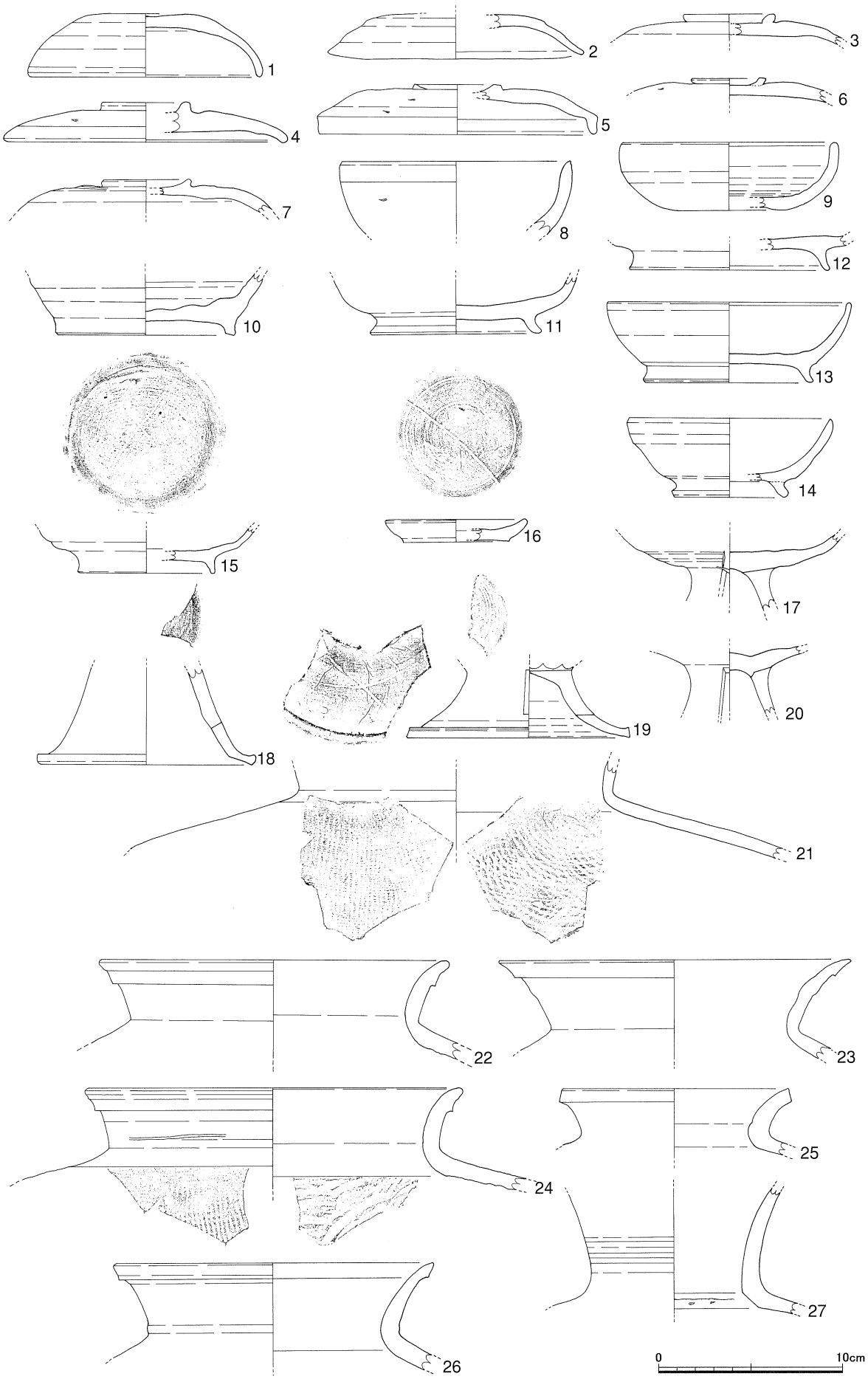
16は小型の皿で底部は回転糸切りのものである。17～20は坏の破片である。このうち19は脚部外面にヘラ記号を有するものである。21～26甕の破片で、21と24は外面にカキ目、内面に当て具痕を有するものである。27は壷の破片で、頚部が直線的に外傾するものである。時期的には1・3・6が古墳時代後期後のものである。

土師器（第8図）

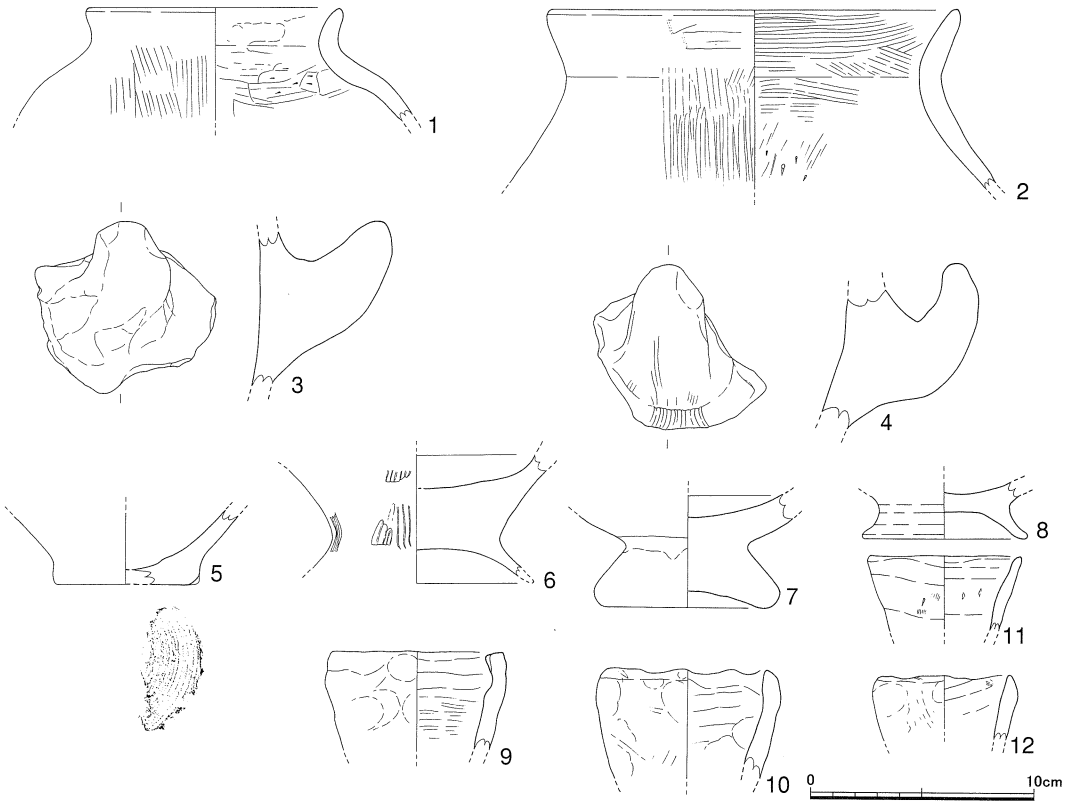
1・2は甕の破片である。1に比べ2は直線的な器形を呈している。3・4は甑の突起と考えられる破片である。5は甕の底部で糸切り底のものである。6～8は高台を有する小型の坏である。11～12は小型の手づくね土器で製塩土器としてつくられたものと考えられる。

土製品（第9図）

土製支脚が1点出土している。外面に1箇所穿孔（突き抜けない）があり、先端部は欠損しているが、二股に分かれないものである。



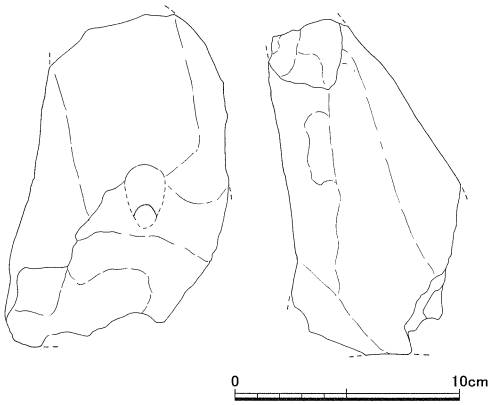
第7図　前田遺跡Ⅰ区出土須恵器実測図（S＝1／3）



第8図　前田遺跡Ⅰ区出土土師器実測図（S＝1／3）

石器（第31図）・古銭（第32図）

いずれもⅢ区の遺物と併せて後述する。



第9図　前田遺跡Ⅰ区出土土製品実測図

第3節　Ⅱ区の調査

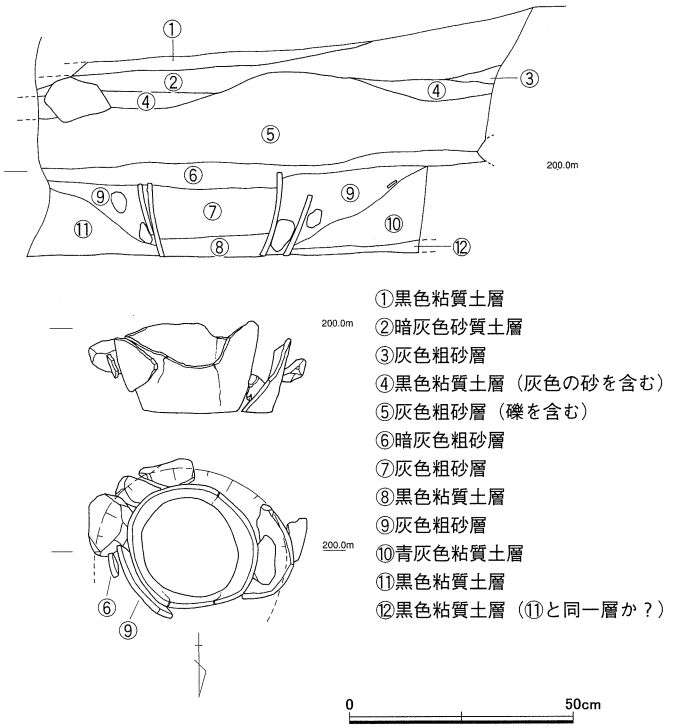
第Ⅱ区はⅠ区とⅡ区及び水力発電用の水路に挟まれた三角形を呈する調査区である。調査区の面積が小さく遺物・遺構が存在しない可能性が想定されたために、全面掘削に先立ち試掘を行った。結果、地表下25cm～1.2mの位置でコンクリート製の水路を確認した。また水路の先端に位置する調査区北側では、分厚い砂層が確認された。水路及び砂層以下の部分を掘削するとなると、調査区東西辺を形成するコンクリート製の壁が調査区内に倒壊する可能性が想定された。遺構・遺物の存在が試掘では確認できず、掘削による危険性が想定されたため、トレンチの断面の断面図を作成し、写真撮影を行い調査終了とした。

第4節　Ⅲ区の調査

調査区の南東隅の畑跡に位置する第3調査区では、調査区南側第1調査区から続く谷状の落ち込み地形を確認した。この落ち込み地形の西端付近では縄文時代後期前半の土器埋設遺構と、弥生時代前期初頭の土壙が1基ずつ検出されている。調査区北側では時期不明の掘立柱建物跡が確認されている。遺物としては、谷状の落ち込み地形から縄文時代後期中葉から近世に至る時期の遺物が出土している。

(1) 土器埋設遺構（第10図）

落ち込み地形の西端付近で確認されている。掘り肩は確認することができなかったが、中から石錘が出土し、土器の体部のまわりに添えるように別個体の破片が並べられていたことなどから土器埋設遺構であると判断した。遺構の時期は据えられた土器からは判断できず、周辺で出土している土器の時期から縄文時代後期前半のものと判断した。



第10図　前田遺跡土器埋設遺構実測図

土器埋設遺構関連遺物（第11図）

1は中心に据えられていた土器で、無文の粗製土器の胴部である。下方の破面はほぼ平らになっているために設置前に意図的に打ち欠いたものと思われる。2は遺構底面で出土した石錘である。扁平な長楕円形の中性貫入岩の両端を打ち欠いたものである。3～5は1の周辺で出土した土器片でいずれも無文の粗製深鉢の破片である。いずれの遺物も単体ではその時期を判断しかねるものである。

(2) 谷状の落ち込み地形（第12図）

第1調査区の落ち込み地形から続くもので、西端で幅4.6m深さ1.3m、東端で幅5.2m深さ1mを測る。埋土からは、縄文時代後期中葉から近世に至る時期の遺物が出土している。

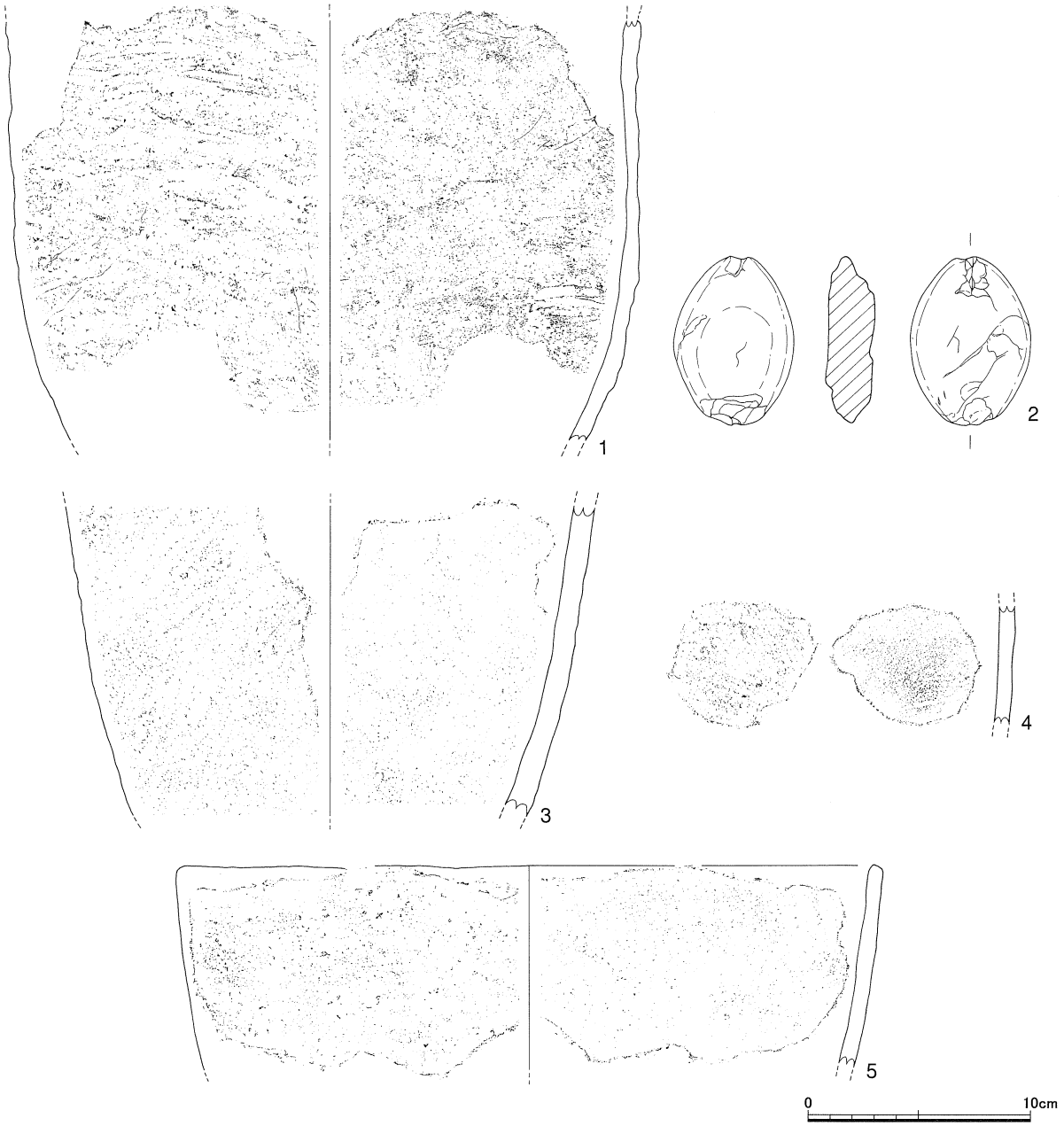
(3) 出土遺物（第13～29図）

青灰色粘土層出土遺物（第13図）

1は深鉢の口縁部で波状口縁を呈し磨消縄文を施すものである。2は体部の破片で、縄文が施されるものである。3・4は口縁部の破片で、内外面に条痕の見られるものである。これらのうち1は、後期前半のものと思われる。

黒色粘土層出土縄文土器（第14・15図）

14－1～6は磨消縄文の施されるものである。7は沈線文を、8は穿孔を施される体部の破片で時期等は不明のものである。14－9～15－6は無文の口縁部を有する破片である。このうち、9（第11図）・13・14は内外面ともに条痕を有するもので、9は口縁部が外に開く器形のものである。



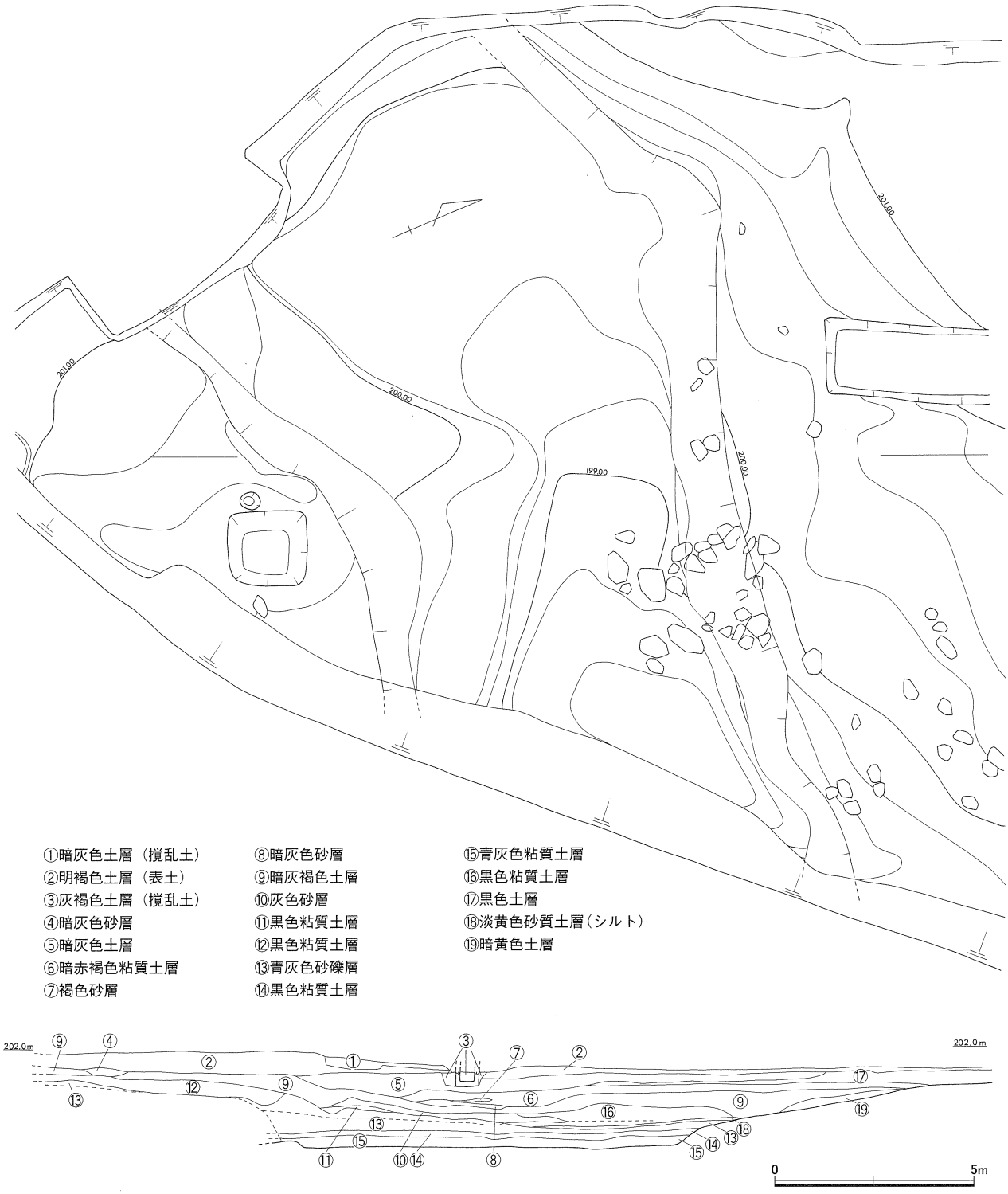
第11図　前田遺跡埋設土器関連遺物実測図（S＝１／３）

14－７・8は底部の破片で若干上げ底状の底部を有するものである。

灰色粗砂層出土遺物（第16～21図）

16図－１は撚糸文と思われる施文を施された胴部の破片である。16図－２～17図２、17図－８・９は磨消縄文を施すものである。この内11は口縁部に沿って伸びる太めの縄文帯から細い縄文帯が垂直方向に垂れるやや異質のものである。第17図８・９は磨消縄文の沈線が３本のものであり、他のものより新しく、中津式の新しい時期ものである。

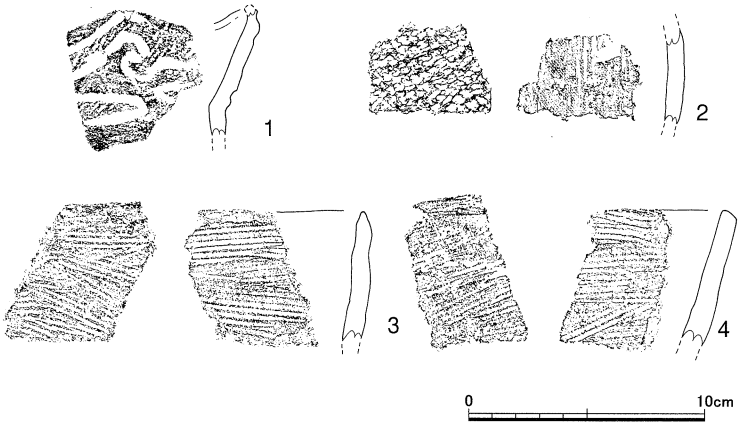
第17図３は口縁部下で大きく内側に内径するもので沈線内に細かい擬縄文様の施文が施されたものである。17－４は出土部位の外面全面に縄文を施し、平行線文上に刺突がなされたものである。17－６・７は沈線の内外ともに縄文が付されており、磨消縄文成立以前のものかという印象を受けるものだが詳細は不明である。



第12図　前田遺跡Ⅲ区流路跡測量図

17－10は外面に複雑な沈線文を施すもので、布勢式のものである。17－11は縦方向に連続する縄文によるものと思われる施文単位が連続し、口縁部直下に波状の隆起線文がめぐるものである。17－12は肥厚した口縁端部に2状の沈線がめぐり、外面に3条からなる沈線文が施されている。17－13は突起の破片で上部がラッパ状に開き、上端部及び外面に刺突文帯および沈線文をめぐらすものである。

17－14～18－7は条痕の施された粗製の深鉢である。このうち17－14と18－2は屈曲する体部を、18－5・7若干外反する体部を、他はほぼ直線的な体部を有するものである。



第13図　前田遺跡Ⅲ区青灰色粘土層出土縄文土器実測図

19－1・5～7・10は無文の粗製深鉢である。2は無文の小型精製深鉢で口縁部下に穿孔が施されている。19－3・4は肥厚した口縁部に斜行する沈線文がめぐるもので、3は加えて沈線が1条めぐっている。19－8・9は無文の粗製深鉢で穿孔のなされるものである。3・4は中津式で後期前半にあたる。

20図はいずれも無文の粗製浅鉢である。このうち1・3は口縁部が緩やかに外に開くものであり、7は口縁部が外反している。時期はいずれも不詳である。

21－1～6は浅鉢である。1は口縁部が内頃するもので、2は外面に段を有するものである。3・4は体部が屈曲し、5・6は穿孔の施されたものである。21－7～17は底部を含む破片である。これらの中には、底部外面に円形の窪みを有するもの（8）やごく薄手のもの（9）などが含まれている。

黒色土層出土縄文土器（第22～25図）

22－1～14は磨消縄文を施された土器である。いずれも中津式で縄文時代後期前半に収まるものと思われる。22－17は磨消縄文に見られるような区画文がうっすらと確認できるが、これは通常の磨消縄文が摩滅しているものと思われる。22－18は基本的に2本の沈線により文様が描かれており、布施式のものと思われる。22－19は突起を含む口縁部である。突起は環状を呈しており、突起下部に穿孔が施され、外面に沈線による文様の施されるものである。22－20は緩やかに湾曲する体部を持つもので口縁端部および張り付け突帯に刻み目の付されるものである。

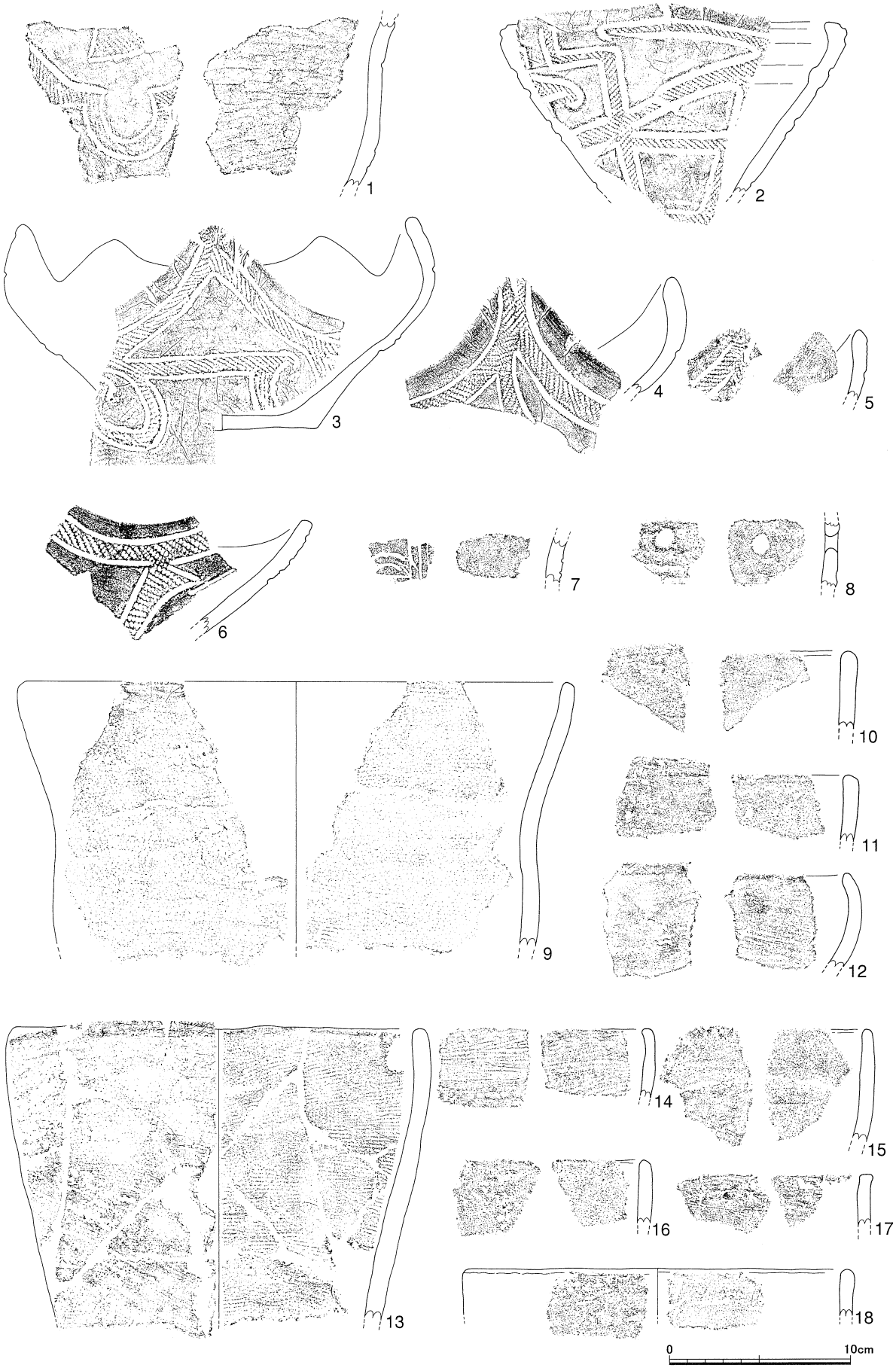
23－1～12はいずれも無文の粗製深鉢である。このうち1・7・8は穿孔のあるもので、このうち1・7は内外面ともに条痕があるものである。出土部位に関しては大きく外反する12を除いてはほぼ、直線的な体部を持つものである。

24－1～7は粗製土器の口縁部から体部にかけての破片である。このうち6は体部が大きく内頃するもので粗製浅鉢の可能性を有するものである。また7は張りのない体部に外反する口縁部の付くものである。8～11は底部を含む破片である。

25－1～9は底部を含む破片で3は器形から粗製浅鉢の可能性のあるものである。6・7は浅鉢の破片で6は無文で穿孔を施すもので、10は磨消縄文を施すものである。

褐色礫層出土土器（第26・27図）

1～10は縄文土器の破片である。1・2は一見撚糸文様の施文が付されるものであるが、実際撚糸文系の土器として判断の可能なものか微妙なものである。3は磨消縄文の付されるもので、施文単位の細いことから、同様の施文を施されるものの中でも新しい時期のものと考えられる。4は肥

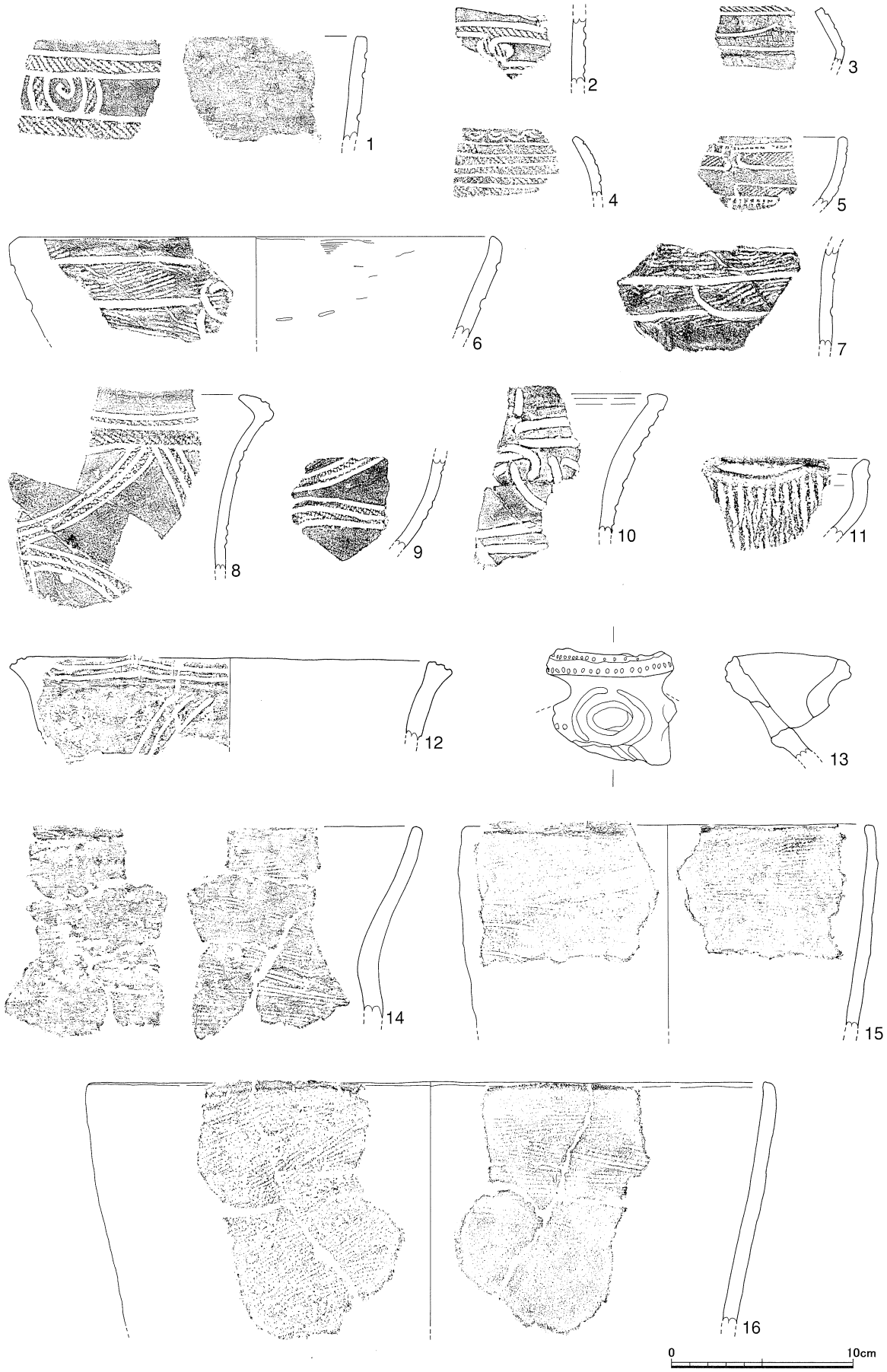


第14図　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器実測図（1）（S＝1／3）

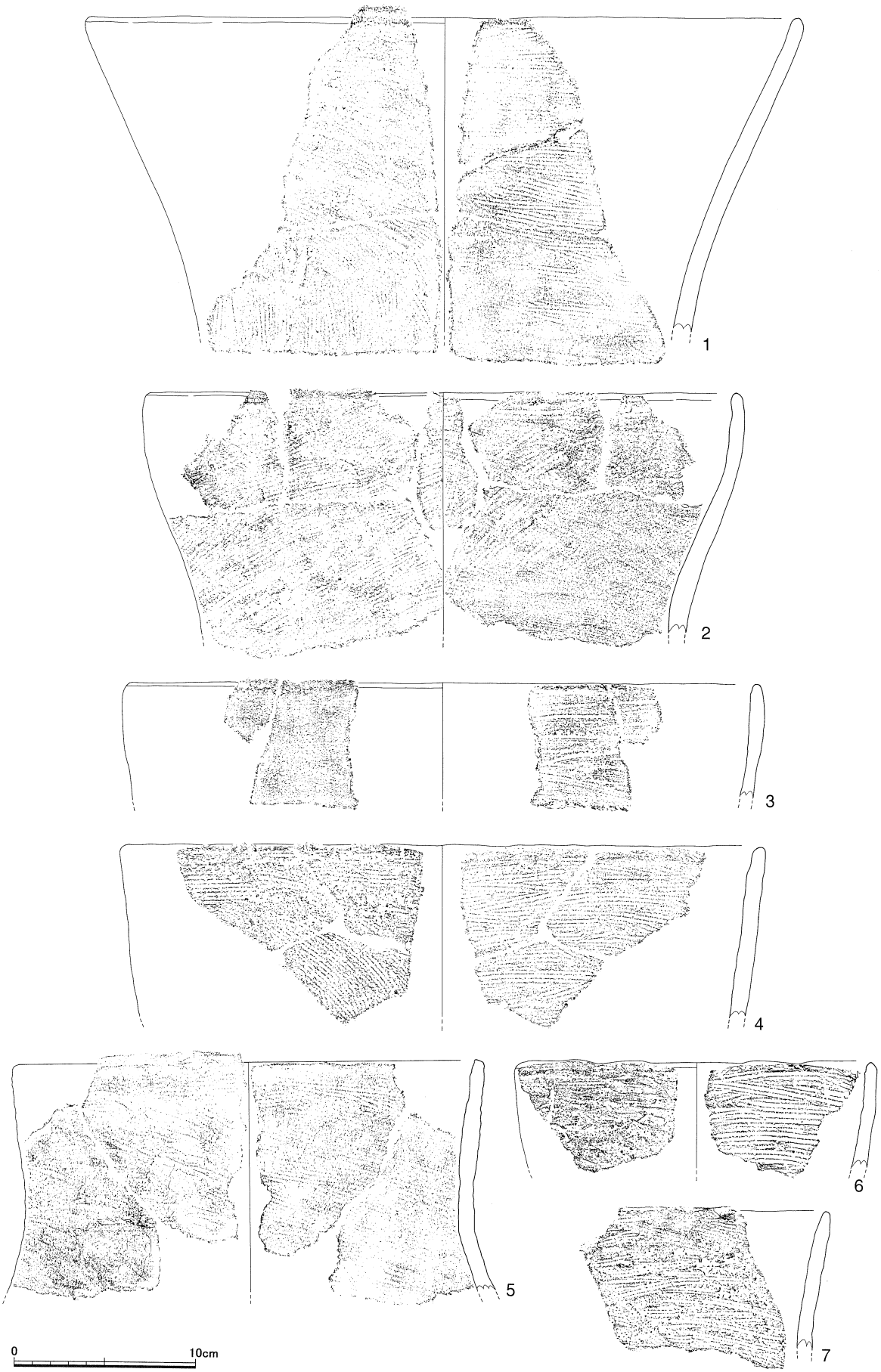
第15図　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器実測図（2）（S＝1／3）

厚した口縁部に沈線と刻み目をもち、体部外面にも沈線文を有するものである。5は張り付け突帯に刻み目を有するものである。6は肥厚させた口縁端部に3状の沈線がめぐるもので、外面に引かれた沈線の直下および内面に段を有すものである。

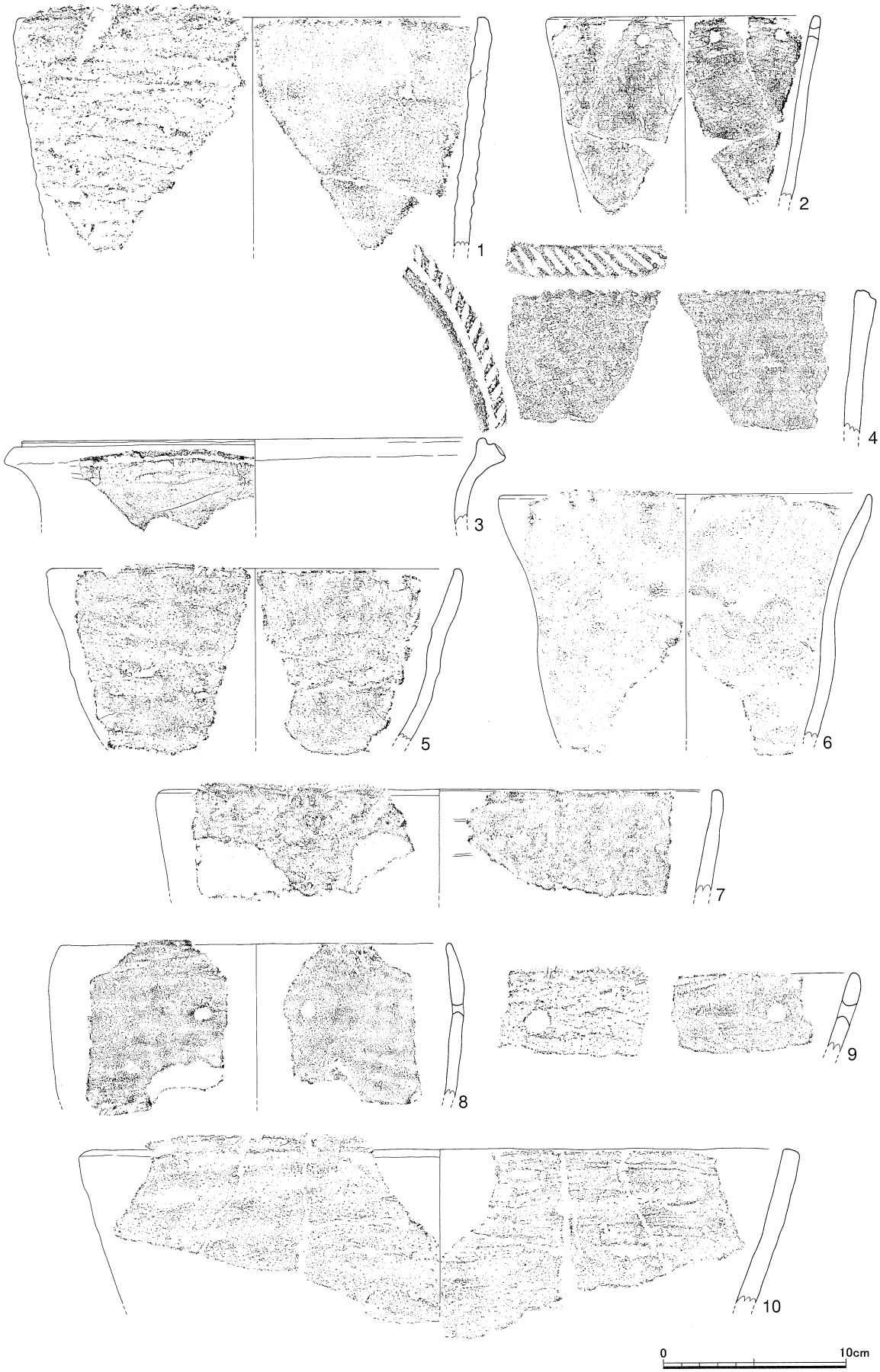
第16図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（1）（S＝1／3）



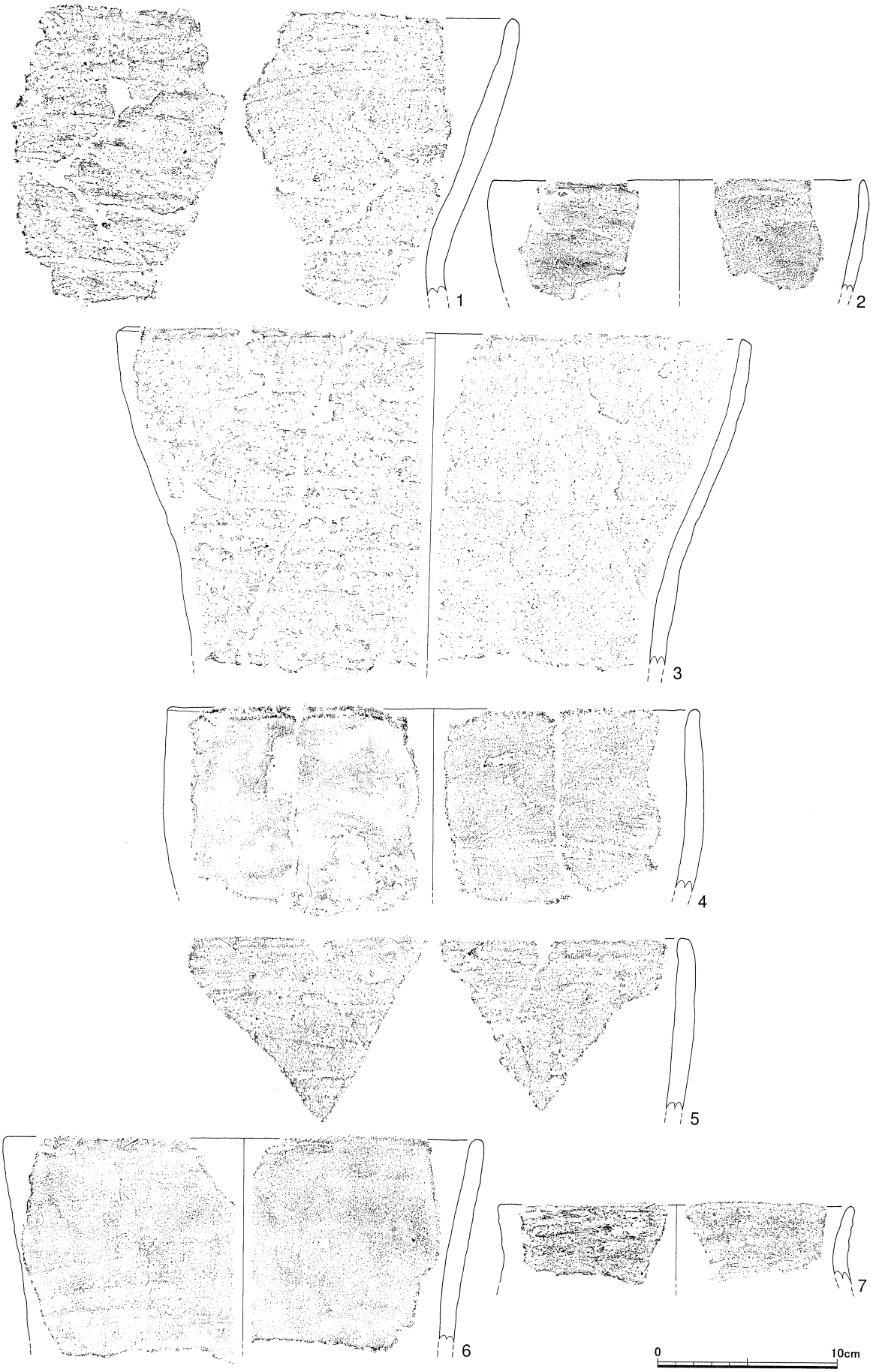
第17図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（2）（S＝1／3）



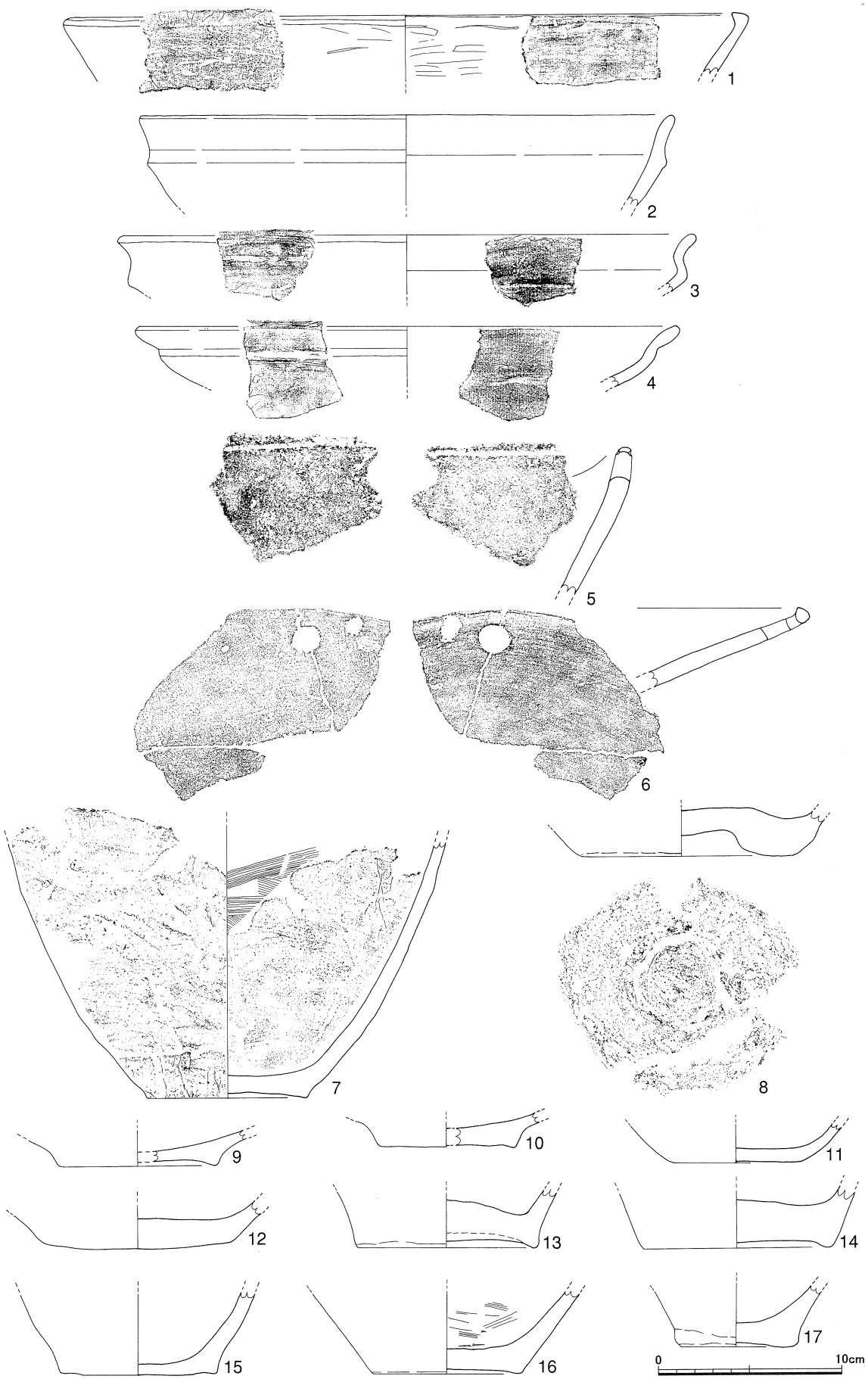
第18図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（3）（S＝1／3）



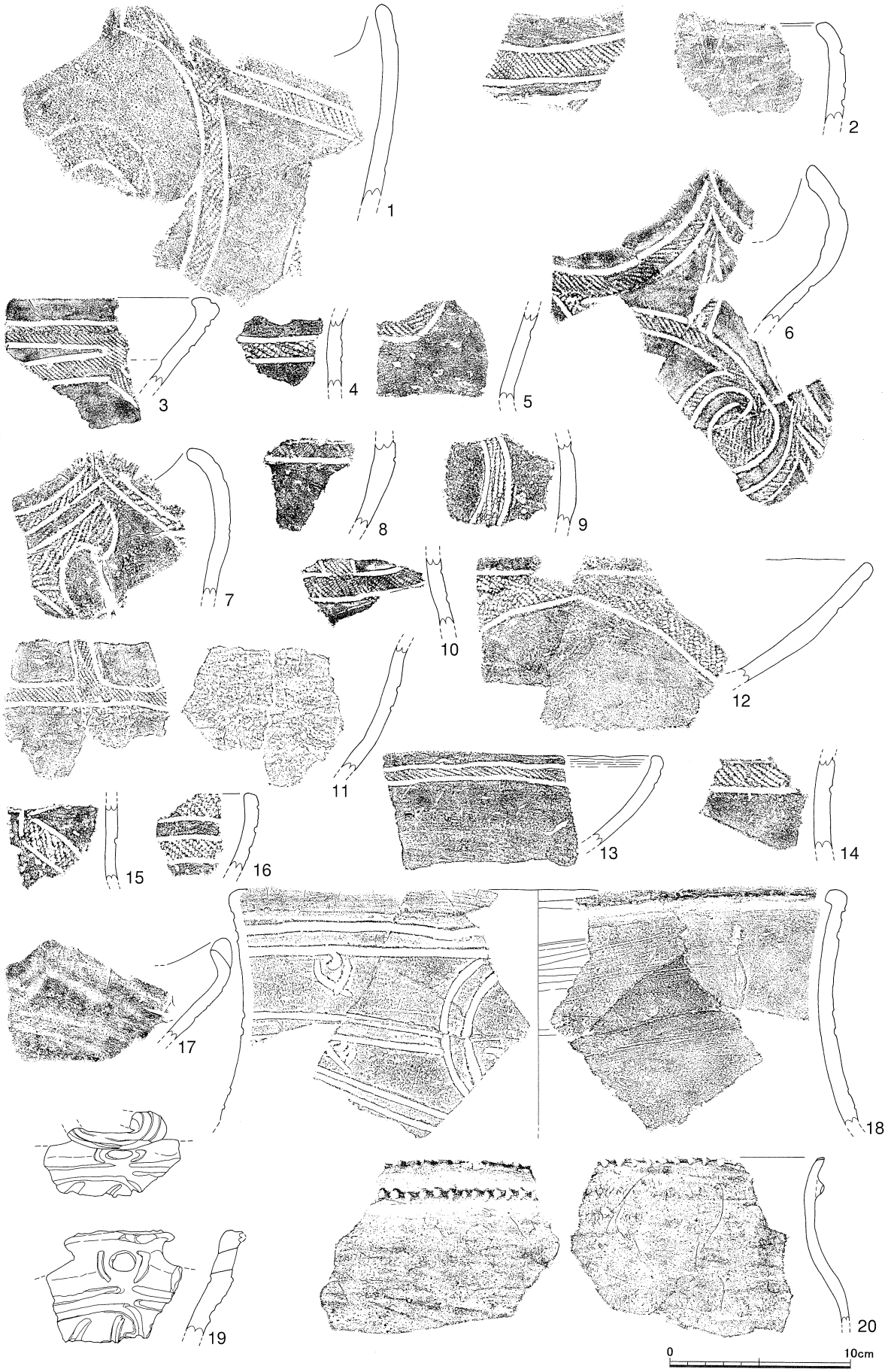
第19図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（4）（S＝1／3）



第20図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（5）（S＝1／3）

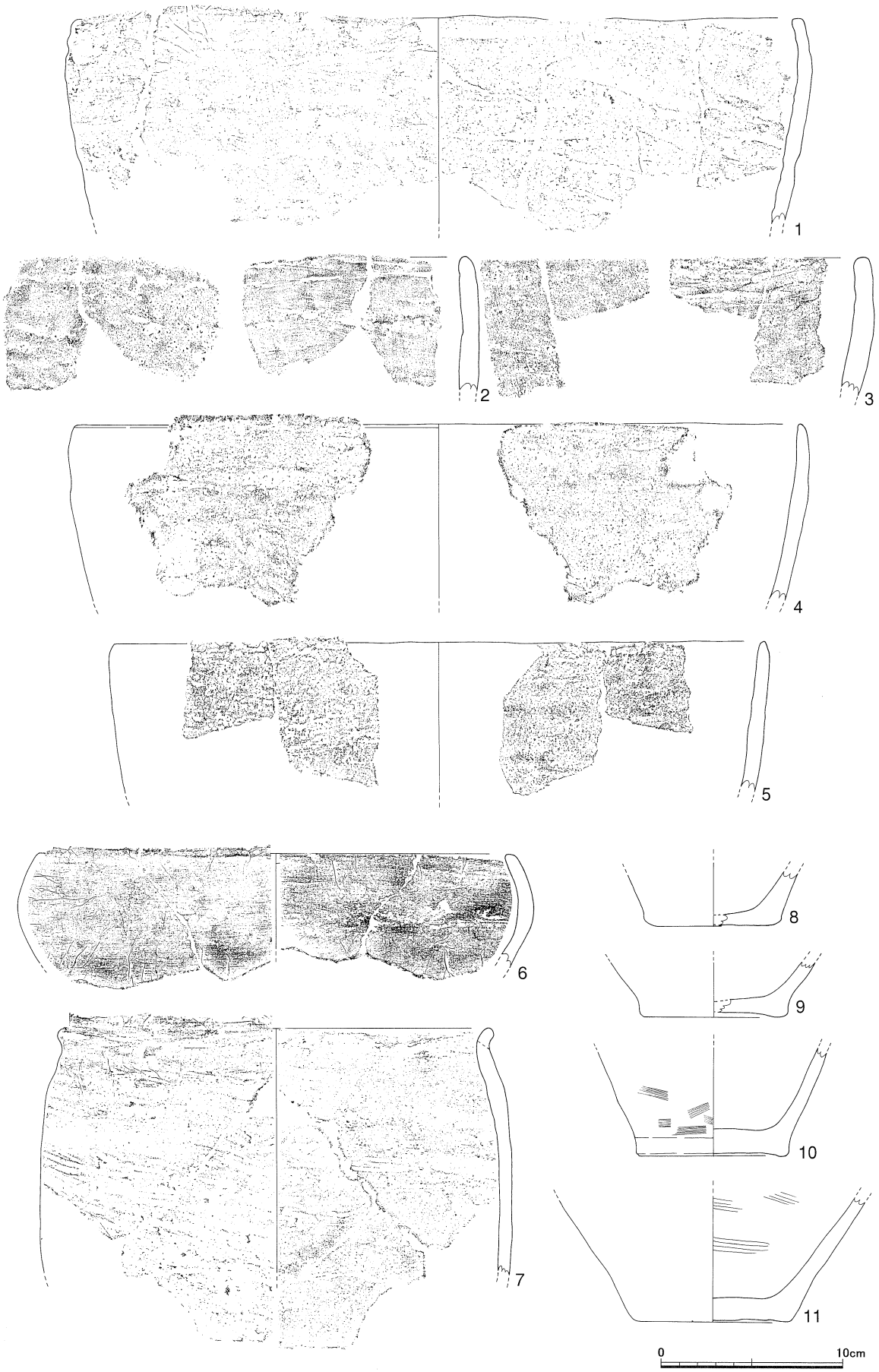


第21図　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器実測図（6）（S＝1／3）

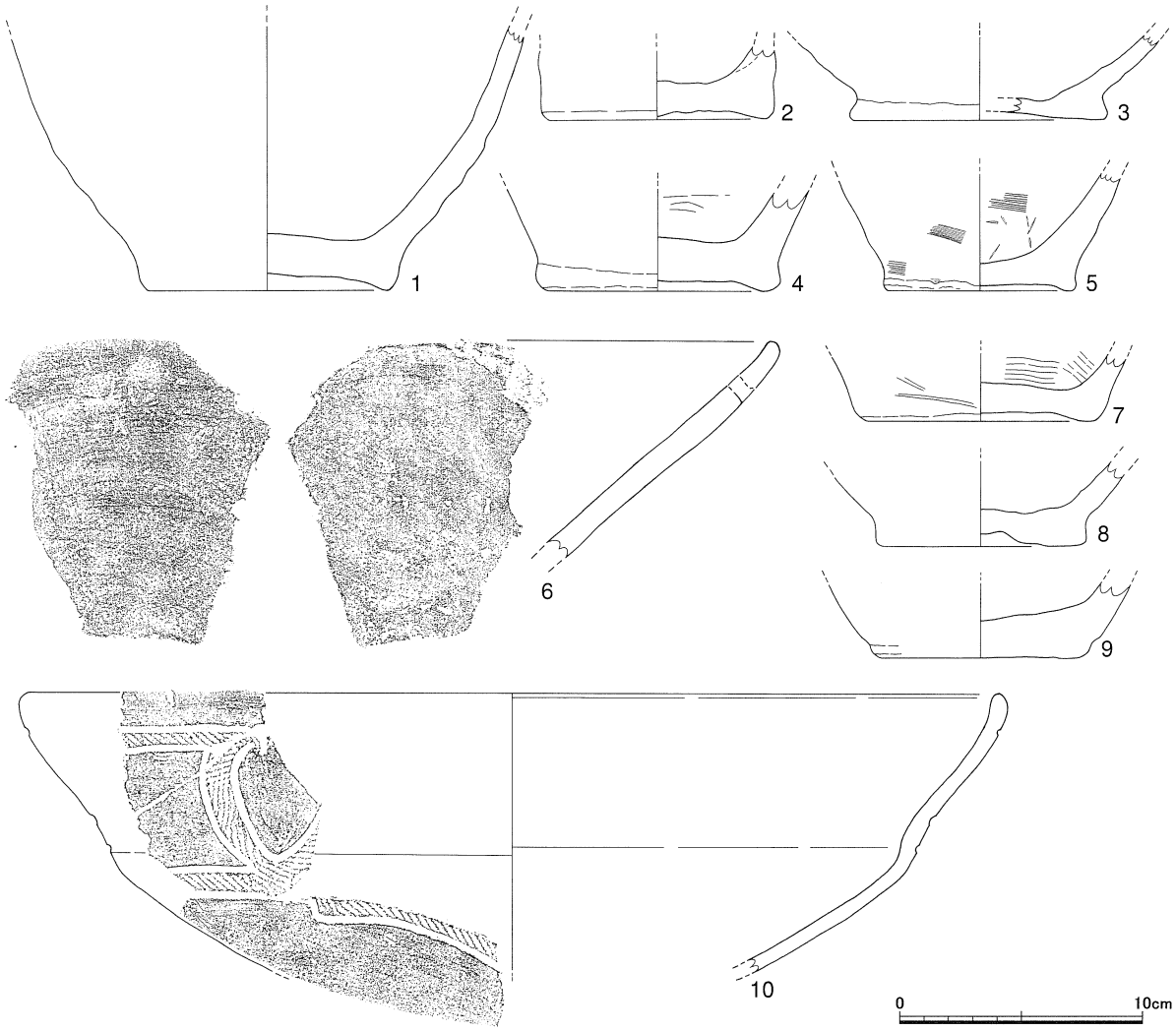


第22図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（1）（S＝1／3）

第23図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（2）（S＝1／3）



第24図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（3）（S＝1／3）



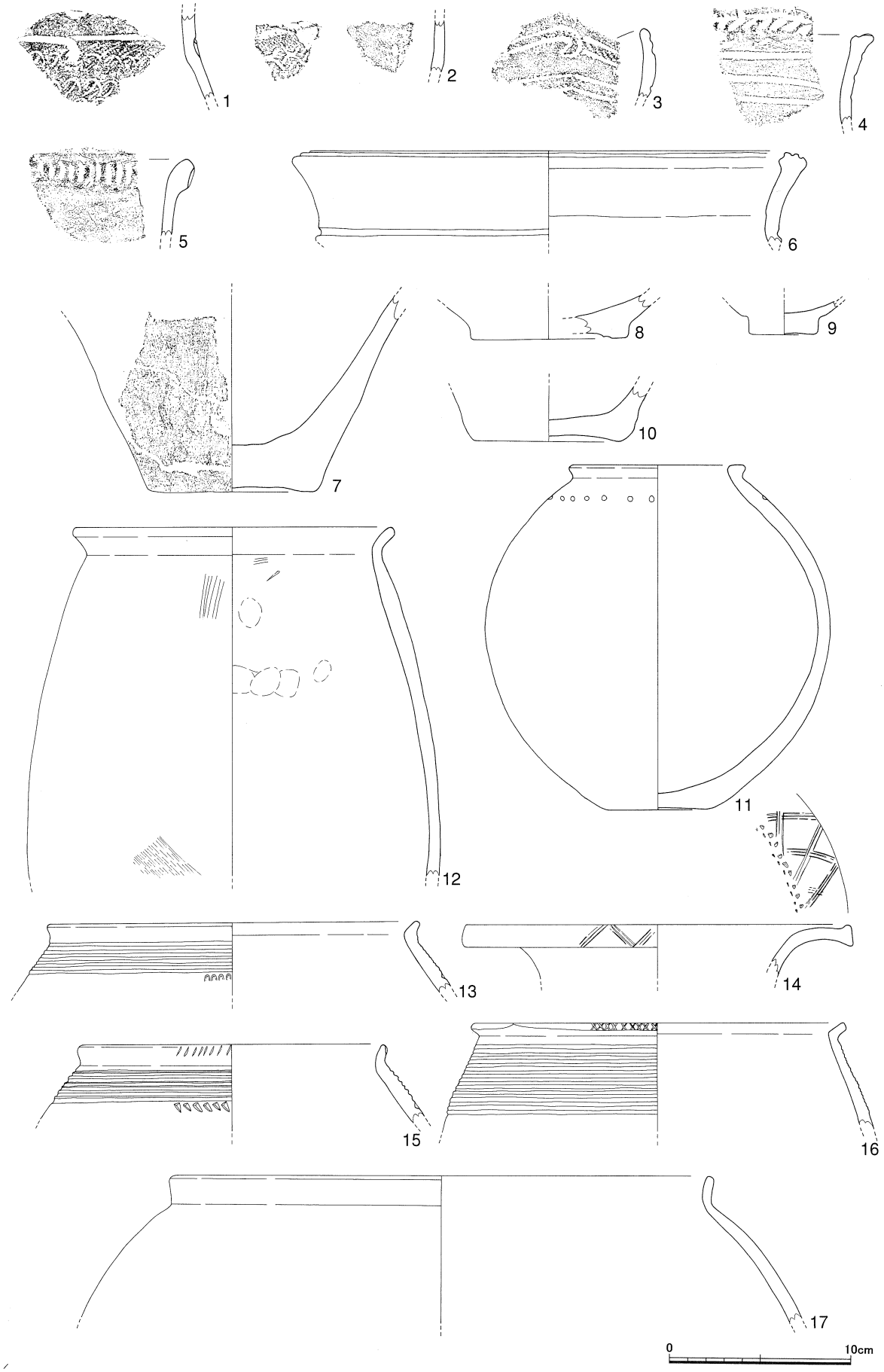
第25図　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器実測図（4）（S＝1／3）

27－1は26－15と同様の甕である。2は胴部上半にヘラ描き直線文をめぐらせ、口縁部には刻目がめぐっている、Ⅰ－2様式のものと思われる。3は長頸壷の頸部と思われる破片である。

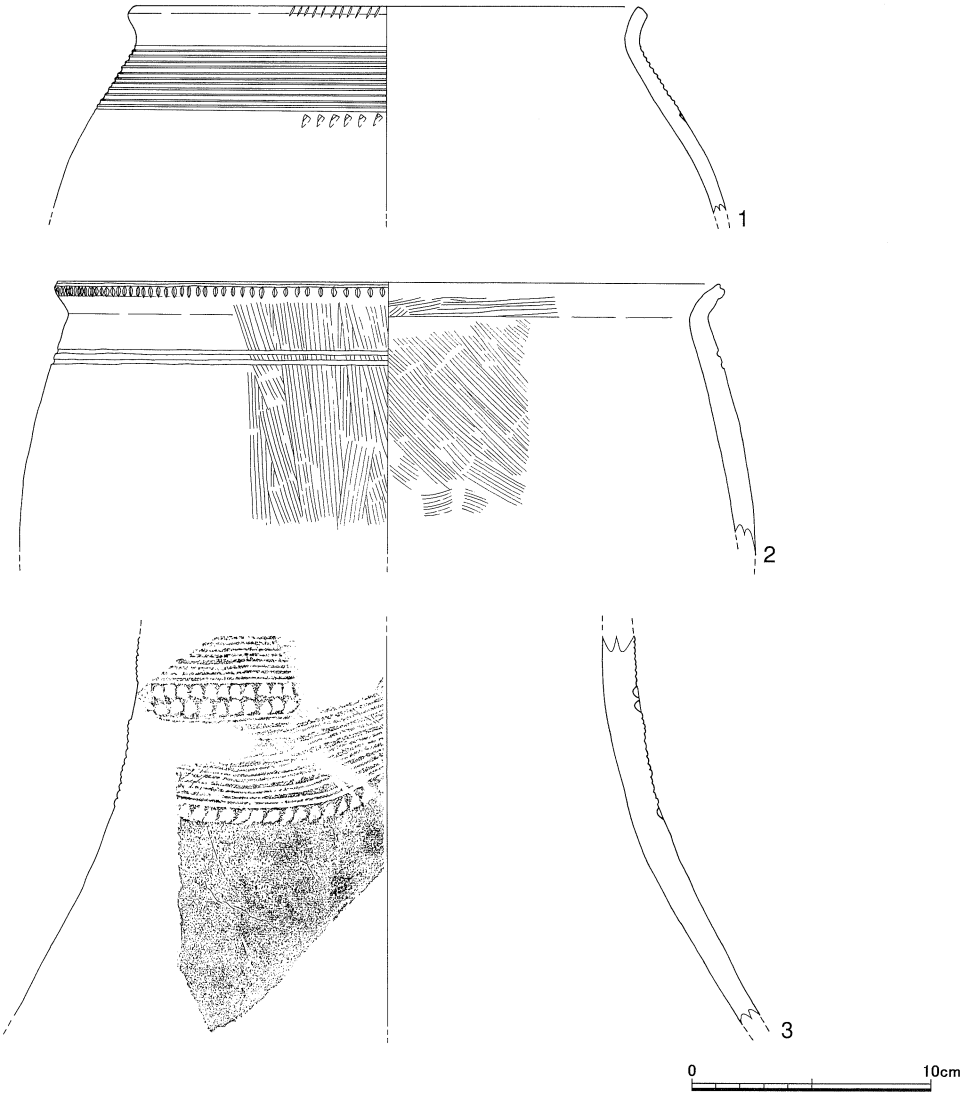
暗褐色土層出土土器（第28・29図）

1は磨消縄文を有するものである。2は口縁部下に刺突などで加飾されたものである。3・4・6・7は突帯文土器である。3・4・7は突帯および口縁部に刻み目を有するもので、4は体部上半に沈線文が、7は穿孔がなされたものである。5・8・9は無文の粗製深鉢で5は口唇部に沈線がめぐっており、8は口縁部が外反し9は直立気味のものである。10は浅鉢の口縁部で、口唇部からから体部情報にかけて5本の沈線がめぐるものである。11～14は底部を含む破片でこのうち12は非常に薄手で器形から浅鉢と思われるものである。15～19は弥生時代後期の甕である。16は口縁部が拡張され頚部に指頭圧痕文帯がめぐるものである。17は無文で口縁部が拡張している。19は頚部の張り付け文帯に刻目がめぐるものである。18は体部に平行線文と刺突文が施されるもので、時期は出雲4期である。

29－1はいわゆる二重口縁の甕である。2は口縁部が拡張されて若干外反するものである。3は無文の甕で体部に張りがない形状をしている。4は台付きの壷で、胴部最大径部付近に刺突文帯がめぐっている。5は高坏の杯部で口唇部及び体部上端部に5条の沈線がめぐるものである。6～9は



第26図　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土土器実測図（1）（S＝1／3）



第27図　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土土器実測図（2）（S＝1／3）

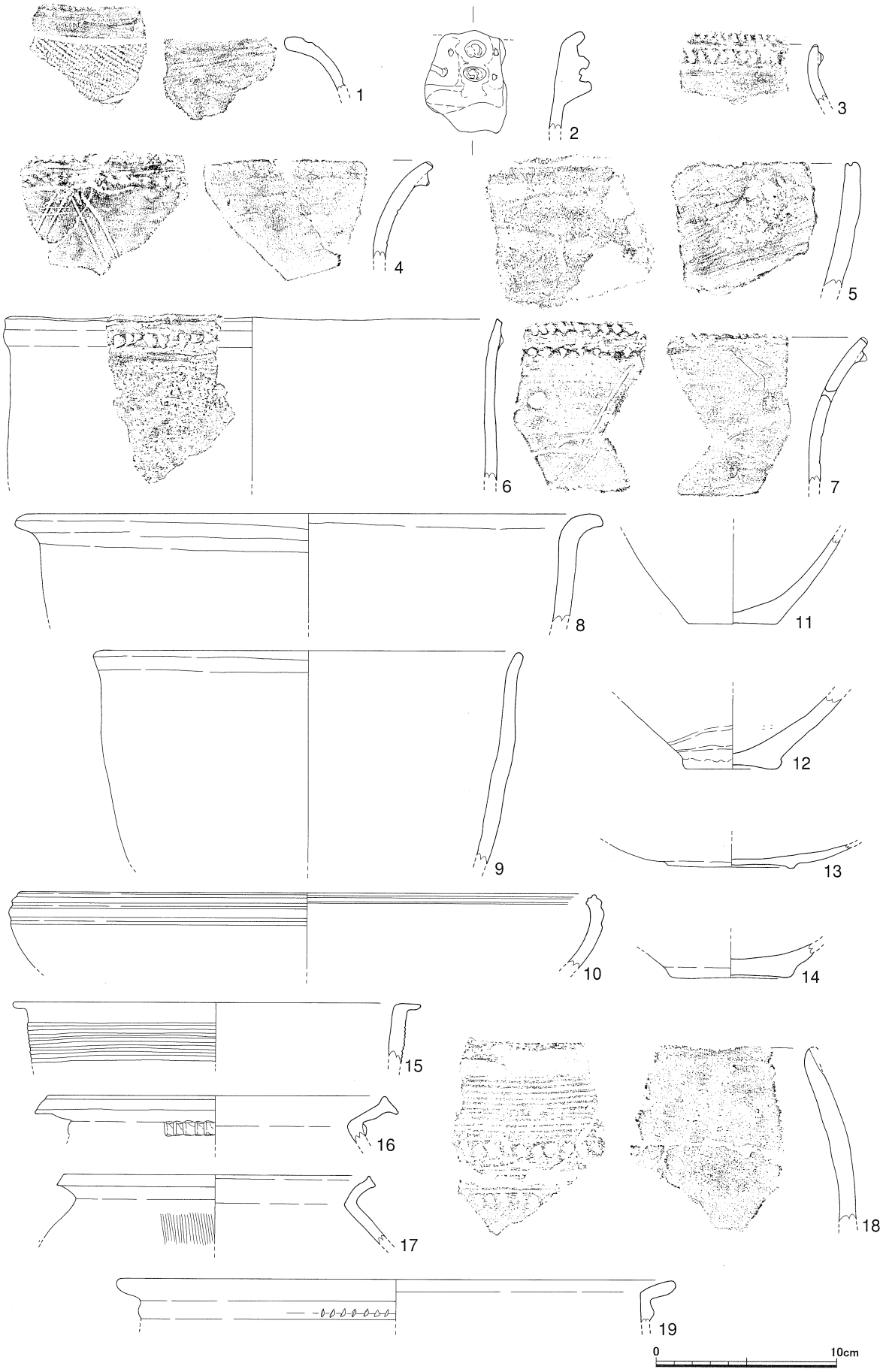
脚部の破片である。6は脚部中央部でくびれるもので、沈線文がめぐっている。7・8は脚部下方に沈線が引かれ、穿孔がなされるが貫通しないものである。9は杯部から脚部にかけての破片で、脚部上端に沈線文帯がめぐり、その下方に貫通しない穿孔がなされるものである。杯部は直線的に開くものである。10は甕の底部で、器形不明土器の低脚部である。

表土層出土土器（第30図）

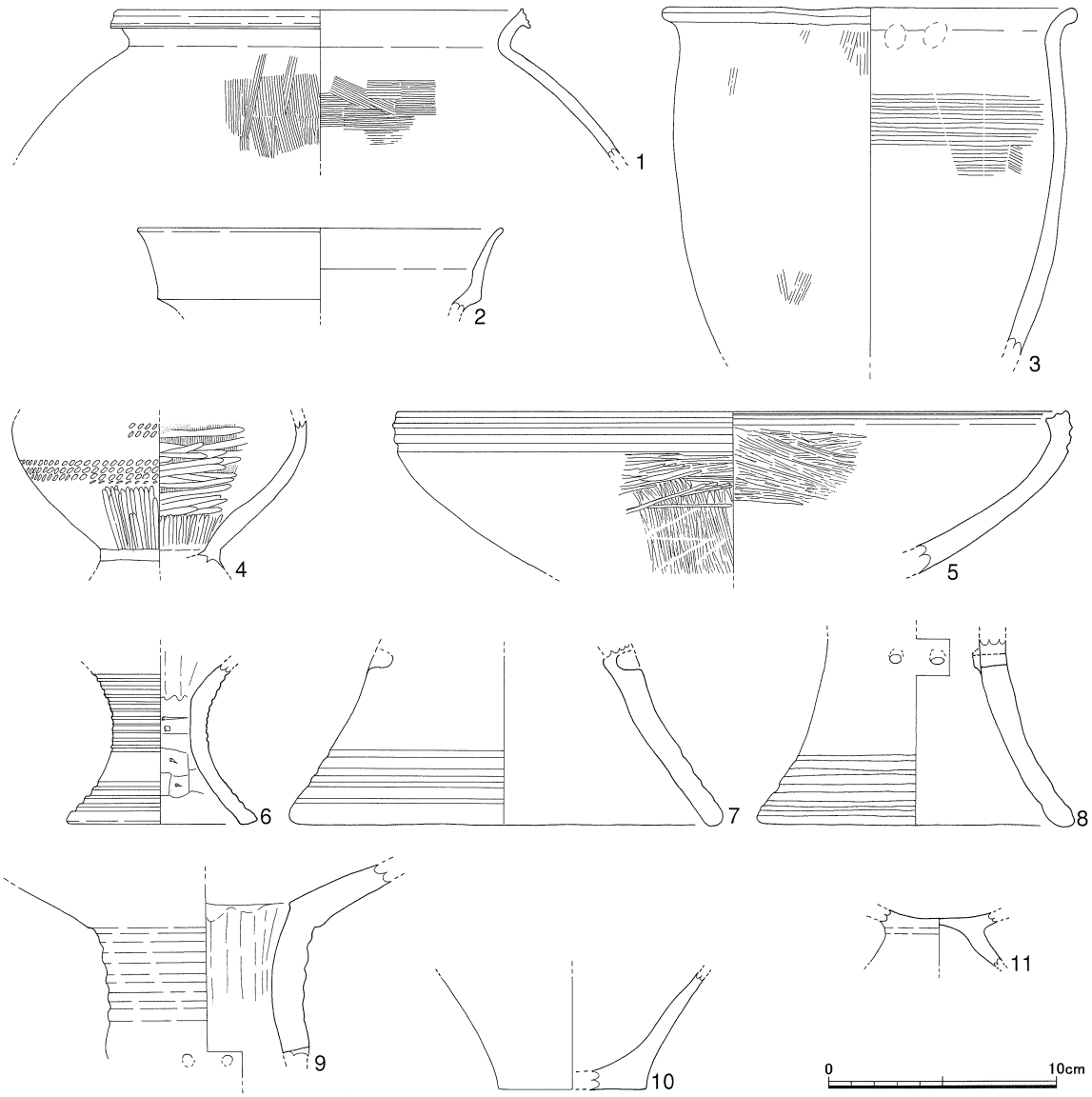
1は直線的に立ち上がる体部を持つ時期不明の土器片で、若干肥厚した口縁部は内頃している。2は縄文土器の粗製深鉢である。3～5は須恵器である。3は坏で口縁部は若干外反している。4は蓋坏の身である。5は高台付きの皿である。6は土師器の坏で底部が糸切りのものである。7は器形不明の土師器？で内面に指頭圧痕のあるものである。8は擂鉢である。9・10は土師質の小型の坏でこのうち10はごく低い高台の付くものである。

出土石器（第31図）

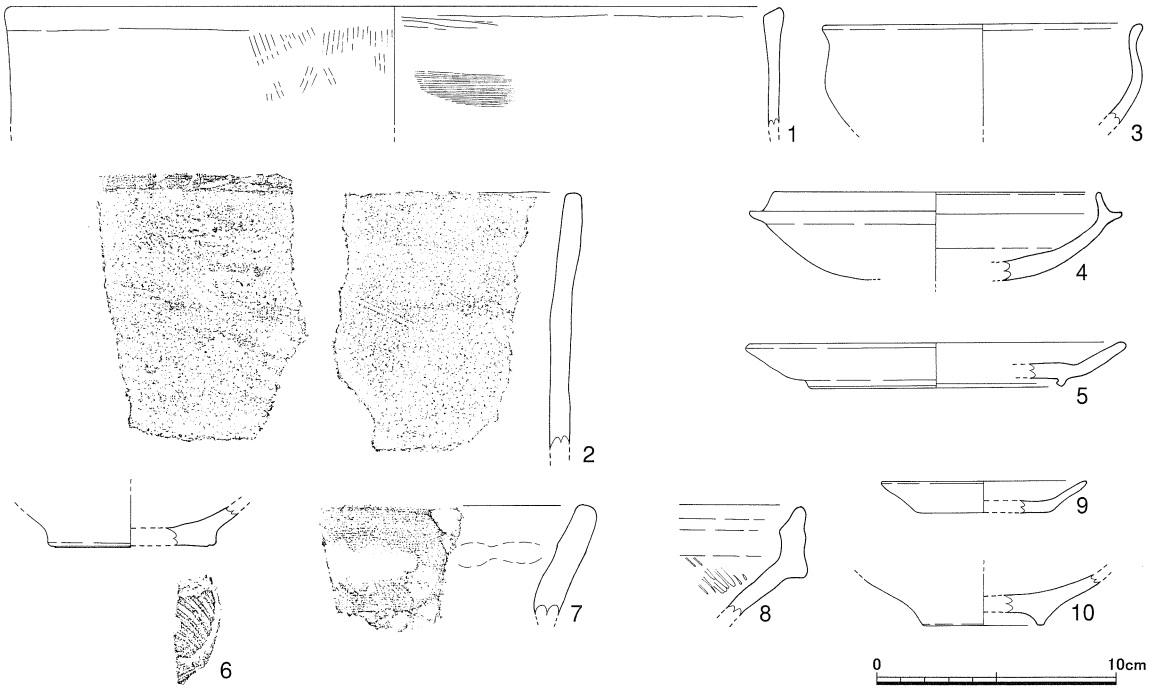
1・2は石鏃で、1は黒曜石、2は安山岩製のものである。3は頸部を有する尖頭器で、安産岩製のものであり、先端部は欠損している。4～10は石錘である。石錘は合計で51点出土しており、その代表的なもの8点の実測図を掲載し、他のものは計測表と写真の掲載にとどめた。5・5は平面形が長楕円形で両端を打ち欠かれたものである。4・5は流紋岩のものである。6は平面不整多



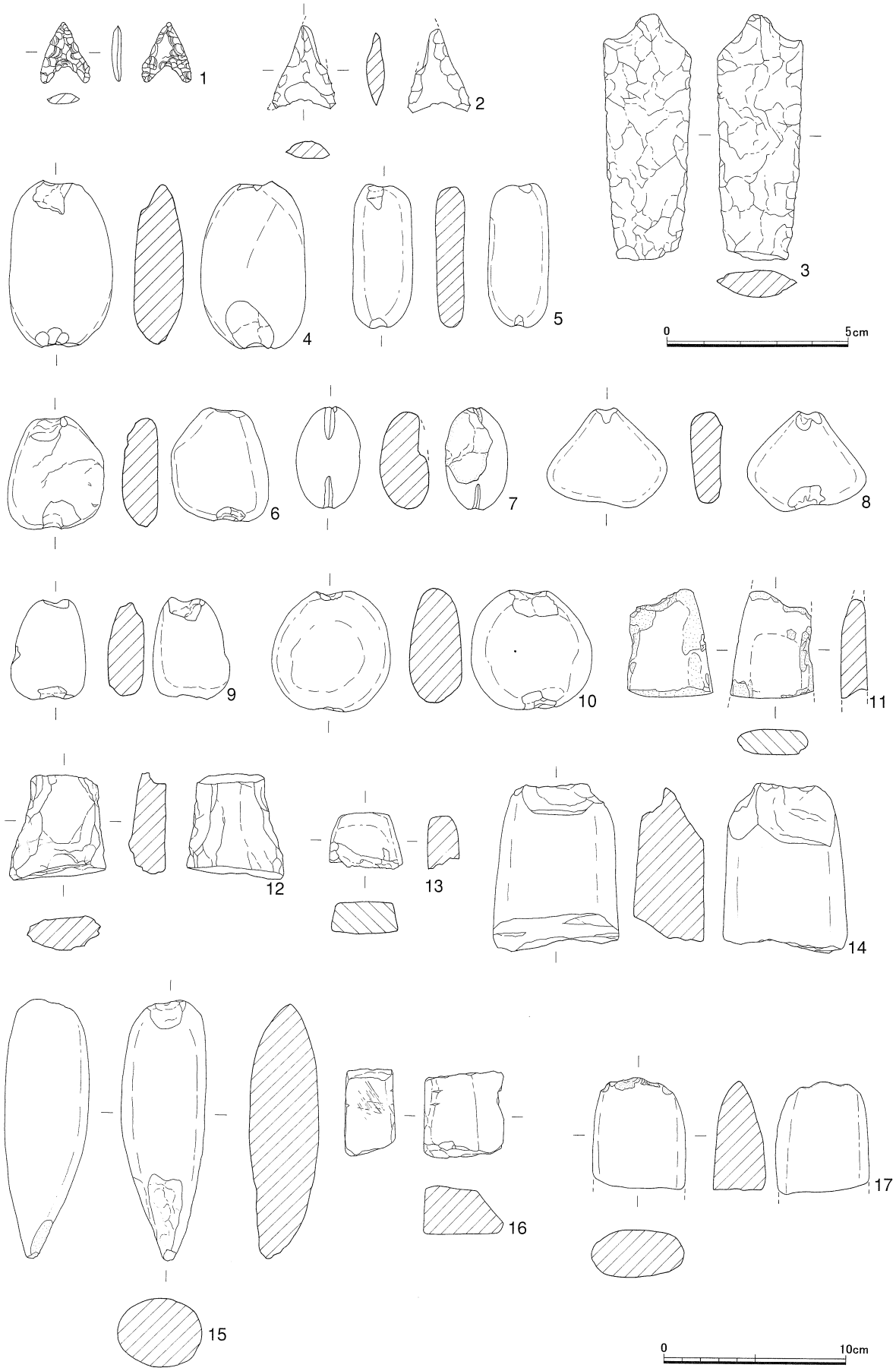
第28図　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器実測図（1）（S＝1／3）



第29図　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器実測図（2）（S＝１／３）



第30図　前田遺跡Ⅲ区表土層出土土器実測図（S＝１／３）

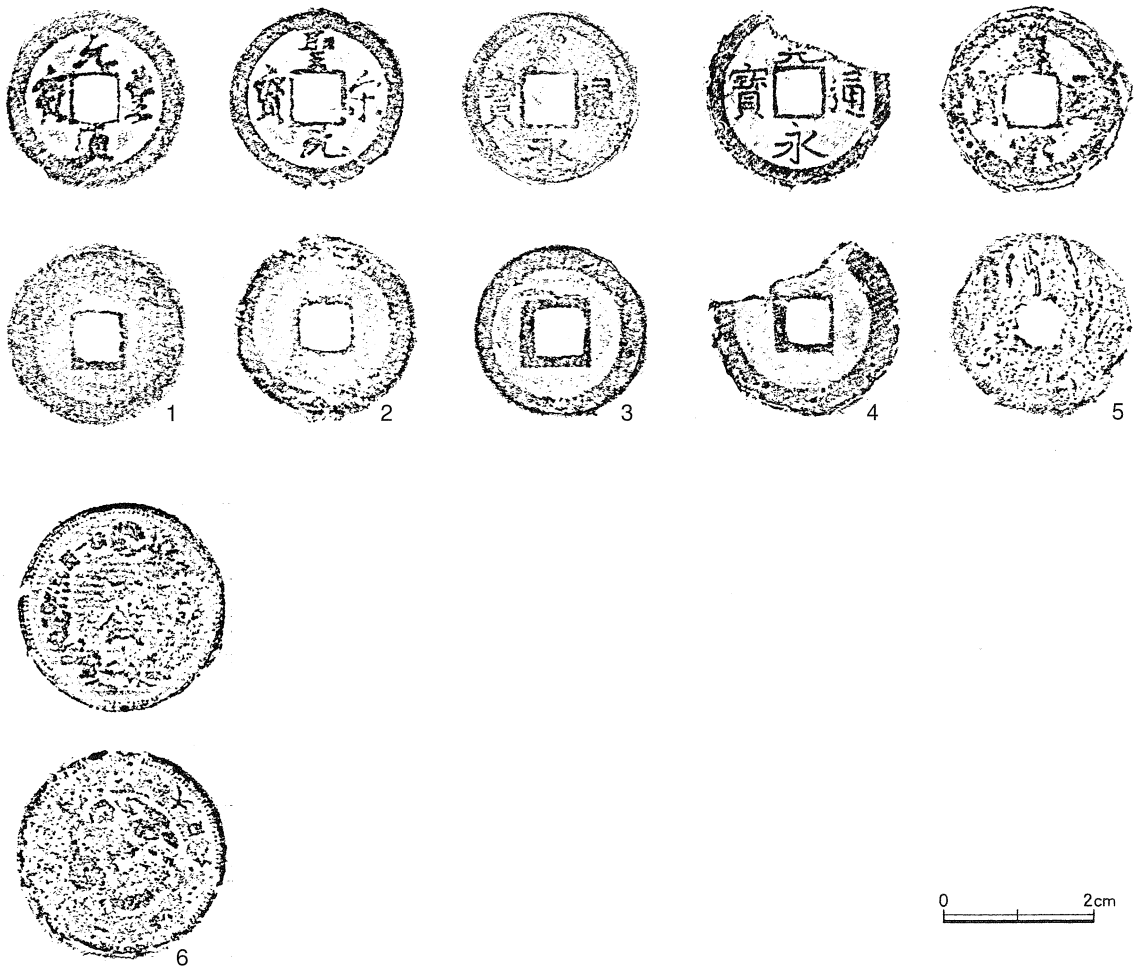


第31図　前田遺跡出土石器実測図

角形のもので両端が打ち欠いてある。石材は流紋岩である。７は平面・断面ともに楕円形のもので上下端部に溝が切られたものである。石材は流紋岩である。８は平面不整形のもので片面は１箇所打ち欠き、反対の面は両端打ち欠きのもので石材は閃緑岩である。10はほぼ円形の平面形を呈するもので両端が打ち欠かれている。11・12は打製石斧の破片で11は安山岩12は流紋岩である。13は不明石製品の端部の破片で、各面が非常に平滑なものである。石材も判然としがたい。14・15・17は磨製石斧の破片である。石材はそれぞれ14が流紋岩・15が塩基性片岩・17が流紋岩であり、15は横断面形が丸棒状で14･17は扁平なものである。16は砥石と思われる石製品で石材は凝灰岩である。断面形は台形を呈しており、各面は平滑な面となっている。

出土銭貨（第32図）

銭貨は全部で６点出土している。１・２は宋銭、３～５は寛永通宝、６は一銭硬貨である。１は「元豊通寶」、２は「聖宗元寶」、３・４・５は「寛永通寶」、６は一銭硬貨である。



第32図　前田遺跡出土銭貨拓本

第5節　まとめ

今回の調査では、第１地点及び第３地点に置いて、縄文時代時代中期後半から古墳時代時代後半半にかけての流路跡を確認した。この流路跡からは、多くの土器を検出することができた。第３地点では、縄文時代後期前半の時期と想定される土器埋遺構を確認した。尾原ダム建設予定地内の調

査ではこれまで（平成15年12月現在）13基の土器埋設遺構を確認されている。この数は、2000年までに中国地方で確認されている７遺跡15例[註1]にせまる数である。この確認数の集中はこの地域の特性としてとらえるべきか、調査遺跡の集中度によるものかはという判断は今後の調査の進展に委ねたい。

第１・３調査区の北側に位置するⅣ区では、古代から中世にかけての遺物が出土しており、Ⅰ・Ⅱ区から流れ込んだものと推定されている[註1]。また、遺物中貿易陶磁器の比率が高く、瀬戸産の香炉を含むことから、Ⅰ・Ⅱ区に中世の屋敷地の存在が想定されている。Ⅰ・Ⅲ区でも大型の青磁壺の破片が出土しており、この遺物の存在は上記の想定の妥当性を補強するものと言えよう。

今回の調査では、流路跡からはある程度の遺物を確認することができたが、それらが使用されていたであろう、住居跡や館跡等は確認できなかった。これは、後世の造成により本来緩斜面であった調査区部分が平らに削平されてしまったためだと考えられる。集落跡こそ確認できなかったが、流路跡及びⅣ区で確認された遺物は、この地が縄文時代から今日にかけて生活の適地として選択されつづけたことを伺わせるものといえよう。

【註】 ６節参照。

第2表　前田遺跡Ⅰ区出土縄文土器観察表 ※法量中の（　）は反転復元したもの

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
5－1	16上	Ⅰ区 表土層	2117	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(30.2)	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：灰黄2.5Y6/2	3ミリ以下の砂粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	口縁下方貼付突帯文（刺突文あり） わずかに煤付着
5－2	16上	Ⅰ区 黒色土層	1821	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(27.0)	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：暗灰黄2.5Y4/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁部下方貼付突帯文（連続刺突文あり）
5－3	16上	Ⅰ区 黒色土層	162	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：暗灰黄2.5Y4/2	1ミリ以下の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	口縁端部貼付突帯文（キザミあり）
5－4	16上	Ⅰ区 黒色土層	381	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：黒褐2.5Y3/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	粗いナデ	口縁部下方貼付突帯文（キザミあり）
5－5	16上	Ⅰ区 黒色土層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：褐灰10YR4/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	貼付突帯文（不規則なキザミあり）
5－6	16上	Ⅰ区 暗褐色粗砂層	1948	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(32.8)	－	－	外：にぶい褐7.5YR5/4 内：にぶい黄褐10YR5/3	2～4ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	貼付突帯文
5－7	16上	Ⅰ区 暗褐色粗砂層	1951	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(21.5)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/4 内：灰黄褐10YR5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	貼付突帯文の剥離か？ 内面に煤付着
5－8	16上	Ⅰ区 黒色土層	1888	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：明黄褐10YR6/6	1.5ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部にキザミ
5－9	16上	Ⅰ区 黒色土層	178	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(28.4)	－	－	外：黒褐10YR3/2 内：黒10YR2/1	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	未完成の穿孔
5－10	16上	Ⅰ区 暗褐色粗砂層	1674	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：褐灰10YR4/1 内：黒褐灰10YR4/1	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	沈線文 外面に煤付着
5－11	16上	Ⅰ区 黒色土層	317	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(24.0)	－	－	外：黒褐2.5Y3/2 内：黄褐2.5Y5/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	沈線文 外面に一部煤付着
5－12	16上	Ⅰ区 表土層	3806	縄文土器	深鉢 （底部）	1／2 以下	－	－	(9.7)	外：にぶい黄褐10YR5/4 内：にぶい黄橙10YR7/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ 底部：ケズリ	ナデ	
5－13	16上	Ⅰ区 表土層	2712	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(8.8)	外：明黄褐10YR6/6 内：にぶい黄褐10YR5/4	1ミリ以下の砂粒含む	ナデ	ナデ	
5－14	16上	Ⅰ区 表土層	3561	縄文土器	不明 （突起）？	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR6/2 内：灰黄褐10YR5/2	1～4ミリ大の砂粒を含む			刺突文あり

第3表　前田遺跡Ⅰ区出土弥生土器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
6－1	16下	Ⅰ区 黒色土層	47	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(26.0)	－	－	外：灰白5Y8/1 内：灰5Y8/2	1～4ミリの砂粒を若干含む	ナデ	ナデ・ケズリ	
6－2	16下	Ⅰ区 黒色土層	196	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(19.3)	－	－	外：浅黄2.5Y7/3 内：灰黄2.5Y7/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラケズリ	凹線文

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
6－3	16下	Ⅰ区 黒色土層	1347	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(27.0)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄2.5Y7/2	1ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ/ケズリ	口縁部：凹線文
6－4	16下	Ⅰ区 黒色土層	1422	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(30.4)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁部に凹線文 口縁下方に指頭圧痕文帯
6－5	16下	Ⅰ区 黒色土層	1411	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(23.8)	－	－	外：褐灰10YR4/1 内：にぶい黄褐10YR5/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ヨコナデ	ナデ・ケズリ	口縁部：凹線文 内外面に煤付着
6－6	16下	Ⅰ区 黒色土層	56	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(23.6)	－	－	外：灰白2.5Y7/1 内：灰黄2.5Y7/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文
6－7	16下	Ⅰ区 黒色土層	227	弥生土器	甕 （口縁）	1／2 以下	(20.2)	－	－	外：灰白2.5Y8/2 内：灰白2.5Y8/2	3ミリ以下の砂粒をまばらに含む	ヨコナデ・ナデ 一部ハケメ	ヨコナデ/ヘラケズリ	口縁部：沈線文 肩部：刺突文 口縁部に煤付着
6－8	16下	Ⅰ区 黒色土層	1306 1308 1669	弥生土器	短頸壷 （口縁）	1／2 以下	(8.0)	－	－	外：にぶい赤褐2.5Y4/4 内：にぶい赤褐5YR5/4	1～3ミリ大の砂粒を含む	横方向のナデ・縦方向のナデ/ケズリ後ナデ	ナデ	
6－9	16下	Ⅰ区 表土層	2070	弥生土器	器台 （頸部？）	小片	－	－	－	外：灰白2.5Y8/2 内：浅黄2.5Y7/3	4ミリ前後の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	直線文　羽状文
6－10	16下	Ⅰ区 表土層	－	弥生土器	低脚坏	小片	－	－	－	外：淡黄5Y8/3 内：灰白5Y8/2	1.5ミリ大の砂粒含む	ナデ	ナデ	
6－11	16下	Ⅰ区 黒色土層	－	弥生土器	壷	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	沈線文　斜格子文
6－12	16下	Ⅰ区 黒色土層	1623 1748	弥生土器	甕 （口縁）	小片	－	－	－	外：淡黄2.5Y8/3 内：にぶい黄橙10YR7/3	3ミリ程度の砂粒を若干含む	ナデ	ナデ	平行線文・鋸歯文

第4表　前田遺跡Ⅰ区出土須恵器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
7－1	17上	Ⅰ区 表土層	2059	須恵器	蓋	小片	(12.6)	－	－	外：灰白N6/ 内：灰白N6/	1ミリ大の砂粒含む	回転ナデ/ナデ	回転ナデ	
7－2	17上	Ⅰ区 黒色土層	738	須恵器	蓋 （口縁）	小片	(14.0)	2.4	－	外：緑灰5G6/1 内：オリーブ灰2.5GY6/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ/不定方向のナデ	
7－3	17上	Ⅰ区 表土層	－	須恵器	蓋	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：灰5Y6/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ/回転ヘラケズリ	回転ナデ後不定方向のナデ	
7－4	17上	Ⅰ区 黒色土層	763	須恵器 （口縁）	蓋	1/2 以下	(15.6)	2.2	－	外：灰5Y6/1 内：灰オリーブ5Y6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ヘラケズリ/つまみ部：回転ナデ	回転ナデ後不定方向のナデ	
7－5	17上	Ⅰ区 表土層	981	須恵器	蓋 （口縁）	1/2 以下	(15.2)	2.7	－	外：灰黄褐10YR6/2 内：灰黄2.5Y6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ヘラケズリ/回転ナデ つまみ部:ケズリ	回転ナデ後不定方向のナデ/ヨコナデ	

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
7－6	17上	Ⅰ区 表土層	831	須恵器	蓋	小片	－	－	－	外：青灰5B5/1 内：灰N6/	1ミリ前後の砂粒を含む	回転ナデ/回転ヘラケズリ	回転ナデ後不定方向のナデ	
7－7	17上	Ⅰ区 表土層	－	須恵器	蓋	小片	－	－	－	外：褐灰10YR5/1 内：褐灰10YR5/1	1ミリ以下の砂粒含む	回転ナデ	ナデ	
7－8	17上	Ⅰ区 表土層	623	須恵器	坏 （口縁）	小片	(12.6)	－	－	外オリーブ灰5GY6/1 内：オリーブ灰2.5GY6/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ/回転ヘラケズリ	回転ナデ	
7－9	17上	Ⅰ区 表土層	－	須恵器	坏	1/2 以下	－	－	(11.6)	外：灰N4/ 内：黄灰2.5Y4/1	密	回転ナデ/ナデ	回転ナデ	底部：回転糸切り
7－10	17上	Ⅰ区 表土層	6	須恵器	高台坏	1/2 以下	－	－	(9.7)	外：青灰10BG6/1 内：灰N5/	1ミリ以下の砂粒含む	回転ナデ	回転ナデ後ナデ	底部：回転糸切り
7－11	17上	Ⅰ区 黒色土層	628 637	須恵器	高台坏	1/2 以下	－	－	(9.4)	外：明黄褐10YR6/6 内：にぶい黄橙10YR6/3	密　1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ	底部：回転糸切り
7－12	17上	Ⅰ区 表土層	1554	須恵器	高台坏	小片	－	－	脚径 (10.8)	外：灰7.5Y6/1 内：灰7.5Y6/1	4ミリ～2ミリの砂粒を含む	回転ナデ後不定方向のナデ	回転ナデ	
7－13	17上	Ⅰ区 黒色土層	743	須恵器	高台坏	1/2 以上	(13.2)	4.5	9.0	外：オリーブ灰2.5GY5/1 内：灰7.5Y6/1	密　1ミリ以下の砂粒を含む	横方向回転ナデ/ケズリ後ナデ	横方向回転ナデ	
7－14	17上	Ⅰ区 黒色土層	745	須恵器	高台坏 （口縁）	1/2 以下	(11.2)	4.3	(6.0)	外：灰N4/ 内：灰N4/	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ	底部：回転糸切り
7－15	17下	Ⅰ区 黒色土層	824	須恵器	高台坏 （口縁）	小片	－	－	(7.4)	外：オリーブ灰2.5GY6/1 内：オリーブ灰2.5GY5/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ	底部：回転糸切り
7－16	17下	Ⅰ区 黒色土層	1485	須恵器	皿 （口縁）	1/2 以下	(7.4)	1.2	－	外：暗灰黄2.5Y4/2 内：黄灰2.5Y4/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ/一部不定方向のナデ	底部：回転糸切り
7－17	17下	Ⅰ区 黒色土層	1236	須恵器	高坏	1/2 以下	－	－	－	外：オリーブ灰2.5GY6/1 内：オリーブ灰2.5GY6/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ 坏部：不定方向のナデ	脚部：透かし2方
7－18	17下	Ⅰ区 黒色土層	708	須恵器	高坏 （脚部）	小片	－	－	脚径 (12.2)	外：灰10YR6/1 内：灰7.5Y6/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ	脚部：透かしあり
7－19	17下	Ⅰ区 表土層	2085	須恵器	高坏 （脚部）	小片	－	－	脚径 (12.2)	外：灰白7.5Y7/1 内：灰白7.5Y7/1	密	回転ナデ	回転ナデ	透かし2箇所 ヘラ記号あり
7－20	17下	Ⅰ区 黒色土層	1847	須恵器	高坏	小片	－	－	－	外：灰10Y5/1 内：灰白7/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	不定方向のナデ 坏部：不定方向のナデ	脚部：透かし2方 上切れ込み
7－21	17下	Ⅰ区 黒色土層	433 610 612	須恵器	甕	小片	－	－	－	外：灰10Y5/1 内：灰10Y5/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ/カキメ	回転ナデ・タタキ	
7－22	17下	Ⅰ区 表土層	1986	須恵器	甕 （口縁）	小片	(18.9)	－	－	外：灰7.5Y6/1 内：灰7.5Y6/1	1ミリ大の砂粒含む	ナデ	ナデ/タタキ	
7－23	17下	Ⅰ区 表土層	200 424 540	須恵器	甕 （口縁）	小片	(19.5)	－	－	外：灰7.5Y5/1 内：灰7.5Y5/1	1～2ミリ程度の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ	

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo.	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
7－24	17下	Ⅰ区表土層	－	須恵器	甕（口縁）	小片	(20.4)	－	－	外：灰10Y5/1 内：灰10Y6/1	2ミリ大の砂粒を含む	回転ナデ/ヨコナデ・タタキ後ナデ/タタキ	回転ナデ・ヨコナデ/タタキ	
7－25	17下	Ⅰ区黒色土層	1806	須恵器	甕（口縁）	小片	(12.4)	－	－	外：灰N6/ 内：灰N6/	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ/タタキ	
7－26	17下	Ⅰ区黒色土層	700	須恵器	甕（口縁）	小片	(17.4)	－	－	外：灰N6/ 内：灰7.5Y5/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ/タタキ	
7－27	17下	Ⅰ区黒色土層	832 839	須恵器	甕（頸部）	小片	－	－	－	外：黄灰2.5Y5/1 内：黄灰2.5Y6/1	1ミリ以下の砂粒を含む	回転ナデ・カキメ/回転ナデ	回転ナデ/回転ヘラケズリ	

第5表　前田遺跡Ⅰ区出土土師器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo.	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
8－1	18上	Ⅰ区 表土層	2049	土師器	甕（口縁）	小片	(11.0)	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/4 内：にぶい黄2.5Y6/3	ほぼ密 1ミリ以下の砂粒少量含む	ナデ/ハケメ	ナデ・ケズリ	
8－2	18上	Ⅰ区 表土層	2090	土師器	甕（口縁）	小片	(19.0)	－	－	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：にぶい橙7.5YR7/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ヨコナデ/ハケメ	ハケメ・ケズリ	
8－3	18上	Ⅰ区 黒色土層	679	土師器	突起	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：にぶい黄2.5Y6/4	2ミリ大の砂粒含む	ナデ	ナデ	
8－4	18上	Ⅰ区 表土層	1881	土師器	突起	小片	－	－	－	外：浅黄2.5Y7/3 内：浅黄2.5Y7/3	1ミリ大の砂粒含む	ナデ後ハケメ	ナデ後ケズリ	
8－5	18上	Ⅰ区 表土層	－	土師器	坏（底部）	小片	－	－	(6.2)	外：灰白2.5Y8/2 内：灰白2.5Y8/2	密	ナデ	ナデ・回転ナデ	底部：回転糸切り
8－6	18上	Ⅰ区 黒色土層	959	土師器	器台か低脚坏？（脚部）	1/2以下	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：黒2.5Y2/1	密	ナデ後ハケメ	上ナデ 下ミガキ	外面に煤付着
8－7	18上	Ⅰ区 黒色土層	916	土師器	器台か低脚坏？（脚部）	1/2以下	－	－	(8.2)	外：灰白2.5Y8/2 内：灰白2.5Y8/2	2ミリ前後の砂粒を若干含む	横方向のナデ 底部：粗いナデ	磨滅により調整不明	
8－8	18上	Ⅰ区 表土層	－	土師器	低脚坏	小片	－	－	(7.2)	外：にぶい黄橙10YR7/4 内：にぶい黄橙10YR7/3	密	ナデ	回転ナデ	
8－9	18上	Ⅰ区 黒色土層	814	製塩土器	（口縁）	小片	(7.2)	－	－	外：灰白10YR8/2 内：浅黄橙10YR8/4	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	指頭圧痕
8－10	18上	Ⅰ区 黒色土層	149	製塩土器	（口縁）	小片	(7.0)	－	－	外：浅黄橙7.5YR8/6 内：黄橙7.5YR7/8	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
8－11	18上	Ⅰ区 黒色土層	1010	製塩土器	（口縁）	小片	(6.7)	－	－	外：灰白10YR8/2 内：浅黄橙10YR8/4	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
8－12	18上	Ⅰ区 黒色土層	150	製塩土器	（口縁）	小片	(5.8)	－	－	外：にぶい橙5YR7/4 内：浅黄橙7.5YR8/4	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	

第6表　前田遺跡Ⅰ区表土層出土土製品観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	器　種	法量（cm）			手法の特徴	色　　調	手　法　の　特　徴	備　　考
					高さ	厚み	幅				
9図	19中	Ⅰ区 表土層	土製品	土製支脚	14.8	8.7	6.6		外：灰白7.5Y7/2 内：にぶい黄橙10YR7/3	ナデ	

第7表　前田遺跡Ⅰ区埋設土器及び周辺出土縄文土器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　　調	胎　土	手法の特徴		備　　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
11－1	18下	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4444E. e.d	縄文土器	深鉢	1／2 以上	－	－	－	外：灰黄褐10YR5/2 内：にぶい黄橙10YR4/2	2ミリ前後の砂粒を若干含む	ナデ	ナデ	埋設土器 外面に煤付着
11－3	19上	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4444 －a	縄文土器	深鉢	1／2 以下	－	－	－	外：黄褐10YR5/4 内：浅黄10YR7/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	内外面に煤付着 ※埋設土器
11－4	19上	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4444 －b	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	※埋設土器
11－5	19上	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4444 －c	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(31.2)	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/4 内：にぶい黄褐10YR5/4	2～4ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	外面に煤付着 ※埋設土器

第8表　前田遺跡Ⅰ区埋設土器周辺出土石器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	種　類	法　　量				石　　材	備　　考
						長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
11－2	19上	Ⅲ区D－D 灰色粗砂層	－	石　器	石錘	7.6	5.4	2.1	134.9	中性貫入岩	打ち欠いた数　2 片側切れ込み ※埋設土器内出土

第9図　前田遺跡Ⅲ区青灰色粘土層出土縄文土器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　　調	胎　土	手法の特徴		備　　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
13－1	19下	ⅢD－A 青灰色粘土層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰白2.5Y8/2 内：灰黄2.5Y7/2	2ミリ大の砂粒を含む	磨消縄文	ナデ	
13－2	19下	Ⅲ区 青灰色粘土層	4624	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	2ミリ程度の砂粒を若干含む	縄文？	ナデ	
13－3	19下	ⅢD－A 青灰色粘土層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：黄褐2.5Y5/3 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ程度の砂粒を多く含む	条痕	条痕	
13－4	19下	ⅢD－D 青灰色粘土層	4671	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR5/2 内：にぶい黄橙10YR6/3	1～2ミリ大の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	

第10表　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器観察表（1）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　　調	胎　土	手法の特徴		備　　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
14－1	20上	Ⅲ区A区 黒色粘土層	4549	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄 2.5Y6/4 内：黄褐 2.5Y5/3	微細な砂粒を多く含む	ナデ	磨滅が激しく調整不明	磨消縄文 内面に煤付着
14－2	20上	ⅢD－D 黒色粘土層	4315	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/3	1ミリ前後の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
14－3	20下	ⅢD－D 黒色粘土層	4314	縄文土器	浅鉢 （底部）	1／2 以下	－	－	(10.6)	外：灰黄褐 10YR5/2 内：褐灰 10YR4/1	2ミリ前後の砂粒を含む	ミガキ／ナデ	ミガキ	磨消縄文 底部に煤付着
14－4	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4246	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：灰黄 2.5Y7/2 内：灰黄 2.5Y6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	磨消縄文 一部に煤付着
14－5	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4312	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：暗灰黄 2.5Y5/2 内：オリーブ褐 2.5Y4/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ・ミガキ	ミガキ	磨消縄文
14－6	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4373 4387	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐 10YR4/2 内：灰黄褐 10YR5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
14－7	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4312	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄 2.5Y7/2 内：暗灰黄 2.5Y5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	沈線文あり
14－8	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4375	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：浅黄 2.5YR7/3 内：灰黄 2.5YR6/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ヨコナデ	穿孔あり
14－9	21上	ⅢD－A 黒色粘土層	2644 2649 2676	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(29.8)	－	－	外：にぶい橙 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙 10YR7/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	条痕	
14－10	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4815	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐 10YR6/2 内：灰黄褐 10YR5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ケズリ後ナデ	ナデ	
14－11	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4315	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙 10YR7/3 内：にぶい黄橙 10YR6/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
14－12	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4373	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙 10YR6/3 内：灰黄褐 10YR4/2	1ミリ以下の砂粒を含む	横方向のナデ	横方向のナデ	
14－13	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4375 4376	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(22.5)	－	－	外：にぶい黄 2.5Y6/3 内：灰黄 2.5Y7/2	1～4ミリ大の砂粒をわずかに含む	粗いナデ	条痕	外面に一部煤付着
14－14	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4813	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：暗灰黄 2.5Y5/2 内：灰黄 2.5Y6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
14－15	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4614	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄 2.5Y6/3 内：灰黄 2.5Y7/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
14－16	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4315	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄 2.5Y7/2 内：灰黄 2.5Y7/2	1～3ミリ大の砂粒を含む	ケズリ後横方向のナデ	ナデ	
14－17	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4372	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄 2.5Y7/2 内：灰黄 2.5Y7/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
14－18	21上	ⅢD－D 黒色粘土層	4314	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(21.0)	－	－	外：にぶい黄 2.5Y6/3 内：黄褐 2.5Y5/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ケズリ後ナデ	ナデ	

第11表　前田遺跡Ⅲ区黒色粘土層出土縄文土器観察表（2）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
15－1	21下	ⅢD－D 黒色粘土層	4373	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(28.0)	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：にぶい黄2.5Y6/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	外面に一部煤付着
15－2	21下	ⅢD－D 黒色粘土層	4373	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(29.0)	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y7/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
15－3	21下	ⅢD－D 黒色粘土層	4313 4372 4373 4388	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(37.0)	－	－	外：黄褐2.5Y5/3 内：灰黄2.5Y6/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	外面に一部煤付着
15－4	21下	ⅢD－D 黒色粘土層	4374	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y7/2	1～3ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
15－5	21下	ⅢD－D 黒色粘土層	4241	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(33.6)	－	－	外：黄褐2.5Y5/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	4ミリ前後の砂粒を若干含む	横方向のナデ	横方向のナデ	外面全体にうすく煤付着
15－6	22上	ⅢD－A 黒色粘土層	2178	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(22.6)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄2.5Y7/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
15－7	22上	ⅢD－D 黒色粘土層	4374	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(9.2)	外：黄灰2.5Y5/2 内：灰黄2.5Y6/2	2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
15－8	22上	ⅢD－A 黒色粘土層	4261	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	8.2	外：にぶい黄褐10YR4/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	2～4ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	

第12表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（1）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
16－1	22中	ⅢD－A 灰色粗砂層	4611	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄2.5Y7/2	5ミリ程度の砂粒を含む	ナデ	ナデ	押型文
16－2	22中	ⅢD－A 灰色粗砂層	4065	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい赤褐5YR5/4 内：灰黄褐10YR5/2	密	ミガキ	ナデ	磨消縄文
16－3	22中	ⅢD－A 灰色粗砂層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：黒褐10YR3/2	4ミリ大の砂粒をごくわずかに含む	ミガキ	ミガキ	磨消縄文 穿孔あり
16－4	22中	ⅢD－D 灰色粗砂層	4785	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：橙7.5YR6/6 内：にぶい黄2.5Y6/3	1ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
16－5	22中	ⅢD－A 灰色粗砂層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：黒褐2.5Y3/1 内：黄灰2.5Y4/1	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	磨消縄文
16－6	22中	ⅢD－A 灰色粗砂層	4091 4092 4611	縄文土器	浅鉢	1／2 以下	－	－	－	外：にぶい褐7.5YR5/3 内：暗褐10YR3/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
16－7	22中	ⅢD－D 灰色粗砂層	4796	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：黒褐10YR3/1 内：黒褐10YR3/1	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
16－8	22中	ⅢD－D 灰色粗砂層	4796	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：灰白2.5Y8/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
16－9	22中	ⅢD－D 灰色粗砂層	4173	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/4 内：灰黄褐10YR5/2	1～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
16－10	22下	ⅢD－A 灰色粗砂層	4611	縄文土器	深鉢	1／2以下	－	－	－	外：にぶい褐7.5YR5/4 内：にぶい黄褐10YR5/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文 内外面の一部に煤付着
16－11	22下	ⅢD－A 灰色粗砂層	4066	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：にぶい黄橙10YR6/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
16－12	22下	ⅢD－D 灰色粗砂層	4761	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい褐7.5YR5/4 内：灰黄2.5Y6/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
16－13	22下	ⅢD－D 灰色粗砂層	4785	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：灰黄褐10YR6/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	外面に一部煤付着
16－14	22下	ⅢD－A 灰色粗砂層	4596	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：黒褐5YR3/1 内：灰黄褐10YR5/2	密	ミガキ	ミガキ	磨消縄文 外面の一部に赤色顔料痕あり
16－15	22下	ⅢD－D 灰色粗砂層	4761	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい褐7.5YR5/3 内：灰黄褐5/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
16－16	22下	ⅢD－A 灰色粗砂層	4066 4091	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ・ミガキ	磨消縄文
16－17	22下	ⅢD－A 灰色粗砂層	4092	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(32.0)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	3ミリ程度大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
16－18	22下	ⅢD－A 灰色粗砂層	－	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/4 内：褐灰10YR4/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	磨消縄文 外面に一部煤付着
16－19	23上	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4411 4438	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：褐灰10YR5/1	3ミリ以下の砂粒を若干含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文

第13表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（2）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
17－1	23中	ⅢD－D 灰色粗砂層	4070	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：黄灰2.5Y4/1	2ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
17－2	23中	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4283	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR6/2 内：褐灰10YR4/1	1ミリ大の砂粒を少し含む	ミガキ	ナデかミガキ	磨消縄文
17－3	23中	ⅢD－A 灰色粗砂層	4397	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5YR6/2 内：黄灰2.5Y6/1	1ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
17－4	23中	ⅢD－A 灰色粗砂層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR6/2 内：灰黄褐10YR6/2	1ミリ大の砂粒を少し含む	ナデ	ナデ	沈線文上に刺突文あり

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
17－5	23中	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4071	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：灰黄褐10YR6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	キザミ磨消縄文
17－6	23中	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4023	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(26.0)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：暗灰黄2.5Y5/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
17－7	23中	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	3915	縄文土器	鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
17－8	23中	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4179 4232	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR5/2 内：黒褐10YR3/1	密	ミガキ	ミガキ	磨消縄文
17－9	23下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4207	縄文土器	鉢	小片	－	－	－	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
17－10	23下	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	3888 3932	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：オリーブ黒5Y3/1 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ大の砂粒多く含む	ナデ	ナデ	口縁端部沈線文 沈線文
17－11	23下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4198	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：褐灰10YR4/1 内：灰黄褐10YR6/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	隆起線文
17－12	23下	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4410	縄文土器	鉢 （口縁）	小片	(21.8)	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y6/2	1～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	沈線文 外面に一部煤付着
17－13	23下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4697	縄文土器	突起	小片	－	－	－	外：浅黄2.5Y7/3 内：灰黄2.5Y6/2	1ミリ程度大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	二条の刺突文帯 穿孔あり
17－14	23下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4673	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：灰黄2.5Y6/2	1ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
17－15	23下	Ⅲ D－A 灰色粗砂層	4063 4093	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(21.6)	－	－	外：灰黄褐10YR6/2 内：灰黄褐10YR5/2	1～4ミリの砂粒を含む	条痕	条痕	
17－16	23下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4171 4172	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(36.4)	－	－	外：黒褐10YR3/2 内：にぶい黄褐10YR5/3	1ミリ以下の砂粒を含む	条痕	条痕	外面に煤付着

第14表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（3）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
18－1	25上	Ⅲ D－A 灰色粗砂層	4062	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(39.0)	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	条痕	条痕・条痕の後横方向のナデ	
18－2	25上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4025 4756 4760 4785	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(32.0)	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/4 内：黄褐2.5Y5/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	横方向のナデ	横方向のナデ・斜めに交叉するナデ・横方向のナデ	
18－3	24中	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4757	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(34.4)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄褐10YR6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	粗いナデ	

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
18－4	24中	Ⅲ D－A 灰色粗砂層	4062	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(34.8)	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：浅黄2.5Y7/3	1～2ミリ大の 砂粒を含む	条痕	条痕	
18－5	24中	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4119	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(24.8)	－	－	外：褐7.5YR4/4 内：灰黄褐10YR5/2	3ミリ大の砂粒 を含む	粗いナデ	条痕	
18－6	24中	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4422	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(19.2)	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：灰黄褐10YR6/2	1～2ミリの砂 粒を含む	ナデ	条痕	
18－7	24中	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4414	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(27.4)	－	－	外：黄褐2.5Y5/3 内：灰黄2.5Y6/2	1～2ミリの砂 粒を含む	条痕後粗いナデ	条痕	外面に一部煤付着

第15表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（4）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
19－1	24下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4160	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(25.5)	－	－	外：褐灰10YR4/1 内：にぶい黄褐10YR5/3	1～4ミリ大の 砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
19－2	24下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4785	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(14.4)	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	1ミリ以下の砂 粒を含む	ていねいなナデ	ていねいなナデ	口縁下方に2つの穿孔あり
19－3	24下	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4566	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(24.8)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：浅黄2.5Y7/3	1～4ミリ大の 砂粒を含む	横方向のナデ ／　ナデ	ナデ	口縁端部に沈線文、キザミ、縄文あり
19－4	24下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4137	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	2ミリ以下の砂 粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部にキザミあり 外面に煤付着
19－5	24下	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4319	縄文土器	浅鉢 （口縁）	小片	(21.9)	－	－	外：にぶい黄橙10YR5/3 内：浅黄2.5Y7/3	1.5ミリ程度の 砂粒を含む	ナデ	ナデ	
19－6	25上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4070 4081	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(20.0)	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：浅黄2.5Y7/3	1ミリ以下の砂 粒を含む	ナデ	ナデ	
19－7	25上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4758	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(29.8)	－	－	外：灰黄褐10YR5/2 内：にぶい黄橙10YR6/3	1～3ミリ大の 砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
19－8	25上	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	3573	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(21.2)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/4 内：にぶい黄褐10YR5/3	1～2ミリの砂 粒を含む	ナデ	ナデ	穿孔あり
19－9	25上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4162	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄褐10YR6/3	1～2ミリ大の 砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	穿孔あり
19－10	25上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4059	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(38.0)	－	－	外：灰黄褐10YR6/2 内：灰黄褐10YR5/2	2～4ミリ大の 砂粒を含む	粗いナデ	粗いナデ	

第16表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（5）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
20－1		Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4163	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	2～4ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	外面に一部煤付着
20－2		Ⅲ区A区 灰色粗砂層	3708	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(20.4)	－	－	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：にぶい黄橙10YR6/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
20－3		Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4164	縄文土器	深鉢 （口縁）	1／2 以下	(34.0)	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：灰黄褐10YR5/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
20－4		Ⅲ D－A 灰色粗砂層	4396	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	2～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
20－5		Ⅲ D－A 灰色粗砂層	4062	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5YR6/2 内：暗灰黄2.5YR5/2	2～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
20－6		Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4175	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(26.0)	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：にぶい黄褐10YR5/3	1ミリ程度の砂粒を含む	ケズリ	ナデ	
20－7		Ⅲ区A区 灰色粗砂層	3899	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(19.4)	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：灰黄2.5Y6/2	1ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	

第17表　前田遺跡Ⅲ区灰色粗砂層出土縄文土器観察表（6）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
21－1	26上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4119	縄文土器	浅鉢 （口縁）	小片	(35.9)	－	－	外：灰黄褐10YR5/2 内：灰黄褐10YR5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
21－2	26上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4187 4242	縄文土器	浅鉢 （口縁）	小片	(28.8)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
21－3	26上	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4278	縄文土器	浅鉢 （口縁）	小片	(31.4)	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	内面に一部赤彩あり
21－4	26上	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4348	縄文土器	浅鉢 （口縁）	小片	(30.0)	－	－	外：黒褐10YR3/1 内：灰黄褐10YR5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	外面に煤付着
21－5	26上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4692	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/4 内：にぶい黄褐10YR5/4	1～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁部：内外ともに沈線上に刺突文
21－6	26上	Ⅲ D－D 灰色粗砂層	4697	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：黒褐2.5YR3/1 内：暗灰黄2.5YR4/2	1ミリ程度の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	焼成前の穿孔、焼成後の穿孔ひとつずつあり
21－7	26下	Ⅲ D－A 灰色粗砂層	4062 4063 4066 4067 4092 4093 4398 4612	縄文土器	深鉢	1/2以上	－	－	8.6	外：浅黄2.5Y7/3 内：灰白2.5Y7/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	ケズリ後ナデ	ナデ	

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
21－8	26上	ⅢD－D 灰色粗砂層	4119	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	（11.5～ 12.0）	外：黄褐2.5Y5/3 内：灰黄2.5Y7/2	3ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
21－9	26上	ⅢD－D 灰色粗砂層	4704	縄文土器	浅鉢？ （底部）	小片	－	－	（8.4）	外：灰黄2.5Y6/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
21－10	26上	ⅢD－A 灰色粗砂層	－	縄文土器	浅鉢 （底部）	小片	－	－	（7.6）	外：灰黄2.5Y6/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ以下の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	
21－11	27上	ⅢD－D 灰色粗砂層	4798 4800	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	（6.8）	外：灰黄2.5Y6/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ていねいなナデ	
21－12	27上	ⅢD－D 灰色粗砂層	4080 4705	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	（11.0）	外：灰黄褐10YR5/2 内：にぶい黄橙10YR7/2	1ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
21－13	27上	ⅢD－D 灰色粗砂層	4165	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	（9.8）	外：灰黄2.5Y7/2 内：にぶい黄2.5Y6/3	1～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
21－14	27上	ⅢD－D 灰色粗砂層	4141	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	（10.2）	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：灰黄2.5Y6/2	2～4ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
21－15	27上	ⅢD－A 灰色粗砂層	－	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	8.8	外：灰黄2.5Y7/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
21－16	27上	ⅢD－D 灰色粗砂層	4761	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	8.0	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：褐灰10YR4/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	ていねいなナデ	ケズリ後ナデ	
21－17	27上	ⅢD－D 灰色粗砂層	3915	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	6.0	外：浅黄2.5Y7/3 内：灰黄2.5Y6/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	

第18表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（1）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
22－1	27下	ⅢD－D 黒色土層	3756 3780	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：浅黄2.5Y7/3	3ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
22－2	27下	ⅢD－D 黒色土層	4032	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい橙7.5YR7/3 内：灰黄2.5Y6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
22－3	27下	ⅢD－A 黒色土層	3376	縄文土器	浅鉢？	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y4/1 内：暗灰黄2.5Y4/2	1ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
22－4	27下	ⅢD－A 黒色土層	3876	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/4 内：灰黄褐10YR5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
22－5	27下	ⅢD－A 黒色土層	2560	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/4 内：にぶい黄橙10YR6/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
22－6	27下	ⅢD－D 黒色土層	4014 4748 4749	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/4 内：にぶい黄橙10YR6/3	おおむね密	ナデ	ナデ	磨消縄文

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
22－7	27下	Ⅲ D－A 黒色土層	2532	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：明黄褐10YR7/6 内：にぶい黄橙10YR7/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
22－8	27下	Ⅲ D－A 黒色土層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：褐灰10YR4/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
22－9	27下	Ⅲ D－A 黒色土層	2535	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR7/4	1～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
22－10	27下	Ⅲ D－A 黒色土層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：灰黄褐10YR4/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
22－11	28上	Ⅲ D－A 黒色土層	－	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ナデ・ケズリ	磨消縄文
22－12	28上	Ⅲ D－A 黒色土層	3875 4062 4064 4251	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：灰白10YR8/2	2ミリ程度の砂粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
22－13	28上	Ⅲ D－A 黒色土層	2531	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR5/2 内：褐灰10YR5/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
22－14	28上	Ⅲ D－A 黒色土層	3876	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR4/2 内：にぶい黄褐10YR5/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文
22－15	28上	Ⅲ D－A 黒色土層	2560	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/4 内：暗黄灰2.5Y5/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
22－16	28上	Ⅲ D－A 黒色土層	2539	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄褐10YR5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ	ミガキ	磨消縄文
22－17	28上	Ⅲ D－A 黒色土層	2515	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：灰白2.5Y8/2 内：浅黄2.5Y7/3	1ミリ以下の砂粒を含む	風化著しく不明	ナデ	沈線文？
22－18	28上	Ⅲ区A区 黒色土層	3630 3741 3743 3744	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：にぶい黄橙10YR6/4	2ミリ前後の砂粒をわずかに含む	ナデ	ナデ・ケズリ状の調整痕	沈線文
22－19	28上	Ⅲ区A区 黒色土層	3741	縄文土器	深鉢 （突起）	小片	－	－	－	外：黄褐2.5Y5/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	2ミリ程度の砂粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	沈線文　穿孔あり 外面に煤付着
22－20	28上	Ⅲ D－D 黒色土層	4776	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：灰黄2.5Y6/2	3ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部に連続刺突文 口縁下方に貼付突帯文 （キザミあり） 内外面に煤付着

第19表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（2）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
23－1	28下	ⅢD－D 黒色土層	4749	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	－	－	－	外：浅黄2.5Y7/3 内：灰黄2.5Y6/2	3ミリ以下の砂粒を含む	条痕	条痕	補修孔あり
23－2	28下	ⅢD－D 黒色土層	3781	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(28.8)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	2ミリ以下の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	外面に一部煤付着
23－3	28下	ⅢD－D 黒色土層	3920	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR5/2 内：褐灰10YR5/1	4ミリ以下の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	
23－4	28下	ⅢD－D 黒色土層	3755	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄2.5Y7/2	3ミリ以下の砂粒を含む	条痕	条痕	
23－5	28下	ⅢD－A 黒色土層	2529	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y7/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	条痕	
23－6	28下	ⅢD－A 黒色土層	2439	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(25.2)	－	－	外：浅黄2.5Y7/4 内：浅黄2.5Y7/4	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
23－7	29上	ⅢA区 黒色土層	4293	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(30.4)	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/2 内：にぶい黄橙10YR7/3	1ミリ大の砂粒含む	ナデ	条痕	穿孔あり
23－8	29上	ⅢD－A 黒色土層	2517	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ケズリ	ケズリ後ナデ	穿孔あり
23－9	29上	ⅢD－D 黒色土層	3993	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(32.2)	－	－	外：浅黄2.5YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
23－10	29上	ⅢD－A 黒色土層	3876	縄文土器	甕 （口縁）	小片	(39.2)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	2ミリ前後の砂粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	
23－11	29上	ⅢD－A 黒色土層	2565	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：浅黄2.5Y7/3 内：浅黄2.5Y7/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ケズリ後ナデ	ナデ	
23－12	29上	ⅢA区 黒色土層	3625	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(19.2)	－	－	外：黒褐2.5Y3/1 内：黒褐2.5Y3/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	粗いナデ	粗いナデ	内外面に煤付着

第20表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（3）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
24－1	29下	ⅢD－A 黒色土層	2526	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(40.0)	－	－	外：浅黄2.5Y7/2 内：にぶい黄橙10YR7/2	1～4ミリの砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	
24－2	29下	ⅢD－D 黒色土層	3981 3982	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：浅黄2.5Y7/3	4ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
24－3	29下	ⅢD－D 黒色土層	4746	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	3ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
24－4	29下	ⅢA区 黒色土層	3753	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(39.6)	－	－	外：灰白2.5Y7/2 内：浅黄2.5Y7/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
24－5	29下	Ⅲ区A区 黒色土層	4289	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(35.8)	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：暗灰褐2.5Y5/2	1～2ミリ大の 砂粒を含む	ナデ	ナデ	外面一部煤付着
24－6	30上	ⅢD－A 黒色土層	2565	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(25.4)	－	－	外：灰黄褐10YR6/3 内：灰黄褐10YR6/3	密	ミガキ	ナデ	
24－7	30上	ⅢD－D 黒色土層	4249	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(23.2)	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：灰黄2.5Y7/2	3ミリ大の砂粒 を含む	粗いケズリ	ケズリ後ナデ	口縁部：内外ともに指頭 圧痕 外面に一部煤付着
24－8	30上	ⅢD－D 黒色土層	4748	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(6.7)	外：灰黄2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y7/2	3ミリ以下の砂 粒を含む	ナデ	ナデ	
24－9	30上	ⅢD－D 黒色土層	3771	縄文土器	深鉢？ （底部）	小片	－	－	(8.1)	外：灰白2.5Y8/2 内：淡黄2.5Y8/3	1～2ミリ大の 砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
24－10	30上	ⅢD－A 黒色土層	2440	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	8.0	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：にぶい黄2.5Y6/3	1～2ミリ大の 砂粒を含む	ナデ	ナデ	
24－11	30上	ⅢD－D 黒色土層	3977	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(8.4)	外：灰黄2.5Y7/2 内：にぶい黄橙10YR6/3	4ミリ以下の砂 粒を含む	ナデ	ナデ	

第21表　前田遺跡Ⅲ区黒色土層出土縄文土器観察表（4）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
25－1	30下	ⅢD－D 黒色土層	3972	縄文土器	深鉢 （底部）	1／2 以下	－	－	(10.0)	外：浅黄2.5Y7/4 内：灰黄2.5Y7/2	3ミリ以下の砂 粒を含む	ナデ	ナデ	
25－2	31上	ⅢD－D 黒色土層	4032	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(8.8)	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	4ミリ以下の砂 粒を含む	ナデ？	ナデ	
25－3	31上	Ⅲ区A区 黒色土層	4289	縄文土器	不明 （底部）	小片	－	－	(10.2)	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：灰黄2.5Y6/2	1～2ミリ大の 砂粒を含む	粗いナデ	ナデ	
25－4	31上	ⅢD－A 黒色土層	2437	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(9.4)	外：明黄褐2.5Y7/2 内：灰黄2.5Y6/2	1～3ミリ大の 砂粒を含む	ナデ	ナデ	
25－5	31上	ⅢD－A 黒色土層	2557	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(7.6)	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：灰黄褐10YR5/2	1～2ミリ大の 砂粒を含む	ナデ 底部：ナデ	ナデ	
25－6	31上	ⅢD－D 黒色土層	3925	縄文土器	浅鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR4/3 内：灰黄褐10YR4/2	3ミリ以下の砂 粒を含む	ミガキ	ミガキ	
25－7	31下	ⅢD－A 黒色土層	2626	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	9.4	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：灰黄2.5Y6/2	1～2ミリ大の 砂粒を含む	ナデ 底部：ナデ	ナデ	
25－8	31下	Ⅲ区A区 黒色土層	3867	縄文土器	不明 （底部）	小片	－	－	8.0	外：にぶい黄橙10YR6/4 内：浅黄2.5Y7/3	1～3ミリ大の 砂粒を含む	粗いナデ	粗いナデ	
25－9	31下	ⅢD－A 黒色土層	2626	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(8.2)	外：浅黄2.5Y7/3 内：淡黄2.5Y8/4	1～2ミリ大の 砂粒を含む	ナデ	ナデ	
25－10	31下	ⅢD－A 黒色土層	2536 2549	縄文土器	浅鉢 （口縁）	小片	(39.4)	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/2	1ミリ以下の砂 粒を含む	ミガキ	ミガキ	赤彩あり　磨消縄文

第22表　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土縄文土器観察表（1）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
26－1	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3471	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：褐灰10YR5/1	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	沈線文・撚糸文
26－2	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3473	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR6/2 内：にぶい黄橙10YR6/3	微細な砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	撚糸文
26－3	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3476	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/4 内：にぶい黄橙10YR6/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	磨消縄文・刺突文
26－4	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3906	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部にキザミあり 沈線文
26－5	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3931	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：灰黄褐10YR4/2 内：にぶい黄褐10YR5/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	貼付突帯文 （キザミあり）
26－6	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3474	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(26.2)	－	－	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：暗灰黄2.5Y5/2	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部に沈線文 頸部に沈線文
26－7	32左中	Ⅲ区A区 褐色礫層	3339 3395	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	9.4	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：灰黄2.5Y6/2	1～2ミリ大の砂粒を多く含む	ナデ	ていねいなナデ ／粗いナデ	内面に一部煤付着
26－8	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3906	縄文土器	不明 （底部）	小片	－	－	(8.4)	外：褐灰10YR4/1 内：にぶい黄褐10YR5/4	1～3ミリの砂粒を含む	ナデ	ナデ	
26－9	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	－	縄文土器	不明 （底部）	小片	－	－	(3.5)	外：灰黄褐10YR6/2 内：にぶい黄橙10YR7/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
26－10	32上	Ⅲ区A区 褐色礫層	4099	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(8.2)	外：灰黄2.5Y7/2 内：黄灰2.5Y4/1	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
26－11	32右下	Ⅲ区A区 褐色礫層	3980	弥生土器	甕	1／2 以上	(9.3)	19.0	5.2	外：黒褐10YR3/2 内：黒褐10YR3/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	刺突文
26－12	32左下	ⅢD－A区 褐色礫層	4732	弥生土器	甕 （口縁）	1／2 以下	(17.4)	－	－	外：浅黄2.5Y7/4 内：にぶい黄2.5Y6/4	1～4ミリの砂粒を若干含む	ていねいなナデ	ていねいなナデ ／ナデ	指頭圧痕　外面に煤付着
26－13	33上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3944	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(20.4)	－	－	外：黒褐2.5Y3/1 内：にぶい黄褐10YR4/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	沈線文　刺突文 内外面に煤付着
26－14	33上	ⅢD－A区 褐色礫層	2637	弥生土器	広口壷 （口縁）	小片	(21.2)	－	－	外：浅黄10YR8/4 内：にぶい黄橙10YR7/4	1ミリ以下の砂粒を含む	ヨコナデ	ナデ	斜格子文・刺突文
26－15	33上	Ⅲ区A区 褐色礫層	4104	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(16.8)	－	－	外：黒2.5Y2/1 内：暗灰黄2.5Y4/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部キザミあり 刺突文　内外面に煤付着
26－16	33上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3406	弥生土器	甕 （口縁）	小片	－	－	(20.4)	外：にぶい黄褐10YR4/3 内：にぶい黄褐10YR4/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ていねいなナデ	ていねいなナデ	斜格子文　沈線文 外面に一部煤付着
26－17	33上	Ⅲ区A区 褐色礫層	4100	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(29.4)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄褐10YR5/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	

第23表　前田遺跡Ⅲ区褐色礫層出土縄文土器観察表（2）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
27－1	33下	Ⅲ区A区 褐色礫層	3475	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(20.8)	－	－	外：灰黄2.5Y7/2 内：黒褐10YR3/2	1～2ミリの砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部にキザミ 櫛状工具による沈線 刺突文　外面に煤付着
27－2	33下	ⅢD－D 褐色礫層	4021	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(27.4)	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/2 内：にぶい黄橙10YR6/4	2ミリ～4ミリ大の砂粒を含む	ナデ・ハケメ／ハケメ	ヨコナデ・ハケメ/ハケメ	口縁端部連続刺突文 口縁下方に沈線文 外面に一部煤付着
27－3	33下	Ⅲ区A区 褐色礫層	3903	弥生土器	甕	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR5/3 内：にぶい黄橙10YR5/4	1～2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	櫛状工具による平行沈線文　刺突文

第24表　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器観察表（1）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
28－1	34上	ⅢD－D 暗褐色土層	4236	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：灰黄褐10YR5/2	1.5ミリ大の砂粒多く含む	ミガキ	ナデ	磨消縄文
28－2	34上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	3114	縄文土器	深鉢 （突起）	小片	－	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	1～2ミリ程度の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
28－3	34上	ⅢD－D 暗褐色土層	3913	縄文土器	精製深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	1.5ミリ大の砂粒多く含む	ナデ	ナデ	口縁端部にキザミあり 口縁下方に貼付突帯文 （キザミあり）
28－4	34上	ⅢD－D 暗褐色土層	4230	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/4	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部にキザミあり 口縁下方に貼付突帯文 （キザミあり）沈線文
28－5	34上	ⅢD－A 暗褐色土層	3821	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：浅黄2.5Y7/3 内：にぶい黄2.5Y6/3	2ミリ大の砂粒含む	ナデ	ナデ	口縁端部に沈線文 外面に一部煤付着
28－6	34上	ⅢD－A 暗褐色土層	3860	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(27.0)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	2～3ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁下方にキザミあり
28－7	34上	ⅢD－A 暗褐色土層	4834	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：にぶい黄2.5Y6/3 内：浅黄2.5Y7/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁端部にキザミあり 口縁下方に貼付突帯文 （キザミあり） 穿孔一つあり　沈線文
28－8	34上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	3292 3293 3295 3296	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(31.4)	－	－	外：浅黄2.5Y7/3 内：灰黄2.5Y6/2	5ミリ以下の長石を含む	ナデ	ナデ	
28－9	34上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	3051	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(23.4)	－	－	外：黄褐2.5Y5/3 内：黄褐2.5Y5/3	微細な砂粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	外面に煤付着
28－10	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	4502	縄文土器	浅鉢 （口縁）	小片	(30.8)	－	－	外：灰白2.5Y8/2 内：灰黄2.5Y7/2	密	ナデ	ナデ	凹線文

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
28－11	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	3310	弥生土器	甕か壷？ （底部）	小片	－	－	(4.9)	外：浅黄2.5Y7/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	1ミリ大の砂粒少し含む	摩滅のため不明	ナデ	
28－12	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	2911	縄文土器	深鉢 （底部）	小片	－	－	(5.2)	外：淡黄2.5Y8/3 内：にぶい黄橙10YR7/4	2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	
28－13	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	4351	縄文土器	浅鉢 （底部）	小片	－	－	7.0	外：にぶい黄橙10YR7/4 内：暗灰黄2.5Y5/2	1ミリ以下の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	
28－14	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	3162	縄文土器	浅鉢か 深鉢 （底部）	小片	－	－	(6.8)	外：にぶい黄橙10YR7/4 内：淡黄2.5Y8/3	2ミリ前後の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	
28－15	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	4516	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(22.8)	－	－	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：にぶい橙7.5YR6/4	5ミリ程度大の砂を含む	ナデ	ナデ	口縁端部斜格子文 櫛描平行線文
28－16	34下	ⅢD－A 暗褐色土層	3823	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(18.6)	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙7.5YR6/3	1～2ミリ大の砂粒を含む	ヨコナデ	ヨコナデ	頸部に指頭圧痕文帯をめぐらす
28－17	34下	ⅢD－D 暗褐色土層	3642	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(17.0)	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	
28－18	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	3308	弥生土器	甕	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR6/4	1～5ミリ以下の砂粒を若干含む	ナデ	ナデ	凹線文・鋸歯文あり
28－19	34下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	2936 2937	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(21.8)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄2.5Y7/2	1ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ナデ	口縁下方貼付突帯文（キザミあり） 外面に赤彩あり

第25表　前田遺跡Ⅲ区暗褐色土層出土土器観察表（2）

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
29－1	35上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	2879 2880	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(17.6)	－	－	外：黄褐2.5Y5/3 内：灰黄2.5Y6/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ヨコナデ/ハケメ	ナデ/ハケメ	凹線文
29－2	35上	ⅢD－D 暗褐色土層	3589	弥生土器	甕 （口縁）	小片	(15.8)	－	－	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい黄橙10YR7/4	1ミリ以下の砂粒を含む	ヨコナデ	ヨコナデ	
29－3	35上	ⅢD－D 暗褐色土層	3599	弥生土器	甕 （口縁）	1／2 以下	(17.8)	－	－	外：黄橙10YR7/8 内：にぶい黄褐10YR4/3	2.5ミリ大の砂粒を含む	縦方向のハケメ後ナデ	横方向のハケメ後ナデ	指頭圧痕あり
29－4	35上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	2879	弥生土器	高坏	小片	－	－	－	外：暗黄灰2.5Y5/2 内：暗黄灰2.5Y5/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ミガキ・ナデ	ハケメ後ヘラミガキ・ミガキ	刺突文 外面に一部煤付着
29－5	35上	ⅢD－D 暗褐色土層	4644 4645	弥生土器	高坏 （坏部）	小片	(29.0)	－	－	外：灰黄2.5Y6/2 内：にぶい黄橙10YR7/3	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ・ミガキ	ミガキ・ナデ	口縁端部に沈線文あり
29－6	35下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	2879	弥生土器	高坏 （脚部）	1／2 以下	－	－	(8.3)	外：にぶい黄褐10YR5/3 内：にぶい黄橙10YR6/3	3ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ヘラケズリ・ケズリ後ナデ しぼり痕あり	沈線文

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
29－7	35上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	4513	弥生土器	高坏？ （脚部）	小片	－	－	(19.0)	外：灰5Y4/1 内：浅黄灰10YR8/3	1ミリ以下の砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	刺突文 外面に一部煤付着
29－8	35上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	－	弥生土器	高坏 （脚部）	小片	－	－	(13.8)	外：浅黄2.5Y7/4 内：淡黄2.5Y8/4	微細な砂粒多く含む	ナデ	ナデ	刺突（貫通せず） 凹線文
29－9	35上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	46	弥生土器	器台	小片	－	－	－	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：にぶい黄橙10YR7/2	微細な砂粒を多く含む	ナデ	ナデ	凹線文 穿孔か？
29－10	35上	ⅢD－D 暗褐色土層	3643	弥生土器	甕か壷 （底部）	小片	－	－	(6.4)	外：灰黄2.5Y6/2 内：灰黄2.5Y7/2	1ミリ以下の砂粒を含む	ナデ	ていねいなナデ	
29－11	35上	Ⅲ区A区 暗褐色土層	2960	弥生土器	低脚坏	小片	－	－	－	外：淡黄5Y8/3 内：淡黄5Y8/3	微細な砂粒をわずかに含む	ナデ	ナデ	

第26表　前田遺跡Ⅲ区表土層出土土器観察表

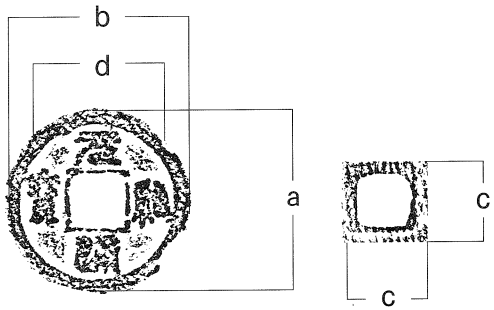
挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　別	器　種	遺存度	法量（cm）			色　調	胎　土	手法の特徴		備　考
							口径	器高	底径			外（口縁／肩／胴）	内（口縁／胴／底）	
30－1	36上	Ⅲ区B区 表土層	3439	縄文土器	深鉢 （口縁）	小片	(32.0)	－	－	外：灰黄褐10YR4/2 内：にぶい黄褐10YR5/3	密	ナデ	横方向のナデ	外面に一部煤付着
30－2	36上	Ⅲ区A区 表土層	3384	縄文土器	深鉢	小片	－	－	－	外：黒褐10YR3/1 内：灰黄褐10YR4/2	2ミリ大の砂粒を含む	ナデ	ケズリ後ナデ	
30－3	36上	Ⅲ区B区 表土層	2593	須恵器	碗 （口縁）	小片	(13.2)	－	－	外：灰5Y5/1 内：灰5Y6/1	1ミリ大の砂粒を少し含む	ナデ	ナデ	一部に灰釉か？
30－4	36上	ⅢD－A 表土層	2652	須恵器	坏 （口縁）	小片	(13.6)	－	－	外：灰7.5Y6/1 内：黄灰2.5Y6/1	密	回転ナデ	回転ナデ	灰釉付着
30－5	36上	Ⅲ区C区 表土層	2807	須恵器	高台皿 （口縁）	小片	(15.6)	－	－	外：灰白2.5Y8/2 内：にぶい黄橙10YR7/3	2ミリ大の砂粒を含む	回転ナデ	回転ナデ	
30－6	36上	Ⅲ区A区 表土層	2319	土師器	坏 （底部）	小片	－	－	(6.7)	外：浅黄橙10YR8/4 内：にぶい黄橙10YR7/4	1ミリ大の砂粒を少し含む	ナデ	ナデ	底部：回転糸切り
30－7	36上	ⅢD－A 表土層	2288	土師器	不明 （口縁）	小片	(23.7)	－	－	外：浅黄橙10YR8/3 内：にぶい黄橙10YR7/4	密	横方向のハケメ・縦方向のハケメ後部分的なヨコナデ	横方向のナデ・ハケメ？	
30－8	36上	Ⅲ区B区 表土層	2599	陶器	擂鉢	小片	－	－	－	外：灰N6/ 内：褐灰10YR5/1	密	回転ナデ	回転ナデ・ 擂り目	備前焼（16世紀前）
30－9	36上	Ⅲ区A区 表土層	2764	磁器	青磁皿	小片	－	－	－	外：明オリーブ灰2.5GY7/1 内：明オリーブ灰2.5GY7/1	密	回転ナデ	回転ナデ	内外面に釉薬
30－10	36上	ⅢD－D 表土層	2294	陶器	皿？	小片	－	－	－	外：にぶい赤褐5YR5/3 内：灰白5Y7/2	密	回転ナデ	回転ナデ	

第27表　前田遺跡出土石器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	P.No	種　別	種　　類	法　量				石　　材	備　　考
						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
31－1	36下	Ⅲ D－D 黒色粘土層	4317	石　器	石鏃	1.6	1.8	0.3	0.3	黒曜石	
31－2	36下	Ⅲ区A区 表土層	2708	石　器	石鏃	2.3	1.7	0.5	1.4	安山岩	
31－3	36下	Ⅰ区 表土層	3282	石　器	有茎尖頭器	6.7	2.3	0.8	15.6	安山岩	
31－4	37上	Ⅲ区A区 褐色礫層	3487	石　器	石錘	9.0	5.6	2.6	204.6	流紋岩	打ち欠いた数　6
31－5	37上	Ⅲ区A区 黒色土層	3870	石　器	石錘	7.8	3.4	1.5	68.6	流紋岩	打ち欠いた数　4
31－6	37上	Ⅲ区D－A区 黒色土層	－	石　器	石錘	6.1	5.2	2.0	96.6	流紋岩	打ち欠いた数　4
31－7	37上	Ⅲ区A区 表土層	2863	石　器	石錘	5.5	3.4	2.6	58.2	流紋岩	溝上下　卵型
31－8	37上	Ⅲ区D－D 黒色土層	4214	石　器	石錘	5.5	6.5	1.7	82.1	閃緑岩	打ち欠いた数　4
31－9	37上	Ⅲ区D－D 暗褐色土層	4402	石　器	石錘	5.3	4.1	2.0	61.1	流紋岩	打ち欠いた数　4
31－10	37上	Ⅲ区D－D 不明	－	石　器	石錘	6.6	6.5	2.9	195.9	閃緑岩	打ち欠いた数　4
31－11	38下	Ⅲ区D－D 暗褐色土層	4402	石　器	打製石斧	5.4	4.6	1.5	59.3	安山岩	
31－12	38下	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	3896	石　器	打製石斧	5.7	5.3	1.7	75.0	流紋岩	
31－13	38下	Ⅲ区D区 表土層	2342	石　器	砥石か？	2.0	2.0	1.8	36.5	※変成岩？	表面５面はすべて平滑な面となっており、砥石として使用されていた可能性がある。
31－14	38下	Ⅲ区A区 灰色粗砂層	4305	石　器	磨製石斧	9.3	6.4	3.8	352.2	流紋岩	
31－15	38下	－	1905	石　器	磨製石斧	14.1	4.1	3.6	359.2	塩基性片岩	
31－16	38下	1区 表土層	－	石　器	砥石	4.8	4.9	2.7	81.3	凝灰岩	
31－17	38下	Ⅲ区A区 暗褐色土層	3185	石　器	磨製石斧	5.9	5.0	2.8	143.3	流紋岩	

第28表　前田遺跡出土古銭観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	PNo,	種　類	残存率	寸　法（cm）							重量（g）	初鋳年代
						a	b	c	d	e	f	厚さ		
32－1	39下	Ⅰ区 表土層	764	元豊通寳	完　存	2.32	1.86	2.35	1.78	0.65	0.65	0.12	2.87	北宋，1078年
32－2	39下	Ⅰ区 表土層	884	聖宋元寳	完　存	2.40	1.81	2.35	1.80	0.76	0.72	0.17	3.14	北宋，1101年
32－3	39下	Ⅰ区 表土層	－	寛永通寳	完　存	2.26	1.82	2.26	1.82	0.78	0.79	0.08	2.4	新寛永
32－4	39下	Ⅲ区D－D 表土層	2350	寛永通寳	3／2	－	－	2.45	1.90	0.69	0.68	0.1	1.74	新寛永
32－5	39下	Ⅰ区 表土層	1863	不　明	完　存	2.36	－	2.42	－	0.80	－	0.13	2.49	不　明
32－6	39下	Ⅲ区 表土層	2786	1　銭	完　存	2.76	－	2.75	－	－	－	0.15	5.92	銅　貨



出土銭の各計測位置は右図のとおりである

第6節　前田遺跡Ⅰ・Ⅱ区出土の陶磁器について

Ⅰ～Ⅲ区出土の中世陶磁器としては、中国製品18片、国産品12片の計30片がある。また、既に報告されているⅣ区[註1]については、中国製品21片、朝鮮王朝製品２片、国産品10片の計33片が出土している。斐伊川沿いのⅣ区出土遺物も斜面上のⅠ、Ⅱ区から流れ込んだものと推定されるので、Ⅰ～Ⅳ区出土の陶磁器を一括して捉える。

Ⅰ～Ⅳ区の中世陶磁器は別表となり、中国製品35片、朝鮮王朝製品２片、国産22片の計59片が出土している。中国製品は６割近くを占め、貿易陶磁器が国産陶器より多いのが特徴である。

中国製品としては、青磁が30片で多く、その他は白磁４片、青花３片、天目１片、褐釉１片であり、青磁に比べかなり少ない。青磁の器種としては、碗が大部分を占めるが、皿，壺、盤も僅かに存在する。この碗類には、退化した蓮弁文、雷文等の文様が存在するので、15世紀を中心とする時期のものが多いと推定される[註2]。

朝鮮王朝陶器としては、Ⅳ区から粉青沙器の碗が出ている。白土による象眼文様が施されている。

国産品としては、備前の擂鉢・甕、瀬戸美濃の天目茶碗・香炉、産地不明の中世須恵器甕、瓦器鍋が22片ある[註3]。多いのは備前の13片で、６割強を占める。Ⅳ区出土の擂鉢は口縁部が上下に僅かに肥厚するタイプであり、15世紀前葉にあたる[註4]。中国製と瀬戸美濃の天目茶碗、瀬戸の香炉の出土等が遺跡の性格を表している。

なお、中世の土師器皿も少量発見されている。

近世以降の陶磁器も、Ⅰ区とⅢ区からは発見されている。陶器182片、磁器183片がある。中に、古い唐津や古伊万里も存在し、陶胎染付33片、日本製青磁３片も混じる。よって、17世紀初めから19世紀にかけての時期の陶磁器である。

斐伊川左岸の林原地区で、前田遺跡がある場所は居住域として適しており、古くからの遺物が出土している。また、斐伊川に接する台地状の先端部に位置し、見晴らしも良く、南側がなだらかであるが、三方は崖状となる。中世においても、防御的にも良い場所といえる。既に、Ⅳ区の報告書でも触れたが、一般集落ではなく、この地に勢力をもつ人物の屋敷地と推定される[註5]。

【註】

註１　『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡１区・前田Ⅳ区ー』国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会　2004　第127図７の擂鉢。乗岡実「備前焼擂鉢の編年について」『第３回中近世備前焼研究　会資料』2000　によれば、中世４期にあたる。

註２　写真　図版１上段　Ⅰ～Ⅲ区出土の貿易陶磁器。１～10は青磁。１～３は同安窯の青磁皿。４，５，９，10は龍泉窯青磁碗。11～15は白磁。11は中世前期の碗。12～15は後期の皿。16～18は青花皿。

註３　写真図版１下段　Ⅰ～Ⅲ区出土の国産陶器と中世須恵器。１～５は備前の擂鉢。６は瀬戸の卸皿。７は亀山系の須恵器甕。８～９は瀬戸・美濃の天目茶碗。

註４　注１に同じ。

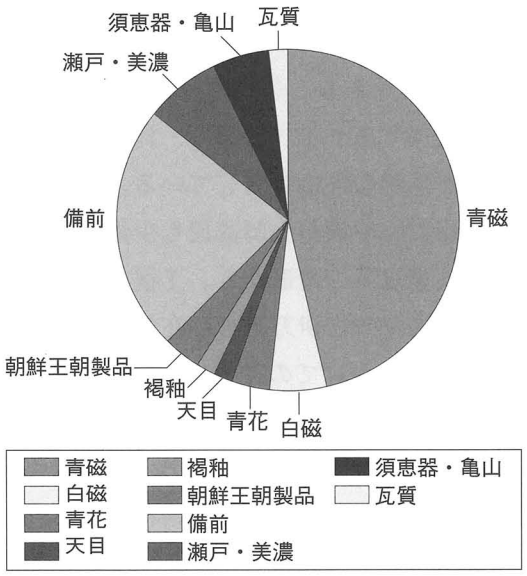
註5　三沢城主で、仁多郡一帯に勢力をもっていた三沢氏の系図の中で、3代当主の傍系に「林原主」為光・為経の名前がある。三沢氏の一族に、斐伊川沿いの林原に根付いた勢力がいたことが知られる。高橋一郎「奥出雲の新補地頭三沢氏（上）」『山陰史談』14　山陰歴史研究会 1997

表　前田遺跡出土陶磁器一覧

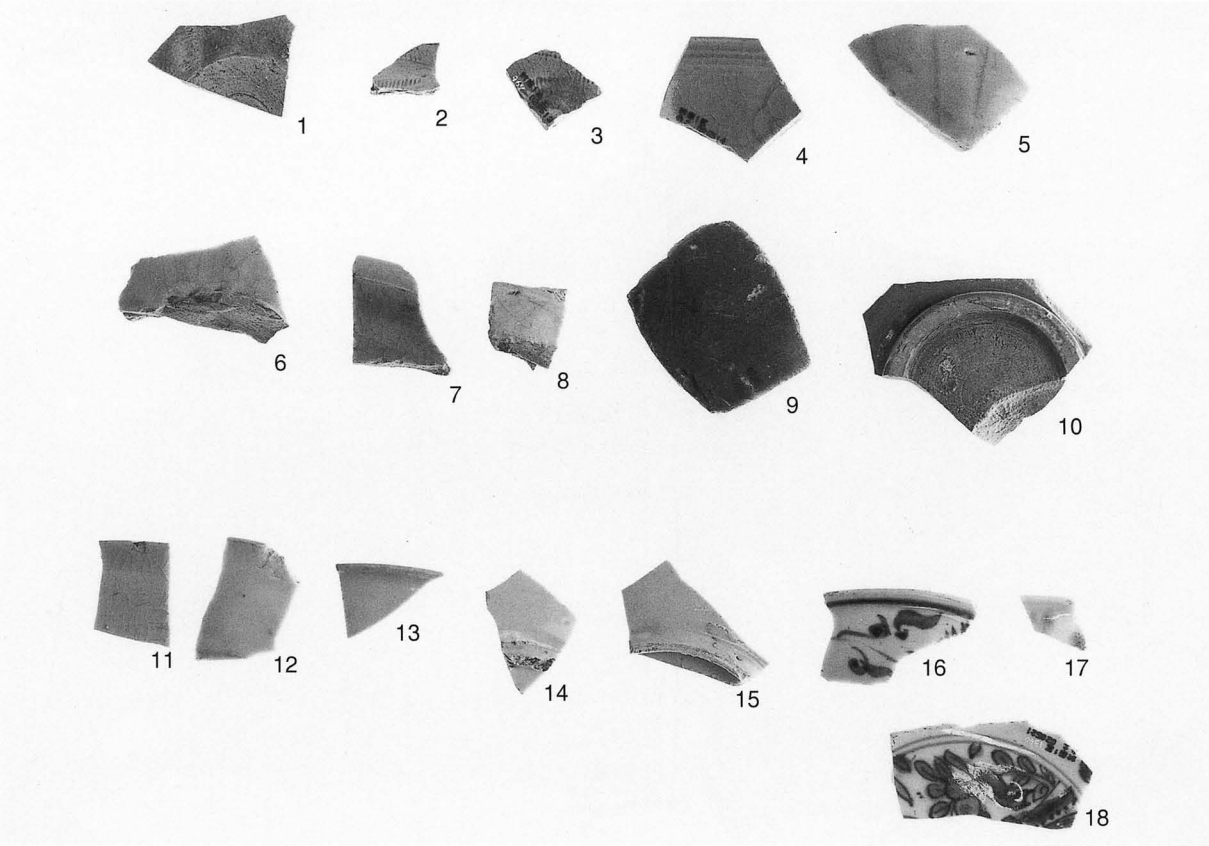
遺跡名	所在市町村	遺跡の性格	調査区	中国製品																											
				青磁碗												青磁皿坏					白磁碗皿							青花碗					
				蓮					雷			龍		景	不明その他	龍	稜花		景	不明その他	A	B	C	D	E1	E2	不明その他	B	C	D	E	華南	不明その他
				B0	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	D	E			Ⅳ	A	B														
前田遺跡	仁多町	散布地	Ⅰ～Ⅲ区		1		2	1					1		3					1					1		1（中世前半）						
			Ⅳ区							3		4			9（蓮弁文1）						2												
合計点数					1		2	1		3		4	1		12					1	2				1		1						

遺跡名	所在市町村	遺跡の性格	調査区	中国製品								
				青花皿						天目	褐釉	その他
				B	C	D	E	華南	不明その他			
前田遺跡	仁多町	散布地	Ⅰ～Ⅲ区	3								同安窯皿3 青磁壷1
			Ⅳ区							1	1	青磁盤1
合計点数				3						1	1	5

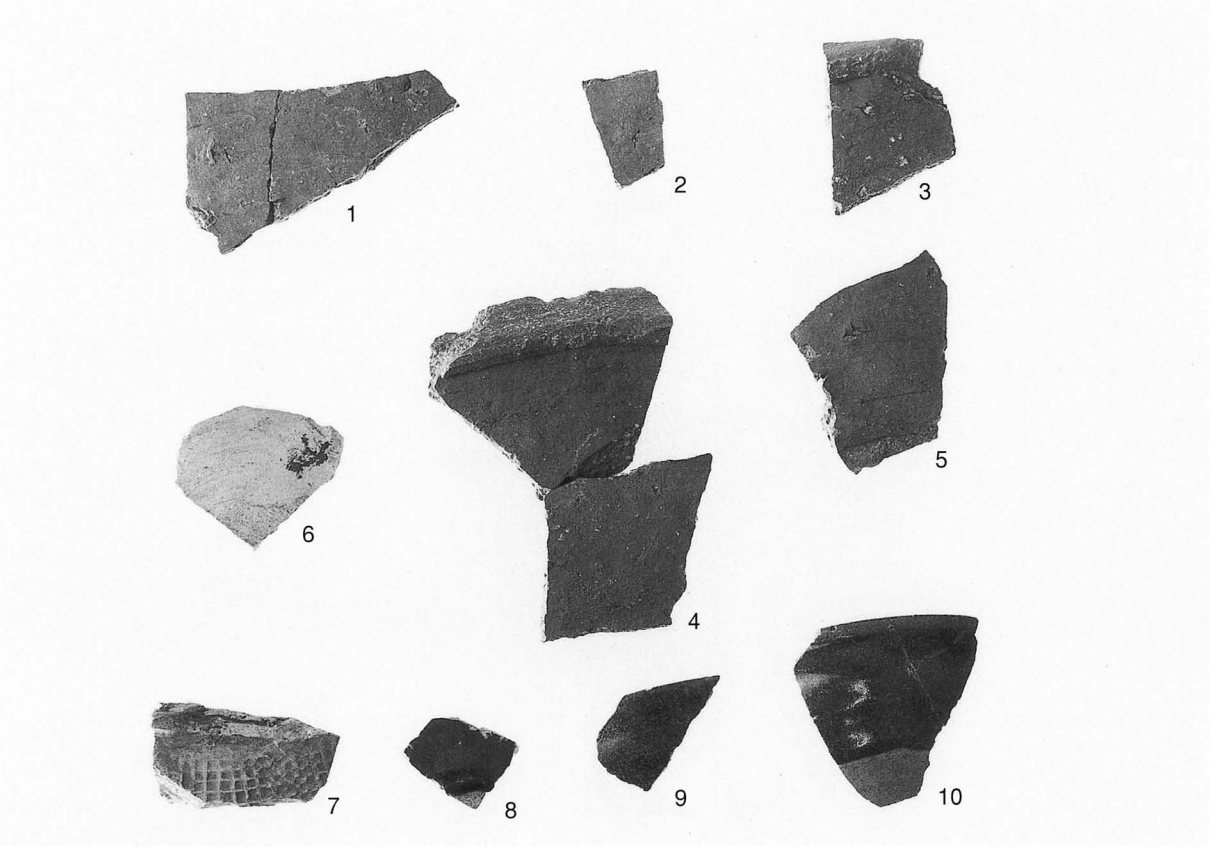
遺跡名	所在市町村	遺跡の性格	調査区	朝鮮王朝製品			東南アジア製品			国産製品
				碗皿	瓶	不明				
前田遺跡	仁多町	散布地	Ⅰ～Ⅲ区							備前擂鉢7 美濃天目茶碗3 瀬戸卸皿1 亀山系甕1
			Ⅳ区	2						備前擂鉢4 瀬戸香炉1 備前甕2 須恵器2 瓦質鍋1
合計点数				2						22



図版1



前田遺跡（Ⅰ～Ⅲ区）出土貿易陶磁器



前田遺跡（Ⅰ～Ⅲ区）出土国産陶磁器

第7節　前田遺跡発掘調査に係る自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

1．はじめに

前田遺跡は、島根県東端部の仁多郡仁多町三沢地内に立地する遺跡である（図１－１）。

当分析調査は、遺跡周辺の古植生・堆積環境などの「古環境」の推定を行うために、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施したものである。分析試料は、発掘調査に伴って露出した各地点より採取し、花粉分析、植物珪酸体分析、および^{14}C年代測定を行った。

また本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が島根県教育庁埋蔵文化財調査センターに提出した報告書を、概報としてまとめ直したものである。

図１－１　遺跡の位置

2．分析試料について

平面図・土層図図は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに作成した。土層の説明は、基本的に島根県教育庁埋蔵文化財調査センターの観察に従った。また、今回分析した試料はすべて島根県教育庁埋蔵文化財調査センターと協議の上、文化財調査コンサルタント㈱が採取したものである。

２－１試料採取地点

図２－１に試料採取地点を示す。

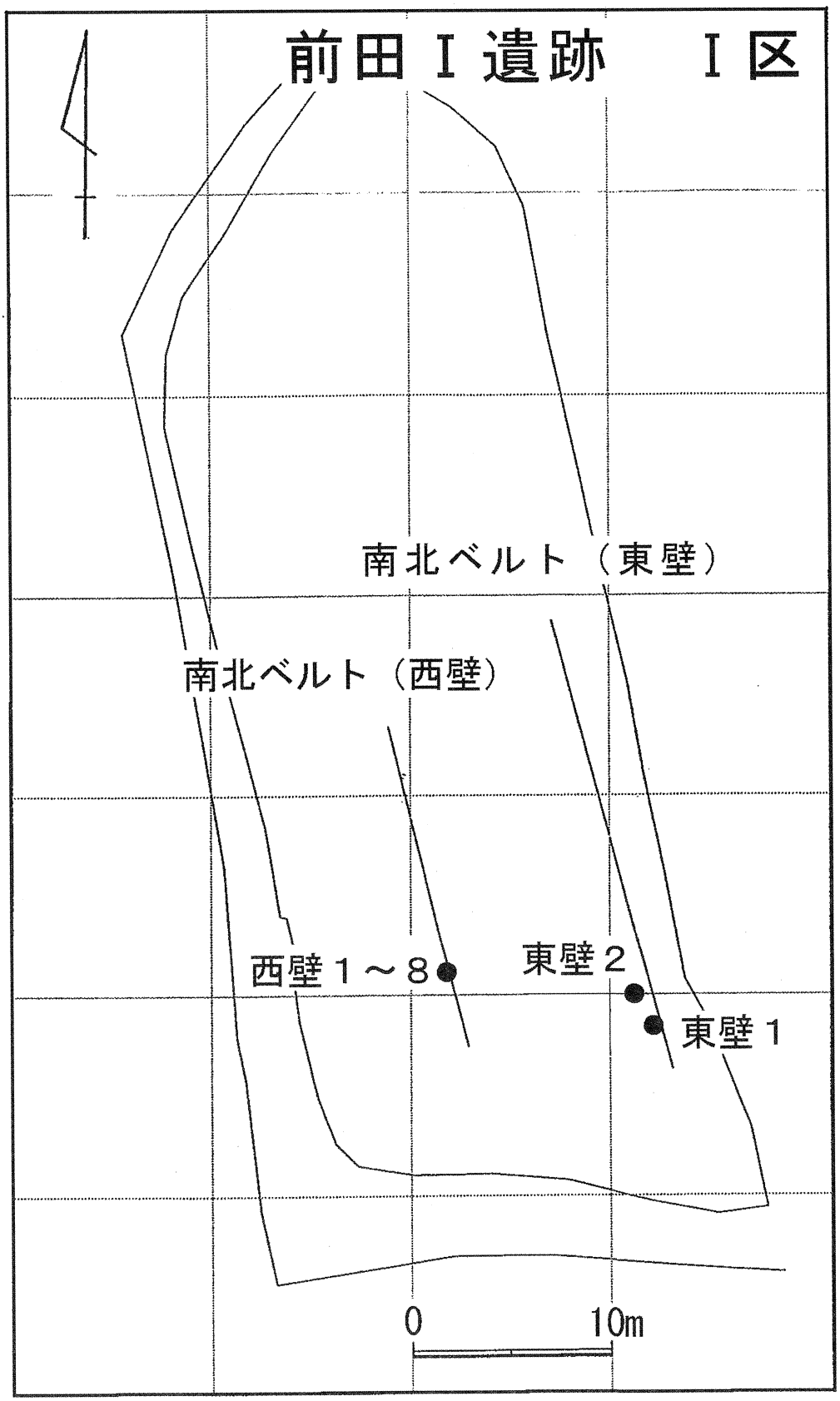
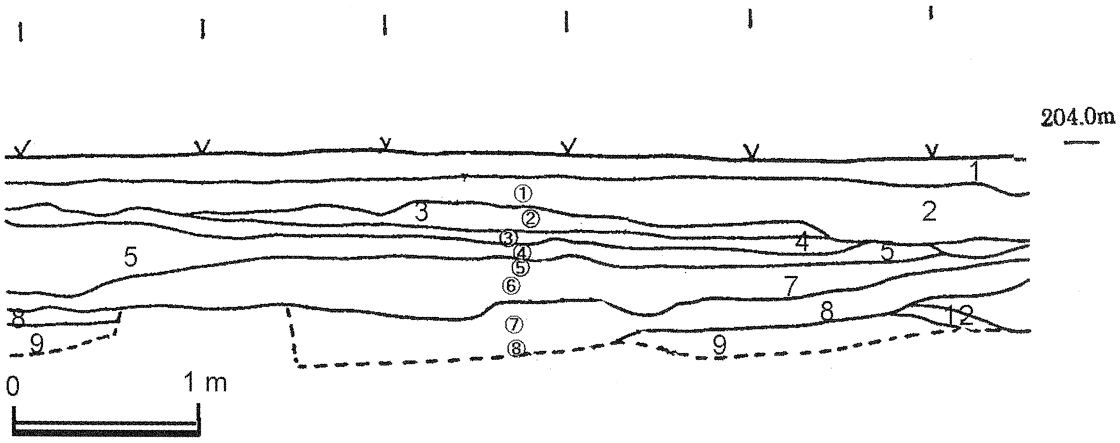


図２－１　試料採取地点

2－2　試料採取層準

（1）西壁

図２－２に西壁の断面図を示す。①～⑧の位置で試料採取した。



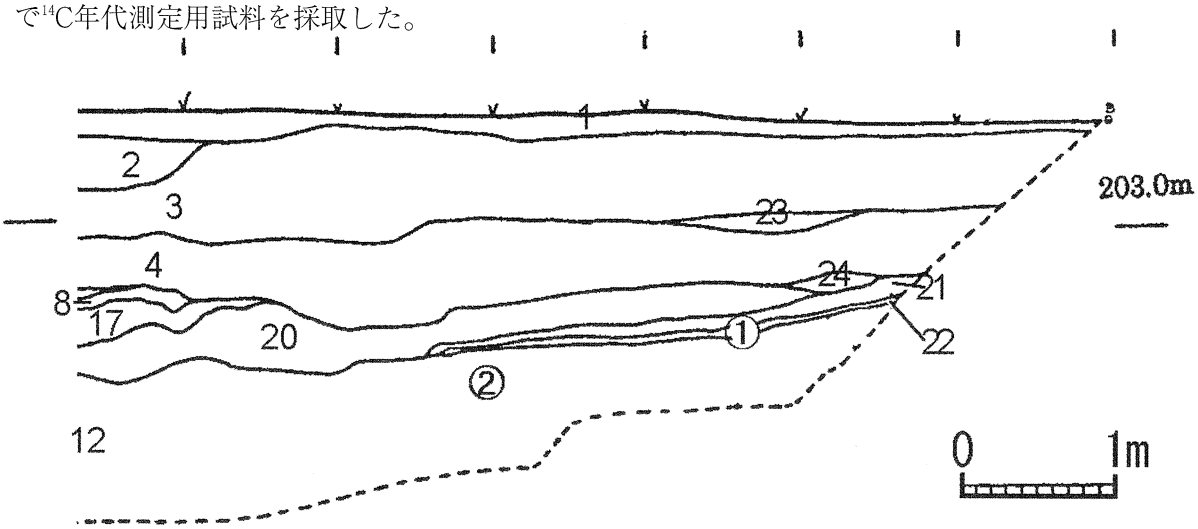
地層番号凡例

1:表土（耕作土）　2:暗褐色土　3:暗褐色土　4:暗褐色土（礫多含）　5:暗褐色土
6:暗黄色砂　7:暗褐色土（砂多含）　8:黄灰色砂　9:暗褐色土（砂含）　12:黄色砂

図2－2　西壁の試料採取層準

（2）東壁

図２－３に東壁の土層図を示す。①、②の位置で花粉分析用試料を採取した。また、①と同層準で^{14}C年代測定用試料を採取した。



地層番号凡例

1:暗褐色土（表土）　2:暗褐色土（表土）　3:暗褐色土（1,2より礫多含）
4:黒色土（礫まばらに含）8:黒色土（礫多含）12:暗黄色砂（礫多含）
17: 暗褐色砂（礫多含）20:暗黄色砂質土（礫・砂多含）
21:明灰色粘質土（礫・砂多含）　22:黒色粘質土 23:暗黄色砂（礫多含）
24:黒色粘質土（礫若干含）

図2－3　東壁の試料採取層準

2－3　^{14}C年代測定用試料について

分析試料の状況を図2－4に示す。

図2－4　^{14}C年代測定試料

3分析方法

3－1　花粉分析方法

（1）原理

粘土層などの堆積物や遺跡の土壌には、動物性もしくは植物性の微小な化石（＝微化石）が含まれており、それらを物理・化学的処理によって抽出し、顕微鏡で化石の種類や数を検定し、種々の目的にそった調査を行う方法が微化石分析であって、花粉分析はそのひとつである。

堆積物に含まれる花粉化石は、その堆積当時陸上に生育した樹木や草が生産した花粉が、水系や大気系を経由して堆積物粒子とともに埋積したものである。

陸上に生育する樹木や草、つまり“植生”は気候の変化や時代とともに変化し、その変化が堆積物中の花粉化石の構成や量の変化として反映する。

従って、花粉構成や消長データは、地層の識別や対比、古植生の復元に利用することができる。

（２）分析処理法

①分析試料

分析に供する試料は、シルト又は粘土で、その量は10～200g（湿潤重量）である。試料は花粉化石の形状を保持するため湿潤状態のまま使用する。

分析に供する試料の採取間隔は、堆積層の状態と目的によって数センチメートルから数メートルと異なるが、遺跡調査の場合は、一般に遺物に基づく土層区分に
対応した採取間隔をとることが多い。

②分析処理

分析処理の手順は図３－１に示す花粉分処理析フローのとおりである。１ミクロン振動マイクロフィルターを使用することによって、粒径処理を確実にするとともに、処理過程の再現性を高めている。

分析処理に要する薬品・器具設備の概要は以下のとおりである。

１）処理薬品　　：水酸化カリウム、硫酸、フッ化水素、塩化亜鉛　他

２）処理器具、設備：遠心分離機、振動マイクロフィルター、他一般分析器具

〔処理手順〕	〔処理内容〕
基準量摘出	……汚染部分を除去し、試料の粒度により10～200gを使用
泥化分散処理	……KOH溶液等の分散剤により試料をシェイカーで泥化・分散 125μmの篩にて粗粒分を除去
細粒物質除去	……１μ振動篩で粘土分を分離・除去
微化石濃縮	……大型時計皿とアスピレータにより時計皿法で微化石を濃縮
弗化水素酸処理	……珪酸塩鉱物質を溶解・除去
重液分離	……比重 約1.9の重液中で遠心分離し植物質を濃縮
脱水処理	……アセトリシス処理により脱水とセルロース分を溶解・除去
水洗・濃縮	……遠心分離器により水洗し、水溶性物質を溶解・除去
標本作成	……グリセリンゼリーにより包理しプレパラートを作成

図３－１　花粉分析処理フローチャート

③顕微鏡による検定・計数

抽出した花粉化石はグリセリンゼリーと混合してスライドグラス上に滴下し、カバーグラスをかけて封入してプレパラートとする。各試料につき２～３枚のプレパラートを作成する。プレパラートを顕微鏡により400－1000倍率で観察し、メカニカルステージによる帯分析で通常木本花粉で100個から250個の検定、計数を行い、同時に出現する草本花粉の検定、計数も行う。

（3）解析法

花粉分析結果の解析は以下の手順で進める。

1）各花粉種類の出現率（パーセント表示）計算と花粉ダイアグラムの作成

2）各地点における花粉消長パターンの読みとりと花粉帯分帯

3）地層対比や古植生・古気候の復元

3－2　^{14}C（ラジオ・カーボン）年代測定方法

（1）原理

大気圏上層で熱中性子化した宇宙線が窒素原子と原子核反応（$^{14}N^{+n} \rightarrow {}^{14}C+H$）を起こして生成される放射性炭素（$^{14}C$）は$CO_2$として炭素リザーバー（大気1.6％、腐植2.6％、生物圏0.8％、浅海2.0％、深海93％）に貯蔵され、一方では5568（5730）年の半減期でβ－壊変をおこす。光合成等の生命活動を通じて生物体に固定される^{14}Cの初期量は、それぞれの生命活動の行われたリザーバーにおける^{14}Cの平衡状態における量と同じと考えられ、生物体の死滅とともに、閉じた系の中で減衰していくと考えらえる。つまり、生物遺体中の^{14}C濃度を測定し、現在の^{14}C濃度とくらべることにより、その生物が死んでから現在（ただし、1950年を現在とみなす）までの経過年数がわかる。

（2）前処理および測定方法

1）前処理

酸洗浄

2）試料の調整

石墨に調整

3）測定

AMS（加速器質量分析）法による。

タンデム型イオン加速器を用い^{14}C濃度を測定する。

4）年代計算

年代計算を行う際には、^{14}Cの半減期を5568年として行う。

5）補正計算

$\delta^{13}C$を測定・算出し、5）で得られた年代値を補正する。

6）暦年代補正

既知の補正曲線と6）の補正計算値より算出する。

4．分析結果

4－1微化石概査結果

花粉分析用プレパラート、および花粉分析処理残渣を用いた微化石の概査結果は、表4－1、2のとおりである（植物片、炭は花粉分析用プレパラートを観察した。珪藻、火山ガラス、植物珪酸体は、花粉分析処理の残渣を観察した。）。

4－2　花粉分析結果

表4－1　微化石概査結果（西壁）

試料No.	花　粉	植物片	炭	珪　藻	火山ガラス	植物珪酸体
1	◎	○	◎	◎	△	◎
2	◎	○	◎	○	△×	◎
3	◎	○	○	◎	△×	◎
4	◎	○	◎	○	△×	◎
5	◎	○	◎	○	△×	◎
6	○	△	◎	△	△	○
7	◎	△	◎	△	△×	○
8	◎	△	◎	△	△×	○

◎　：十分な数量が検出できる　→　検定・計数可能
○　：少ないが検出できる　→　検定可能・統計処理不可能な場合有り
△　：非常に少ない　→　検定可能・統計処理不可能
△×：極めてまれに検出できる　→　検定可能・統計処理不可能
×　：検出できない　→　検定・計数・統計処理不可能

表4－2　微化石概査結果（東壁）

試料No.	花　粉	植物片	炭	珪　藻	火山ガラス	植物珪酸体
1	△	△	△	△×	△×	△×
2	△	△	△	△×	△	△×

◎　：十分な数量が検出できる　→　検定・計数可能
○　：少ないが検出できる　→　検定可能・統計処理不可能な場合有り
△　：非常に少ない　→　検定可能・統計処理不可能
△×：極めてまれに検出できる　→　検定可能・統計処理不可能
×　：検出できない　→　検定・計数・統計処理不可能

（1）花粉化石の含有状況

10試料の花粉分析を行った結果、全ての試料から統計処理に充分な量の花粉化石が検出された。しかしいくつかの試料では、統計処理に十分な量の木本化石が検出できなかった。

（2）検出された花粉化石の種類

検出された花粉化石は表4－3に示す55種類であった。これらのうち、全試料を通じて花粉組成を特徴づける種類は、以下に示すようなものであった。

①卓越木本花粉

マツ属（複維管束亜属）、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属

②栽培種花粉（栽培の可能性のあるものを含む）

イネ科（40ミクロン以上）

（3）イネ科の細分について

イネ科花粉を粒径から、40ミクロン以上と40ミクロン未満に区分した。

稲作が行われる前の自然堆積物では、イネ科（40ミクロン未満）花粉が高率となることはあるが、イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることはほとんどない。これに対し、稲作が広範に行われだしたと考えられる弥生時代以降においては、自然堆積物でもイネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることが多くなる。さらに稲作遺構での分析結果では、ほとんどの場合イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率で検出される。

表4－3　検出花粉化石一覧表

コード	学　　名	和　　名
	［樹木花粉種類］	
8	*Abies*	モミ属
13	*Pinus*（*Diploxylon*）	マツ属：複維管束亜属
15	*Pinus*（*Haploxylon*）	マツ属：単維管束亜属
23	*Tsuga*	ツガ属
24	*Sciadopitys*	コウヤマキ属
26	*Cryptomeria*	スギ属
27	Cupressaceae	ヒノキ科
28	*Podocarpus*	マキ属
44	*Myrica*	ヤマモモ属
46	*Juglans-Pterocarya*	クルミ属－サワグルミ属
49	*Platycarya*	ノグルミ属
50	*Alnus*	ハンノキ属
51	*Betula*	カバノキ属
53	*Carpinus-Ostrya*	クマシデ属－アサダ属
54	*Corylus*	ハシバミ属
56	*Castanea*	クリ属
58	*Castanopsis-Pasania*	シイノキ属－マテバシイ属
59	*Fagus*	ブナ属
61	*Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属
62	*Quercus*	コナラ亜属
65	*Aphananthe-Celtis*	ムクノキ属－エノキ属
66	*Ulmus-Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属
69	Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科
71	*Salix*	ヤナギ属
72	Viscaceae	ヤドリギ科
77	*Mallotus*	アカメガシワ属
83	*Euptelea*	フサザクラ属
93	*Zanthoxylum*	サンショウ属
95	*Phellodendron*	キハダ属
97	*Rhus*	ウルシ属
98	*Acer*	カエデ属
99	*Aesculus*	トチノキ属
100	*Ilex*	モチノキ属
103	Oleaceae	モクセイ科
109	Araliaceae	ウコギ科
133	*Lonicera*	スイカズラ属
	［草本花粉種類］	
203	*Sagittaria*	オモダカ属
207	*Typha*	ガマ属
208	Liliaceae	ユリ科
230	Cyperaceae	カヤツリグサ科
232	Gramineae（<40）	イネ科：40ミクロン未満
233	Gramineae（>40）	イネ科：40ミクロン以上
255	Ranunculaceae	キンポウゲ科
257	*Thalictrum*	カラマツソウ属
263	Cruciferae	アブラナ科
269	Caryophyllaceae	ナデシコ科
270	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科
279	*Echinocaulon-Persicaria*	ウナギツカミ節－サナエタデ節
289	Fabaceae	マメ科
298	Umbelliferae	セリ科
294	*Impatiens*	ツリフネソウ属
322	*Patrinia*	オミナエシ属
347	Carduoidaceae	キク亜科
349	*Artemisia*	ヨモギ属
350	Cichorioideae	タンポポ亜科

一方図４－１に示すように、イネ科（40ミクロン以上）花粉はイネ属（*Oryza*）を含んでいるが、すべてがイネ属であるわけではない。

これらの状況証拠と事実から、弥生時代以降に高率で検出されるイネ科（40ミクロン以上）花粉について、すべてがイネ属に由来するわけではないが、その多くはイネ属に由来すると推測される。

（４）分析結果

花粉分析の結果を、図４－２、３の花粉ダイアグラムと表４－４、５の花粉化石組成表に示す。花粉ダイアグラムでは計数した木本花粉を基数にし、各々の木本花粉、草本花粉について百分率で表した。また右端の花粉総合ダイアグラムでは木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、それぞれの分類群毎に累積百分率として示した。

また統計処理に耐え難い試料については、検出できた種類を「＊」で示した。

［花粉ダイアグラム］

図４－２西壁の花粉ダイアグラム

図４－２東壁の花粉ダイアグラム

［花粉化石組成表］

表４－４西壁の花粉化石組成表

表４－５東壁の花粉化石組成表

（５）花粉組成の特徴

①西壁

試料№１、２では、木本花粉でスギ属が26、27％、マツ属（複維管束亜属）が17、13％の出現率を示すほか、アカガシ亜属、コナラ亜属が10％程度の出現率を示す。草本花粉では、イネ科（40ミクロン以上）が40％以上の出現率を示す。

試料№３～８では、木本花粉でスギ属が16～30％の出現率を示すほか、上位の試料№３～５でコナラ亜属が30～23％の出現率を示す。草本花粉では、試料№３～８でイネ科（40ミクロン以上）が75～45％の出現率を示す。

②東壁

いずれの試料も統計処理に充分な量の木本花粉が検出できなかったが、試料№１、ではアカガシ亜属が卓越し、マツ属（複維管束亜属）、スギ属を伴っている。これらの試料では、草本花粉、シダ類胞子の割合が高い。草本花粉では、特にイネ科（40ミクロン以上）が高率を示すほか、イネ科（40ミクロン未満）、ヨモギ属も高率を示す。

２－３　^{14}C年代測定結果

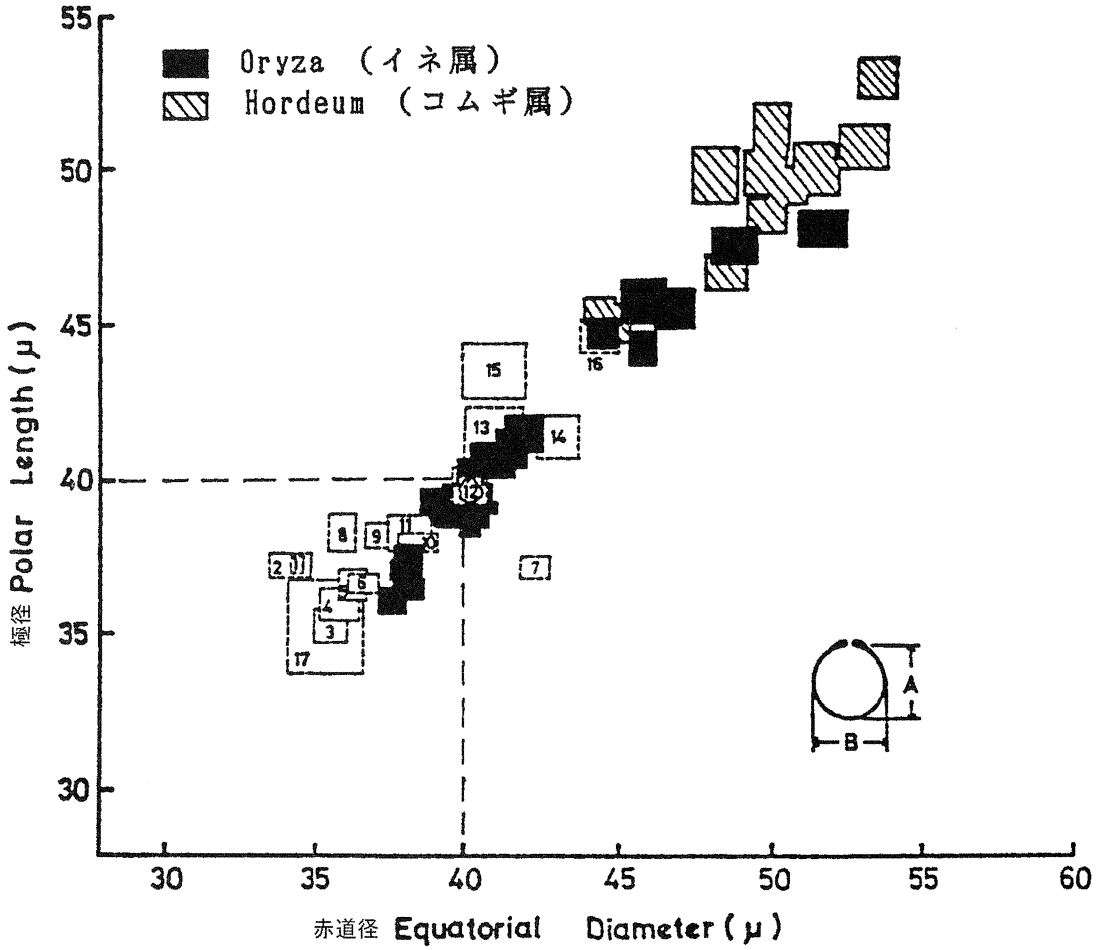
測定結果を表４－６に示す。

表４－６には、測定年代、δ^{13}C補正年代、暦年代の３種類の年代値を示してある。

測定年代は，従来は実年代として用いられてきた値である。^{14}C濃度が環境，時代にかかわらず常に一定であるという仮定の下に，リビーの半減期（5568年）を用いて計算した値である。

δ^{13}C補正年代は，^{14}C濃度が環境により変動することから，δ^{13}Cを測定し，δ^{13}C＝－25‰に規格化した^{14}C濃度を求め，年代値を算出したものである。

上記の年代は，いずれも西暦1950年から遡った年代値で示してある。



［図中のイネ・コムギ以外のイネ科］

1. Zizania latifolia （マコモ）
2. Imperata cylindrica var.koenigii （チガヤ）
3. Trisetum bifidum （カニツリグサ）
4. Arthraxon hispidus （コブナグサ）
5. Digitaria adscendens （メヒシバ）
6. Echinochloa crusgalli subsp.edulis
7. Polypogen monspeliensis （ヒエガエリ）
8. Phalaris arundinacea （クサヨシ）
9. Beckmannia syzigachne （カズノコグサ）
10. Echinochloa crusgalli var.longiseta
11. Alopecurus aequalis var.amurensis（スズメノテッポウ）
12. Echinochloa crusgalli
13. Paspalum thunbergii
14. Alopecurus japonicus
15. Echinochloa crusgalli var.oryzicola
16. Agropyron ciliare var.minus （アオカモジグサ）
17. Phragmites communis （アシ）

図4－1　イネ科花粉の粒径比較図（中村,1974）

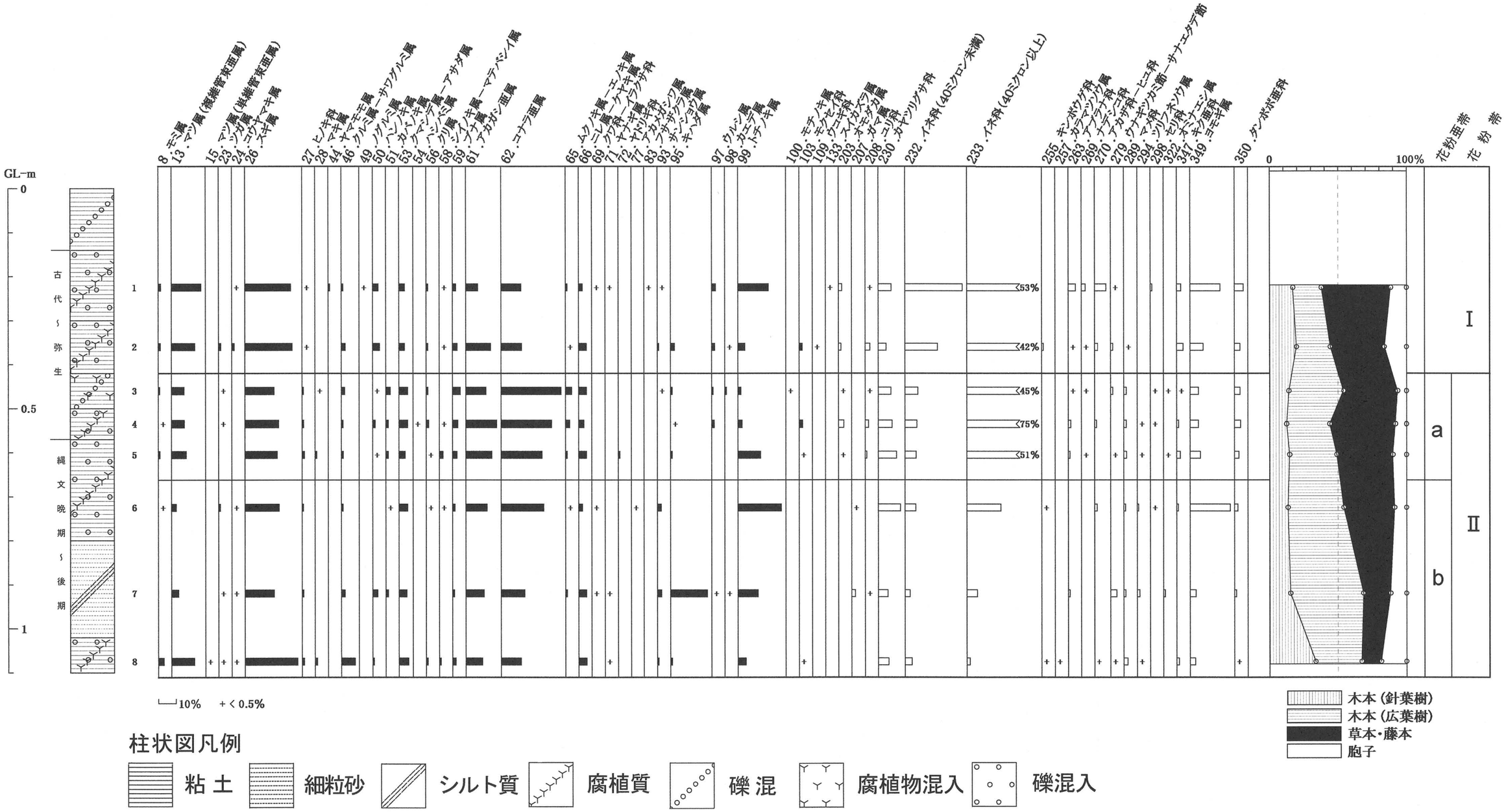


図4−2　前田遺跡西壁の花粉ダイアグラム

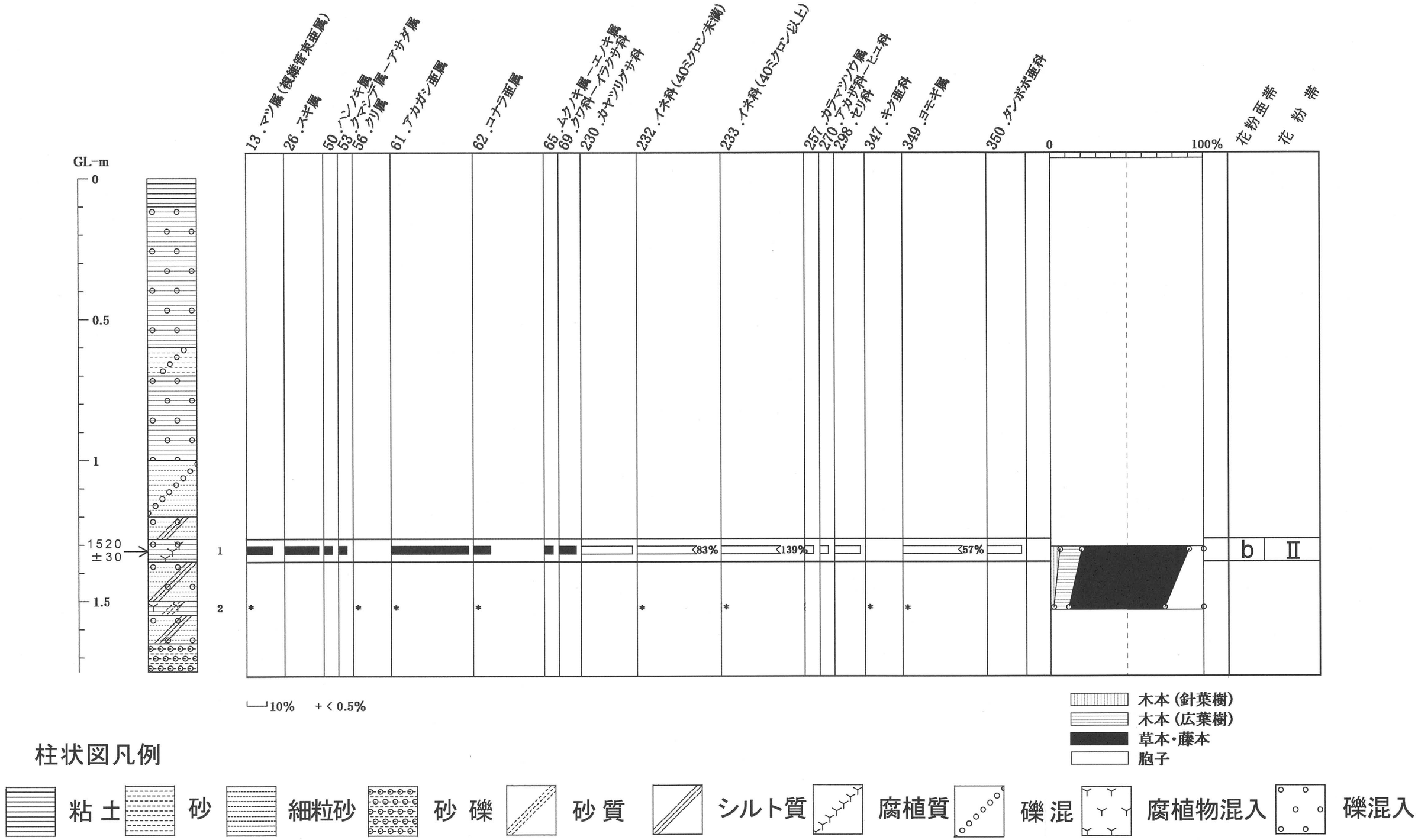


図4－3　前田遺跡東壁の花粉ダイアグラム

図4−3　西壁の花粉代石組成表

コード	学名	和名	試料No 1	2	3	4	5	6	7	8
8	*Abies*	モミ属	3 1%	3 1%	2 1%	1 0%	2 1%	1 0%		7 3%
13	*Pinus(Diploxylon)*	マツ属：複維管束亜属	37 17%	30 13%	16 7%	15 7%	17 8%	6 3%	8 4%	29 13%
15	*Pinus(Haploxylon)*	マツ属：単維管束亜属								1 0%
23	*Tsuga*	ツガ属		3 1%	1 0%	1 0%		2 1%	1 0%	1 0%
24	*Sciadopitys*	コウヤマキ属	1 0%	3 1%				1 0%	1 0%	1 0%
26	*Cryptomeria*	スギ属	57 26%	60 27%	37 16%	39 19%	37 18%	43 19%	33 16%	66 30%
27	Cupressaceae	ヒノキ科	1 0%	1 0%	2 1%	2 1%	3 1%	2 1%	2 1%	3 1%
28	*Podocarpus*	マキ属			1 0%		2 1%			3 1%
44	*Myrica*	ヤマモモ属	2 1%							
46	*Juglans-Pterocarya*	クルミ属−サワグルミ属	2 1%	5 2%	4 2%	2 1%	2 1%	2 1%	4 2%	17 8%
49	*Platycarya*	ノグルミ属	1 0%							
50	*Alnus*	ハンノキ属	7 3%	9 4%	1 0%	3 1%	1 0%		6 3%	2 1%
51	*Betula*	カバノキ属			6 3%	3 1%	3 1%	1 0%	3 1%	
53	*Carpinus-Ostrya*	クマシデ属−アサダ属	7 3%	7 3%	11 5%	10 5%	7 3%	11 5%	9 4%	12 5%
54	*Corylus*	ハシバミ属				1 0%				
56	*Castanea*	クリ属	2 1%	2 1%	2 1%	3 1%	1 0%	1 0%		2 1%
58	*Castanopsis-Pasania*	シイノキ属−マテバシイ属	1 0%	1 0%		1 0%	4 2%	1 0%		2 1%
59	*Fagus*	ブナ属	4 2%	6 3%	10 4%	6 3%	5 2%	3 1%	2 1%	4 2%
61	*Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属	15 7%	32 14%	26 12%	36 17%	30 15%	27 12%	21 10%	21 9%
62	*Querucus*	コナラ亜属	25 11%	26 12%	77 34%	59 29%	47 23%	54 24%	27 13%	25 11%
65	*Aphananthe-Celtis*	ムクノキ属−エノキ属	2 1%	1 0%	8 4%	5 2%	2 1%	1 0%	2 1%	
66	*Ulmus-Zelkova*	ニレ属−ケヤキ属	5 2%	10 4%	10 4%	6 3%	9 4%	5 2%	9 4%	10 5%
69	Moraceae-Urticaceae	クワ科−イラクサ科	1 0%					1 0%	1 0%	
71	*Salix*	ヤナギ属	1 0%						1 0%	1 0%
72	Viscaceae	ヤドリギ科					2 1%			
77	*Mallotus*	アカメガシワ属						1 0%		
83	*Euptelea*	フサザクラ属	1 0%							
93	*Zanthoxylum*	サンショウ属	1 0%	2 1%	1 0%			5 2%	5 2%	2 1%
95	*Phellodendron*	キハダ属		5 2%	2 1%	1 0%	2 1%		42 21%	2 1%
97	*Rhus*	ウルシ属	5 2%	4 2%	2 1%	3 1%			1 0%	
98	*Acer*	カエデ属		1 0%	2 1%				1 0%	
99	*Aesculus*	トチノキ属	38 17%	9 4%	4 2%	5 2%	26 13%	55 25%	23 11%	10 5%
100	*Ilex*	モチノキ属			1 0%					
103	Oleaceae	モクセイ科		4 2%		4 2%	1 0%			1 0%
109	Araliaceae	ウコギ科		1 0%						
133	*Lonicera*	スイカズラ属	1 0%							
203	*Sagittaria*	オモダカ属	4 2%	3 1%	1 0%	6 3%	1 0%			
207	*Typha*	ガマ属						1 0%	4 2%	
208	Liliaceae	ユリ科	1 0%	6 3%	1 0%	4 2%	2 1%		1 0%	
230	Cyperaceae	カヤツリグサ科	16 7%	10 4%	16 7%	16 8%	21 10%	28 13%	11 5%	13 6%
232	Gramineae(<40)	イネ科：40ミクロン未満	72 33%	42 19%	17 8%	14 7%	13 6%	14 6%	6 3%	9 4%
233	Gramineae(>40)	イネ科：40ミクロン以上	116 53%	95 42%	101 45%	155 75%	103 51%	43 19%	12 6%	4 2%
255	Ranunculaceae	キンポウゲ科		2 1%				1 0%		1 0%
257	*Thalictrum*	カラマツソウ属								1 0%
263	Cruciferae	アブラナ科	9 4%	1 0%	1 0%	3 1%	2 1%		2 1%	
269	Caryophyllaceae	ナデシコ科	5 2%	1 0%	1 0%		1 0%			
270	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科−ヒユ科	15 7%	4 2%		2 1%		3 1%		1 0%
279	*Echinocaulon-Persicaria*	ウナギツカミ節−サナエタデ節	1 0%	3 1%	3 1%		1 0%		7 3%	1 0%
289	Fabaceae	マメ科		1 0%	3 1%	3 1%	3 1%	2 1%	2 1%	5 2%
294	*Impatiens*	ツリフネソウ属				1 0%	1 0%	2 1%	3 1%	1 0%
298	Umbelliferae	セリ科	2 1%		1 0%	1 0%		1 0%		
322	*Patrinia*	オミナエシ属			1 0%		1 0%		2 1%	
347	Carduoidae	キク亜科	5 2%	8 4%	1 0%	2 1%	4 2%	2 1%		3 1%
349	*Artemisia*	ヨモギ属	38 17%	17 8%	11 5%	10 5%	12 6%	51 23%	7 3%	7 3%
350	Cichorioideae	タンポポ亜科	11 5%	7 3%	7 3%	7 3%	5 2%	4 2%	2 1%	1 0%
402	MONOLATE-TYPE-SPORE	単条孔胞子	49 22%	75 33%	20 9%	24 12%	29 14%	25 11%	31 15%	56 25%
403	TRILATE-TYPE-SPORE	三条孔胞子	18 8%	8 4%	7 3%	14 7%	12 6%	11 5%	3 1%	5 2%
	木本花粉総数		220 38%	225 44%	226 54%	206 44%	203 49%	223 54%	202 68%	222 67%
	草本花粉総数		295 51%	200 39%	165 39%	224 48%	170 41%	152 37%	59 20%	47 14%
	胞子総数		67 12%	83 16%	27 6%	38 8%	41 10%	36 9%	34 12%	61 18%

図4－5　東壁の花粉化石組成表

コード	学　　名	和　　名	試　料　No	
			1	2
13	*Pinus*（*Diploxylon*）	マツ属：複維管束亜属	3 13%	1 17%
26	*Cryptomeria*	スギ属	4 17%	
50	*Alnus*	ハンノキ属	1 4%	
53	*Carpinus-Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	1 4%	
56	*Castanea*	クリ属		1 17%
61	*Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属	9 39%	2 33%
62	*Querucus*	コナラ亜属	2 9%	2 33%
65	*Aphananthe-Celtis*	ムクノキ属－エノキ属	1 4%	
69	Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科	2 9%	
230	Cyperaceae	カヤツリグサ科	6 26%	
232	Gramineae（＜40）	イネ科：40 ミクロン未満	19 83%	24 400%
233	Gramineae（＞40）	イネ科：40 ミクロン以上	32 139%	6 100%
257	*Thalictrum*	カラマツソウ属	1 4%	
270	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	1 4%	
298	Umbelliferae	セリ科	3 13%	
347	Carduoidae	キク亜科		1 17%
349	*Artemisia*	ヨモギ属	13 57%	1 17%
350	Cichorioideae	タンポポ亜科	4 17%	
402	MONOLATE-TYPE-SPORE	単条孔胞子	10 43%	12 200%
403	TRILATE-TYPE-SPORE	三条孔胞子	1 4%	1 17%
	木本花粉総数		23 20%	6 12%
	草本花粉総数		79 70%	32 63%
	胞子総数		11 10%	13 25%

一方暦年代は，時代（時間）と共にランダムに変化している大気中二酸化炭素の^{14}C濃度を、樹木の年輪や海底堆積物の縞状粘土、サンゴの年輪から明らかにして得られた暦年代較正データ（INTCAL98）を用いて、較正したものである。

5. 考察

5－1花粉分帯

花粉分析結果を基に、花粉分帯を行った。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、花粉組成の変遷をより明確にするために下位（過去）から上位（現代）に向けて記載する。このため、試料№も下位から上位に向けて記載している。

（1）Ⅱ帯（東壁試料№１、西壁試料№８～３）

スギ属、コナラ亜属が卓越するが、スギ属は減少傾向、コナラ亜属は増加傾向を示す。その他マツ属（複維管束亜属）、アカガシ亜属が低率で安定して出現し、キハダ属、トチノキ属が試料により高率を示す。また、イネ科（40ミクロン以上）が上位で卓越する。

スギ属、コナラ亜属、イネ科（40ミクロン以上）の出現傾向より、下位のb亜帯（試料№８～６）、上位のa亜帯（試料№５～３）に細分した。b亜帯ではスギ属が卓越し、a亜帯では、コナラ亜属、イネ科（40ミクロン以上）が卓越する。

東壁ではアカガシ亜属が卓越し、やや様相が異なる。しかし、検出数が少ないことと、スギ属がやや高率であること、イネ科（40ミクロン以上）が高率であることからb亜帯に含めた。

（2）Ⅰ帯（試料№２、１）

スギ属が卓越し、マツ属（複維管束亜属）、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。草本花粉では、イネ科（40ミクロン以上）が卓越する。

5－2 ^{14}C年代値について

出土遺物から、縄文時代後期から晩期以前の年代値が期待されていたが、得られた年代値は古墳時代を示していた。

現地の状況から生物擾乱による上位からの混入は考えにくく、試料採取時の混入も考えにくい。また、採取後すぐに乾燥処理を実施したことから、「カビ」による汚染も考えがたい。以上のように、得られた年代がノイズを含む可能性は低いと考えられる。

一方で、上位に縄文土器のみが含まれる礫層が存在するなど、出土遺物（土器）からの年代観も動かしがたいものである。

年代観の可否を判断するには、再度の年代測定および出土遺物の再検討が不可欠である。しかし、^{14}C試料の再度の採取ができない状況であることから、出土遺物の再検討（現状では整理中の段階であり、今後の検討が期待される。）が待たれる。

5－3 古植生推定

島根県東部山間地域では従来微化石分析が行われることが無く、近年になり尾原ダム建設関連の発掘調査に伴い渡辺（2003）、渡辺（2004a）、渡辺（2004b）が報告されたのみである。したがって現状では、各地点間で微化石の出現傾向を比較検討するには、資料が乏しい状況である。周辺地域の古環境復元には今回の報告を含め、さらなる資料の蓄積が必要不可欠である。

本項では、各堆積時期毎に花粉・植物珪酸体分析の結果から遺跡近辺の古植生につて考察を加える。また各層の年代観について、前述のように再考の余地があることから、ここでは花粉帯に年代観を入れずにおく。

（1）Ⅱ帯b亜帯期

①前半（東壁に認められる谷の埋積時期）

今回検出された主な花粉の種類を大別すると、渓谷林および谷斜面要素（スギ属、トチノキ属）、照葉樹林要素（アカガシ亜属）、二次林・里山要素（マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属）、林縁要素（キハダ属）とすることができる。

東壁の分析結果では照葉樹林要素、二次林・里山要素が卓越することから、周辺地域の山々には本来のカシ類を要素とする照葉樹林が広がっていたと考えられる一方で、すでに人間による森林破壊が始まっており、局所的にアカマツやコナラ類を主要素とする二次林化が認められたと考えられる。斐伊川にそそぐ小河川沿いの湿地にはハンノキ類の樹木、ヨシやカヤツリグサ科、セリ科、カラマツソウ属の草本が生育していたと考えられる。さらに河原にはキク科の草本が生育していたと考えられる。また、イネ科（40ミクロン以上）花粉も高率を示し稲作が示唆されるが、同時にイネ科（40ミクロン未満）花粉も高率を示すことから、イネ科（40ミクロン以上）花粉がイネに由来しない可能性もある。今後、プラント・オパール分析を実施し、確認する必要がある。

②後半（西壁に認められる谷の埋積時期）

東壁で認められる谷が埋まり、さらに幅の狭い谷が解析されたと考えられる。谷筋にはトチノキやクルミ類、スギが生育していたと考えられる。また、局所的に開けた場所にはキハダなどが生育し、草本が茂るような開放的な場所は少なかったと考えられる。

（2）Ⅱ帯a亜帯期

草本花粉の検出量が増え、調査値近辺に開放的な場所が広がったと考えられる。このことは、イネ科（40ミクロン以上）花粉の割合が急増し稲作が示唆されることと、整合的である。

また、背後から周辺の山々にはコナラ類やアカマツを要素とする二次林が分布するほか、カシ類を要素とする照葉樹林がパッチ状に分布していたと考えられる。一方スギも、近辺から周囲の谷斜面に分布していたと考えられる。

（3）Ⅰ帯期

前帯からさらに草本花粉の割合が高くなり、イネ科（40ミクロン以上）花粉のほか、イネ科（40ミクロン未満）花粉、キク科花粉も検出量が増える。木本花粉のうちコナラ亜属花粉が減少し、他の要素が全般に増加することから、調査地近辺のコナラ類二次林が消滅し、裸地あるいは水田に変わった可能性が指摘できる。調査地近辺での「鉋流し」による影響である可能性もある。また、トチノキ属花粉が突然増加する試料（試料№1）もあることから、局所的にトチノキが生育していた可能性もある。

6．まとめ

^{14}C年代測定の結果と、出土遺物から推定される堆積年代観が一致しなかった。原因について現状では不明であり、今後の出土遺物の検討にゆだねられる。

花粉分析結果を踏まえ、遺跡近辺の古環境を考察した。特筆すべき点は以下の事柄である。

①Ⅱ帯a亜帯期以降、周辺地域で稲作が行われたと考えられる。

②Ⅱ帯からⅠ帯への変化は、「鉋流し」による裸地の増加による可能性がある。

7．引用文献

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究，13，187－197.

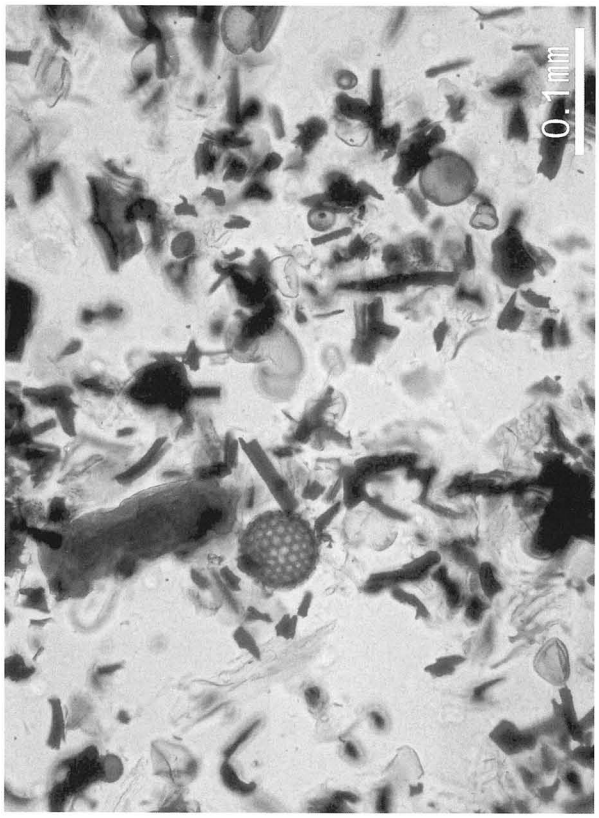
文化財調査コンサルタント㈱（2001a）尾原ダム建設に伴う家ノ脇Ⅱ遺跡発掘調査に係る自然科学分析．P30，内部資料.

渡辺正巳（2003）家の後Ⅰ遺跡発掘調査に係る花粉、植物珪酸体分析．家の後Ⅰ遺跡・垣ノ内遺跡，尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書，2，31－36，国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会.

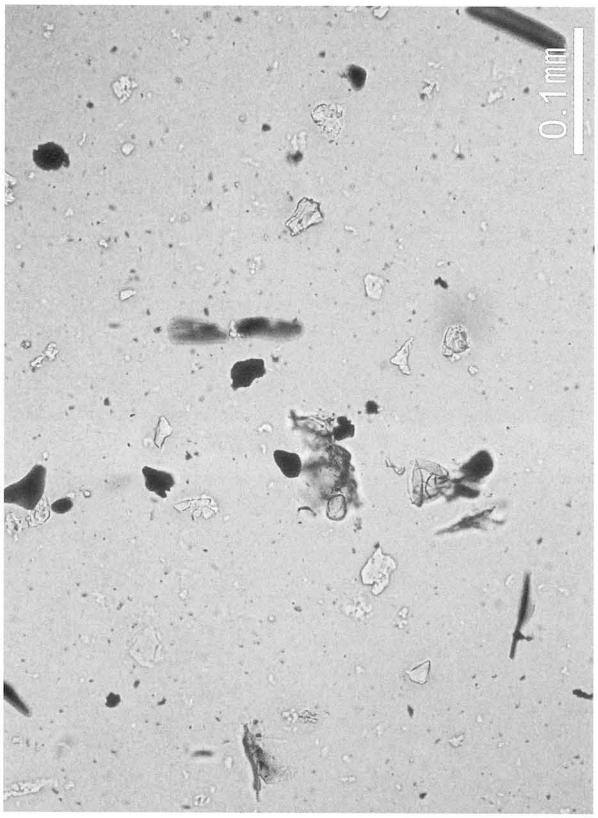
渡辺正巳（2004a）家ノ脇Ⅱ遺跡における花粉分析および植物珪酸体分析．家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡1区・前田遺跡Ⅳ区，尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書，4，346－351，国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会.

渡辺正巳（2004b）原田遺跡における自然科学分析．家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡1区・前田遺跡4区，尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書，4，352－358，国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会.

花粉化石含有状況

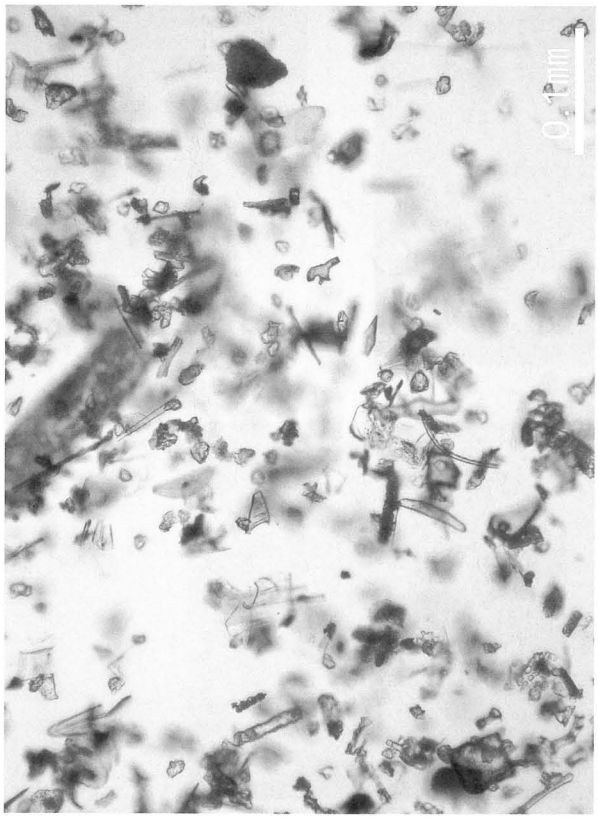


No.1 地点試料No.1

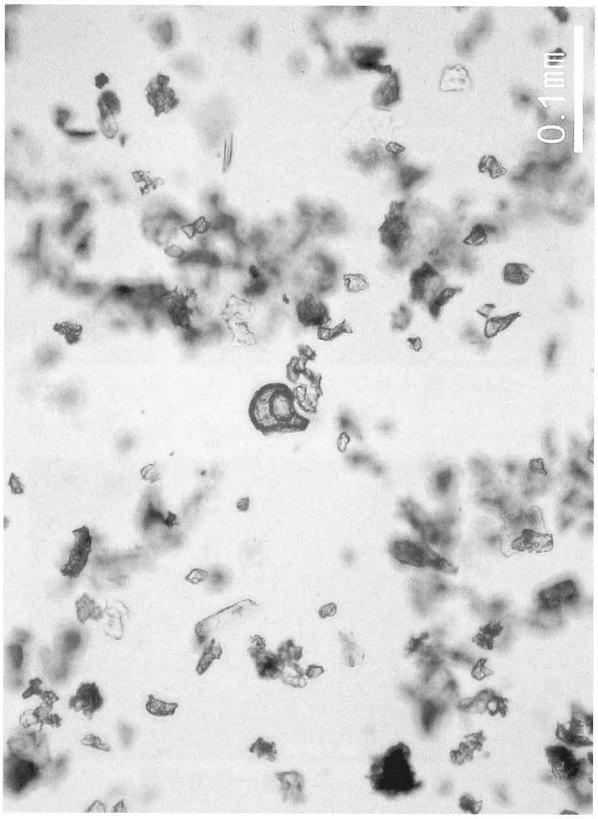


No.2 地点試料No.1

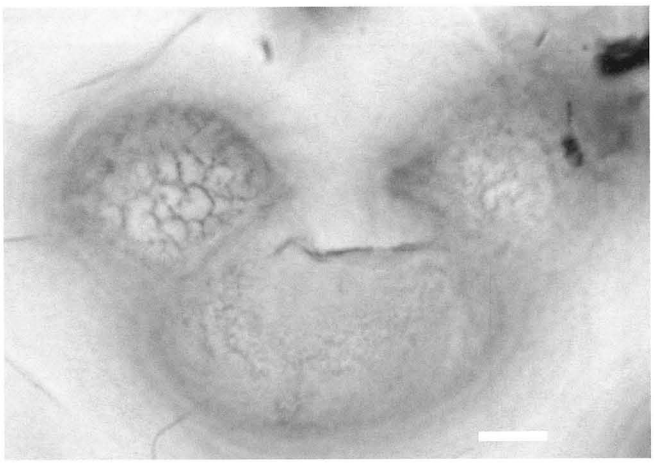
珪酸質微化石含有状況



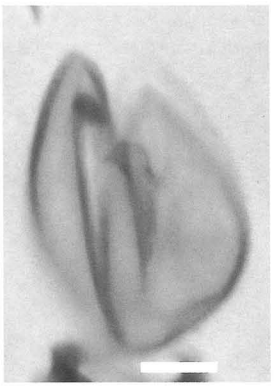
No.1 地点試料No.1



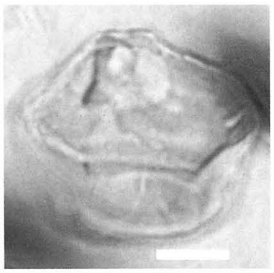
No.1 地点試料No.7



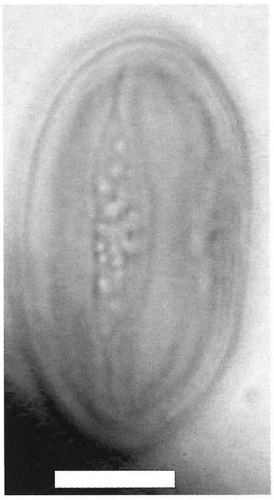
マツ属（複維管束亜属）



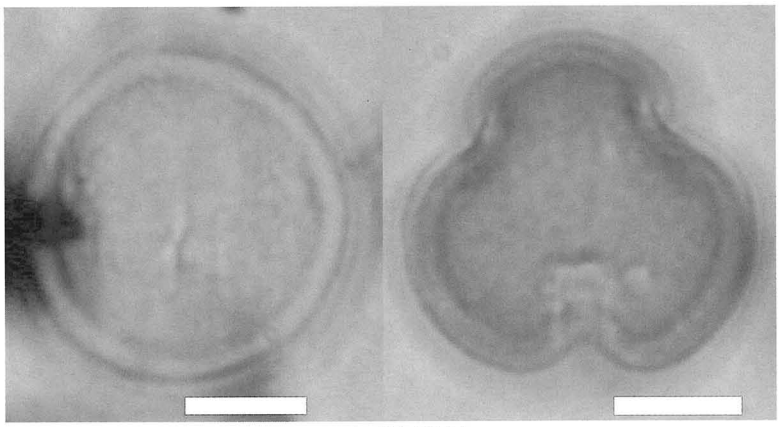
スギ属



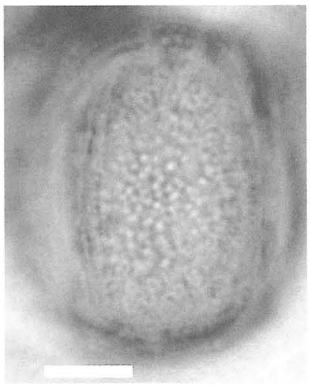
ハンノキ属



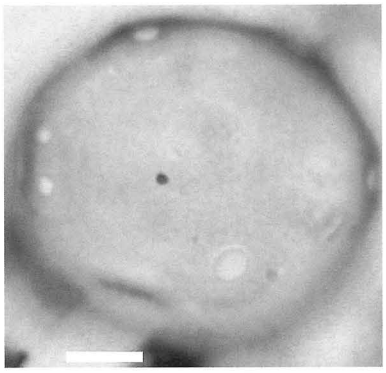
トチノキ属



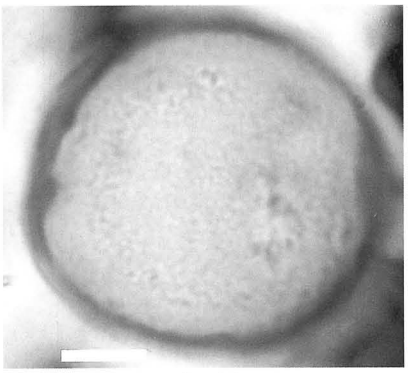
アカガシ亜属



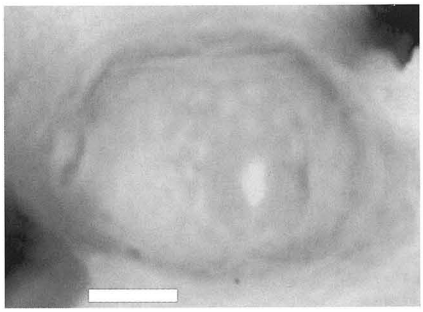
コナラ亜属



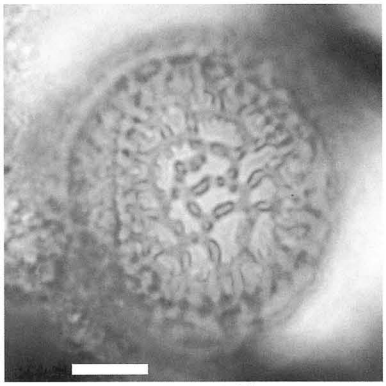
クルミ属ーサワグルミ属



ブナ属

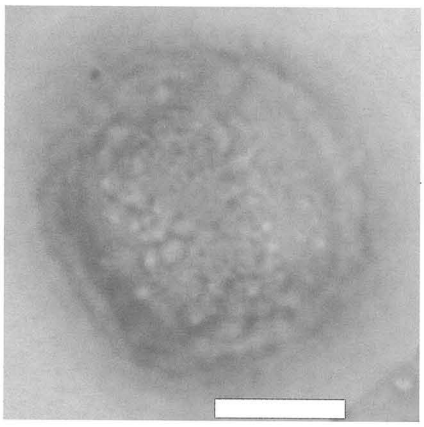


ニレ属ーケヤキ属

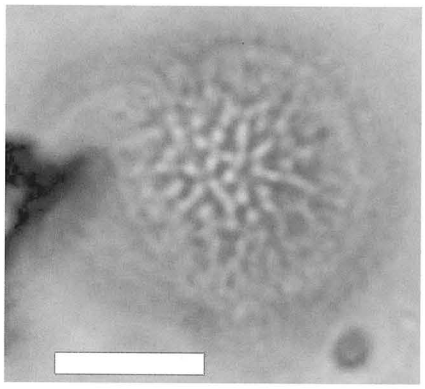


モクセイ科

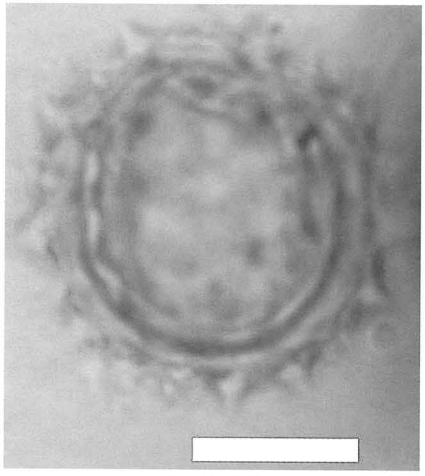
スケールバーは全て0.01mm（10 μm）



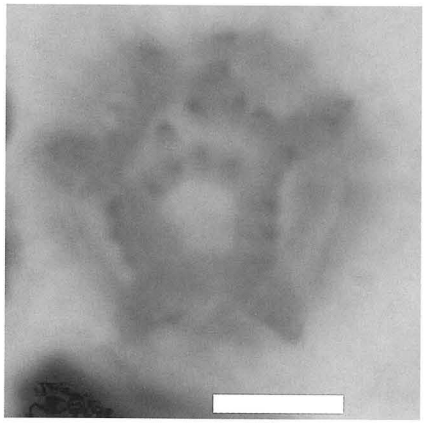
オモダカ属



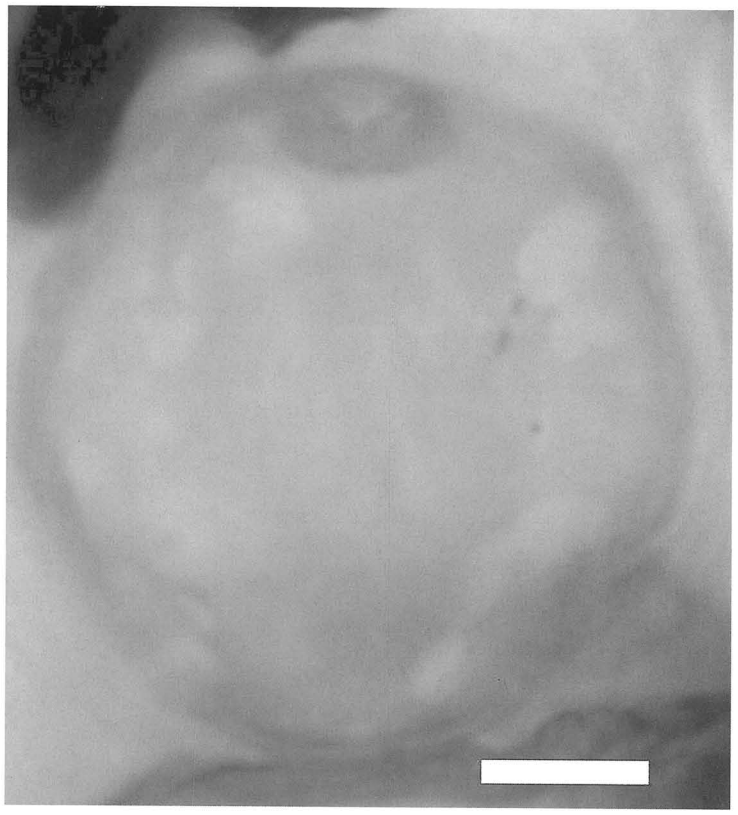
アブラナ科



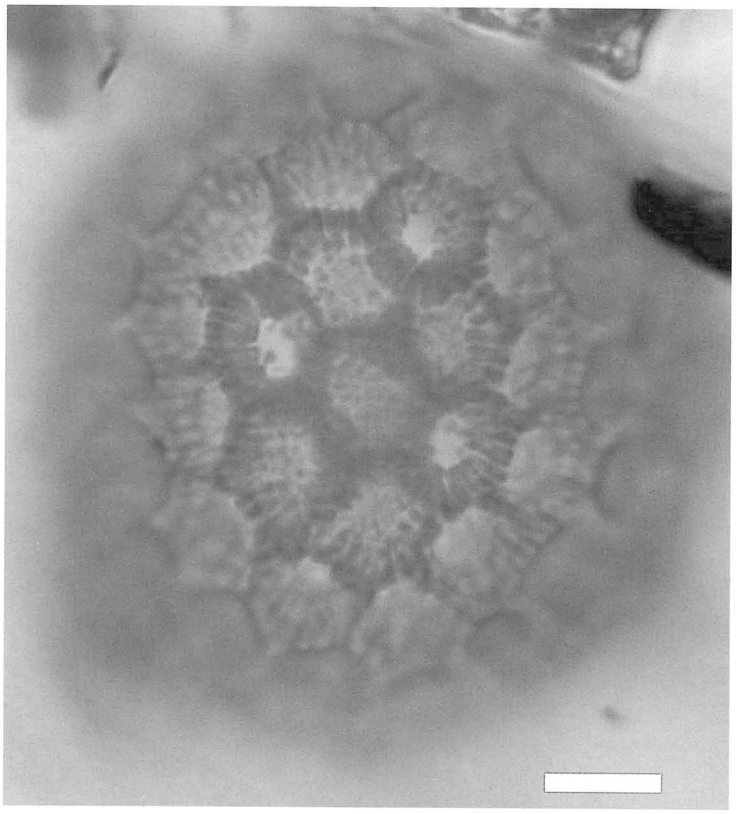
キク亜科



タンポポ亜科



イネ科（40ミクロン以上）

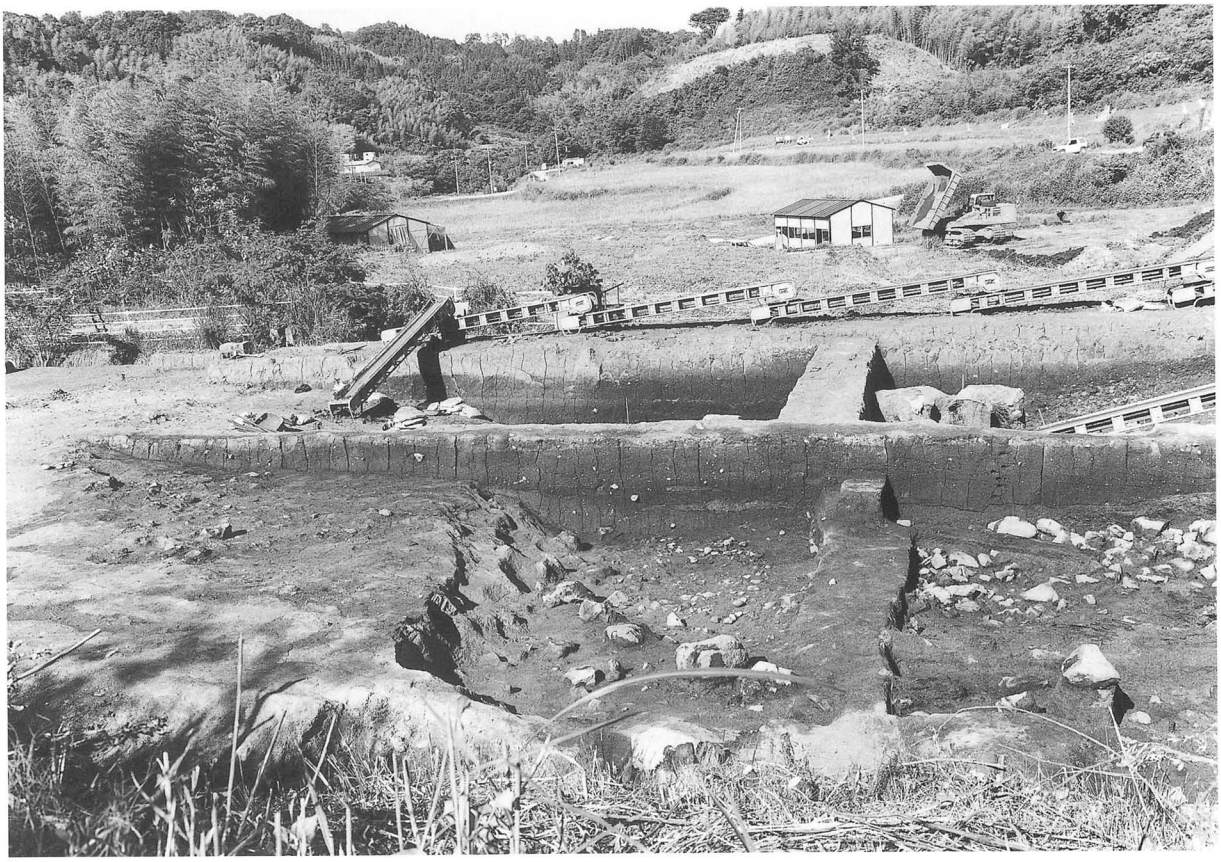


ウナギツカミ節ーサナエタデ節

スケールバーは全て0.01mm（10 μm）

図版2

前田遺跡調査前全景（南上空から）



Ⅰ区土層断面（西から）①

Ⅰ区土層断面（西から）②

Ⅰ区流路跡調査中状況

図版４

Ⅰ区完掘状況（南西から）

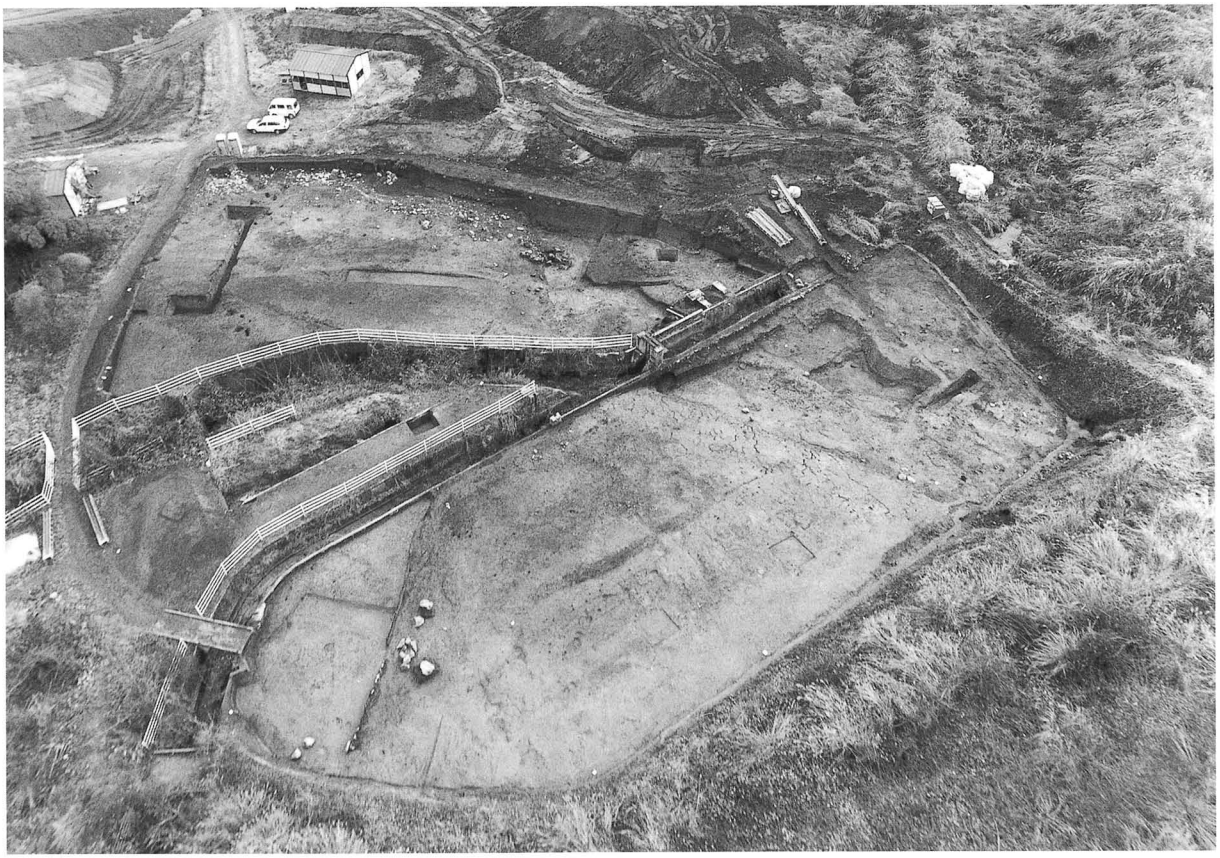
Ⅱ区トレンチ旧水路検出状況

土器埋設遺構土層断面（北から）

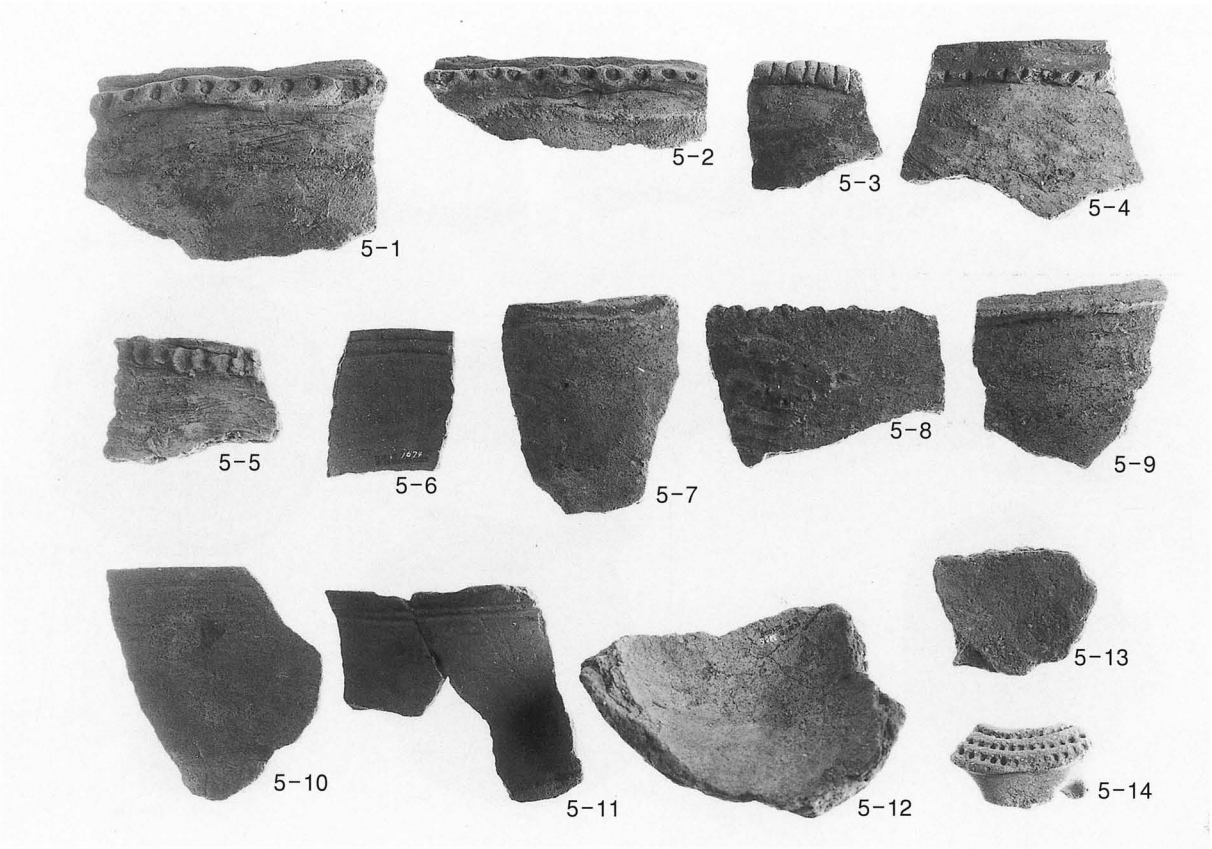
土器埋設遺構埋土完掘状況（北から）

図版6

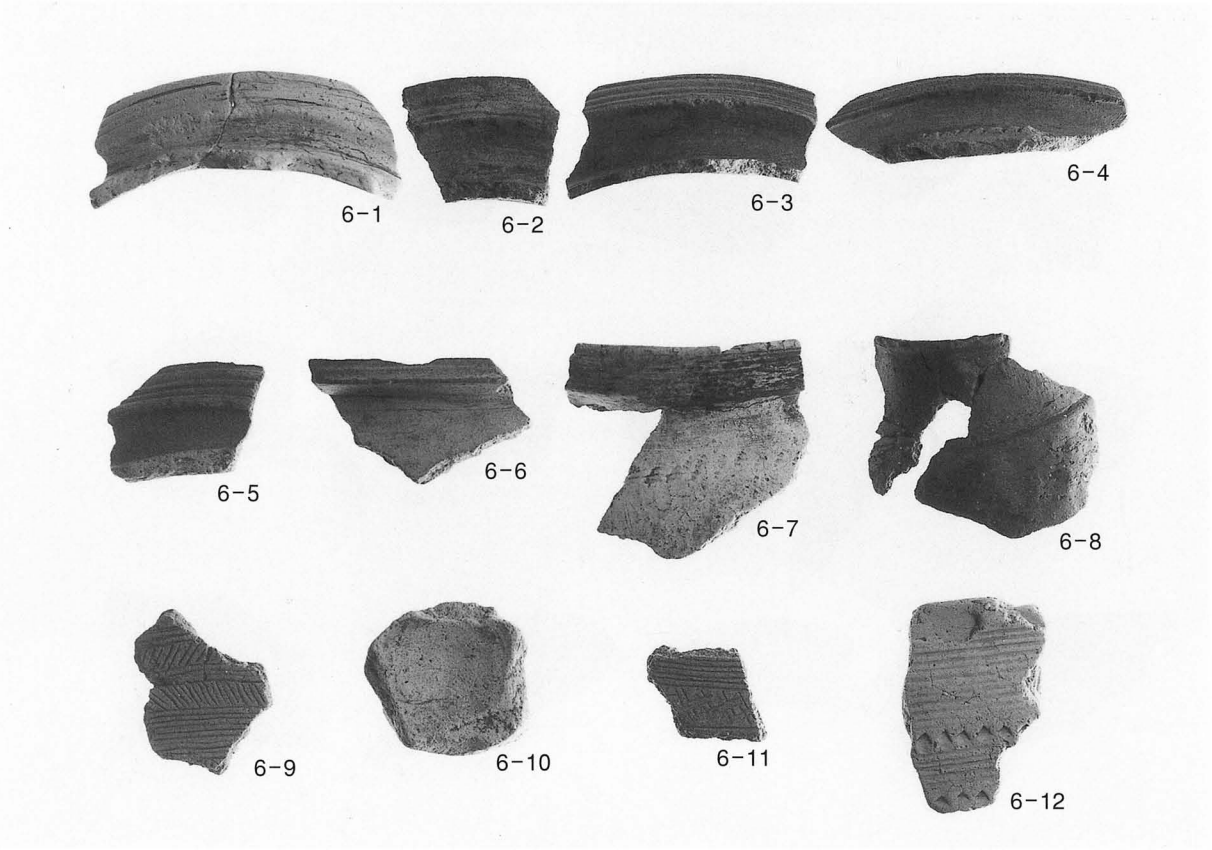
第3調査区完掘状況（北から）



前田遺跡調査後状況（西から）

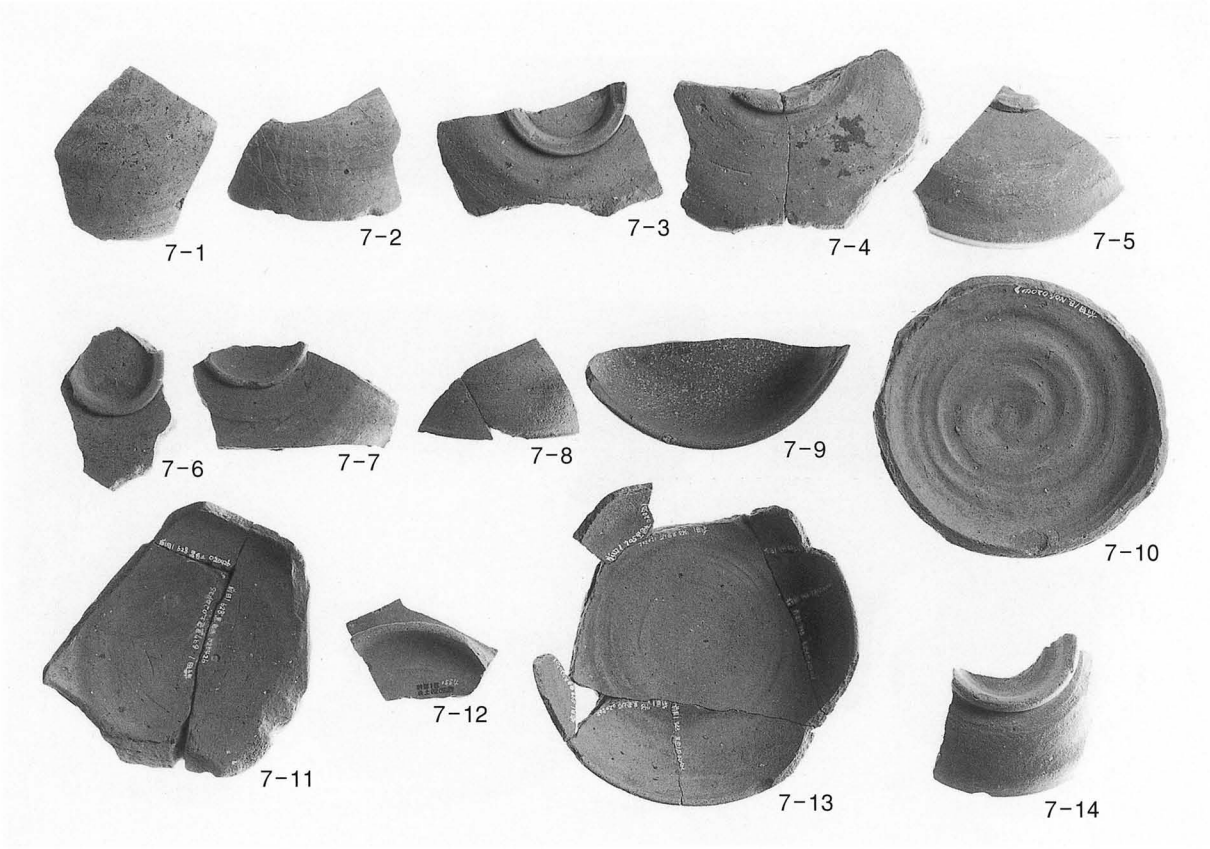


前田遺跡出土縄文土器

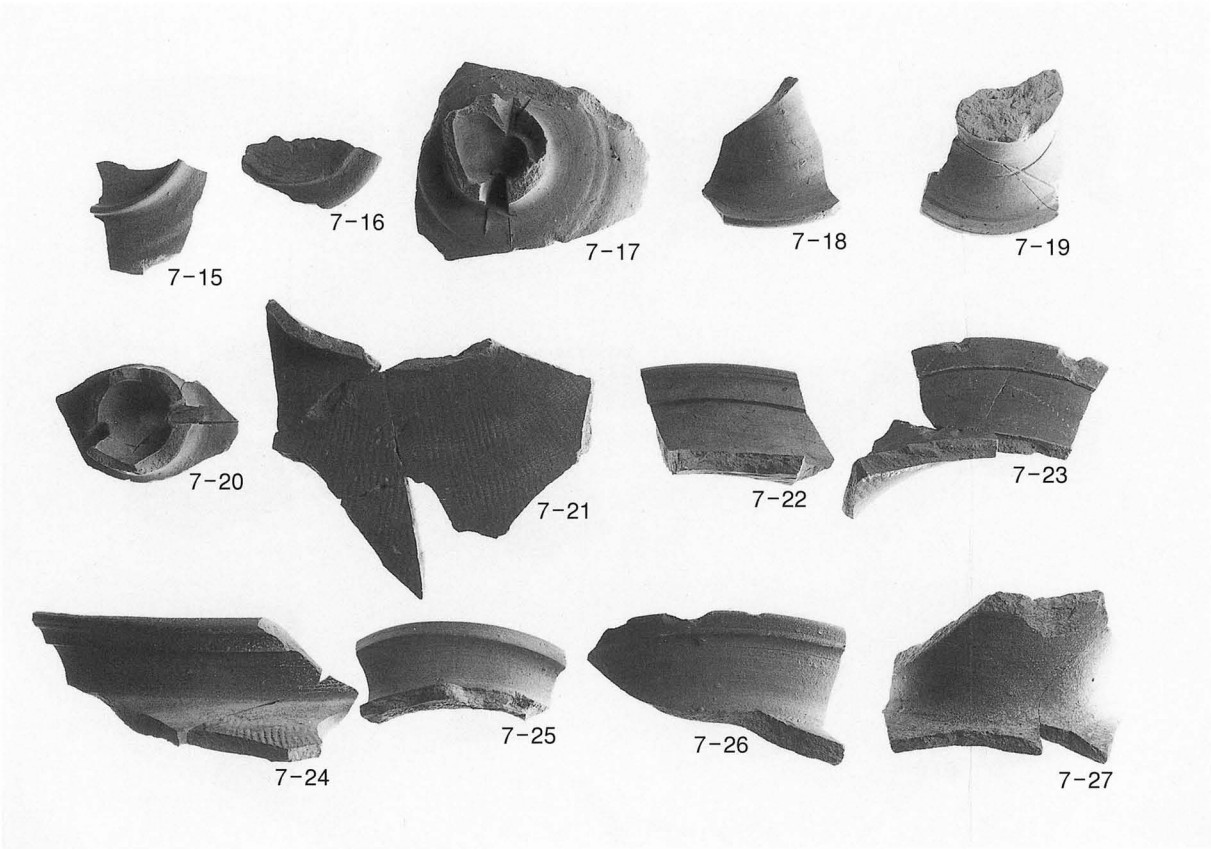


前田遺跡出土弥生土器

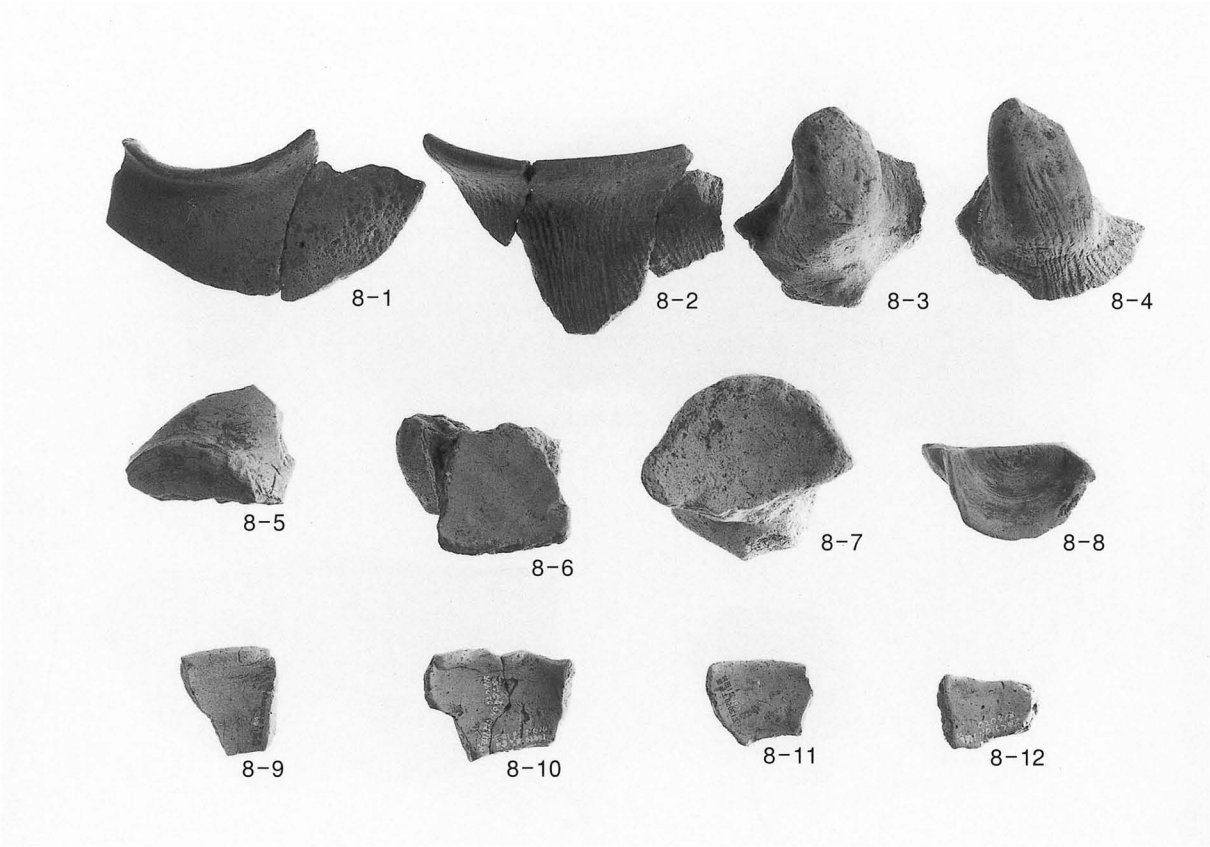
図版８



前田遺跡出土須恵器①



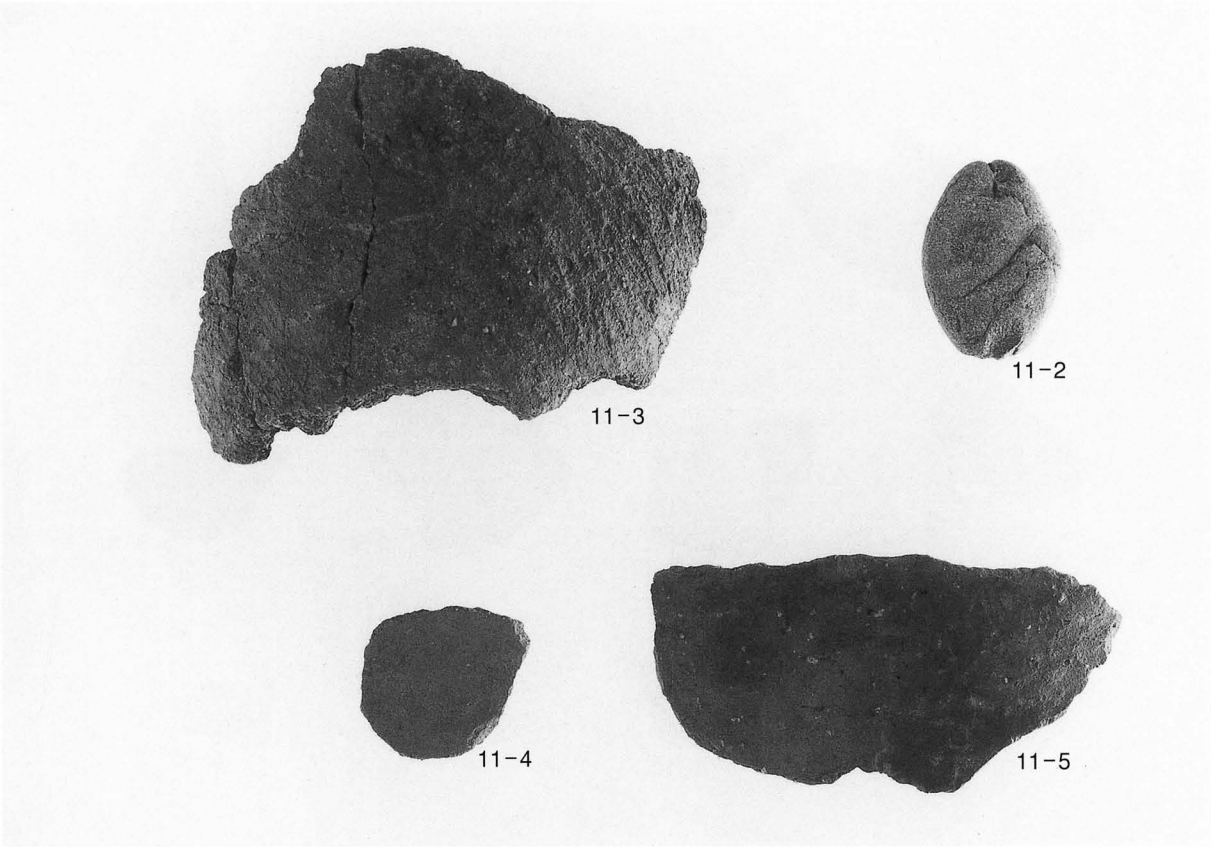
前田遺跡出土須恵器②



前田遺跡出土土師器

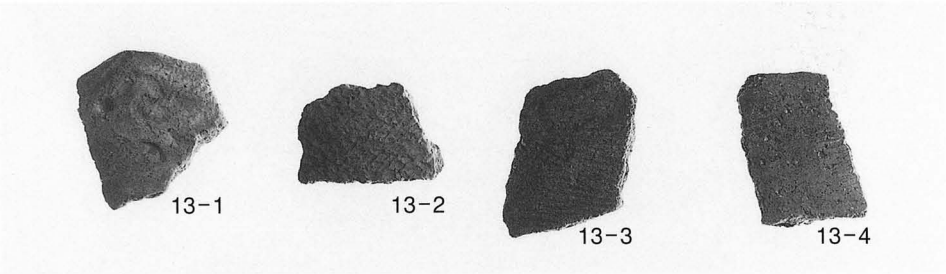
前田遺跡土器埋設遺構出土遺物①

図版10

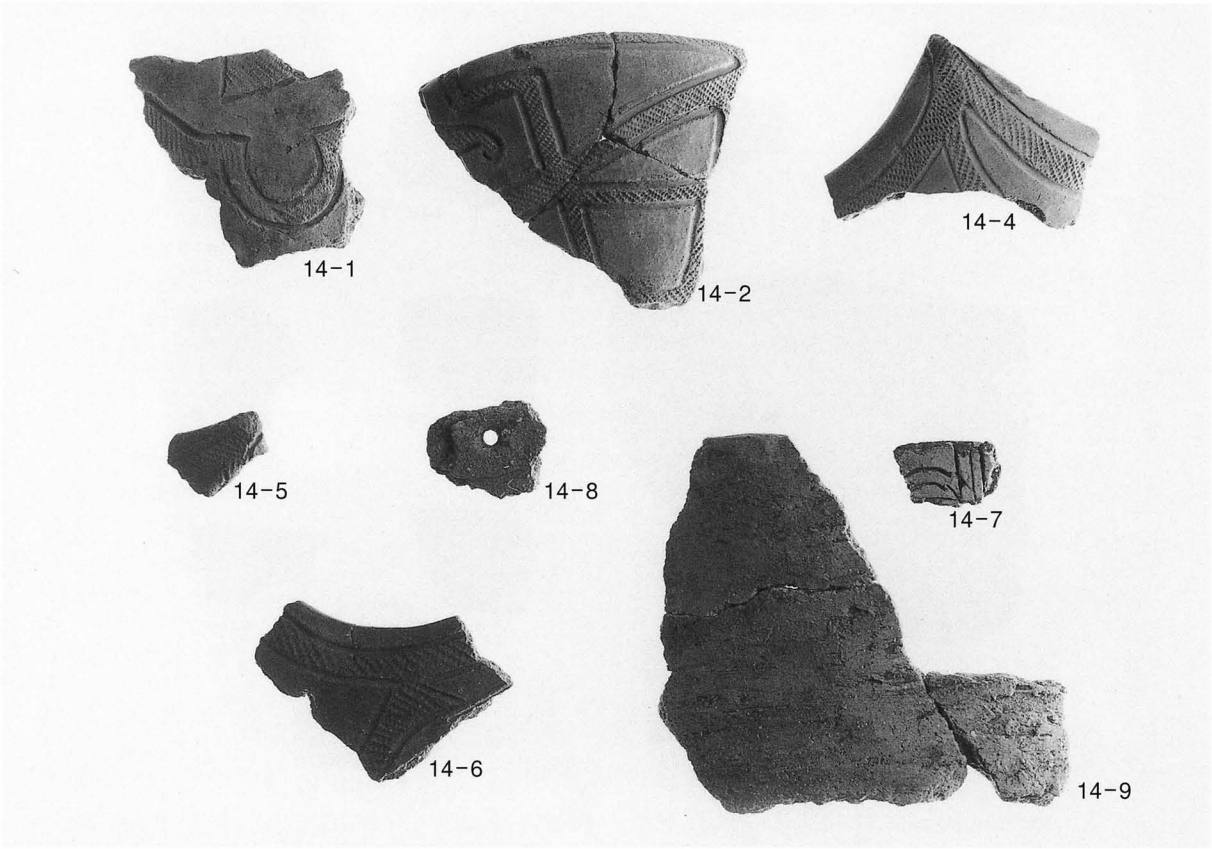


前田遺跡土器埋設遺構出土遺物②

前田遺跡出土土製品



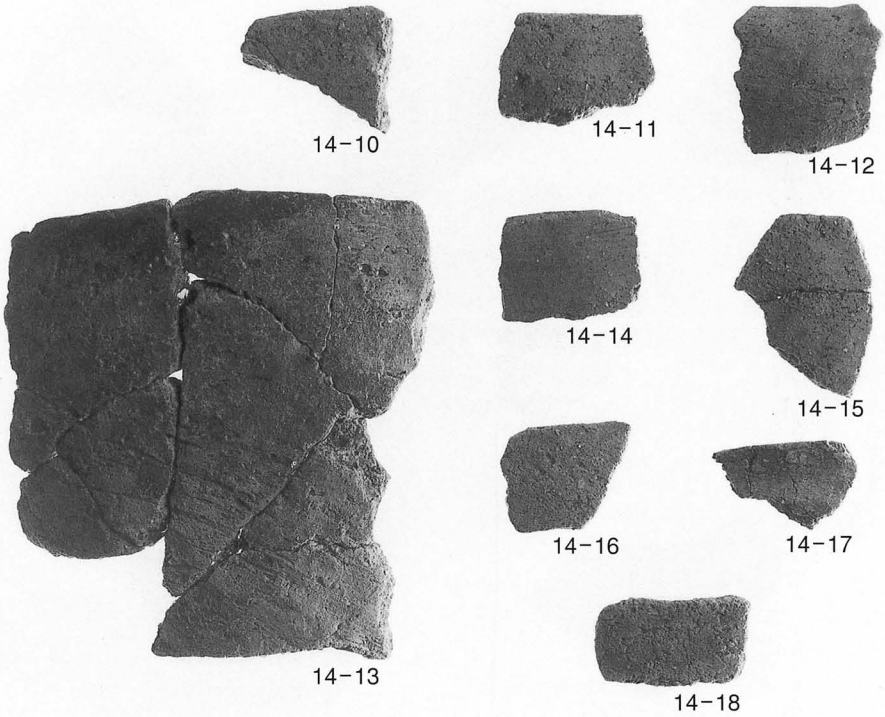
前田遺跡青灰色粘土層出土縄文土器



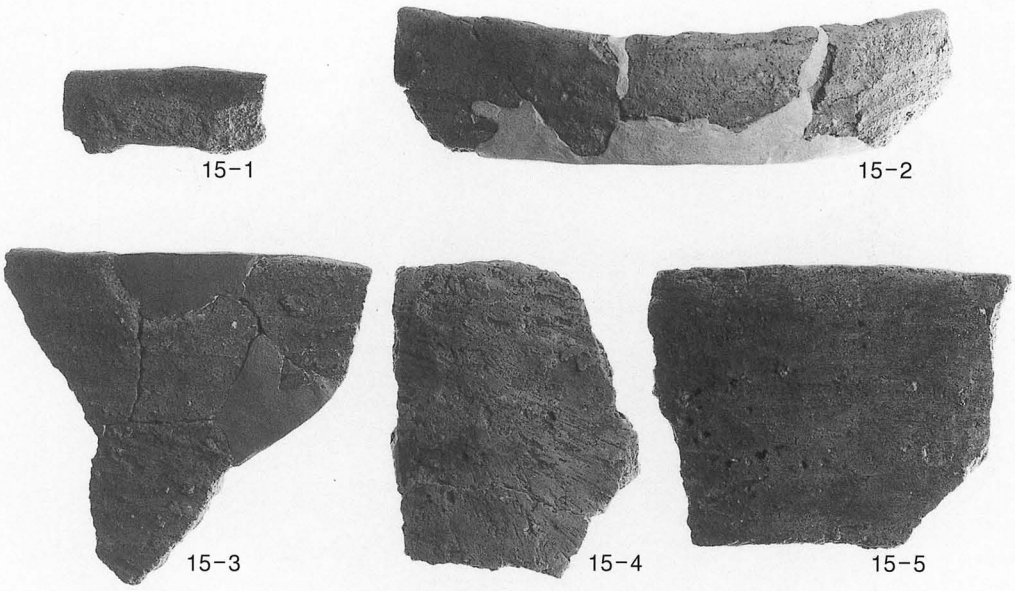
前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器①

前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器②

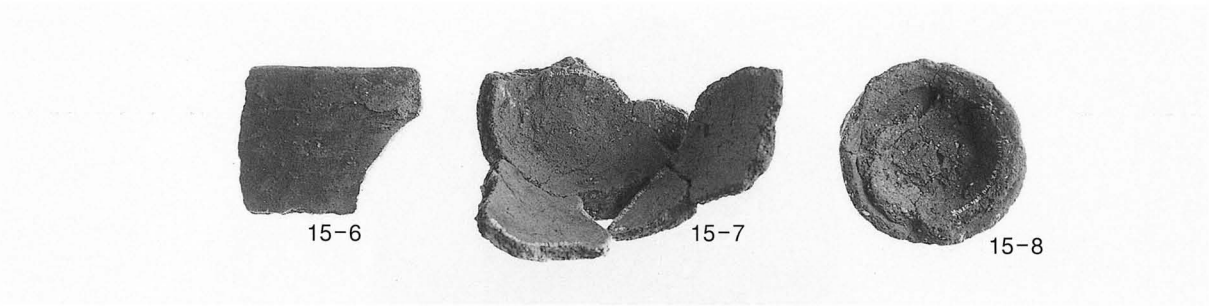
図版12



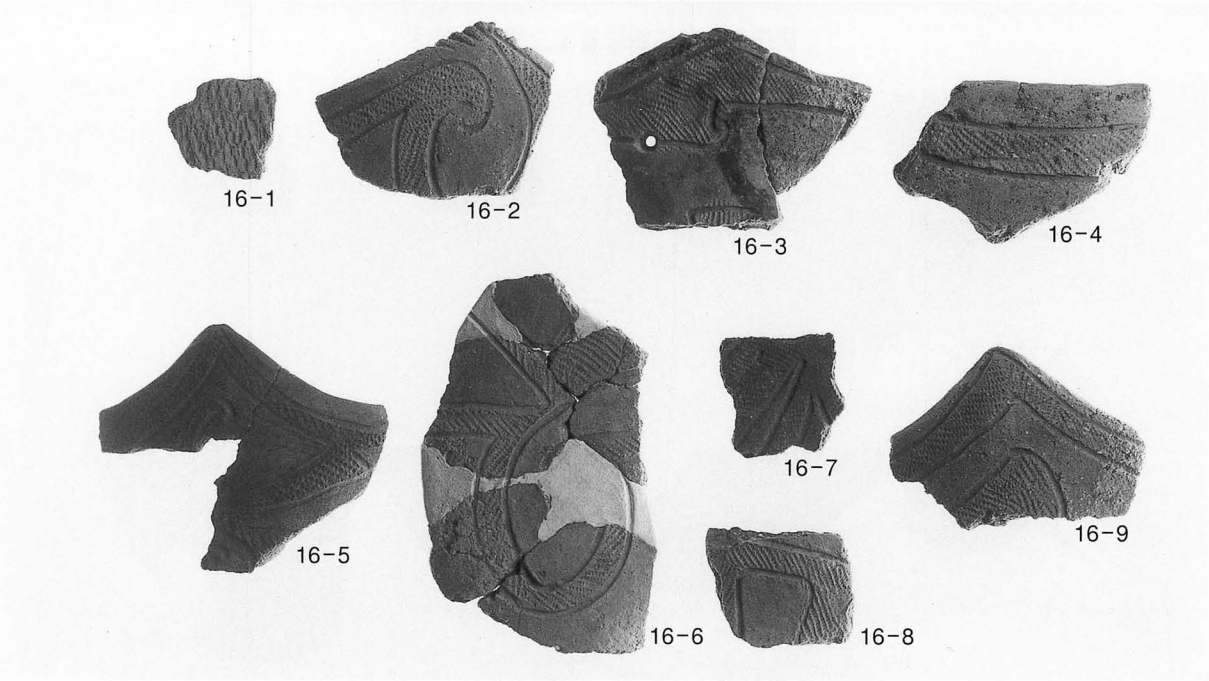
前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器③



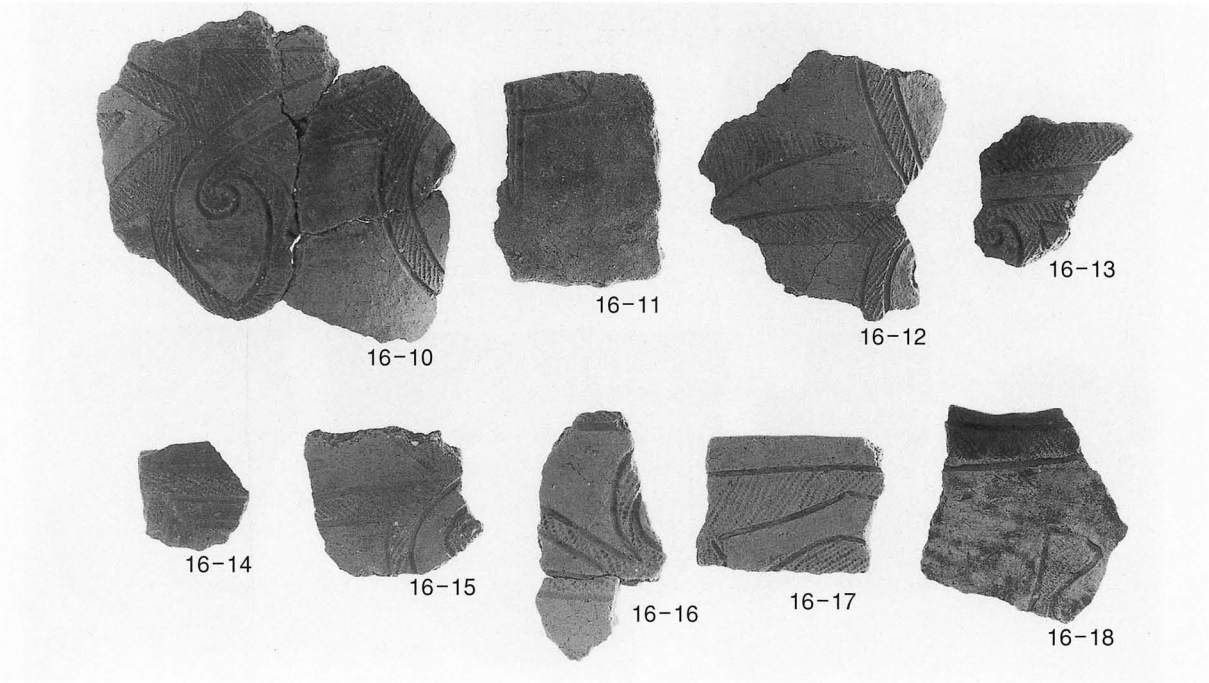
前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器④



前田遺跡黒色粘土層出土縄文土器⑤



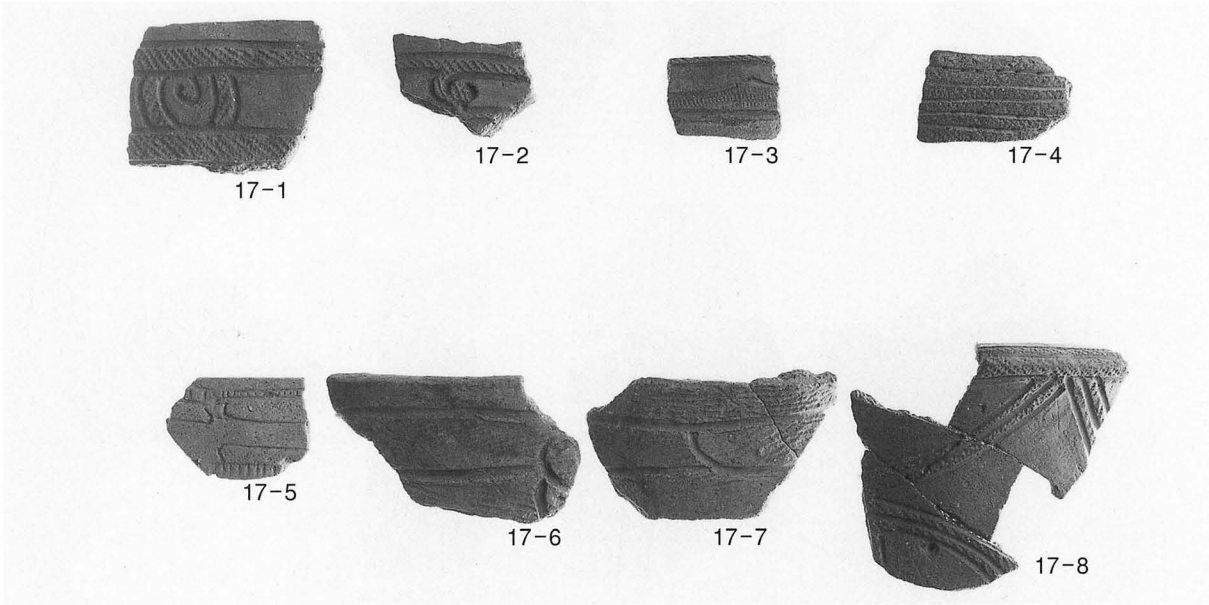
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器①



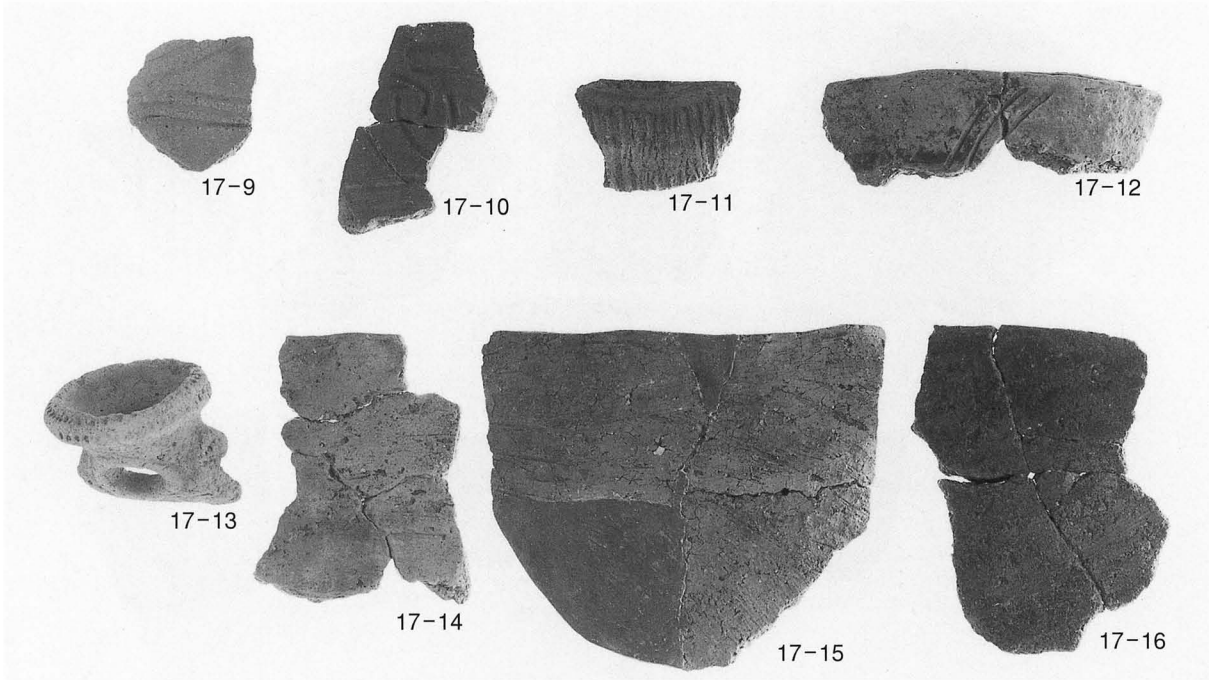
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器②

図版14

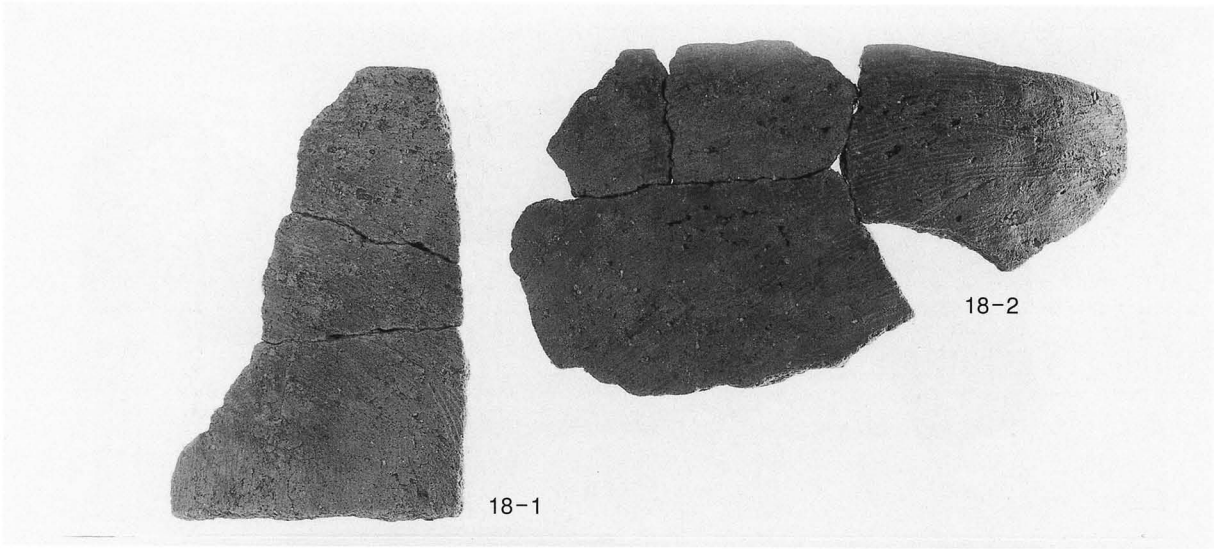
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器③



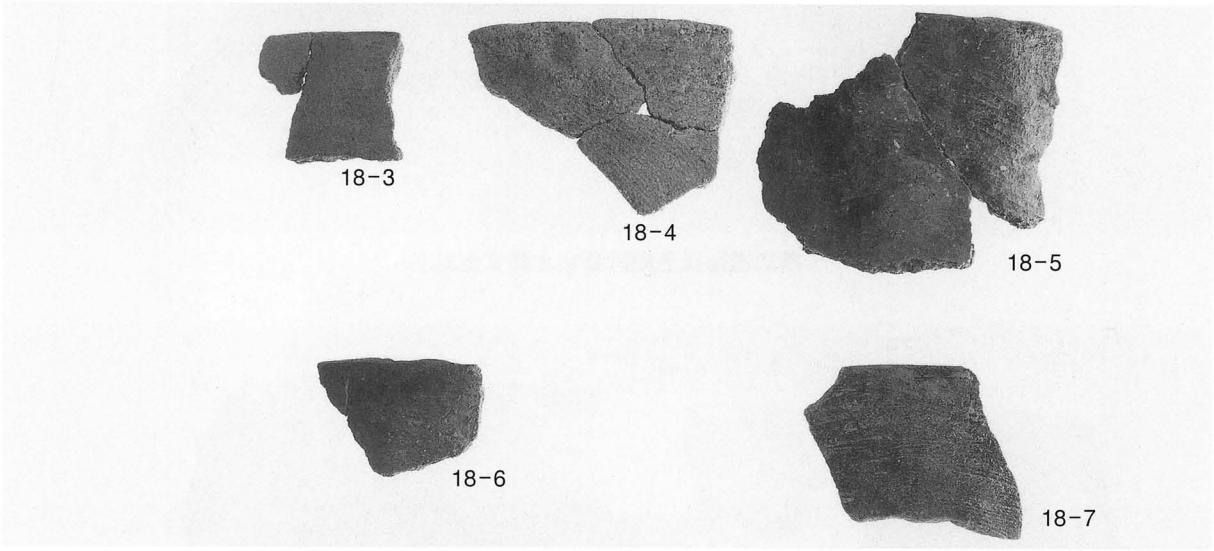
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器④



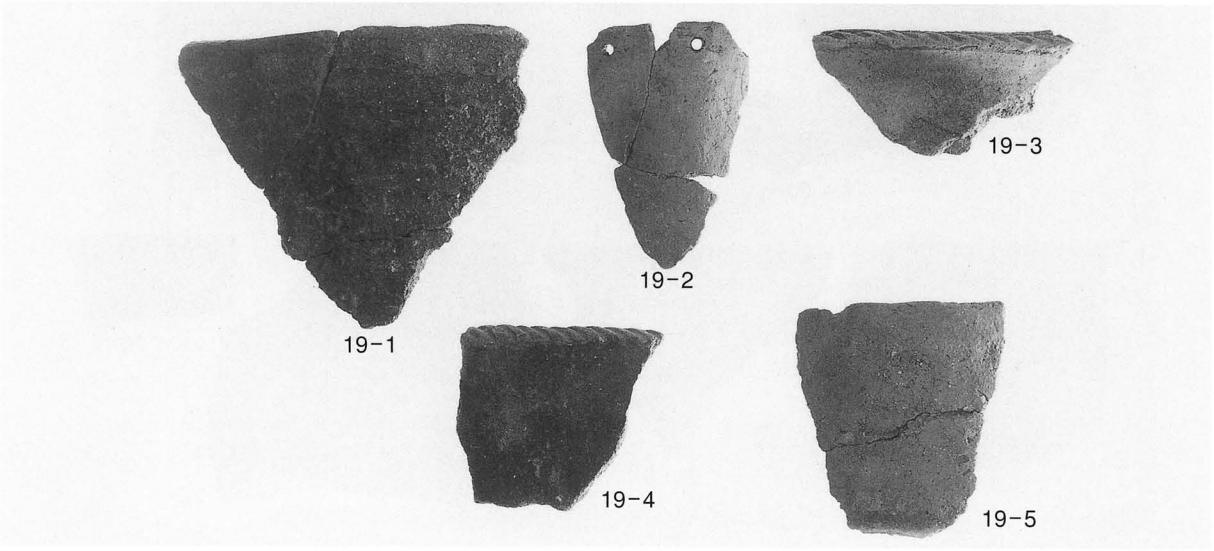
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑤



前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑥

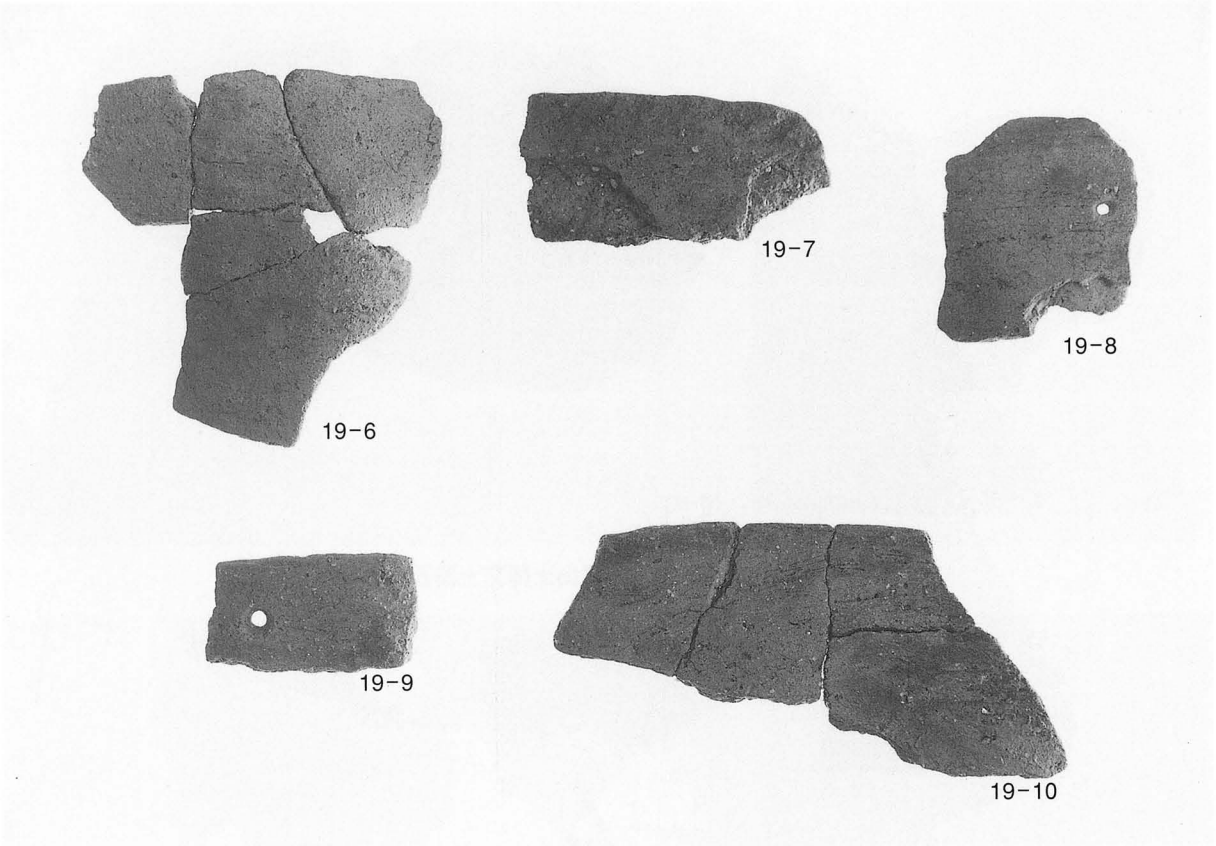


前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑦

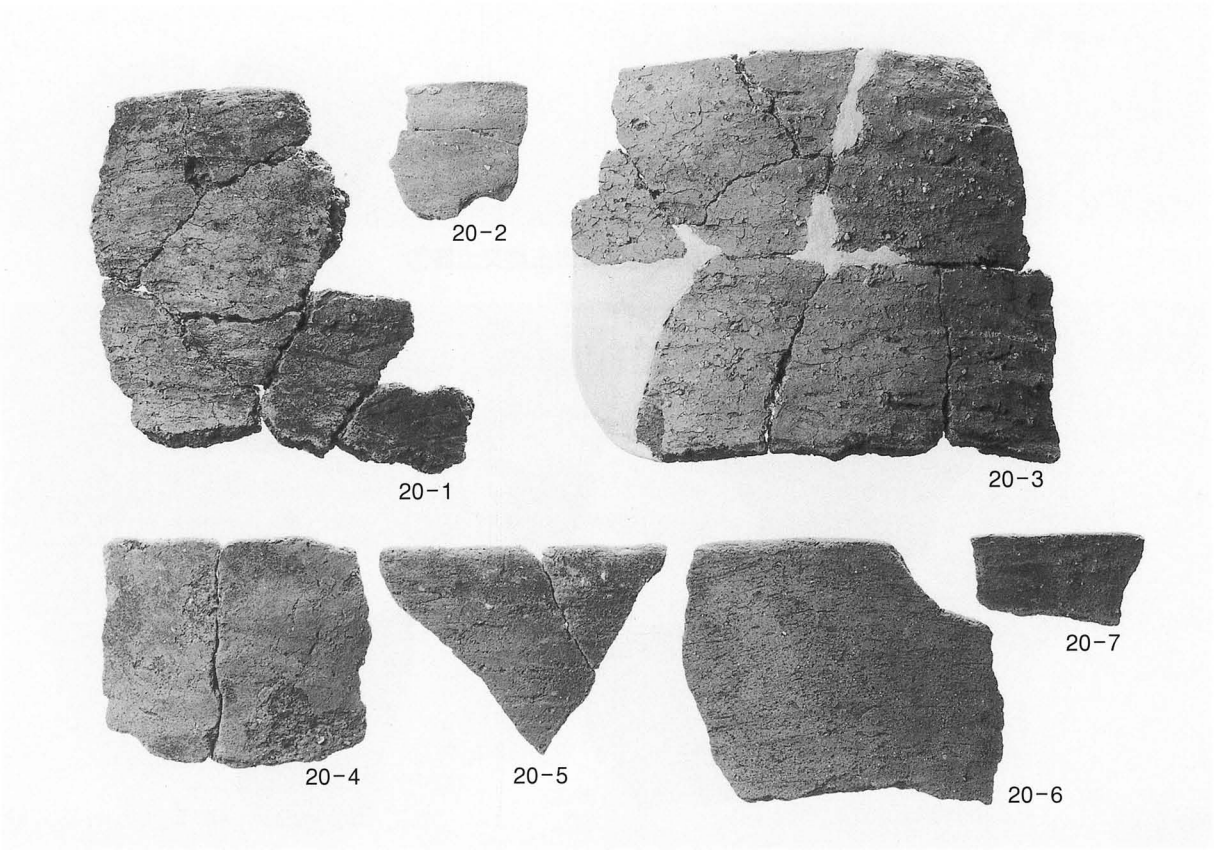


前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑧

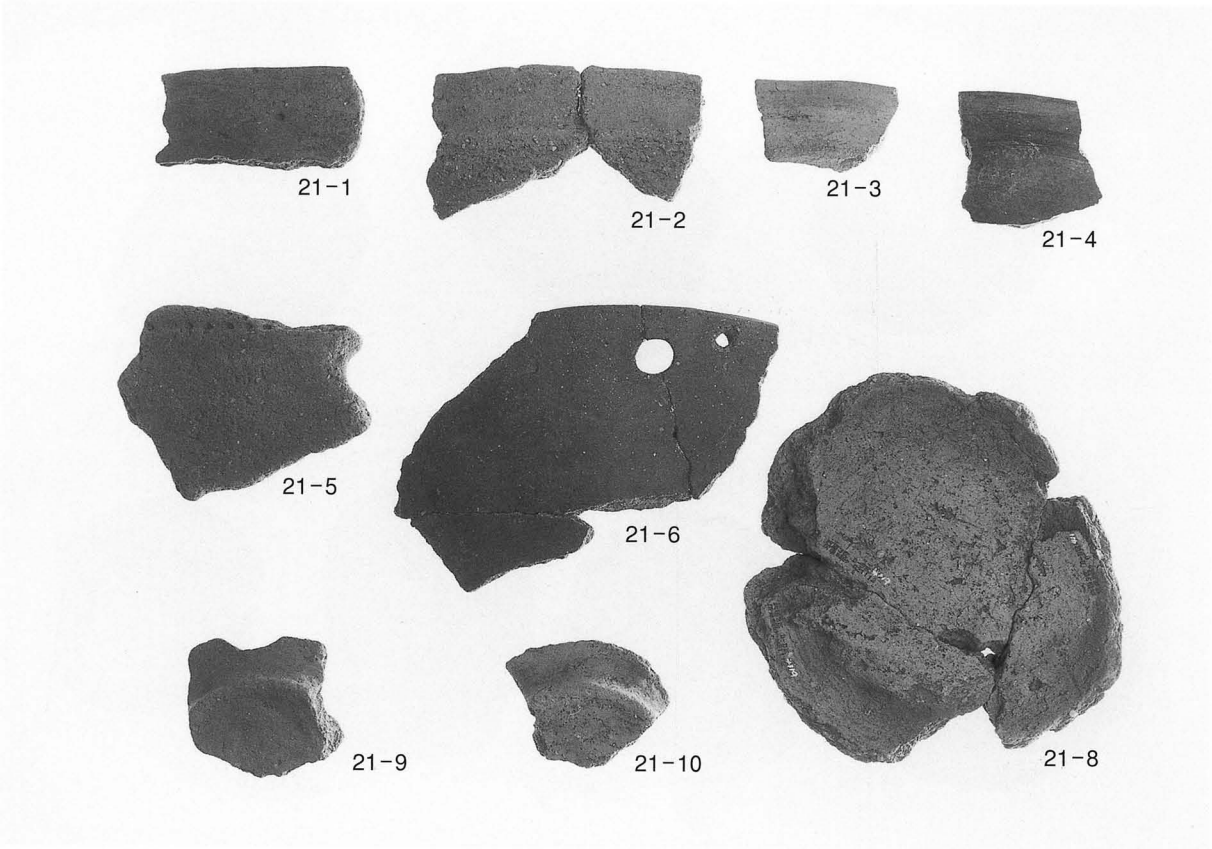
図版16



前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑨



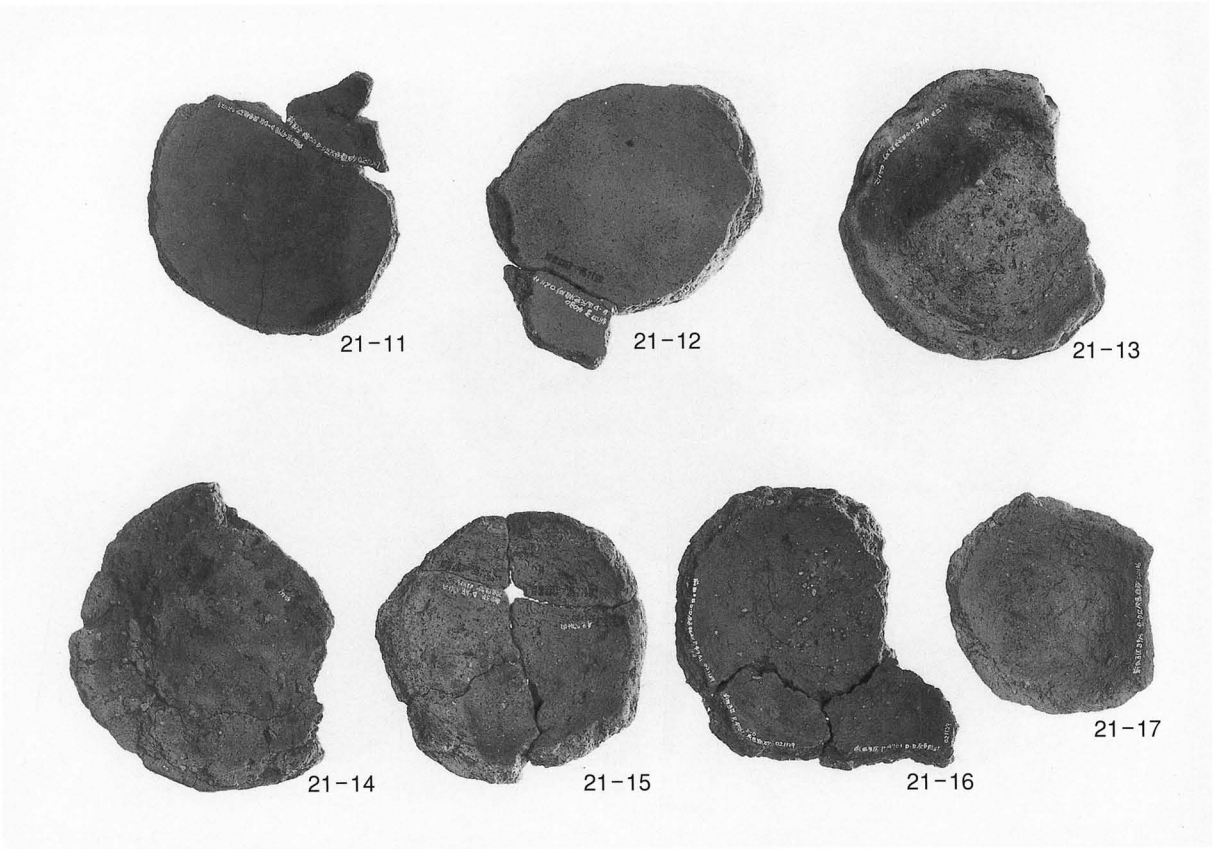
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑩



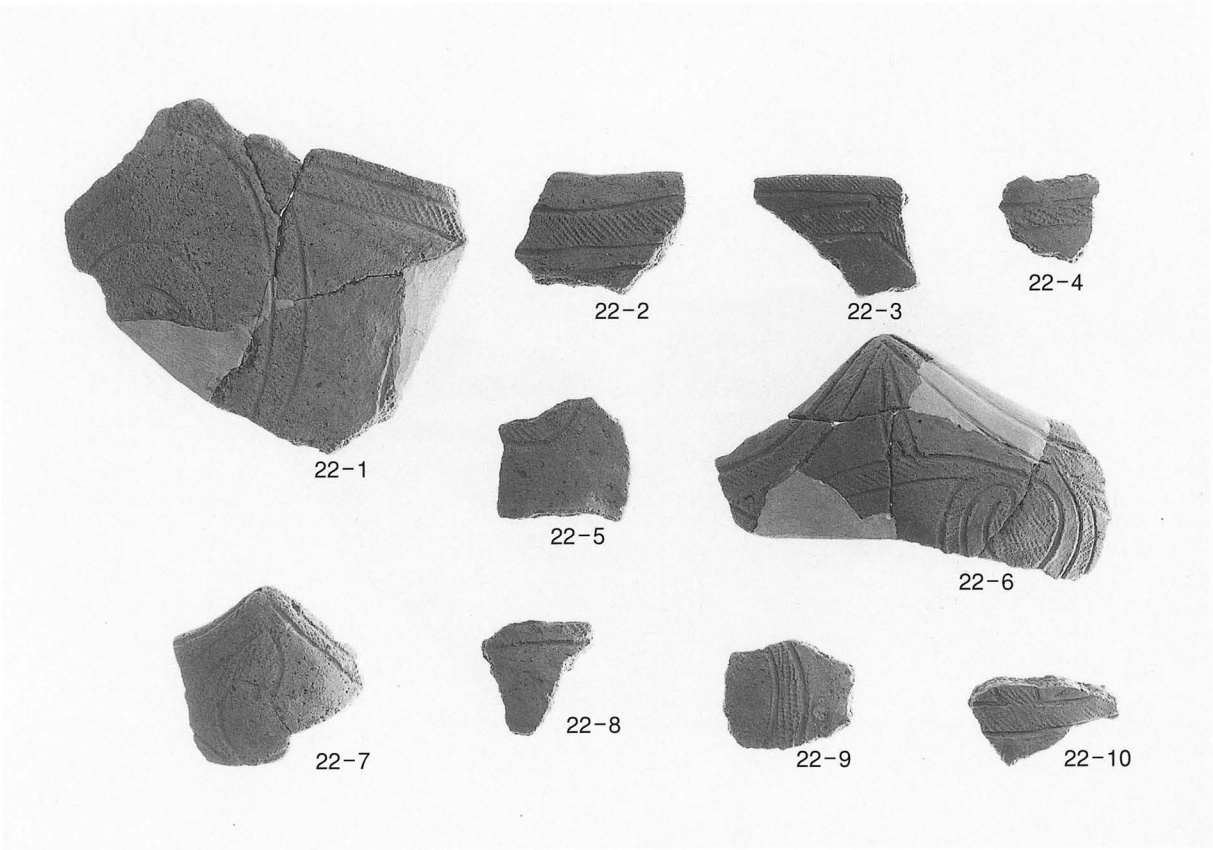
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑪

前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑫

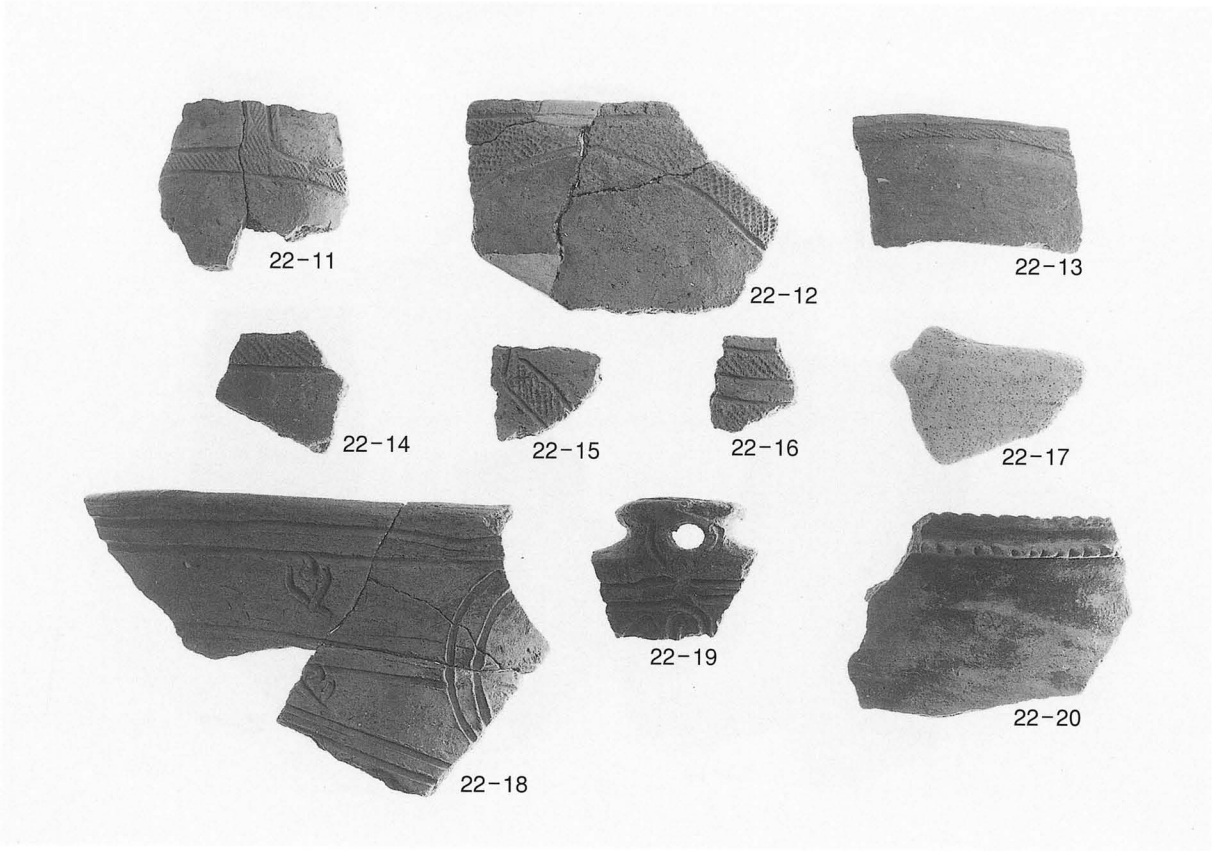
図版18



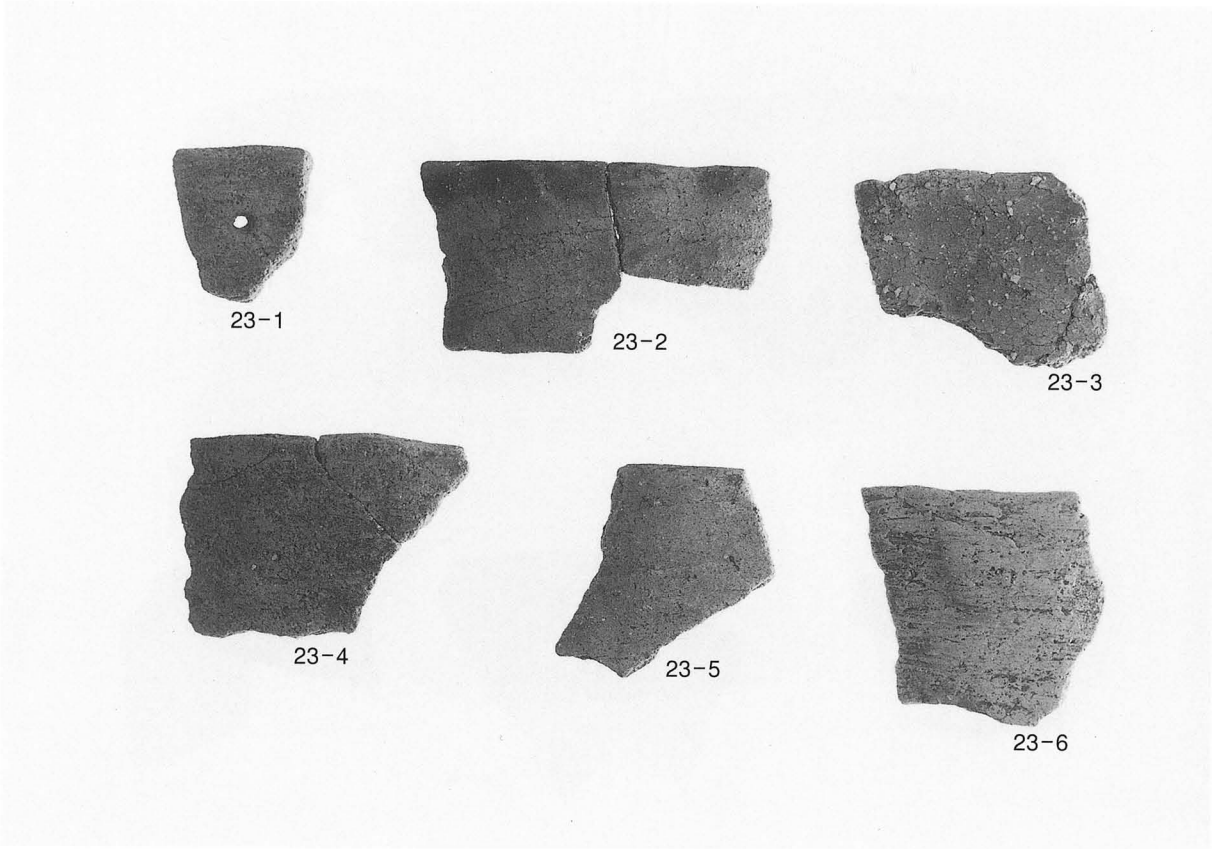
前田遺跡灰色粗砂層出土縄文土器⑬



前田遺跡黒色土層出土縄文土器①

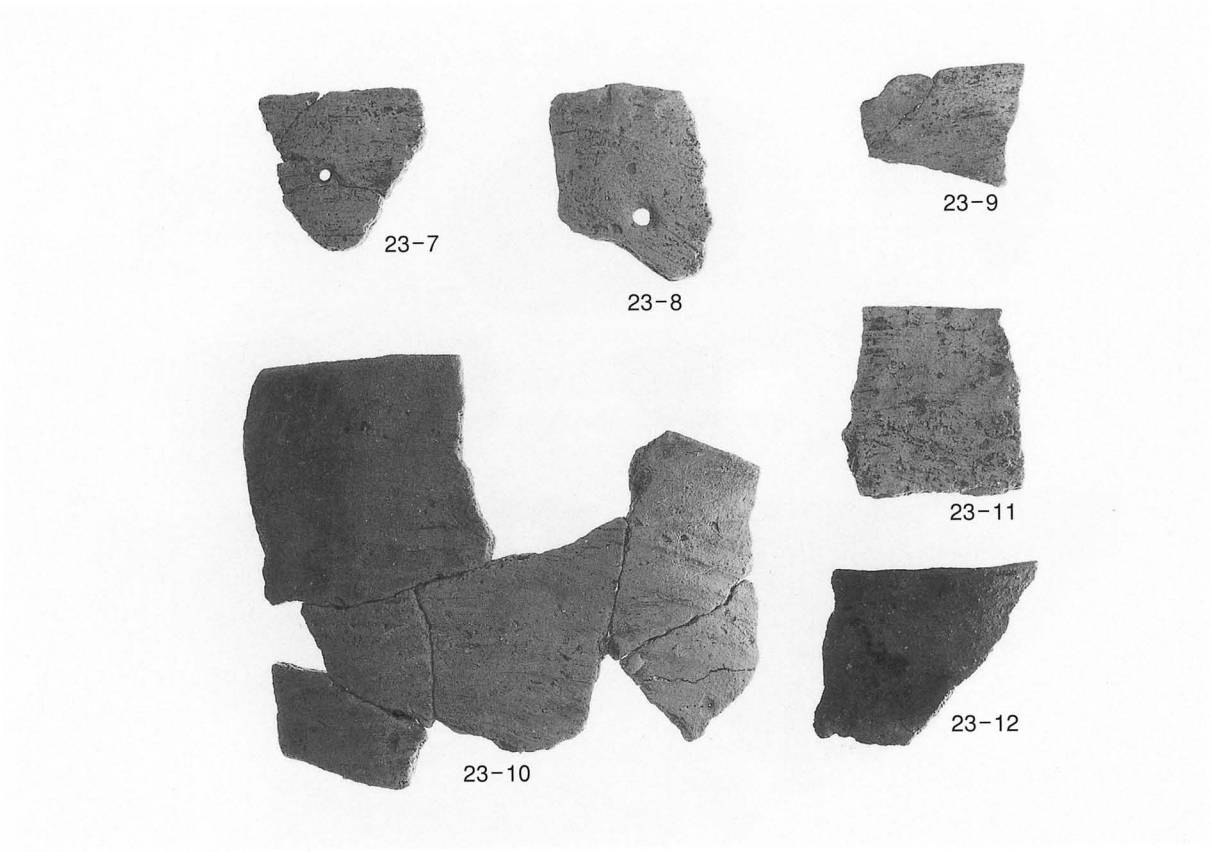


前田遺跡黒色土層出土縄文土器②

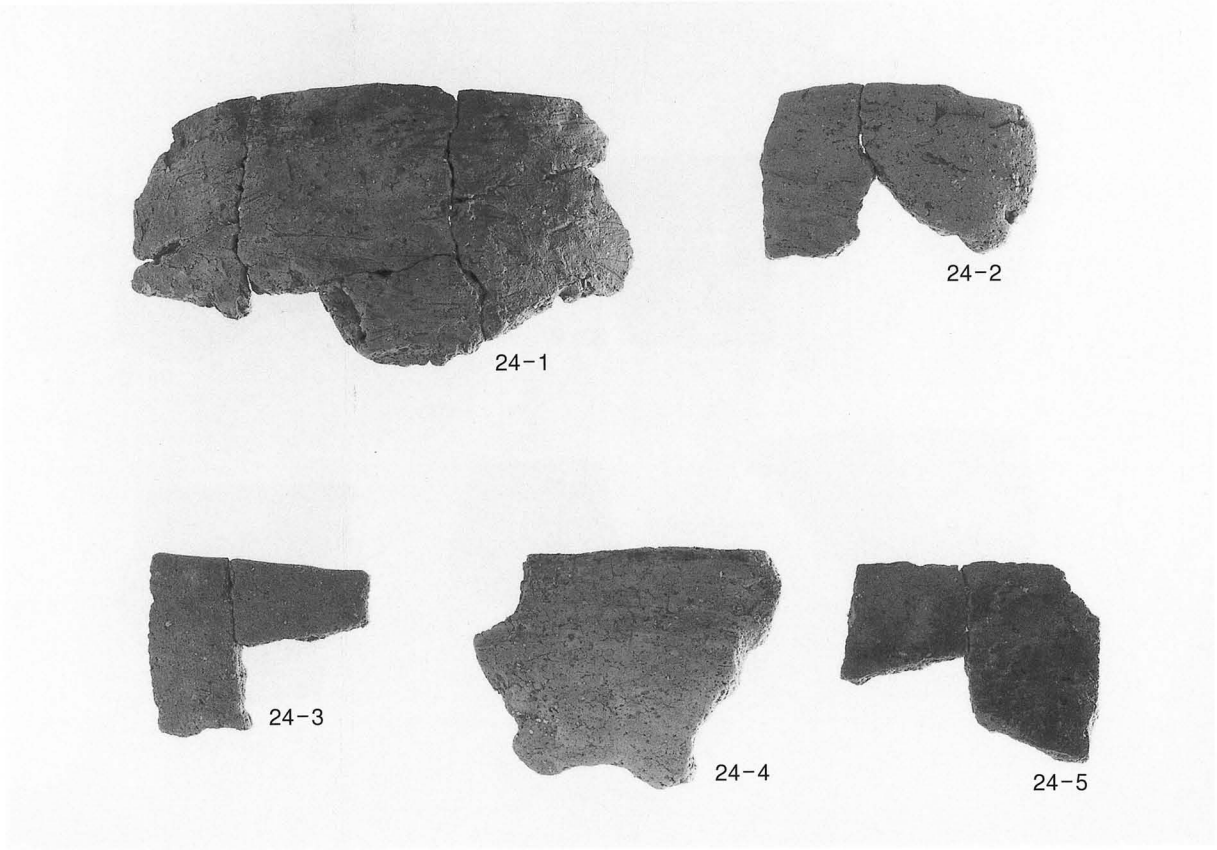


前田遺跡黒色土層出土縄文土器③

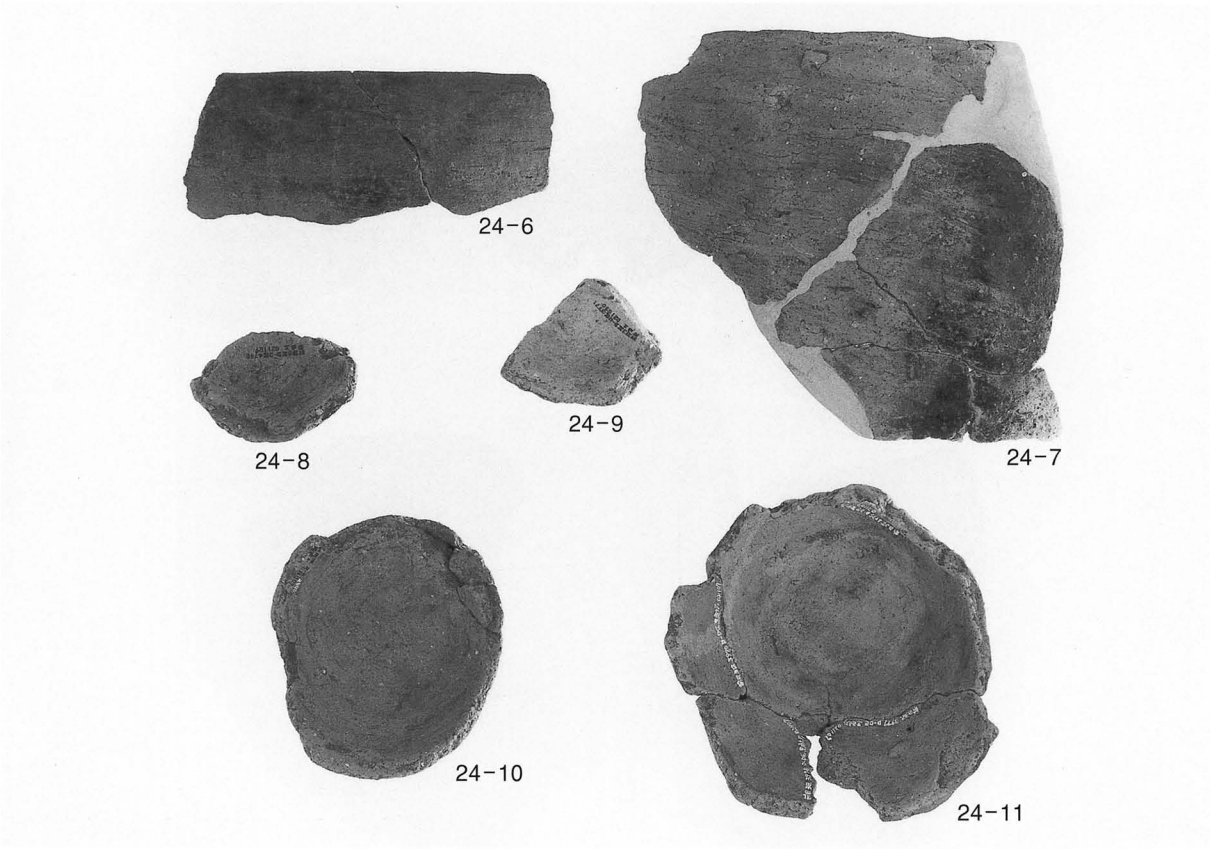
図版20



前田遺跡黒色土層出土縄文土器④



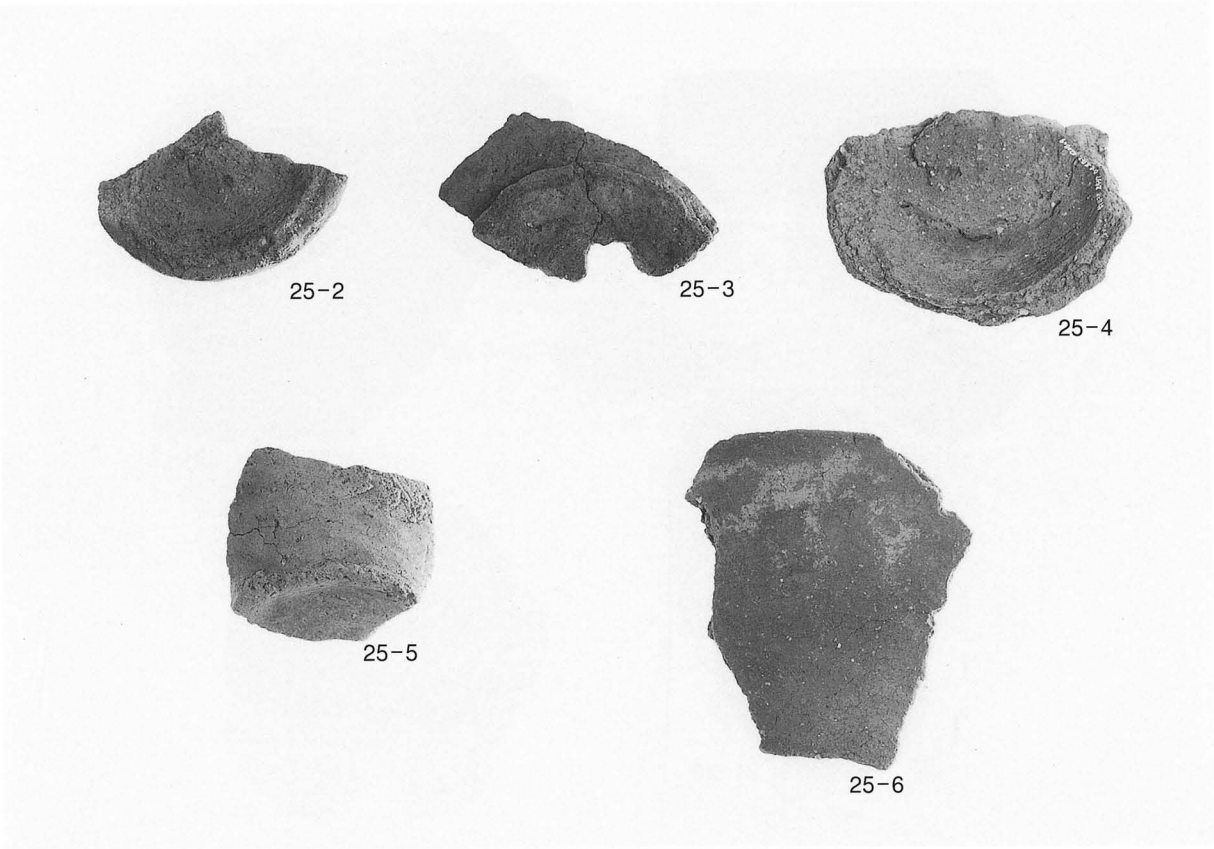
前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑤



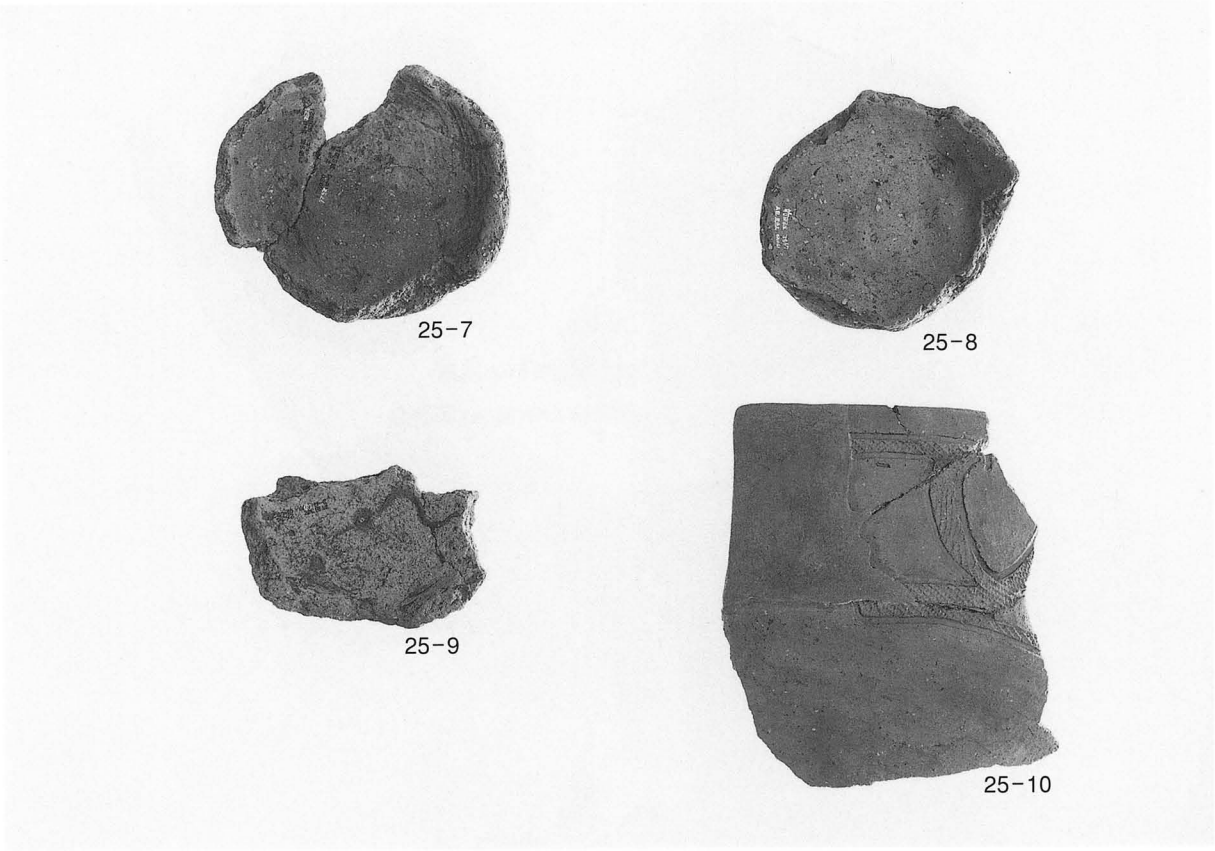
前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑥

前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑦

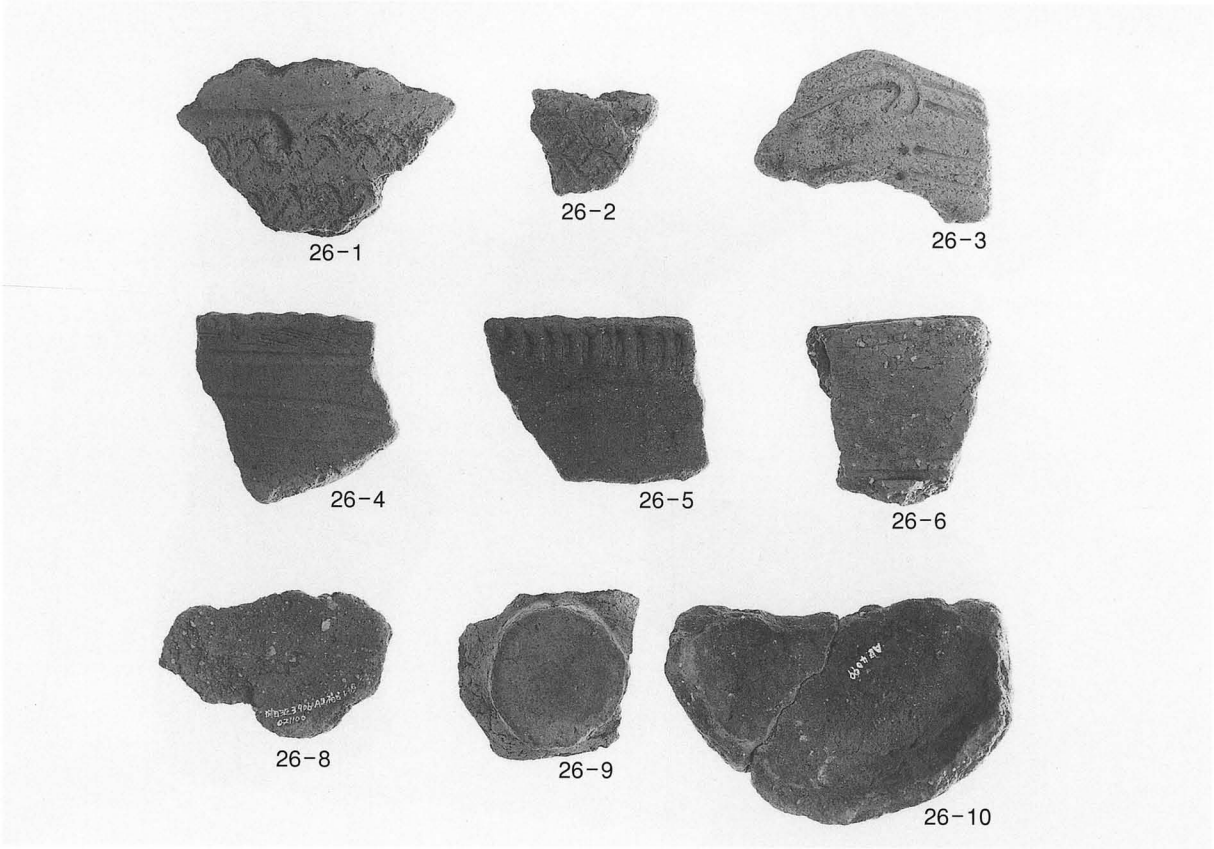
図版22

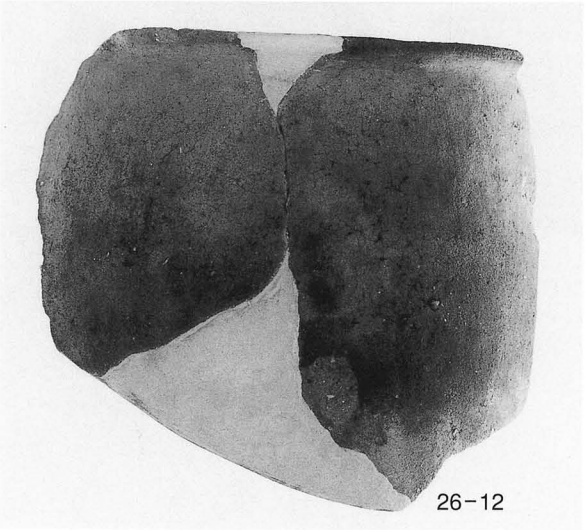


前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑧



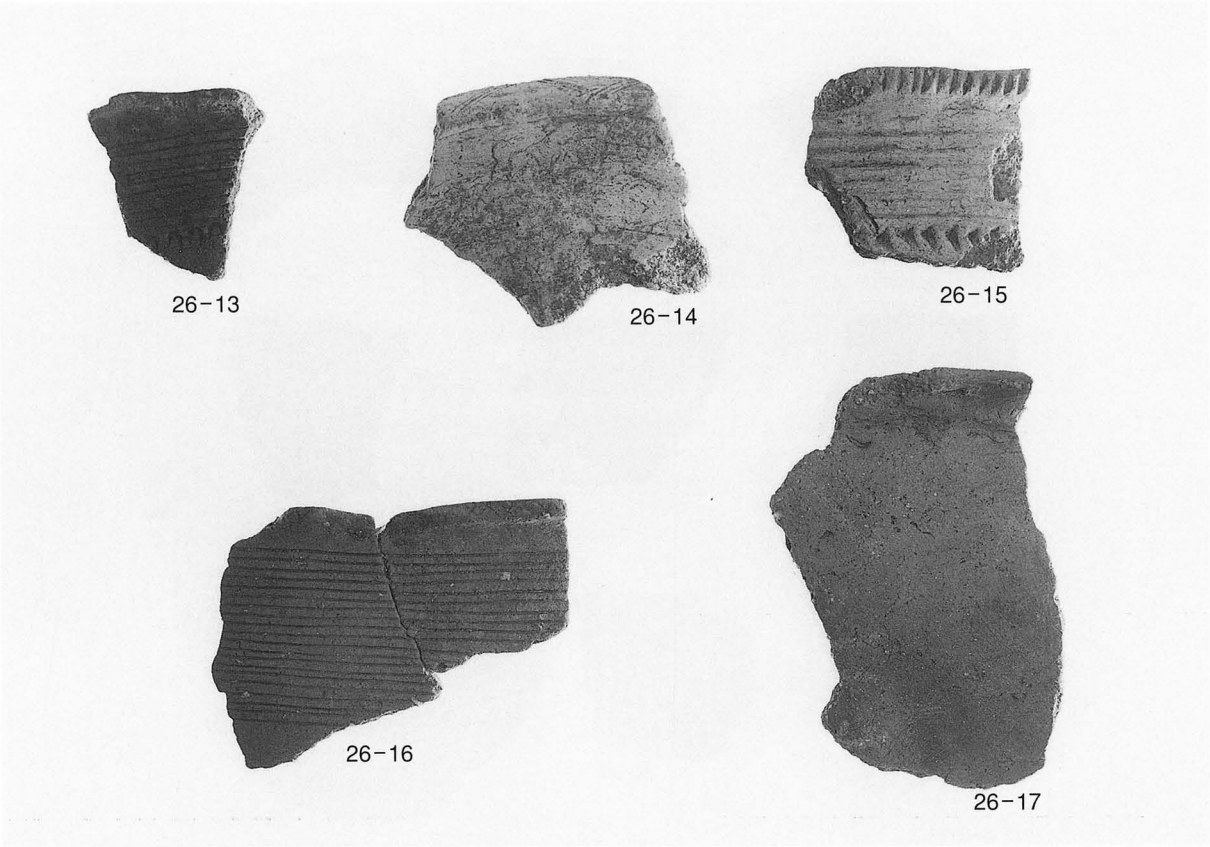
前田遺跡黒色土層出土縄文土器⑨



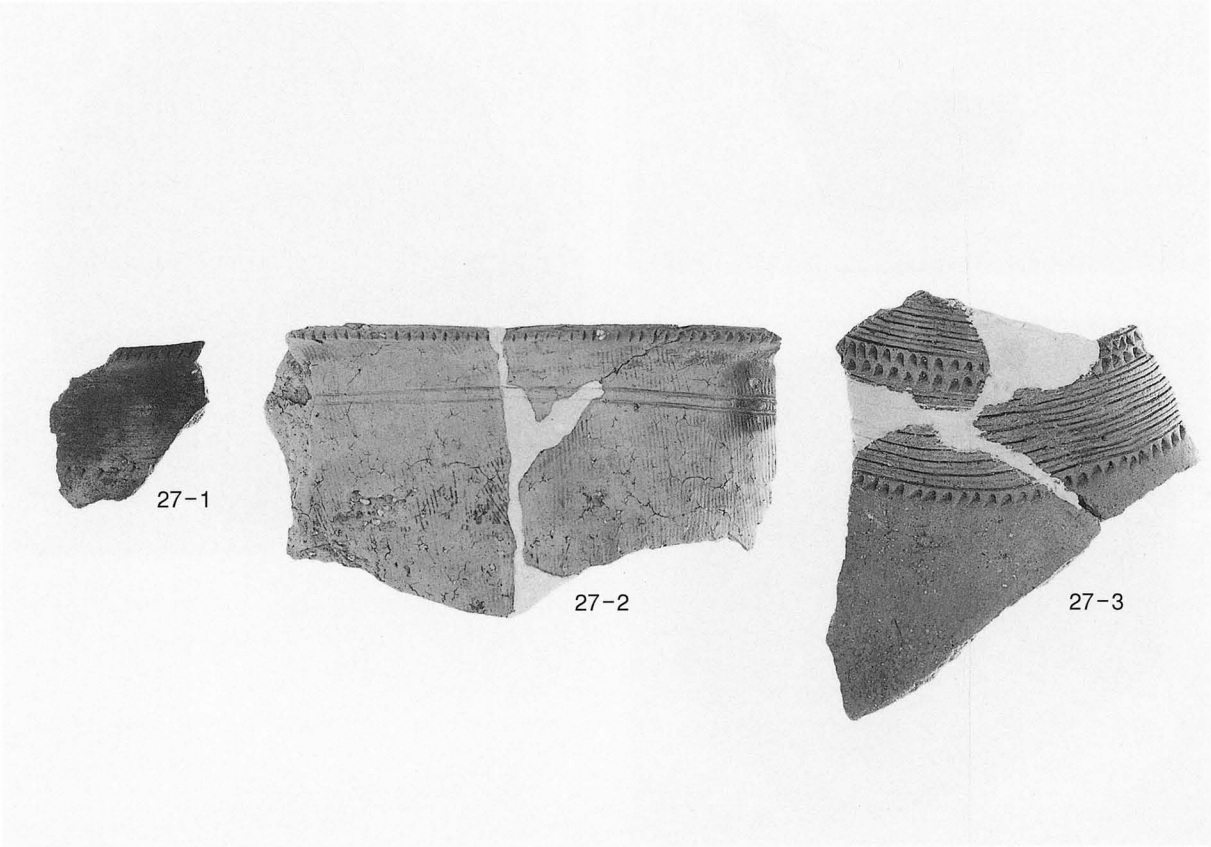


前田遺跡褐色礫層出土土器①

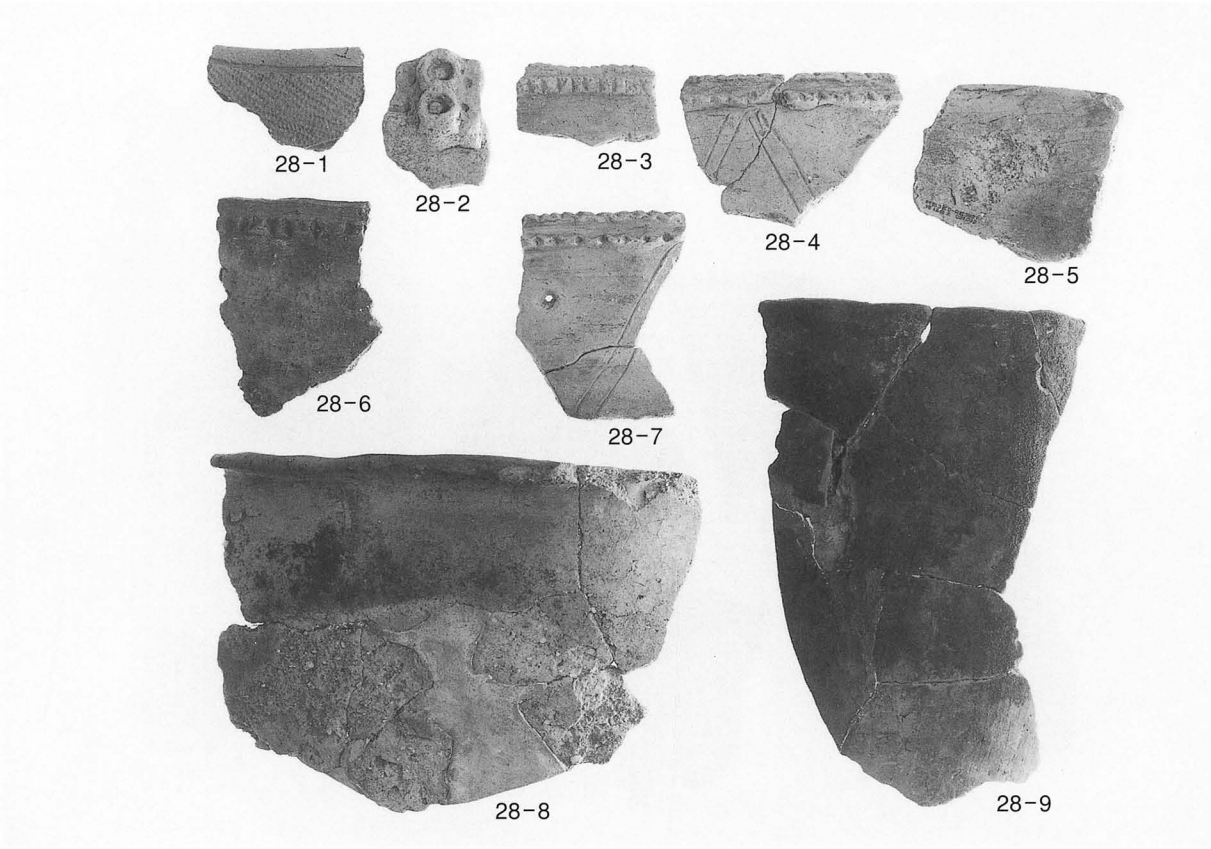
図版24



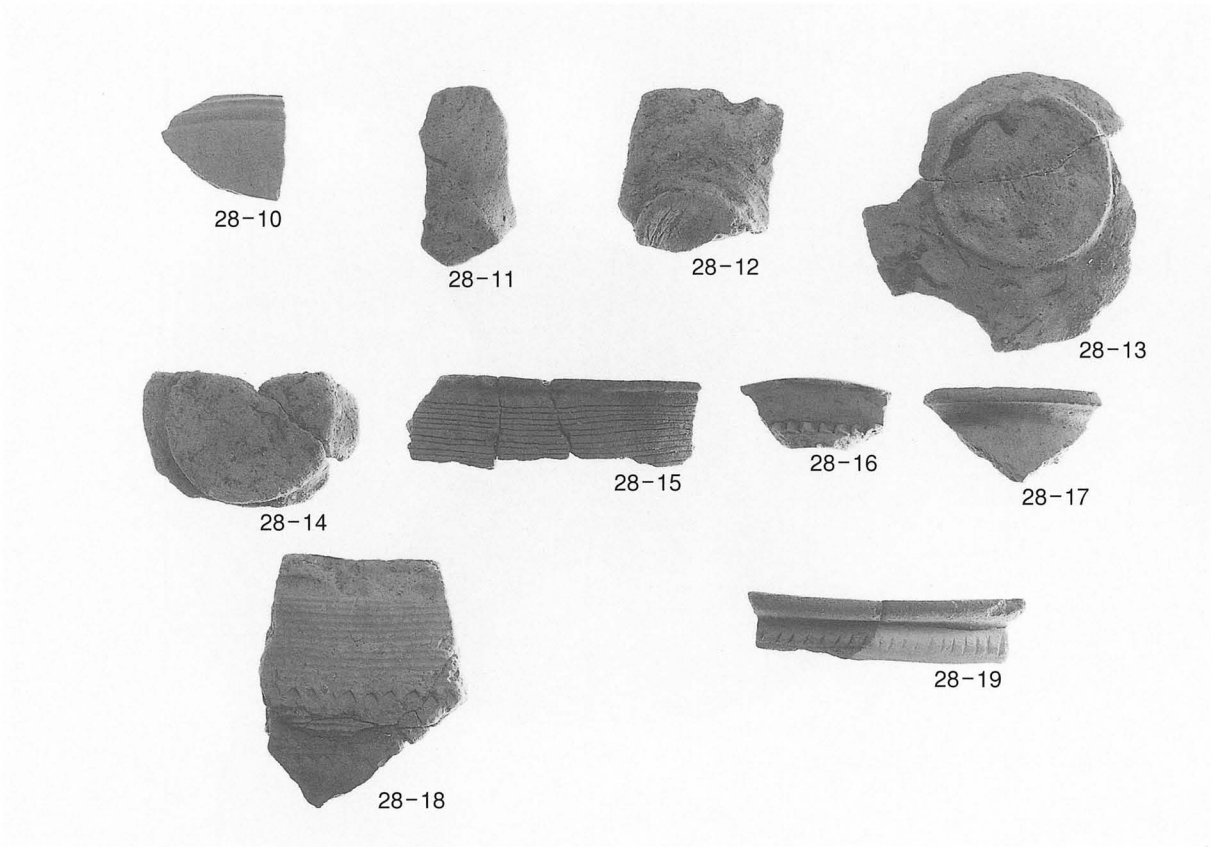
前田遺跡褐色礫層出土土器②



前田遺跡褐色礫層出土土器③

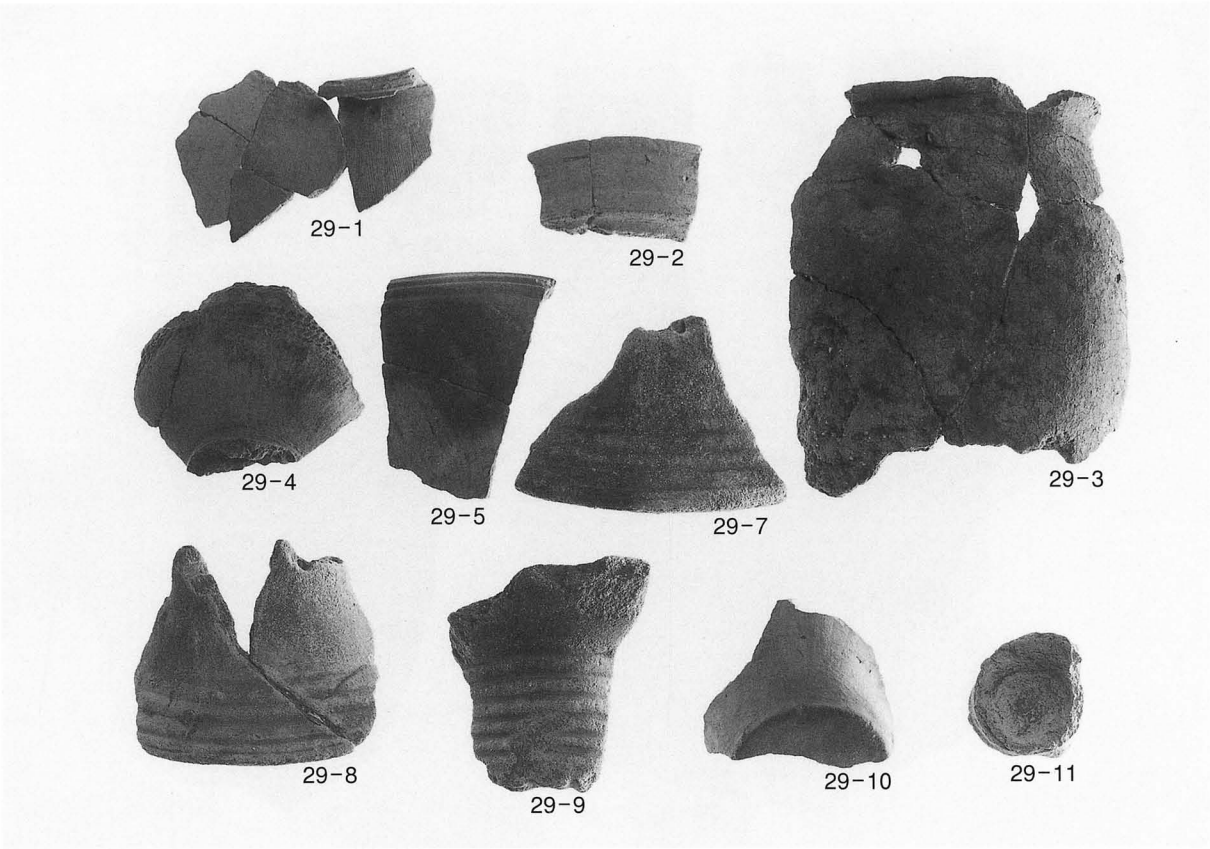


前田遺跡暗褐色土層出土土器①



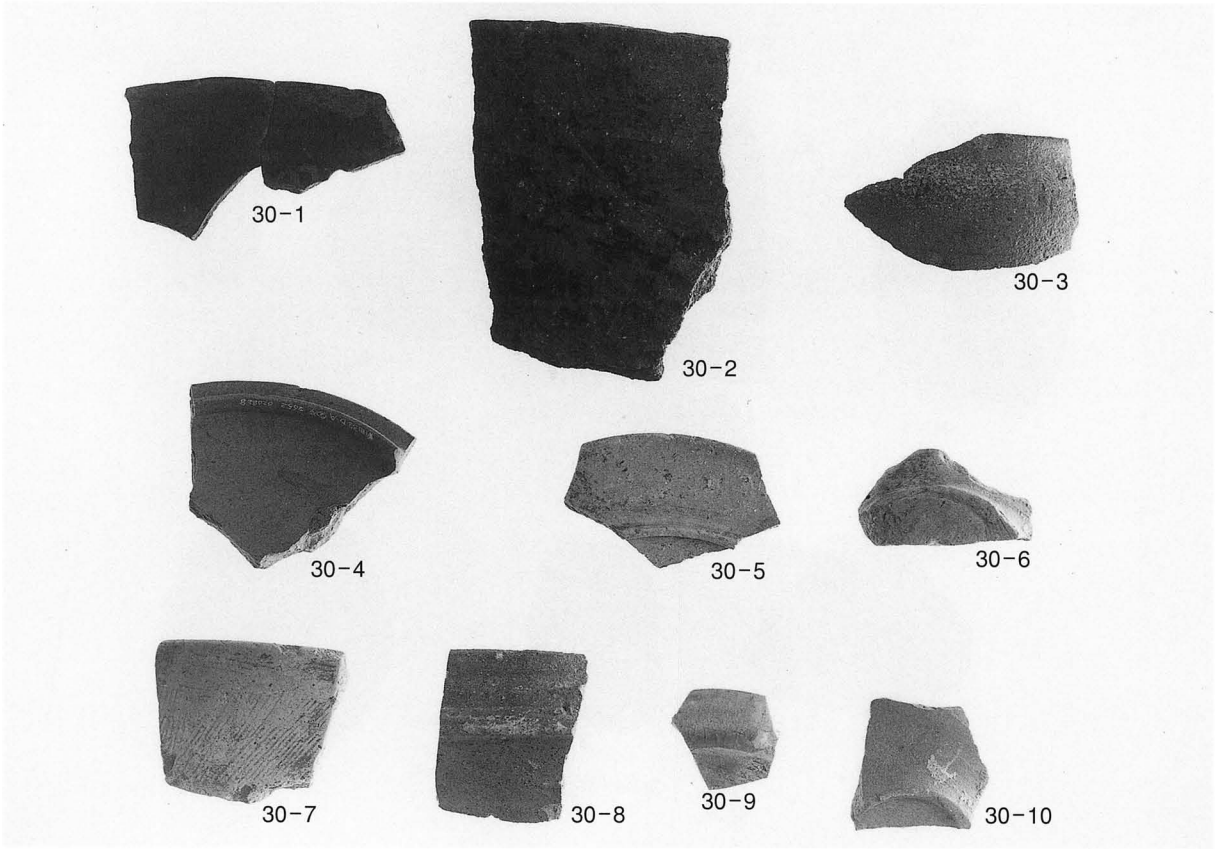
前田遺跡暗褐色土層出土土器②

図版26

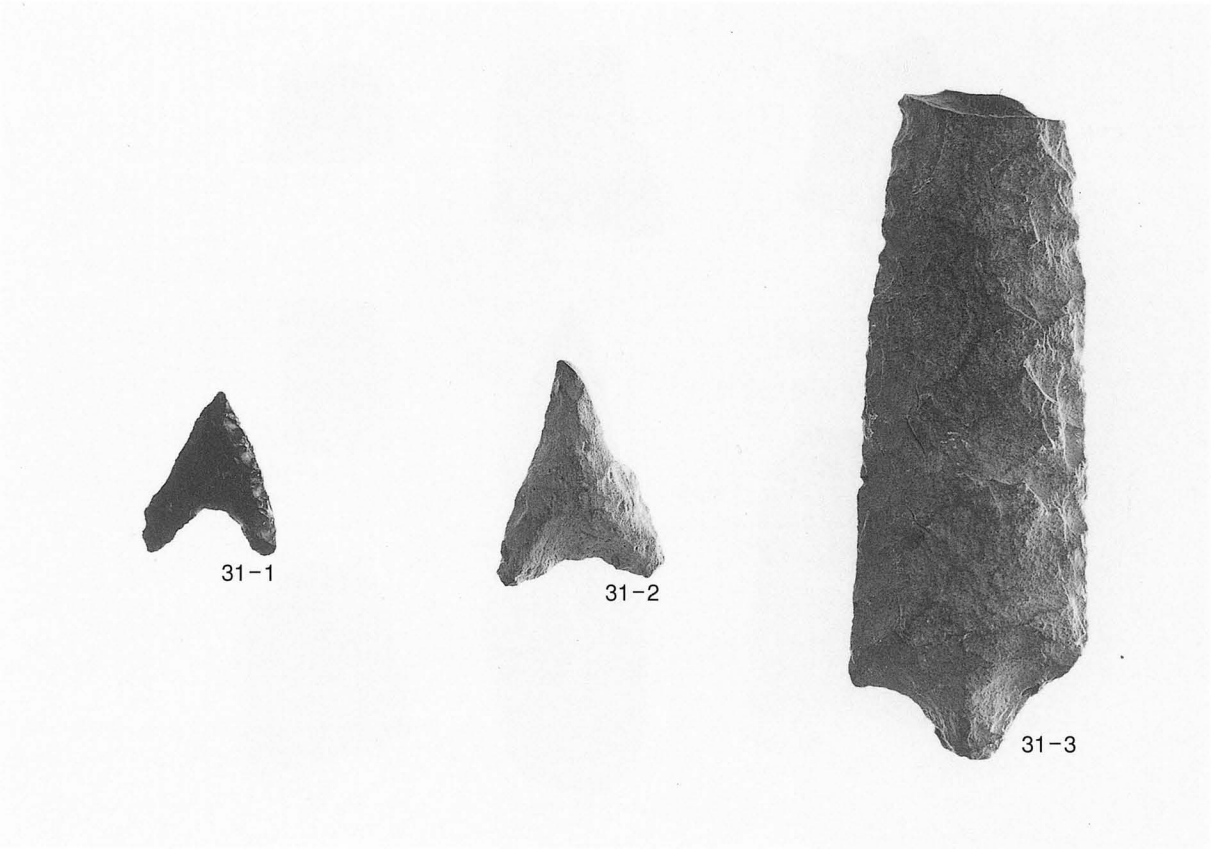


前田遺跡暗褐色土層出土土器③

前田遺跡暗褐色土層出土土器④

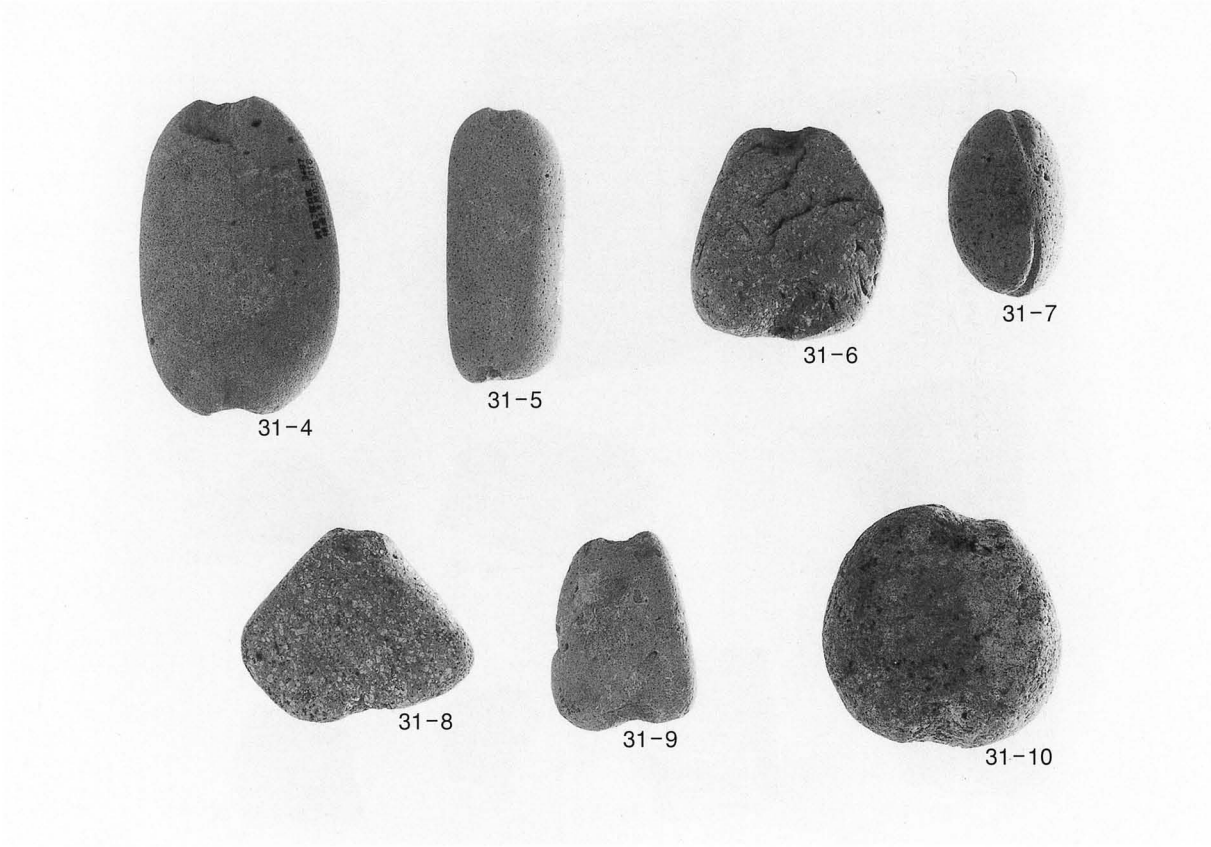


前田遺跡表土層出土土器・陶器

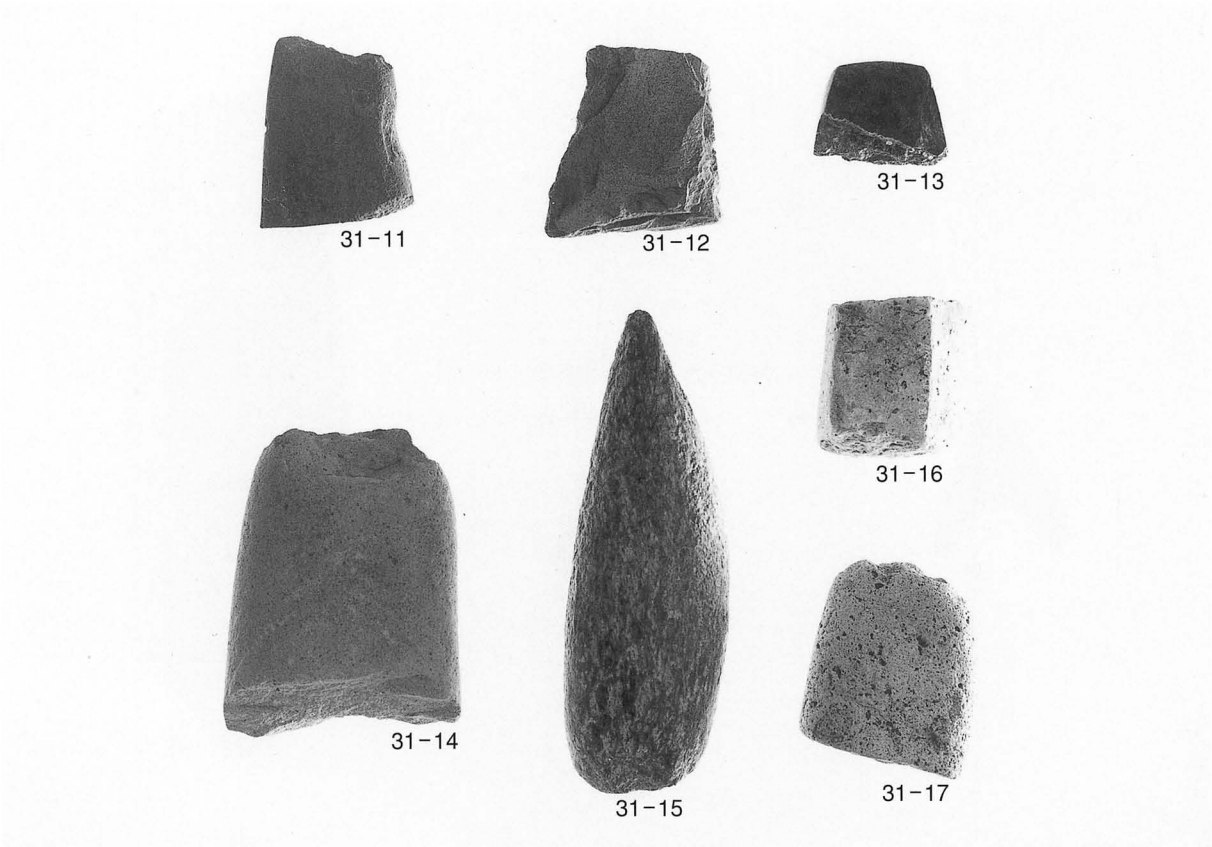


前田遺跡出土石器①

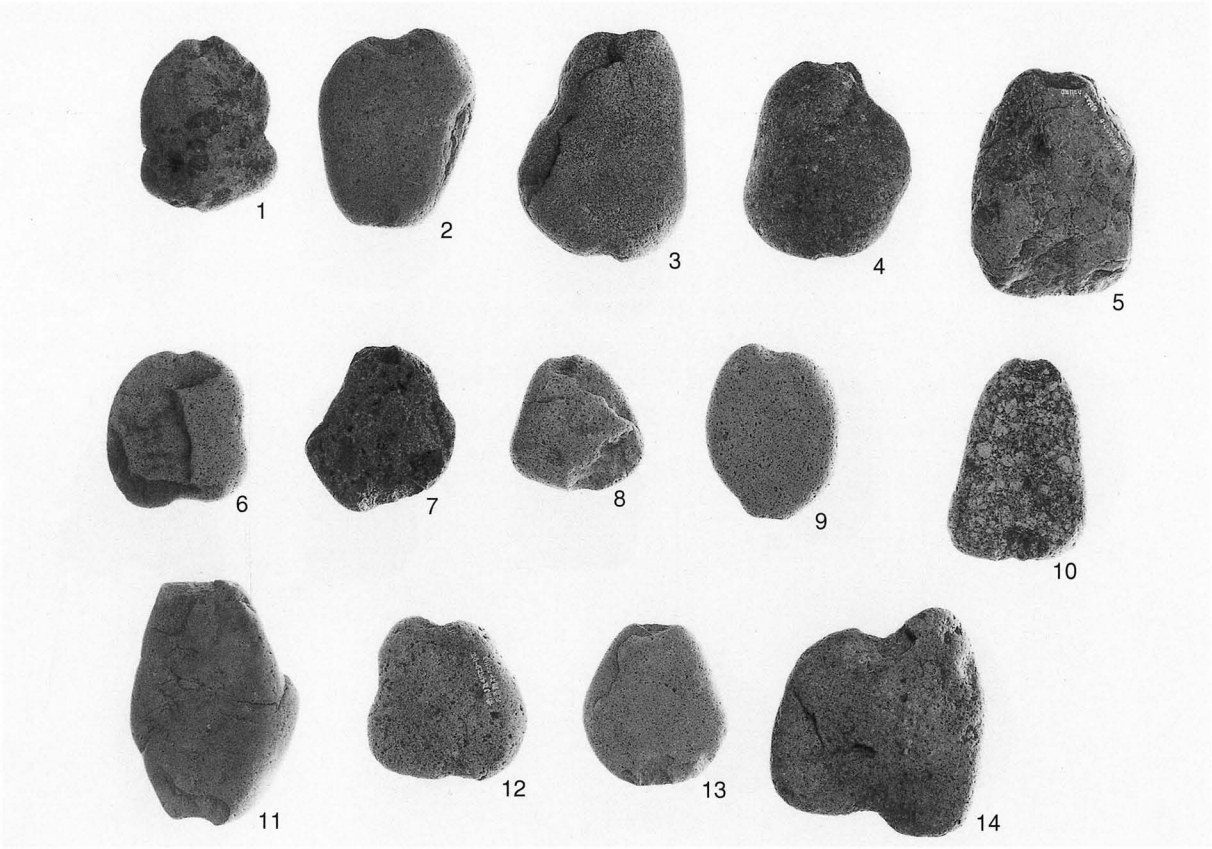
図版28



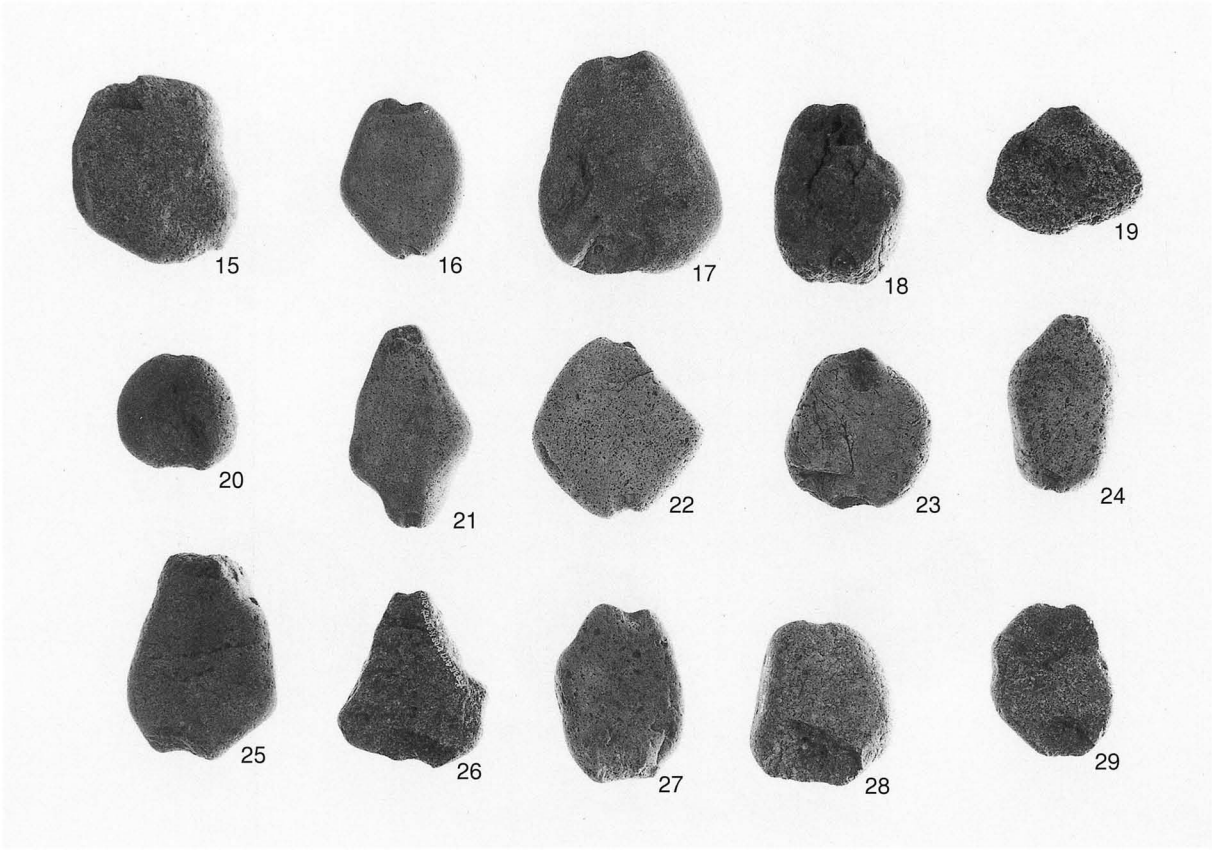
前田遺跡出土石器②



前田遺跡出土石器③



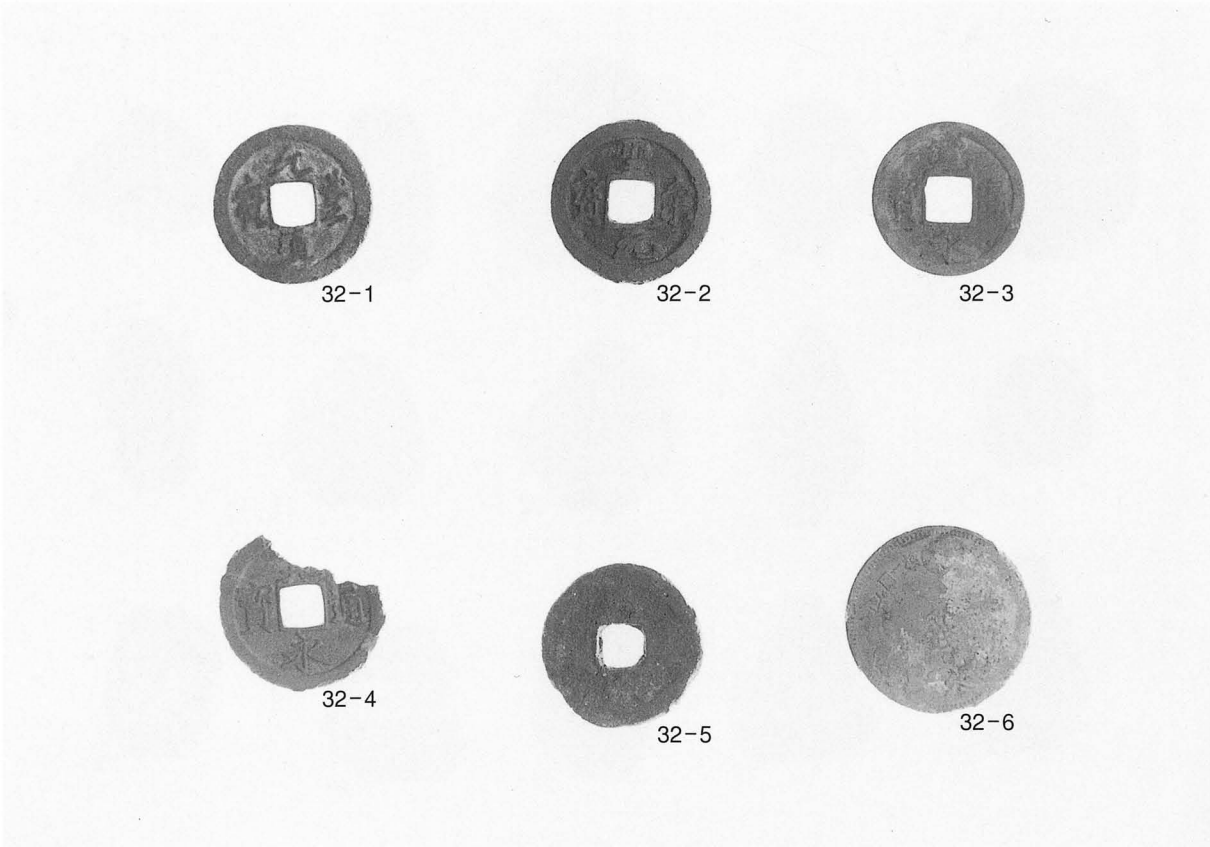
前田遺跡出土石器④



前田遺跡出土石器⑤

図版30

前田遺跡出土石器⑥



前田遺跡出土銭貨

第３章　下布施氏館跡

第１節　調査の経過と遺跡の概要

調査経緯

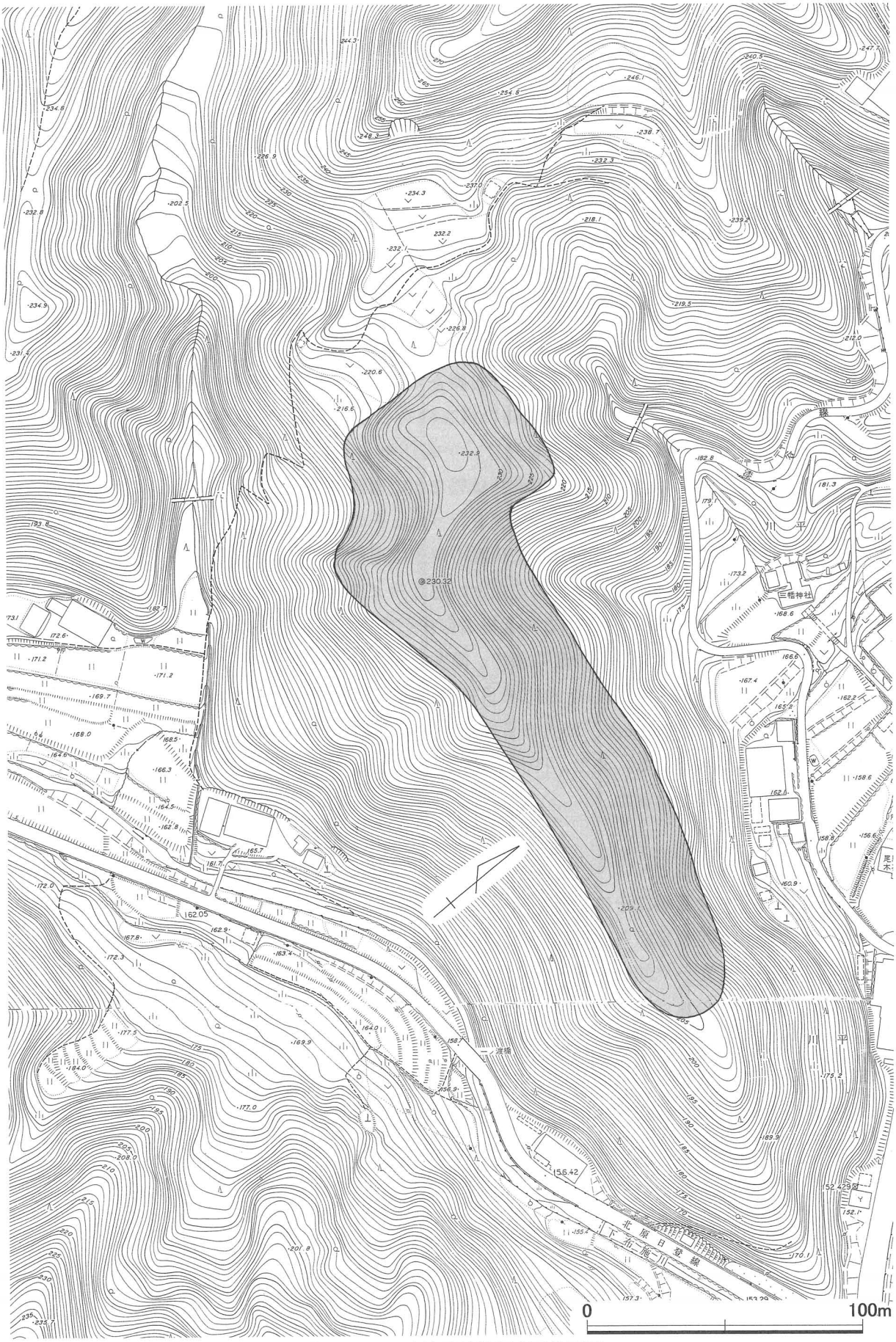
下布施氏館跡は、雲南市木次町北原地区を見下ろす尾根の上の標高232～204mに位置しており、遺跡の麓東側には斐伊川が西側にはその支流の下布施川が流れている。

下布施氏館跡は、既知の遺跡で中世の有力国人三沢氏の家臣下布施氏の山城跡もしくは館跡の可能性が指摘されていた。遺跡の範囲の一部が尾原ダム建設に伴う付け替え道路建設予定地に当たっていたため調査対象遺跡となった。

かつてより堀切の存在が知られており、分布調査でもこの堀切と小規模な平坦面が確認され要発掘調査遺跡の一つとして挙げられ、他遺跡の調査結果とともに国土交通省に報告された。平成11年度には試掘調査がなされ、この結果を受け、平成15年４月14日から約12,000㎡を対象に全面調査を開始した。地形観察等により尾根の南側は郭などの遺構が存在しない可能性が高い疑いが生じたため、調査着手直後はトレンチによる調査を行った。その結果当初の予想どおり、尾根南側では遺構・遺物ともに確認できなかったために以降の調査は尾根北側に絞って行った。また、調査区のうち斜面に関しては傾斜がきついため、安全上の懸念および廃土の土止めが処理困難なため全面的な掘削は断念し、地表観察により郭などの遺構の存在が想定される部分にのみ限って掘削を行った。調査の結果山城関係の遺構および少量の遺物、縄文時代に作られたと考えられる落とし穴などを検出した。遺跡の概要がほぼ判明した８月30日には山根正明氏に調査指導を受けている。掘削を中心とした作業を10月３日に終え、10月６日にラジコンヘリコプター、10月８日にはセスナ機により空中写真撮影を行っている。また、11月３日には斐伊川対岸に位置する北原本郷遺跡・家の後遺跡と合同で現地説明会を行った。

遺跡の概要

当遺跡で確認された遺構はその位置から主に４つにグループ分けできる。北から順に遺跡最高所を中心とする郭群、尾根を断ち切る形で掘られた堀切、堀切の南の尾根西側で確認された通路状遺構、尾根の標高が下がった部分で確認された土坑群に分けられる。遺構および遺物は堀切より北側に集中しており、この地点からは小規模な郭が５箇所で確認された。遺物としては、輸入銭、国産陶器片、鉄製品片などが出土している。堀切は北に接する郭群と南の尾根を断ち切る形で掘り込まれており、埋土からは棒状の鉄製品が１点出土した。堀切以南では遺構遺物とも希薄であったが、西側斜面で通路状遺構を確認している。また、全面調査区南端では縄文時代の落とし穴と思われる土壙が確認され、周辺で土器の小片などが出土したのみであった。



第33図　下布施氏館跡調査区位置図